開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90011
科目	9001 基礎ゼミナールⅠ	授業種別	週間授業
科目責任者	加藤　知佳子	単位数	1 単位
担当教員	加藤　知佳子		

授業概要	基礎ゼミナールⅠは 1 年生の春学期に開講し、大学における学びのコツ、ノートテイキングや情報整理など、大学における主体的学習方法の習得を目的に行う。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①ノート・テイキングやアカデミック・ライティング、テキスト精読とその要約などの基礎など大学でのスタディ・スキルズを修得する。 ②大学生活における時間管理と目標設定ができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
知へのステップ 第 5 版 —大学生からのスタディ・スキルズ	学習技術研究会	くろしお出版	1980	487424789X	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。下記の提出課題には、学修習慣を確立するため指示された課題を含む。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
提出課題	80%	毎回の課題に対して、適切に取り組んでいるかを評価する。
学期末レポート	20%	レポート作成法についての基本的な知識・スキルを評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（約 2 時間） ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /1 時間程度） ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。（第 1 ～ 15 回 /1 時間程度） 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義と演習）ガイダンス：大学生のタイム・マネジメント、大学での成績評価 (GPA) など 第 2 回　（講義・演習）学修習慣の確立と大学施設の活用（学修サポートセンター・図書館で実施）* 第 3 回　（講義・演習）大学でのノートテイキング 第 4 回　（講義）建学の精神について（学長による）* 第 5 回　（演習）リーディングスキルズ 1：テキストを読む 第 6 回　（演習）リーディングスキルズ 2：テキストを深く読む 第 7 回　（演習）リーディングスキルズ 3：感想・意見をもつ（ディスカッション） 第 8 回　（講義・演習）研究における不正行為と研究倫理（学修における生成 AI 利用の注意点） 第 9 回　（演習）インターネットによる情報収集 第 10 回　（演習）ライティング・スキルズ 1：レポート作成の手順 第 11 回　（演習）ライティング・スキルズ 2：わかりやすい文章を書く・わかりやすい表現とは 第 12 回　（演習）ライティング・スキルズ 3：パソコンによるレポート作成 第 13 回　（演習）レポート作成 1：テーマ設定と情報収集 第 14 回　（演習）レポート作成 2：構成と執筆 第 15 回　（演習）レポート作成 3：提出まで * を記した回は学年全体あるいはクラス別に実施する予定。教室は別途指示する。 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 進行状況によっては内容およびその順序を変更することがある。

ナンバリング	PTAL1001

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90012
科目	9001 基礎ゼミナールⅠ	授業種別	週間授業
科目責任者	辻村　尚子	単位数	1 単位
担当教員	辻村　尚子		

授業概要	基礎ゼミナールⅠは 1 年生の春学期に開講し、大学における学びのコツ、ノートテイキングや情報整理など、大学における主体的学習方法の習得を目的に行う。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①ノート・テイキングやアカデミック・ライティング、テキスト精読とその要約などの基礎など大学でのスタディ・スキルズを修得する。 ②大学生活における時間管理と目標設定ができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
知へのステップ 第 5 版 —大学生からのスタディ・スキルズ	学習技術研究会	くろしお出版	1,980	487424789X	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。下記の提出課題には、学修習慣を確立するため指示された課題を含む。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
提出課題	80%	毎回の課題に対して、適切に取り組んでいるかを評価する。
学期末レポート	20%	レポート作成法についての基本的な知識・スキルを評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（約 2 時間） ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /1 時間程度） ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。（第 1 ～ 15 回 /1 時間程度） 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義と演習）ガイダンス：大学生のタイム・マネジメント、大学での成績評価 (GPA) など 第 2 回　（講義・演習）学修習慣の確立と大学施設の活用（学修サポートセンター・図書館で実施）* 第 3 回　（講義・演習）大学でのノートテイキング 第 4 回　（講義）建学の精神について（学長による）* 第 5 回　（演習）リーディングスキルズ 1：テキストを読む 第 6 回　（演習）リーディングスキルズ 2：テキストを深く読む 第 7 回　（演習）リーディングスキルズ 3：感想・意見をもつ（ディスカッション） 第 8 回　（講義・演習）研究における不正行為と研究倫理（学修における生成 AI 利用の注意点） 第 9 回　（演習）インターネットによる情報収集 第 10 回　（演習）ライティング・スキルズ 1：レポート作成の手順 第 11 回　（演習）ライティング・スキルズ 2：わかりやすい文章を書く・わかりやすい表現とは 第 12 回　（演習）ライティング・スキルズ 3：パソコンによるレポート作成 第 13 回　（演習）レポート作成 1：テーマ設定と情報収集 第 14 回　（演習）レポート作成 2：構成と執筆 第 15 回　（演習）レポート作成 3：提出まで * を記した回は学年全体あるいはクラス別に実施する予定。教室は別途指示する。 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 進行状況によっては内容およびその順序を変更することがある。

ナンバリング	PTAL1001

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90013
科目	9001 基礎ゼミナールI	授業種別	週間授業
科目責任者	大橋　和也	単位数	1 単位
担当教員	大橋　和也		

授業概要	基礎ゼミナールIは 1 年生の春学期に開講し、大学における学びのコツ、ノートテイキングや情報整理など、大学における主体的学習方法の習得を目的に行う。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①ノート・テイキングやアカデミック・ライティング、テキスト精読とその要約などの基礎など大学でのスタディ・スキルズを修得する。 ②大学生活における時間管理と目標設定ができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
知へのステップ 第 5 版 —大学生からのスタディ・スキルズ	学習技術研究会	くろしお出版	1,980	487424789X	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。下記の提出課題には、学修習慣を確立するため指示された課題を含む。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
提出課題	80%	毎回の課題に対して、適切に取り組んでいるかを評価する。
学期末レポート	20%	レポート作成法についての基本的な知識・スキルを評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（約 2 時間） ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /1 時間程度） ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。（第 1 ～ 15 回 /1 時間程度） 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義と演習）ガイダンス：大学生のタイム・マネジメント、大学での成績評価 (GPA) など 第 2 回　（講義・演習）学修習慣の確立と大学施設の活用（学修サポートセンター・図書館で実施）* 第 3 回　（講義・演習）大学でのノートテイキング 第 4 回　（講義）建学の精神について（学長による）* 第 5 回　（演習）リーディングスキルズ 1：テキストを読む 第 6 回　（演習）リーディングスキルズ 2：テキストを深く読む 第 7 回　（演習）リーディングスキルズ 3：感想・意見をもつ（ディスカッション） 第 8 回　（講義・演習）研究における不正行為と研究倫理（学修における生成 AI 利用の注意点） 第 9 回　（演習）インターネットによる情報収集 第 10 回　（演習）ライティング・スキルズ 1：レポート作成の手順 第 11 回　（演習）ライティング・スキルズ 2：わかりやすい文章を書く・わかりやすい表現とは 第 12 回　（演習）ライティング・スキルズ 3：パソコンによるレポート作成 第 13 回　（演習）レポート作成 1：テーマ設定と情報収集 第 14 回　（演習）レポート作成 2：構成と執筆 第 15 回　（演習）レポート作成 3：提出まで * を記した回は学年全体あるいはクラス別に実施する予定。教室は別途指示する。 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 進行状況によっては内容およびその順序を変更することがある。

ナンバリング	PTAL1001

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90014
科目	9001 基礎ゼミナールI	授業種別	週間授業
科目責任者	瀧野　皓哉	単位数	1 単位
担当教員	瀧野　皓哉		

授業概要	基礎ゼミナールIは 1 年生の春学期に開講し、大学における学びのコツ、ノートテイキングや情報整理など、大学における主体的学習方法の習得を目的に行う。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①ノート・テイキングやアカデミック・ライティング、テキスト精読とその要約などの基礎など大学でのスタディ・スキルズを修得する。 ②大学生活における時間管理と目標設定ができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
知へのステップ 第 5 版 —大学生からのスタディ・スキルズ	学習技術研究会	くろしお出版	1980	487424789X	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。下記の提出課題には、学修習慣を確立するため指示された課題を含む。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
提出課題	80%	毎回の課題に対して、適切に取り組んでいるかを評価する。
学期末レポート	20%	レポート作成法についての基本的な知識・スキルを評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（約 2 時間） ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /1 時間程度） ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。（第 1 ～ 15 回 /1 時間程度） 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義と演習）ガイダンス：大学生のタイム・マネジメント、大学での成績評価 (GPA) など 第 2 回　（講義・演習）学修習慣の確立と大学施設の活用（学修サポートセンター・図書館で実施）* 第 3 回　（講義・演習）大学でのノートテイキング 第 4 回　（講義）建学の精神について（学長による）* 第 5 回　（演習）リーディングスキルズ 1：テキストを読む 第 6 回　（演習）リーディングスキルズ 2：テキストを深く読む 第 7 回　（演習）リーディングスキルズ 3：感想・意見をもつ（ディスカッション） 第 8 回　（講義・演習）研究における不正行為と研究倫理（学修における生成 AI 利用の注意点） 第 9 回　（演習）インターネットによる情報収集 第 10 回　（演習）ライティング・スキルズ 1：レポート作成の手順 第 11 回　（演習）ライティング・スキルズ 2：わかりやすい文章を書く・わかりやすい表現とは 第 12 回　（演習）ライティング・スキルズ 3：パソコンによるレポート作成 第 13 回　（演習）レポート作成 1：テーマ設定と情報収集 第 14 回　（演習）レポート作成 2：構成と執筆 第 15 回　（演習）レポート作成 3：提出まで * を記した回は学年全体あるいはクラス別に実施する予定。教室は別途指示する。 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 進行状況によっては内容およびその順序を変更することがある。

ナンバリング	PTAL1001

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90015
科目	9001 基礎ゼミナールI	授業種別	週間授業
科目責任者	小川　祐太	単位数	1 単位
担当教員	小川　祐太		

授業概要	基礎ゼミナールIは 1 年生の春学期に開講し、大学における学びのコツ、ノートテイキングや情報整理など、大学における主体的学習方法の習得を目的に行う。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①ノート・テイキングやアカデミック・ライティング、テキスト精読とその要約などの基礎など大学でのスタディ・スキルズを修得する。 ②大学生活における時間管理と目標設定ができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
知へのステップ 第 5 版 —大学生からのスタディ・スキルズ	学習技術研究会	くろしお出版	1980	487424789X	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。下記の提出課題には、学修習慣を確立するため指示された課題を含む。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
提出課題	80%	毎回の課題に対して、適切に取り組んでいるかを評価する。
学期末レポート	20%	レポート作成法についての基本的な知識・スキルを評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（約 2 時間） ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /1 時間程度） ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。（第 1 ～ 15 回 /1 時間程度） 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義と演習）ガイダンス：大学生のタイム・マネジメント、大学での成績評価 (GPA) など 第 2 回　（講義・演習）学修習慣の確立と大学施設の活用（学修サポートセンター・図書館で実施）* 第 3 回　（講義・演習）大学でのノートテイキング 第 4 回　（講義）建学の精神について（学長による）* 第 5 回　（演習）リーディングスキルズ 1：テキストを読む 第 6 回　（演習）リーディングスキルズ 2：テキストを深く読む 第 7 回　（演習）リーディングスキルズ 3：感想・意見をもつ（ディスカッション） 第 8 回　（講義・演習）研究における不正行為と研究倫理（学修における生成 AI 利用の注意点） 第 9 回　（演習）インターネットによる情報収集 第 10 回　（演習）ライティング・スキルズ 1：レポート作成の手順 第 11 回　（演習）ライティング・スキルズ 2：わかりやすい文章を書く・わかりやすい表現とは 第 12 回　（演習）ライティング・スキルズ 3：パソコンによるレポート作成 第 13 回　（演習）レポート作成 1：テーマ設定と情報収集 第 14 回　（演習）レポート作成 2：構成と執筆 第 15 回　（演習）レポート作成 3：提出まで * を記した回は学年全体あるいはクラス別に実施する予定。教室は別途指示する。 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 進行状況によっては内容およびその順序を変更することがある。

ナンバリング	PTAL1001

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90022
科目	9002 基礎ゼミナールⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	加藤　知佳子	単位数	1 単位
担当教員	加藤　知佳子		

授業概要	基礎ゼミナールⅡは 1 年生の秋学期に開講し、人間関係に関する諸問題の理解と、臨床実践能力を高める上で重要となるコミュニケーション力の向上（文書によるコミュニケーションを含む）を目的に行う。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①コミュニケーションの重要性を理解する。 ②コミュニケーション・スキルを向上させて、状況に応じた適切なコミュニケーションを使い分けることができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
PT･OT･ST のための　これで安心　コミュニケーション実践ガイド　第3版	山口美和	医学書院	3300	9784260053518	「医療学入門」と同じ

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
演劇ワークショップについてのレポート	20%	演劇ワークショップについてのレポートによって、評価する。
課題提出	50%	第5回から第10回の課題への取り組みについて、評価する。
インタビュー課題の発表	30%	学科教員へのインタビュー課題の発表について、インタビューのプロセスも含めて評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /60 分程度） ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。（第 1 ～ 15 回 /60 分程度） 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（演習）演劇ワークショップ 1（外部講師・加藤知佳子）* 第 2 回　（演習）演劇ワークショップ 2（外部講師・加藤知佳子）* 第 3 回　（演習）演劇ワークショップ 3（外部講師・加藤知佳子）* 第 4 回　（演習）演劇ワークショップ 4（外部講師・加藤知佳子）* 第 5 回　（演習）自己紹介・他己紹介（グループワーク）（各担当教員） 第 6 回　（講義･演習）コミュニケーションスキルの基礎1:あいさつ、相手の領域に入る（グループワーク）（各担当教員） 第 7 回　（講義･演習）コミュニケーションスキルの基礎2:障がいを有する人とのコミュニケーション（グループワーク）（各担当教員）** 第 8 回　（演習）関係をつくる：電話とメール（各担当教員） 第 9 回　（講義・演習）関係を維持する：話を聞く（グループワーク）（各担当教員） 第 10 回　（講義・演習）関係を継続・修復する：お礼状、謝罪文、反省文（各担当教員） 第 11 回　（演習）インタビューの準備（グループワーク）（各担当教員） 第 12 回　（演習）インタビューの実施（グループワーク）（各担当教員） 第 13 回　（演習）インタビュー内容のまとめ（グループワーク）（各担当教員） 第 14 回　（演習）インタビュー結果の発表会の準備（グループワーク）（各担当教員） 第 15 回　（演習）インタビュー結果の発表会（プレゼンテーション）（各担当教員） 本科目は、演習科目である。 * クラス別に集中で実施する予定。日時、教室は追って指示する。 ** パラスポーツ指導者資格（初級）取得にはこの回の出席が必須。 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 なお、6 ～ 15 回の内容は、受講者の習熟度等によって、前後する場合もありうる。

ナンバリング	PTAL1002

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90023
科目	9002 基礎ゼミナールⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	未定	単位数	1 単位
担当教員	未定		

授業概要	基礎ゼミナールⅡは 1 年生の秋学期に開講し、人間関係に関する諸問題の理解と、臨床実践能力を高める上で重要となるコミュニケーション力の向上（文書によるコミュニケーションを含む）を目的に行う。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。
ディプロマポリシー	
ディプロマポリシーとの関連性	
到達目標	①コミュニケーションの重要性を理解する。 ②コミュニケーション・スキルを向上させて、状況に応じた適切なコミュニケーションを使い分けることができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
PT・OT・ST のための　これで安心コミュニケーション実践ガイド　第 3 版	山口美和	医学書院	3300	9784260053518	「医療学入門」と同じ

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
演劇ワークショップについてのレポート	20%	演劇ワークショップについてのレポートによって、評価する。
課題提出	50%	第 5 回から第 10 回の課題への取り組みについて、評価する。
インタビュー課題の発表	30%	学科教員へのインタビュー課題の発表について、インタビューのプロセスも含めて評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /60 分程度） ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。（第 1 ～ 15 回 /60 分程度） 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（演習）演劇ワークショップ 1（外部講師・加藤知佳子）* 第 2 回　（演習）演劇ワークショップ 2（外部講師・加藤知佳子）* 第 3 回　（演習）演劇ワークショップ 3（外部講師・加藤知佳子）* 第 4 回　（演習）演劇ワークショップ 4（外部講師・加藤知佳子）* 第 5 回　（演習・講義）コミュニケーション力のアセスメントと解説（加藤知佳子）** 第 6 回　（演習）自己紹介・他己紹介（グループワーク）（各担当教員） 第 7 回　（講義・演習）コミュニケーションスキルの基礎・関係をつくる：あいさつ、相手の領域に入る（グループワーク）（各担当教員） 第 8 回　（演習）関係をつくる：電話とメール（各担当教員） 第 9 回　（講義・演習）関係を維持する：話を聞く（グループワーク）（各担当教員） 第 10 回　（講義・演習）関係を継続・修復する：お礼状、謝罪文、反省文（各担当教員） 第 11 回　（演習）インタビューの準備（グループワーク）（各担当教員） 第 12 回　（演習）インタビューの実施（グループワーク）（各担当教員） 第 13 回　（演習）インタビュー内容のまとめ（グループワーク）（各担当教員） 第 14 回　（演習）インタビュー結果の発表会の準備（グループワーク）（各担当教員） 第 15 回　（演習）インタビュー結果の発表会（プレゼンテーション）（各担当教員） 本科目は、演習科目である。 * を記した回はクラス別に集中で実施する予定。日時、教室は追って指示する。 ** を記した回は、学年全体で実施する予定。教室は別途指示する。 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 なお、6 ～ 15 回の内容は、受講者の習熟度等によって、前後する場合もありうる。

ナンバリング	PTAL1002

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90024
科目	9002 基礎ゼミナールⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	未定	単位数	1 単位
担当教員	未定		

授業概要	基礎ゼミナールⅡは 1 年生の秋学期に開講し、人間関係に関する諸問題の理解と、臨床実践能力を高める上で重要となるコミュニケーション力の向上（文書によるコミュニケーションを含む）を目的に行う。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。
到達目標	①コミュニケーションの重要性を理解する。 ②コミュニケーション・スキルを向上させて、状況に応じた適切なコミュニケーションを使い分けることができる。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
PT･OT･ST のための　これで安心　コミュニケーション実践ガイド　第3版	山口美和	医学書院	3,300	9784260053518	「医療学入門」と同じ

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
演劇ワークショップについてのレポート	20%	演劇ワークショップについてのレポートによって、評価する。
課題提出	50%	第5回から第10回の課題への取り組みについて、評価する。
インタビュー課題の発表	30%	学科教員へのインタビュー課題の発表について、インタビューのプロセスも含めて評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /60 分程度） ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。（第 1 ～ 15 回 /60 分程度） 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（演習）演劇ワークショップ 1（外部講師・加藤知佳子）* 第 2 回　（演習）演劇ワークショップ 2（外部講師・加藤知佳子）* 第 3 回　（演習）演劇ワークショップ 3（外部講師・加藤知佳子）* 第 4 回　（演習）演劇ワークショップ 4（外部講師・加藤知佳子）* 第 5 回　（演習）自己紹介・他己紹介（グループワーク）（各担当教員） 第 6 回　（講義･演習）コミュニケーションスキルの基礎1:あいさつ、相手の領域に入る（グループワーク）（各担当教員） 第 7 回　（講義･演習）コミュニケーションスキルの基礎2:障がいを有する人とのコミュニケーション（グループワーク）（各担当教員）** 第 8 回　（演習）関係をつくる：電話とメール（各担当教員） 第 9 回　（講義・演習）関係を維持する：話を聞く（グループワーク）（各担当教員） 第 10 回　（講義・演習）関係を継続・修復する：お礼状、謝罪文、反省文（各担当教員） 第 11 回　（演習）インタビューの準備（グループワーク）（各担当教員） 第 12 回　（演習）インタビューの実施（グループワーク）（各担当教員） 第 13 回　（演習）インタビュー内容のまとめ（グループワーク）（各担当教員） 第 14 回　（演習）インタビュー結果の発表会の準備（グループワーク）（各担当教員） 第 15 回　（演習）インタビュー結果の発表会（プレゼンテーション）（各担当教員） 本科目は、演習科目である。 * クラス別に集中で実施する予定。日時、教室は追って指示する。 ** パラスポーツ指導者資格（初級）取得にはこの回の出席が必須。 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 なお、6 ～ 15 回の内容は、受講者の習熟度等によって、前後する場合もありうる。

ナンバリング	PTAL1002

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90025
科目	9002 基礎ゼミナールⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	未定	単位数	1 単位
担当教員	未定		

授業概要	基礎ゼミナールⅡは 1 年生の秋学期に開講し、人間関係に関する諸問題の理解と、臨床実践能力を高める上で重要となるコミュニケーション力の向上（文書によるコミュニケーションを含む）を目的に行う。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。
到達目標	①コミュニケーションの重要性を理解する。 ②コミュニケーション・スキルを向上させて、状況に応じた適切なコミュニケーションを使い分けることができる。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
PT･OT･ST のための　これで安心　コミュニケーション実践ガイド　第3版	山口美和	医学書院	3300	9784260053518	「医療学入門」と同じ

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
演劇ワークショップについてのレポート	20%	演劇ワークショップについてのレポートによって、評価する。
課題提出	50%	第5回から第10回の課題への取り組みについて、評価する。
インタビュー課題の発表	30%	学科教員へのインタビュー課題の発表について、インタビューのプロセスも含めて評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /60 分程度） ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。（第 1 ～ 15 回 /60 分程度） 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（演習）演劇ワークショップ 1（外部講師・加藤知佳子）* 第 2 回　（演習）演劇ワークショップ 2（外部講師・加藤知佳子）* 第 3 回　（演習）演劇ワークショップ 3（外部講師・加藤知佳子）* 第 4 回　（演習）演劇ワークショップ 4（外部講師・加藤知佳子）* 第 5 回　（演習）自己紹介・他己紹介（グループワーク）（各担当教員） 第 6 回　（講義･演習）コミュニケーションスキルの基礎1:あいさつ、相手の領域に入る（グループワーク）（各担当教員） 第 7 回　（講義･演習）コミュニケーションスキルの基礎2:障がいを有する人とのコミュニケーション（グループワーク）（各担当教員）** 第 8 回　（演習）関係をつくる：電話とメール（各担当教員） 第 9 回　（講義・演習）関係を維持する：話を聞く（グループワーク）（各担当教員） 第 10 回　（講義・演習）関係を継続・修復する：お礼状、謝罪文、反省文（各担当教員） 第 11 回　（演習）インタビューの準備（グループワーク）（各担当教員） 第 12 回　（演習）インタビューの実施（グループワーク）（各担当教員） 第 13 回　（演習）インタビュー内容のまとめ（グループワーク）（各担当教員） 第 14 回　（演習）インタビュー結果の発表会の準備（グループワーク）（各担当教員） 第 15 回　（演習）インタビュー結果の発表会（プレゼンテーション）（各担当教員） 本科目は、演習科目である。 * クラス別に集中で実施する予定。日時、教室は追って指示する。 ** パラスポーツ指導者資格（初級）取得にはこの回の出席が必須。 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 なお、6 ～ 15 回の内容は、受講者の習熟度等によって、前後する場合もありうる。

ナンバリング	PTAL1002

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90026
科目	9002 基礎ゼミナールⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	未定	単位数	1 単位
担当教員	未定		

授業概要	基礎ゼミナールⅡは 1 年生の秋学期に開講し、人間関係に関する諸問題の理解と、臨床実践能力を高める上で重要となるコミュニケーション力の向上（文書によるコミュニケーションを含む）を目的に行う。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。
ディプロマポリシー	DP1 / DP2 / DP3 / DP4
ディプロマポリシーとの関連性	◎ / ○
到達目標	①コミュニケーションの重要性を理解する。 ②コミュニケーション・スキルを向上させて、状況に応じた適切なコミュニケーションを使い分けることができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
PT･OT･ST のための　これで安心　コミュニケーション実践ガイド　第3版	山口美和	医学書院	3,300	9784260053518	「医療学入門」と同じ

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
演劇ワークショップについてのレポート	20%	演劇ワークショップについてのレポートによって、評価する。
課題提出	50%	第5回から第10回の課題への取り組みについて、評価する。
インタビュー課題の発表	30%	学科教員へのインタビュー課題の発表について、インタビューのプロセスも含めて評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /60 分程度） ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。（第 1 ～ 15 回 /60 分程度） 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（演習）演劇ワークショップ 1（外部講師・加藤知佳子）* 第 2 回　（演習）演劇ワークショップ 2（外部講師・加藤知佳子）* 第 3 回　（演習）演劇ワークショップ 3（外部講師・加藤知佳子）* 第 4 回　（演習）演劇ワークショップ 4（外部講師・加藤知佳子）* 第 5 回　（演習）自己紹介・他己紹介（グループワーク）（各担当教員） 第 6 回　（講義･演習）コミュニケーションスキルの基礎1:あいさつ、相手の領域に入る（グループワーク）（各担当教員） 第 7 回　（講義･演習）コミュニケーションスキルの基礎2：障がいを有する人とのコミュニケーション（グループワーク）（各担当教員）** 第 8 回　（演習）関係をつくる：電話とメール（各担当教員） 第 9 回　（講義・演習）関係を維持する：話を聞く（グループワーク）（各担当教員） 第 10 回　（講義・演習）関係を継続・修復する：お礼状、謝罪文、反省文（各担当教員） 第 11 回　（演習）インタビューの準備（グループワーク）（各担当教員） 第 12 回　（演習）インタビューの実施（グループワーク）（各担当教員） 第 13 回　（演習）インタビュー内容のまとめ（グループワーク）（各担当教員） 第 14 回　（演習）インタビュー結果の発表会の準備（グループワーク）（各担当教員） 第 15 回　（演習）インタビュー結果の発表会（プレゼンテーション）（各担当教員） 本科目は、演習科目である。 * クラス別に集中で実施する予定。日時、教室は追って指示する。 ** パラスポーツ指導者資格（初級）取得にはこの回の出席が必須。 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 なお、6 ～ 15 回の内容は、受講者の習熟度等によって、前後する場合もありうる。

ナンバリング	PTAL1002

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90030
科目	9003 基礎ゼミナールⅢ	授業種別	週間授業
科目責任者	中川　博文	単位数	1 単位
担当教員	中川　博文		

授業概要	基礎ゼミナールⅢでは、情報を複数の視点から論理的に分析し、判断するクリティカルシンキングと、自分の意見・主張を整理し、適切な根拠をもって相手にわかりやすく伝えるロジカルライティングを習得する。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①情報を複数の視点から論理的に分析し、判断できる。 ②自分の意見・主張を整理し、適切な根拠をもって相手にわかりやすく文章にて伝えることができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
『クリティカルシンキング・ロジカルライティング』		ベネッセ i- キャリア			

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	参考書、および参考文献は、各担当教員が適宜、提示する。

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
提出課題	60%	各課題への取り組みと達成度を評価する。課題については、適宜フィードバックを行う。
学期末レポート	40%	最終的な到達度をレポートによって評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（約 2 時間） ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /1 時間程度) ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。(第 1 ～ 15 回 /1 時間程度) 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義・演習）大学で求められる「考える力」とは 第 2 回　（演習）議論を明確に把握する 第 3 回　（演習）隠れた前提を見抜く 第 4 回　（演習）根拠の確かさを意識する 第 5 回　（演習）授業への応用 第 6 回　（演習）問題解決への応用 第 7 回　（講義・演習）「ロジカルライティング」とは 第 8 回　（講義・演習）ロジカルに考えをまとめる方法とは 第 9 回　（演習）主張・意見を考える 第 10 回　（演習）根拠をたくさん出す 第 11 回　（演習）意見と根拠を整理する 第 12 回　（演習）文章に仕上げる 第 13 回　（演習）応用への挑戦：テーマ設定と主張・意見の書き出し 第 14 回　（演習）応用への挑戦：根拠の収集と整理 第 15 回　（演習）応用への挑戦：レポートの構成と執筆 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。

ナンバリング	PTAL2013

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90032
科目	9003 基礎ゼミナールⅢ	授業種別	週間授業
科目責任者	未定	単位数	1 単位
担当教員	未定		

授業概要	基礎ゼミナールⅢでは、情報を複数の視点から論理的に分析し、判断するクリティカルシンキングと、自分の意見・主張を整理し、適切な根拠をもって相手にわかりやすく伝えるロジカルライティングを習得する。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①情報を複数の視点から論理的に分析し、判断できる。 ②自分の意見・主張を整理し、適切な根拠をもって相手にわかりやすく文章にて伝えることができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
『クリティカルシンキング・ロジカルライティング』		ベネッセ i- キャリア			

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	参考書、および参考文献は、各担当教員が適宜、提示する。

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
提出課題	60%	各課題への取り組みと達成度を評価する。課題については、適宜フィードバックを行う。
学期末レポート	40%	最終的な到達度をレポートによって評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（約 2 時間） ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /1 時間程度) ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。(第 1 ～ 15 回 /1 時間程度) 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義・演習）大学で求められる「考える力」とは 第 2 回　（演習）議論を明確に把握する 第 3 回　（演習）隠れた前提を見抜く 第 4 回　（演習）根拠の確かさを意識する 第 5 回　（演習）授業への応用 第 6 回　（演習）問題解決への応用 第 7 回　（講義・演習）「ロジカルライティング」とは 第 8 回　（講義・演習）ロジカルに考えをまとめる方法とは 第 9 回　（演習）主張・意見を考える 第 10 回　（演習）根拠をたくさん出す 第 11 回　（演習）意見と根拠を整理する 第 12 回　（演習）文章に仕上げる 第 13 回　（演習）応用への挑戦：テーマ設定と主張・意見の書き出し 第 14 回　（演習）応用への挑戦：根拠の収集と整理 第 15 回　（演習）応用への挑戦：レポートの構成と執筆 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。

ナンバリング	PTAL2013

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90033
科目	9003 基礎ゼミナールⅢ	授業種別	週間授業
科目責任者	辻村　尚子	単位数	1 単位
担当教員	辻村　尚子		

授業概要	基礎ゼミナールⅢでは、情報を複数の視点から論理的に分析し、判断するクリティカルシンキングと、自分の意見・主張を整理し、適切な根拠をもって相手にわかりやすく伝えるロジカルライティングを習得する。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①情報を複数の視点から論理的に分析し、判断できる。 ②自分の意見・主張を整理し、適切な根拠をもって相手にわかりやすく文章にて伝えることができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
『クリティカルシンキング・ロジカルライティング』		ベネッセ i- キャリア			

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	参考書、および参考文献は、各担当教員が適宜、提示する。

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
提出課題	60%	各課題への取り組みと達成度を評価する。課題については、適宜フィードバックを行う。
学期末レポート	40%	最終的な到達度をレポートによって評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（約 2 時間） ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /1 時間程度） ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。（第 1 ～ 15 回 /1 時間程度） 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義・演習）大学で求められる「考える力」とは 第 2 回　（演習）議論を明確に把握する 第 3 回　（演習）隠れた前提を見抜く 第 4 回　（演習）根拠の確かさを意識する 第 5 回　（演習）授業への応用 第 6 回　（演習）問題解決への応用 第 7 回　（講義・演習）「ロジカルライティング」とは 第 8 回　（講義・演習）ロジカルに考えをまとめる方法とは 第 9 回　（演習）主張・意見を考える 第 10 回　（演習）根拠をたくさん出す 第 11 回　（演習）意見と根拠を整理する 第 12 回　（演習）文章に仕上げる 第 13 回　（演習）応用への挑戦：テーマ設定と主張・意見の書き出し 第 14 回　（演習）応用への挑戦：根拠の収集と整理 第 15 回　（演習）応用への挑戦：レポートの構成と執筆 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。

ナンバリング	PTAL2013

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90034
科目	9003 基礎ゼミナールⅢ	授業種別	週間授業
科目責任者	大橋　和也	単位数	1 単位
担当教員	大橋　和也		

授業概要	基礎ゼミナールⅢでは、情報を複数の視点から論理的に分析し、判断するクリティカルシンキングと、自分の意見・主張を整理し、適切な根拠をもって相手にわかりやすく伝えるロジカルライティングを習得する。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①情報を複数の視点から論理的に分析し、判断できる。 ②自分の意見・主張を整理し、適切な根拠をもって相手にわかりやすく文章にて伝えることができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
『クリティカルシンキング・ロジカルライティング』		ベネッセ i- キャリア			

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	参考書、および参考文献は、各担当教員が適宜、提示する。

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
提出課題	60%	各課題への取り組みと達成度を評価する。課題については、適宜フィードバックを行う。
学期末レポート	40%	最終的な到達度をレポートによって評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（約 2 時間） ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /1 時間程度） ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。（第 1 ～ 15 回 /1 時間程度） 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義・演習）大学で求められる「考える力」とは 第 2 回　（演習）議論を明確に把握する 第 3 回　（演習）隠れた前提を見抜く 第 4 回　（演習）根拠の確かさを意識する 第 5 回　（演習）授業への応用 第 6 回　（演習）問題解決への応用 第 7 回　（講義・演習）「ロジカルライティング」とは 第 8 回　（講義・演習）ロジカルに考えをまとめる方法とは 第 9 回　（演習）主張・意見を考える 第 10 回　（演習）根拠をたくさん出す 第 11 回　（演習）意見と根拠を整理する 第 12 回　（演習）文章に仕上げる 第 13 回　（演習）応用への挑戦：テーマ設定と主張・意見の書き出し 第 14 回　（演習）応用への挑戦：根拠の収集と整理 第 15 回　（演習）応用への挑戦：レポートの構成と執筆 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。

ナンバリング	PTAL2013

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90035
科目	9003 基礎ゼミナールⅢ	授業種別	週間授業
科目責任者	未定	単位数	1 単位
担当教員	未定		

授業概要	基礎ゼミナールⅢでは、情報を複数の視点から論理的に分析し、判断するクリティカルシンキングと、自分の意見・主張を整理し、適切な根拠をもって相手にわかりやすく伝えるロジカルライティングを習得する。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①情報を複数の視点から論理的に分析し、判断できる。 ②自分の意見・主張を整理し、適切な根拠をもって相手にわかりやすく文章にて伝えることができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
『クリティカルシンキング・ロジカルライティング』		ベネッセ i- キャリア			

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	参考書、および参考文献は、各担当教員が適宜、提示する。

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
提出課題	60%	各課題への取り組みと達成度を評価する。課題については、適宜フィードバックを行う。
学期末レポート	40%	最終的な到達度をレポートによって評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（約 2 時間） ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 /1 時間程度） ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。（第 1 ～ 15 回 /1 時間程度） 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義・演習）大学で求められる「考える力」とは 第 2 回　（演習）議論を明確に把握する 第 3 回　（演習）隠れた前提を見抜く 第 4 回　（演習）根拠の確かさを意識する 第 5 回　（演習）授業への応用 第 6 回　（演習）問題解決への応用 第 7 回　（講義・演習）「ロジカルライティング」とは 第 8 回　（講義・演習）ロジカルに考えをまとめる方法とは 第 9 回　（演習）主張・意見を考える 第 10 回　（演習）根拠をたくさん出す 第 11 回　（演習）意見と根拠を整理する 第 12 回　（演習）文章に仕上げる 第 13 回　（演習）応用への挑戦：テーマ設定と主張・意見の書き出し 第 14 回　（演習）応用への挑戦：根拠の収集と整理 第 15 回　（演習）応用への挑戦：レポートの構成と執筆 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。

ナンバリング	PTAL2013

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90041
科目	9004 基礎ゼミナールⅣ	授業種別	週間授業
科目責任者	中川　博文	単位数	1 単位
担当教員	中川　博文		

授業概要	基礎ゼミナールⅣでは、学術的な体裁と形式を持つレポートの書き方、効果的なプレゼンテーションとそのための工夫を習得することを目的とする。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①テーマを設定し、その目的について説明できる ②テーマと関連した文献や資料等を 2 ～3個探すことができる ③文献や資料等について要点を整理し説明できる ④文献や資料等の要点を簡潔にまとめて文章化できる ④学術的な体裁と形式を持ったレポートの作成ができる ⑤プレゼンテーション資料の作成ができる ⑥効果的なプレゼンテーションができる ⑦質問に対して適切に受け応えができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	上述の到達目標は下記の評価項目、評価割合ならびに評価基準等に沿って達成度を評価する．成績はそれぞれの達成度評価の結果をもとに決定する．なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある．	
評価項目	割合	評価基準
テーマの設定やその目的等の説明および文献検索やその要約など	25%	各課題への取組み状況ならびに達成状況などから評価する。
学術的な体裁や形式を有するレポートの作成	25%	レポートが学術的な体裁や形式を備えているかどうか、加えて内容の完成度等より評価する。
プレゼン資料作成と、効果的なプレゼンテーションの実施	25%	プレゼン資料の完成度やプレゼンテーション能力等を評価する。
プレゼンに対する質問等への受け答えや討論など	25%	プレゼンテーションに対する質疑応答や討論などから評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎回の授業について、事前および事後学修を必ず行うこと．それぞれの内容と時間は以下の通りとする． ・指示された事前課題を行う (第 2 ～ 15 回 / 1時間程度) ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする．(第 1 ～ 15 回 / 1時間程度) 具体的な課題は、各担当教員が指示する．

授業の実施方法と授業計画	第　1　回（講義・演習）オリエンテーション 第　2　回（演習）　調べ学習のテーマ選定（グループワーク） 第 3-4 回（演習）　関連文献の検索および収集（グループワーク） 第 5-6 回（演習）　関連文献の抄読（プレゼンテーション） 第 7-8 回（演習）　資料のまとめと修正（グループワーク） 第 9-10 回（演習）　関連文献の検索および収集（グループワーク） 第 11-12 回（演習）　関連文献の抄読（プレゼンテーション） 第　13 回（演習）　報告資料のまとめと修正（グループワーク） 第 14-15 回（演習）　パワーポイントを用いた口頭発表（プレゼンテーション） 本科目は、演習形式で行う． 提出物等は特別な事情がない限りコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等は授業内でフィードバックを行う． なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更する場合がある．

ナンバリング	PTAL2014

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90042
科目	9004 基礎ゼミナールⅣ	授業種別	週間授業
科目責任者	中川　博文	単位数	1 単位
担当教員	中川　博文		

授業概要	基礎ゼミナールⅣでは、学術的な体裁と形式を持つレポートの書き方、効果的なプレゼンテーションとそのための工夫を習得することを目的とする。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①テーマを設定し、その目的について説明できる ②テーマと関連した文献や資料等を 2 ～3個探すことができる ③文献や資料等について要点を整理し説明できる ④文献や資料等の要点を簡潔にまとめて文章化できる ④学術的な体裁と形式を持ったレポートの作成ができる ⑤プレゼンテーション資料の作成ができる ⑥効果的なプレゼンテーションができる ⑦質問に対して適切に受け応えができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	上述の到達目標は下記の評価項目、評価割合ならびに評価基準等に沿って達成度を評価する．成績はそれぞれの達成度評価の結果をもとに決定する．なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある．	
評価項目	割合	評価基準
テーマの設定やその目的等の説明および文献検索やその要約など	25%	各課題への取組み状況ならびに達成状況などから評価する。
学術的な体裁や形式を有するレポートの作成	25%	レポートが学術的な体裁や形式を備えているかどうか、加えて内容の完成度等より評価する。
プレゼン資料作成と、効果的なプレゼンテーションの実施	25%	プレゼン資料の完成度やプレゼンテーション能力等を評価する。
プレゼンに対する質問等への受け答えや討論など	25%	プレゼンテーションに対する質疑応答や討論などから評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎回の授業について、事前および事後学修を必ず行うこと．それぞれの内容と時間は以下の通りとする． ・指示された事前課題を行う (第 2 ～ 15 回 / 1時間程度) ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする．(第 1 ～ 15 回 / 1時間程度) 具体的な課題は、各担当教員が指示する．

授業の実施方法と授業計画	第　1　回（講義・演習）オリエンテーション 第　2　回（演習）　調べ学習のテーマ選定（グループワーク） 第 3-4 回（演習）　関連文献の検索および収集（グループワーク） 第 5-6 回（演習）　関連文献の抄読（プレゼンテーション） 第 7-8 回（演習）　資料のまとめと修正（グループワーク） 第 9-10 回（演習）　関連文献の検索および収集（グループワーク） 第 11-12 回（演習）　関連文献の抄読（プレゼンテーション） 第　13 回（演習）　報告資料のまとめと修正（グループワーク） 第 14-15 回（演習）　パワーポイントを用いた口頭発表（プレゼンテーション） 本科目は、演習形式で行う． 提出物等は特別な事情がない限りコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等は授業内でフィードバックを行う． なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更する場合がある．

ナンバリング	PTAL2014

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90043
科目	9004 基礎ゼミナールⅣ	授業種別	週間授業
科目責任者	瀧野　皓哉	単位数	1 単位
担当教員	瀧野　皓哉		

授業概要	基礎ゼミナールⅣでは、学術的な体裁と形式を持つレポートの書き方、効果的なプレゼンテーションとそのための工夫を習得することを目的とする。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①テーマを設定し、その目的について説明できる ②テーマと関連した文献や資料等を 2 ～3個探すことができる ③文献や資料等について要点を整理し説明できる ④文献や資料等の要点を簡潔にまとめて文章化できる ④学術的な体裁と形式を持ったレポートの作成ができる ⑤プレゼンテーション資料の作成ができる ⑥効果的なプレゼンテーションができる ⑦質問に対して適切に受け応えができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	上述の到達目標は下記の評価項目、評価割合ならびに評価基準等に沿って達成度を評価する．成績はそれぞれの達成度評価の結果をもとに決定する．なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある．	
評価項目	割合	評価基準
テーマの設定やその目的等の説明および文献検索やその要約など	25%	各課題への取組み状況ならびに達成状況などから評価する。
学術的な体裁や形式を有するレポートの作成	25%	レポートが学術的な体裁や形式を備えているかどうか、加えて内容の完成度等より評価する。
プレゼン資料作成と、効果的なプレゼンテーションの実施	25%	プレゼン資料の完成度やプレゼンテーション能力等を評価する。
プレゼンに対する質問等への受け答えや討論など	25%	プレゼンテーションに対する質疑応答や討論などから評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎回の授業について、事前および事後学修を必ず行うこと．それぞれの内容と時間は以下の通りとする． ・指示された事前課題を行う (第 2 ～ 15 回 / 1時間程度) ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする．(第 1 ～ 15 回 / 1時間程度) 具体的な課題は、各担当教員が指示する．

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義・演習）オリエンテーション 第 2 回（演習） 調べ学習のテーマ選定（グループワーク） 第 3-4 回（演習） 関連文献の検索および収集（グループワーク） 第 5-6 回（演習） 関連文献の抄読（プレゼンテーション） 第 7-8 回（演習） 資料のまとめと修正（グループワーク） 第 9-10 回（演習） 関連文献の検索および収集（グループワーク） 第 11-12 回（演習） 関連文献の抄読（プレゼンテーション） 第 13 回（演習） 報告資料のまとめと修正（グループワーク） 第 14-15 回（演習） パワーポイントを用いた口頭発表（プレゼンテーション） 本科目は、演習形式で行う． 提出物等は特別な事情がない限りコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等は授業内でフィードバックを行う． なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更する場合がある．

ナンバリング	PTAL2014

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90045
科目	9004 基礎ゼミナールⅣ	授業種別	週間授業
科目責任者	藤原　光宏	単位数	1 単位
担当教員	藤原　光宏		

授業概要	基礎ゼミナールⅣでは、学術的な体裁と形式を持つレポートの書き方、効果的なプレゼンテーションとそのための工夫を習得することを目的とする。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①テーマを設定し、その目的について説明できる ②テーマと関連した文献や資料等を 2 ～3個探すことができる ③文献や資料等について要点を整理し説明できる ④文献や資料等の要点を簡潔にまとめて文章化できる ④学術的な体裁と形式を持ったレポートの作成ができる ⑤プレゼンテーション資料の作成ができる ⑥効果的なプレゼンテーションができる ⑦質問に対して適切に受け応えができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて教員が指示する

成績評価	上述の到達目標は下記の評価項目、評価割合ならびに評価基準等に沿って達成度を評価する。成績はそれぞれの達成度評価の結果をもとに決定する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
テーマの設定と目的および文献検索とその要約	25%	各課題への取り組み状況および達成状況から評価する
学術的な体裁や形式を有するレポートの作成	25%	レポートが学術的な体裁や形式を備えているかどうか、ならびに内容の完成度等より評価する
プレゼン資料作成と効果的なプレゼンテーションの実施	25%	プレゼン資料の完成度およびプレゼンテーション能力等を評価する
プレゼンへの質問に対する受け応え、討論等	25%	プレゼンに対する受け応えなどの質疑応答、討論の状況から評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎回の授業について、事前および事後学修を必ず行うこと。それぞれの内容と時間は以下の通りとする。 ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 / 1時間程度) ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。(第 1 ～ 15 回 / 1時間程度) 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義・演習）オリエンテーション 第 2 回（演習） 調べ学習のテーマ選定（グループワーク） 第 3-4 回（演習） 関連文献の検索および収集（グループワーク） 第 5-6 回（演習） 関連文献の抄読（プレゼンテーション） 第 7-8 回（演習） 資料のまとめと修正（グループワーク） 第 9-10 回（演習） 関連文献の検索および収集（グループワーク） 第 11-12 回（演習） 関連文献の抄読（プレゼンテーション） 第 13 回（演習） 報告資料のまとめと修正（グループワーク） 第 14-15 回（演習） パワーポイントを用いた口頭発表（プレゼンテーション） 本科目は、演習形式で行う 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある

ナンバリング	PTAL2014

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90046
科目	9004 基礎ゼミナールⅣ	授業種別	週間授業
科目責任者	藤原　光宏	単位数	1 単位
担当教員	藤原　光宏		

授業概要	基礎ゼミナールⅣでは、学術的な体裁と形式を持つレポートの書き方、効果的なプレゼンテーションとそのための工夫を習得することを目的とする。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①テーマを設定し、その目的について説明できる ②テーマと関連した文献や資料等を 2 ～3個探すことができる ③文献や資料等について要点を整理し説明できる ④文献や資料等の要点を簡潔にまとめて文章化できる ④学術的な体裁と形式を持ったレポートの作成ができる ⑤プレゼンテーション資料の作成ができる ⑥効果的なプレゼンテーションができる ⑦質問に対して適切に受け応えができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて教員が指示する

成績評価	上述の到達目標は下記の評価項目、評価割合ならびに評価基準等に沿って達成度を評価する。成績はそれぞれの達成度評価の結果をもとに決定する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
テーマの設定と目的および文献検索とその要約	25%	各課題への取り組み状況および達成状況から評価する
学術的な体裁や形式を有するレポートの作成	25%	レポートが学術的な体裁や形式を備えているかどうか、ならびに内容の完成度等より評価する
プレゼン資料作成と効果的なプレゼンテーションの実施	25%	プレゼン資料の完成度およびプレゼンテーション能力等を評価する
プレゼンへの質問に対する受け応え、討論等	25%	プレゼンに対する受け応えなどの質疑応答、討論の状況から評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎回の授業について、事前および事後学修を必ず行うこと。それぞれの内容と時間は以下の通りとする。 ・指示された事前課題を行う。(第 2 ～ 15 回 / 1時間程度) ・演習で学んだ事柄について事後課題を行い、その技能を確実なものにする。(第 1 ～ 15 回 / 1時間程度) 具体的な課題は、各担当教員が指示する。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義・演習）オリエンテーション 第 2 回（演習） 調べ学習のテーマ選定（グループワーク） 第 3-4 回（演習） 関連文献の検索および収集（グループワーク） 第 5-6 回（演習） 関連文献の抄読（プレゼンテーション） 第 7-8 回（演習） 資料のまとめと修正（グループワーク） 第 9-10 回（演習） 関連文献の検索および収集（グループワーク） 第 11-12 回（演習） 関連文献の抄読（プレゼンテーション） 第 13 回（演習） 報告資料のまとめと修正（グループワーク） 第 14-15 回（演習） パワーポイントを用いた口頭発表（プレゼンテーション） 本科目は、演習形式で行う 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある

ナンバリング	PTAL2014

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90110
科目	9011 心理学Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	加藤　知佳子	単位数	2 単位
担当教員	加藤　知佳子		

授業概要	本科目では、科学的にこころを探求する方法とその成果について、基礎的な内容を学ぶ。知覚、記憶、学習、動機づけ、パーソナリティといった一般的な心理学領域を概観しながら、まずは個体としてのこころについて、科学的にとらえる練習を行う。なお、本科目は必修科目である「臨床心理学」を履修するための基盤となるため、受講を推奨する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①人間のこころを構成するさまざまな機能（知覚、記憶、学習、動機づけ、言語、思考と創造性など）について概説できる。 ②人間のこころの働きに関する個人差や発達的な差異について、代表的な理論を説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
心理学・臨床心理学（リハベーシック）第2版	内山靖　他（編）	医歯薬出版	2970	9784263267578	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
ミニレポートあるいは小テスト	30%	授業への取り組みを評価する。
定期試験	70%	授業の最終的な理解度を筆記試験で評価する。

受講条件	履修条件はありません。
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（4 時間相当） ・指示された話題について、事前に考えたり、調べたりしておく。（各 2 時間） ・授業で得た気づきと学びについて、ノートにまとめておく。（各 2 時間） ・学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。

授業の実施方法と授業計画	第1回　（講義）ガイダンス：授業の進め方、授業のねらい、試験などについて 第2回　（講義）心理学とは：心理学の成り立ち、目的、研究方法 第3回　（講義）感覚と知覚 第4回　（講義・演習）注意と認知 (Think-Pair-Share) 第5回　（講義）記憶：記憶の仕組み 第6回　（講義・演習）記憶：記憶の分類と変容 (Think-Pair-Share) 第7回　（講義）学習（1）：古典的条件づけ 第8回　（講義・演習）学習（2）：オペラント条件づけ (Think-Pair-Share) 第9回　（講義）言語・概念・思考 第 10 回　（講義・演習）情動 (Think-Pair-Share) 第 11 回　（講義）動機づけ 第 12 回　（講義）パーソナリティ：パーソナリティ 第 13 回　（講義・演習）パーソナリティ：パーソナリティの測定 (Think-Pair-Share) 第 14 回　（講義）発達（1）：乳児期から児童期まで 第 15 回　（講義・演習）発達（2）：青年期から老年期まで (Think-Pair-Share) ミニレポート等の課題を課した場合は、特別な事情がない限りコメントを付して返却するほか、全体で共有すべき質問・疑問全体については授業内でフィードバックを行う。また、各自の気づきや考えを共有し、それに対するコメントをフィードバックするために、Google Classroom の機能を活用する。なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTAL1003

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90120
科目	9012 心理学Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	加藤　知佳子	単位数	2 単位
担当教員	加藤　知佳子		

授業概要	心理学Ⅱにおいては、主として、社会的認知、人間関係、集団と個人といった領域を扱う。具体的かつ現代的な問題についてもとりあげながら、科学的な視点からこころを探求する心理学の成果を紹介する。臨床の現場で、同僚やクライエントおよびその家族とコミュニケーションをとる際に配慮すべき事柄に関する知識を得ることを目的とする。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①対人行動の生得的基盤と発達の過程を説明できる。 ②他者とともにいる、あるいは集団の中にいるときとで、こころの働きが異なることについて、心理学における代表的な知見を列挙できる、 ③対人認知、社会心理学の知見にもとづいて、日常的な問題あるいは今日的な問題について、見直すことができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
ワークショップ　人間関係の心理学	藤本 忠明(編) ／東 正訓(編)	ナカニシヤ出版	2200	9784888488334	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
ミニレポート	45%	課題への取り組みを評価する。
定期試験	55%	筆記試験によって講義内容の理解度を確認する。

受講条件	履修条件はありません。
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（4 時間相当× 15 回） ・指示された話題について、事前に考えたり、調べたりしておく。（各 2 時間） ・授業で得た気づきと学びについて、ノートにまとめておく。（各 2 時間） ・学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。

授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）　ガイダンス：授業のねらい、「心理学Ⅰ」との関連 第2回（講義・演習）　人と人との出会い 第3回（講義・演習）　対人魅力 第4回（講義・演習）　対人的コミュニケーションとは 第5回（講義・演習）　他者から受ける影響 第6回（講義・演習）　マス・コミュニケーション、マン・マシン・コミュニケーション 第7回（講義・演習）　集団の中の個人 第8回（講義・演習）　集団のしくみと影響 第9回（講義・演習）　集団間の利害 第 10 回（講義・演習）　対人関係の諸問題：攻撃行動 第 11 回（講義・演習）　対人関係の諸問題：児童虐待、ドメスティック・バイオレンス 第 12 回（講義・演習）　自分自身を知ること 第 13 回（講義・演習）　人間関係とストレス 第 14 回（講義・演習）　幸福感と人間関係 第 15 回（講義）まとめ：今後に向けて 本科目は、全回にわたって、学生参加型のワークショップ形式での実施を予定している。 ミニレポート等の課題を課した場合は、特別な事情がない限りコメントを付して返却するほか、全体で共有すべき質問・疑問全体については授業内でフィードバックを行う。 なお、受講者数および受講者の特性により実施方法あるいは授業計画を変更することもありうる。

ナンバリング	PTAL1004

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90140
科目	9014 国語表現法	授業種別	週間授業
科目責任者	中森　陽子	単位数	2 単位
担当教員	中森　陽子		

授業概要	施設などにおける業務の処理は、文書によって行われることが一般的になっている。ただ、こうした文書にはさまざまな決まりがあり、それを理解しておくことが求められている。国語表現法では、一般的なお礼状やレポートなどの作成法の他に、実社会で求められる文書作成能力を身につけることを目的とする。また、実社会で記される文書を正しく読解する能力を獲得することも合わせて行う。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	大学で学び社会で働くには、文章表現力を身につける必要がある。国語表現法で学ぶ内容は、学科の卒業認定・学位授与の方針「医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観や幅広い教養とコミュニケーション能力をみにつけている」「理学療法の専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集し、適切に活用する能力や判断力を有している」に沿ったものであり、その到達目標は、以下の通りとする。 1. 日本語の基礎を身につける 2. 文書作成に必要な知識を身につける 3. 目的に応じた文書が記述できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
キャリアアップ国語表現法　二十六訂版	丸山顯徳編著	嵯峨野書院	1,700 ＋税	978-4-7823-0628-4	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	30%	課題に対する適切な内容・記述になっているのか評価する
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する

受講条件	必修科目 履修条件はありません
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に教科書を読んでおくこと（1 時間程度× 14） 毎授業後に授業で学んだことを復習すること（1 時間程度× 14） 文章を書くためには語彙力が必要となる。漢字、仮名遣いなどの復習をしておくこと (1 時間程度× 14） 文章表現力を身につけるために、良質の文章を意識して読んでおくこと（1.5 時間程度× 14）

授業の実施方法と授業計画	※講義が知識を習得する内容の場合は、テキスト解答ページの提出を求める。提出物は点検後速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、レポートは添削指導を行う。 第1回　ガイダンス　（講義・演習）　同音異義語 第2回 (講義・演習)　同訓異義語 第3回 (講義・演習)　音訓と熟語 第4回 (講義・演習)　熟語の構造 第5回 (講義・演習)　四字熟語 第6回 (講義・演習)　仮名遣いと送り仮名 第7回 (講義・演習)　文のしくみ 第8回 (講義・演習)　文章構成 第9回 (講義・演習)　レポートの作成 第 10 回 (講義・演習)　原稿用紙の使い方 第 11 回 (講義・演習)　待遇表現 1 第 12 回 (講義・演習)　待遇表現 2 第 13 回 (講義・演習)　手紙と葉書 第 14 回 (講義・演習)　ビジネス文書1 第 15 回 (講義・演習)　ビジネス文書2 ★ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTABL1001

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90141
科目	9014 国語表現法	授業種別	週間授業
科目責任者	中森　陽子	単位数	2 単位
担当教員	中森　陽子		

授業概要	施設などにおける業務の処理は、文書によって行われることが一般的になっている。ただ、こうした文書にはさまざまな決まりがあり、それを理解しておくことが求められている。国語表現法では、一般的なお礼状やレポートなどの作成法の他に、実社会で求められる文書作成能力を身につけることを目的とする。また、実社会で記される文書を正しく読解する能力を獲得することも合わせて行う。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	大学で学び社会で働くには、文章表現力を身につける必要がある。国語表現法で学ぶ内容は、学科の卒業認定・学位授与の方針「医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観や幅広い教養とコミュニケーション能力をみにつけている」「理学療法の専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集し、適切に活用する能力や判断力を有している」に沿ったものであり、その到達目標は、以下の通りとする。 1. 日本語の基礎を身につける 2. 文書作成に必要な知識を身につける 3. 目的に応じた文書が記述できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
キャリアアップ国語表現法　二十六訂版	丸山顯徳編著	嵯峨野書院	1,700+ 税	978-4-7823-0628-4	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	30%	課題に対する適切な内容・記述になっているのか評価する
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する

受講条件	必修科目 履修条件はありません
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に教科書を読んでおくこと（1 時間程度× 14） 毎授業後に授業で学んだことを復習すること（1 時間程度× 14） 文章を書くためには語彙力が必要となる。漢字、仮名遣いなどの復習をしておくこと (1 時間程度× 14） 文章表現力を身につけるために、良質の文章を意識して読んでおくこと（1.5 時間程度× 14）

授業の実施方法と授業計画	※講義が知識を習得する内容の場合は、テキスト解答ページの提出を求める。提出物は点検後速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、レポートは添削指導を行う。 第1回　ガイダンス　（講義・演習）　同音異義語 第2回 (講義・演習)　同訓異義語 第3回 (講義・演習)　音訓と熟語 第4回 (講義・演習)　熟語の構造 第5回 (講義・演習)　四字熟語 第6回 (講義・演習)　仮名遣いと送り仮名 第7回 (講義・演習)　文のしくみ 第8回 (講義・演習)　文章構成 第9回 (講義・演習)　レポートの作成 第 10 回 (講義・演習)　原稿用紙の使い方 第 11 回 (講義・演習)　待遇表現 1 第 12 回 (講義・演習)　待遇表現 2 第 13 回 (講義・演習)　手紙と葉書 第 14 回 (講義・演習)　ビジネス文書1 第 15 回 (講義・演習)　ビジネス文書2 ★ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTABL1001

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90151
科目	9015 文学論	授業種別	週間授業
科目責任者	井原　淑雅	単位数	2 単位
担当教員	井原　淑雅		

授業概要	20 世紀に生みだされた様々な「理論」は、新しい思考の方法を教えてくれる。具体的には「テキスト」と「テクスト」との違いを考える。これを足場としながら、ロシアのウラジミール・プロップの『昔話の形態学』で示された物語構造を、日本の『古事記』の構造と比較してみたいと思う。また、フランスのレヴィ=ストロースの神話研究なども取り上げて、構造主義の観点から神話や物語について考えてみたい。そして、単なる理論研究の域に留まるのではなく、協同学習による作品制作を通して、受講者が「文学理論」とは何かについて考えてもらいたい。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎							

到達目標	文学とは何か。この問いに対する解答を、作品論や作家論に求めるのではなく、哲学、歴史学、言語学などから文学をとらえることで、ひとつの読み方に固執しない理論の幅を広げることができる。この文学論で学ぶ内容は、学科の卒業認定・学位授与の方針「医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観や、幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけている」に沿ったものである。その到達目標は以下の通りとする。 1. 作品はひとつの読み方 (理論) よりも、別の読み方 (理論) を加えることで、楽しみが広がることを説明できる。 2. 協同学習による作品制作を通して、お互いの考えを積極的に出し合うことで、文学理論の理解を深めることができる。さらに新たな発見や創造にもつなげることができる。

テキスト (教科書)

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて紹介する。

成績評価	授業時間中に課す提出物 (20%)、協同学習による作品 (20%)、学期末に課すレポート (60%) に基づいて評価する。	
評価項目	割合	評価基準
授業時間中に課す提出物	20%	講義内容の理解度を確認する。
協同学習による作品	20%	協同学習により、講義内容の理解度を確認する。
学期末に課すレポート	60%	講義内容の理解度及び習熟度を確認する。

受講条件	特になし。
事前・事後学修 (内容・時間)	1. 毎授業前までに前授業の復習をすること (1 時間程度× 14) 2. 毎授業後に授業で学んだことを復習すること (2 時間程度× 14)

授業の実施方法と授業計画	※第 1 回から第7回までは、講義形式で実施する。第8回から第 14 回までは、協同得学習による参加型の授業形式で実施する。協同学習で制作した作品は、アンケート形式により学生同士で相互評価を行う。 第1回 (講義・演習)　文学とは何か 第2回 (講義・演習)　「テクスト」論 第3回 (講義・演習)　神話の世界 1　『日本書紀』と『古事記』 第4回 (講義・演習)　神話の世界 2　『古事記』大国主命 第5回 (講義・演習)　『昔話の形態学』 第6回 (講義・演習)　物語の構造 第7回 (講義・演習)　ロシア・フォルマリズム 第8回 (講義・演習)　協同学習 1(プロット作成 1) 第9回 (講義・演習)　協同学習 2(プロット作成 2) 第 10 回 (講義・演習)　協同学習 3(原稿執筆 1) 第 11 回 (講義・演習)　協同学習 4(原稿執筆 2) 第 12 回 (講義・演習)　プレゼンテーション 1 第 13 回 (講義・演習)　プレゼンテーション 2 第 14 回 (講義・演習)　プレゼンテーション 3 第 15 回 (講義・演習)　振り返りとまとめ 学生が提出した課題に関しては、コメントを添えて返却をする。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更する場合がある。

ナンバリング	PTABL1002

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90160
科目	9016 哲学	授業種別	週間授業
科目責任者	霜山　博也	単位数	2 単位
担当教員	霜山　博也		

授業概要	教員や他の学生との質疑応答や討論を通じ、哲学を追体験する。我々の身の回りにあるさまざまな事物について、既存の学問や常識にとらわれずに論理的に考える能力を身につけていくことを目的とする。第一に感想や自分の考えたことを他人に理解できるように自分の言葉で伝える能力の習得を、第二にテキストの著者や他人の言いたいことを代弁する能力の習得を目指す。あわせて読解・論述能力の養成も目的とする。
ディプロマポリシー	DP1　DP2　DP3　DP4
ディプロマポリシーとの関連性	◎
到達目標	①哲学の問題を自分で考えられるようになる。 ②自分と他人の意見を批判的に検討し、それを肯定的に生かせるようになる。 ③他者に理解してもらうために、説得的な文章を書けるようになる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要な場合には適宜指示する

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、私語や講義への取り組み等、受講態度の悪さががあれば、減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
毎回の課題	30%	毎回の講義内容を理解しているか確認する。優秀な回答は次回に紹介し、どう良いのかを解説する。
レポート	70%	レポートにて理解度を確認する。

受講条件	履修条件はありません
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習（2 時間相当／ 15 回） ・新聞・ニュースなどを普段から読み、活字にいつも触れておくこと。 ・授業で学んだことを参考にして、世の中のさまざまな物事に対して、哲学的な視点から分析する訓練をすること。 事後学習（2 時間相当／ 15 回） ・授業後に、プリントを読み直し内容を復習しておくこと。 ・授業で分からなかったことを質問し、図書館等で調べておくこと。

授業の実施方法と授業計画	※各回の最後に授業内容と関連する課題を出す。次回の初めに、匿名でさまざまな回答を紹介し、その回答の内容について議論する。また、回答の解説や補足説明、質疑応答を行う。 1.（講義）ガイダンス 2.（講義）思想をふだんに生かすこと 3.（講義）デカルトのコギト 4.（講義）自由について 5.（講義）カントの批判哲学 6.（講義）物事の「よさ」を見抜く方法 7.（講義）メルロ＝ポンティと身体図式 8.（講義）プラトンのイデア論 9.（講義）ニーチェと力への意志 10.（講義）真理と虚構 11.（講義）記号について 12.（講義）パロールとエクリチュール 13.（講義）言語行為論 14.（講義）言葉遊び 15.（講義）まとめ（予備日として使用する可能性あり） （講義の習熟度に合わせて予定を変更する可能性があります）

ナンバリング	NRFL1001

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90200
科目	9020 ボランティア論	授業種別	週間授業
科目責任者	葛谷　潔昭	単位数	2 単位
担当教員	葛谷　潔昭		

授業概要	ボランティアは新しい時代を生きていくための行動様式の一つである。本講義では、福祉・医療・環境保護・まちづくり・子育て・国際協力等さまざまなボランティア活動とそれと関連した NPO（非営利組織）の活動を扱う。ボランティアの意義と実情を学ぶことを目標に、講義だけではなく、実際にボランティア活動をしている現場のリーダーたちの話を聞き、諸施設を訪問し、実際にボランティア活動を行う。これらを通じて、総合的に受講者のボランティア論・ボランティア観の基礎を作り出すことを目的とする。

	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシー								
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○				

到達目標	1. わが国のボランティア活動の現状を説明できる 2. 自ら意欲的にボランティア活動に参加することができる 3. 人と人とのコミュニケーション技能・プレゼンテーションの表現力を高め、実践できる 4. 対人援助専門職としての「社会人基礎力」を身に着け、実践することができる 5. 組織の管理者として重要な要素、マネジメント能力、アントレプレナーシップ、ベンチャースピリットを理解し、説明することができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
新・学生のためのボランティア論	赤澤清孝・川中大輔・野尻紀恵（編著）	社会福祉法人大阪ボランティア協会	1,760 円（税込）	978-4-87308-074-1	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業内課題の取り組み度、および授業後課題提出状況、学外での課題（学外における実習（ボランティア活動）の書類提出、レポート課題含む）で評価。 劣悪な受講状況（課題未提出、授業の参加度が低いなど）は減点の対象となる場合がある。

評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50%	内容の適切性、分量、期限順守
学外実践活動レポート（事前・事後）	50%	活動の事実、内容の適切性、分量、期限順守

受講条件	履修条件はつけない
事前・事後学修（内容・時間）	1．テキストおよび配布資料を事前・事後に予復習する (合計 25 時間程度） 2．講義によっては、事前課題・事後課題（個人ワーク、外部講師感想文、活動計画など）を行う（合計 20 時間程度） 3．ボランティア先について、調べ、連絡する（合計 6 時間程度） 4．ボランティア活動を行う（合計 3 時間以上） 5．ボランティア活動についてまとめる（合計 9 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）人間としての社会生活とボランティア活動（ボランティアをする側とされる側、当事者性とは） 第2回（講義）ボランティア活動の範囲、機能、理念、組織、社会的意義 第3回（演習・実技）分野別ボランティア活動（手話、防災、学習支援：学内講師）（講義） 第4回（講義・演習）分野別ボランティア活動（地域福祉・ボランティアコーディネート・青少年育成）（外部講師） 第5回（講義・演習）分野別ボランティア活動（フードバンク、こども食堂）（外部講師） 第6回（講義・演習・実技）分野別ボランティア活動（レクリエーション）（外部講師） 第7回（講義・演習）分野別ボランティア活動（医療的ケア・介護分野）（外部講師） 第8回（講義・演習）分野別ボランティア活動（子育ち支援、子育て支援）（外部講師）、 第9回（講義・演習）分野別ボランティア活動（災害・自然保護・環境・まちづくり）（外部講師） 第 10 回（講義・演習）明るい社会づくり実践体験作文の案内（外部講師）、ボランティア実践活動の意義と計画・実際について 第 11 回（実習）ボランティア実践活動 第 12 回（実習）ボランティア実践活動 第 13 回（講義・演習）分野別ボランティア活動（障害児向けイベント、ホスピタルクラウン等）（外部講師・映像） 第 14 回（講義）近年の日本におけるボランティア活動・NPO 活動、地域活動の変遷と課題 第 15 回（演習）今後のボランティア活動と NPO の活動、地域の活動のあり方、ボランティア実践活動報告会 課題・レポートのフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 外部講師の予定、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。

ナンバリング	PTAL1005

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90270
科目	9027 法学概論	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤　裕	単位数	2 単位
担当教員	伊藤　裕		

授業概要	この講義は、現代法治国家の生活者が身につけておくべき法の基礎知識と、権力作用の批判的検証の判断基準を学ぶことを目的とする。法は本来、政治に優越すべきものであり、法の支配が正しく行われる社会こそが真の民主国家である。このような視点から、前半は法と裁判のしくみ、憲法の理念等の理解を図る。後半は社会的関心の高い具体的問題を取り上げ、生活に役立つ法知識も学びつつ現代日本の価値基準のありようを検証する。なお、他の法律科目の基礎知識となる民法も概説する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	この講義は、現代法現象の市民社会法的視座からの分析および評価をテーマとするので、到達目標を次のように設定します。 ①法とは何か、法は何のために存在するのか、という思索を深め論じることができるようになる。 ②法の体系や制度の仕組みについての基礎知識を習得し、現実社会に生起する法的事象がどのような問題であるのか、説明し論じることができるようになる。 ③市民社会法の理念に照らしたとき、日本の法状況は現在、どのようであるのかを認識し評価できるようになる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
法学　第 3 版	東裕・杉山幸一編	弘文堂	2200 円＋税	9784335002434	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	期末に行う記述式試験の結果が評価の中心になります（90%）。習得した基礎的知識と自らの思索の跡を示してください。プレゼンテーションの出来やミニレポートの提出状況も評価対象とします（10%）。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	基礎知識の理解度と思索の成果を判定します。
プレゼンテーション	20%	テーマの選択、資料検索、内容把握の出来具合で判定します。
ミニレポート	10%	課題への取り組み姿勢、考察の程度を評価します。

受講条件	履修条件はありません。
事前・事後学修（内容・時間）	日頃から新聞、web などで法律関係のニュースに接し、その法的論点を考えてみる（90 分程度× 14 回） 毎回の配布教材･資料類をファイルに保存し、次回までに振り返りと論点の考察を深める（90 分程度× 14 回）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義）ガイダンス ／ 法とは何か　法の種類　公法と私法　民事法と刑事法 法適用の原則　上位法令の優先　一般法と特別法　後法の優先 第 2 回（講義）　法における正義 … 市民社会法的正義 ／ 近代憲法の理念と原理 第 3 回（講義）憲法（人権）… 包括的基本権、自由権、社会権、参政権 第 4 回（講義）憲法（ 統治）… 国会、内閣、裁判所 第 5 回（講義）憲法（代表的な憲法判例の紹介）　判例の調べ方 第 6 回（講義）民法（総則）… 権利の主体、意思表示、代理、時効 第 7 回（講義）民法（物権と債権）… 物権の種類、物権と債権の相違、債権の発生と消滅、多数当事者の債権債務 第 8 回（講義）民法（不法行為・損害賠償）… 損害賠償責任の発生（債務不履行と不法行為） 第 9 回（講義）民法（代表的な裁判例の紹介）／プレゼン準備 第 10 回（講義）民法（家族法）… 夫婦親子の法律関係、遺産承継の法制度（相続と遺言） 第 11 回（講義・演習）　プレゼン準備（判例研究希望調査・割り当て） 第 12 回（講義）　法人を取り巻く法律 … 各種法律（特別法含む）の概略 第 13 回（講義）　国際法 … 条約と憲法、国際私法 … 契約と家族関係の国際化と法 第 14 回（講義）プレゼンテーション 1… 学生グループによる判例研究（判例の法解釈への考察を含む） 第 15 回（演習）プレゼンテーション 2… 学生グループによる判例研究（判例の法解釈への考察を含む） ※重要な裁判や法改正があった場合のほか、受講生の関心程度により、授業計画を変更することがあります。 ※質問･意見などがあれば出席カード裏面にて任意に出してもらい、受講者全員で共有できるものについては、授業で紹介、回答します。ミニレポートはコメントを付して返却しフィードバックします。

ナンバリング	BAAL1005

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90280
科目	9028 市民社会と政治	授業種別	週間授業
科目責任者	西尾　林太郎	単位数	2 単位
担当教員	西尾　林太郎		

授業概要	現在、我々が生活している社会すなわち現代社会は複雑かつ多様に変化し活動する。その社会の実態を＜政治＞という視点で理解し、国際的な視野に立って日本の社会と政治について考えてみたい。そして、有権者あるいはひとりの人間として地域社会の政治、日本の政治さらに国際政治とどう関わって行くべきか、考える。超少子高齢化、高度情報化、グローバル化といわれる今日の日本社会や福祉について真剣に考え、将来を展望する。 近時の新型コロナ、ロシアのウクライナ侵攻・イスラエル戦争、トランプ関税、「台湾有事」によって、日本の社会や日本国家について多くの問題点があぶり出された。これらの問題を素材に地域社会や日本社会について諸外国の事例と比較しつつ考えてみる。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①よき市民、有権者としての自覚を持つ、②社会の動向に関心を持つ、③故郷に愛着を持つ

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
特に定めません。					

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
特に定めません。					

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	評価は試験の成績および授業への積極性を考慮して、原則以下のように行う。試験は自筆ノート（コピーは一切不可）や授業の際に配布した教材や資料の持込を許可して実施する。 試験成績 60%、授業内課題レポート 20%、小テスト 20%	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	60%	筆記試験にて講義内容の確認を行う。
授業内課題レポート	20%	講義を真面目に聞いていたかどうか、配布した教材や資料をしっかり読んでいるかどうかをそれぞれ確認する。
小テスト	20%	毎回しっかりと授業を受けていたかどうか、基礎事項を理解できているかをそれぞれ確認する。

受講条件	特にありません。
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に、前回の授業でとったノートの内容を確認し整理しておくとともに、配布された教材・資料について指示された箇所を読んでおくこと (第 2 回～ 14 回の授業 /30 分程度)。 また毎日、そうでなくとも週に 2,3 回程度は新聞の政治・経済面を読み、テレビの報道番組を見ておくこと。週刊誌でもいい。1 週間に合計2, 3時間程度を期待したい。 授業は必要に応じて資料を配布したりビデオ等を視聴するので、できるだけ欠席しないようにする。授業外の学習として、テレビのニュース番組や時事問題等の特集番組をしっかり視聴することを勧める。

授業の実施方法と授業計画	政治過程論、日本政治論、政治文化論、マスメディア論そして国際関係論におけるテーマを中心とするが、随時、時事的な問題を取り上げたい。講義のおおよその予定は次の通りであり、適宜課題のフィードバックを行う。 1（講義）ガイダンス 2（講義）近代社会と現代社会 3（講義）社会権思想と現代福祉ー現代社会における国家の役割— 4（講義）日本国憲法と日本の社会 5（講義）財政、官僚機構 6（講義）政党と利益団体 (圧力団体) 7（講義）議院内閣制と大統領制 8（講義）政党制と議会政治 9（講義）マス・メディアと政治 10（講義）立法国家と行政国家 11（講義）政治家、リーダーシップ 12（講義）日本・韓国・中国の社会と政治 13（講義）国際社会の政治 14（講義）マスデモクラシー：草の根民主主義と草の根独裁 15（講義）我々を取り巻く政治環境ーむすびにかえてー なお、受講者の関心や理解度に応じて授業計画を変更することがある

ナンバリング	PTABL1008

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90290
科目	9029 社会思想史	授業種別	週間授業
科目責任者	西尾　林太郎	単位数	2 単位
担当教員	西尾　林太郎		

授業概要	近代から現代における社会の変化に対し、人間がいかにそれを認識し、それに対しどのように対応して行ったかについて、日本や北東アジアを中心に考え、現代の社会や文化を考察し理解を深めることを目的とする。＜近代化＞＝ Modernization、国民国家 nation ー state の形成という視点から欧米社会と日本を含めた東アジア社会の比較対照する視点を構築したい。韓国や中国の歴史や社会・文化についてもできるだけ言及する。また、豊橋あるいは三河という地域が日本さらに世界とどのようにつながっているか、歴史的な視点で考えてみる。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	主権者としての自覚を持ち、国際的な視野で日本および日本社会を捉える視点を持ちつつ、地域や世代の違いを超えて多くの人々とコミュニケーションができ、寄り添うことができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
特に教科書は使用しないが、適宜、資料や教材を配布する。					

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
人物叢書・阪谷芳郎	西尾林太郎	吉川弘文館	2400 円	978-4-642-05286-3	
人物叢書・加藤友三郎	西尾林太郎	吉川弘文館	2400 円	978-4-642-05317-4	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	試験と授業への積極性などを総合して評価する。評価の項目は次の通りである。 筆記試験 60%、授業内課題レポート 30%、小テスト 10% 筆記試験は、授業中配布した教材や資料と自筆ノートの持込みを許可する。コピーは不許可。 授業内課題レポートであるが、授業で問題提起されたことについて授業中に各自の感想や意見を書く小レポートである。 授業内課題レポートや小テストなど実施した翌週に簡単な解説や講評をする。 授業外の学習として、幅広く歴史物のテレビ番組を視聴したり歴史小説、歴史マンガ等とにかく歴史物を読むことを強く勧める。授業の際、資料や教材を配布したり、ビデオを視聴したりするので、できるだけ休まないこと。

評価項目	割合	評価基準
筆記試験	60%	筆記試験により講義内容についてどの程度理解できているかを確認する。
授業内課題レポート	30%	授業に積極的に取り組めているか、配布した教材や資料を理解できているかを確認する。
小テスト	10%	基礎的なことを理解できているかどうかを確認する。

受講条件	特にありません。
事前・事後学修（内容・時間）	毎回、前回の講義でとったノートの整理や確認をするとともに、配布された教材・資料について市視された箇所を事前に読んでおくこと (第 2 回～ 14 回 /30 分程度)。 NHK の番組「新日本風土記」(BS) など旅行や紀行の番組を視聴することを勧める。また、江戸時代や明治時代を舞台とした小説 (例えば島崎藤村『夜明け前』､夏目漱石『坊ちゃん』など）を1冊でも読んでおきたい。また､『マンガ日本歴史』なども、時代を問わずおすすめである。他方で、新聞やテレビ、インターネットの記事・番組で、ウクライナ情勢、中東情勢、中国や韓国そして台湾・香港の現代の姿にも注目してもらいたい。過去を見ることにより今の姿を理解できる。なお、高等学校での日本史の履修は必要ない。

授業の実施方法と授業計画	思想や思想家について詳細に紹介するのではなく、できるだけ時代背景を詳しく述べ、時代と人間、社会と人間という視点で講義を進めたい。講義のおおよその予定は以下の通りである。 1 (講義）ガイダンス 2(講義）江戸時代の「韓流」、江戸時代に「鎖国」は無かった? 3(講義）江戸時代の社会は持続的発展可能な、環境にやさしい社会だった! 4(講義）日本の開国と韓国の開国 5(講義）福沢諭吉の思想①―身分制度― 6(講義）福沢諭吉の思想②―対外関係― 7(講義）渋沢栄一の思想と日本資本主義 8(講義）渋沢栄一の社会貢献 9(講義）琉球ー沖縄の思想 10(講義）夏目漱石の思想―日本の誇るべきものは富士山だけ!? 11(講義）医療福祉の思想①　(賀川豊彦、西田天香） 12(講義）医療福祉の思想② (台湾の施乾・清水照子夫妻） 13(講義）安全保障の思想ー加藤友三郎と専守防衛― 14(講義）2 つの世界大戦とアメリカの思想の流入 15(講義）　まとめ なお、適宜簡単なレポートや小テストを実施することがあるが、その際、次の講義の折に解説をする。また、受講者の関心や理解度に応じて授業計画を変更することがある。

ナンバリング	BAAL1007

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90300
科目	9030 消費経済論	授業種別	週間授業
科目責任者	渡辺　眞登	単位数	2 単位
担当教員	渡辺　眞登		

授業概要	経済の実体構造のなかで、生産と消費は二つの基本なモメントとして相互に制約し合う関係にある。しかしながら、生産を主体としたこれまでの経済学に対する批判とともに、また消費分野の拡大とともに生み出された消費者運動の発展のなかで、生産活動および企業活動に対して消費及び消費者がどのような対抗力を持つのかが今日的な課題となっている。この科目では、消費者が持つこの対抗力の最大の武器となっている貨幣の役割、消費者と貨幣との関係に注目し、消費者自身がこれをしっかり認識し、商品流通のみならず貨幣金融の分野を含めて、新たな消費分野の世界の発展を描いてゆきたい。授業内容としては、前半部分では貨幣の諸機能、信用創造などの貨幣理論を中心に、後半部分では消費者運動や消費者保護に関する消費者政策を中心に解説する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	受講生が、 1貨幣の機能的な違いを関連付けて貨幣理論を説明することができるようにする。 2貨幣流通量と物価の上昇、信用創造の理論を駆使して具体的な数値を導き出せる問題設定ができるところまで到達する。 3消費者運動の歴史的な経緯を把握し、それが実際の政策にどのように反映されたのかを文章化する。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要な場合には適宜指示する

成績評価	リポート提出、期末テスト、中間テストの評価に授業での質問や発表内容を加味して判断します。 定期テスト：期末テスト 50%・中間テスト 20% 授業での質問や発表内容：30%	
評価項目	割合	評価基準
定期テスト（中間テスト）	20%	基本的な内容の理解度を判断
定期テスト（期末テスト）	50%	学習内容の応用力と創造性を判断
通常学習における取り組みと発表	30%	授業に対する努力と積極性を判断

受講条件	講義の中での質問などにしっかり対応すること
事前・事後学修（内容・時間）	貨幣や金融を 1、授業開始前までに前回のノート内容を再読・復習する（第2回～14回 / 15分程度） 2、前回までの授業内容から新たな疑問・質問を一つ以上考え、自分なりの回答を用意する（第２回～14回15分程度） 3、15回の授業回数の中で、２回以上のリポートを作成する（各60分程度） 4、中間・期末テストの準備のための復習する（100分以上）

授業の実施方法と授業計画	1．生産および消費の基本概念（講義） 2．消費者と貨幣の機能（1） （価値尺度、流通手段と貨幣流通量、物価）（講義） 3．消費者と貨幣の機能（2） （信用創造と金融政策）（講義） 4．社会的再生産のなかの二つの消費（生産財消費と消費財消費）（講義） 5．　所得構造（賃金・地代・利子）（講義） 6．　消費者運動の発展とその理論的背景（講義） 7．消費者主権（1）、消費者運動と流通変革（講義） 8．消費者主権（2）、情報通信の発達と消費者行動の変化（講義） 9．消費者主権と消費者の権利（講義） 10．消費経済と環境問題（1）、公害（講義） 11．消費経済と環境問題（2）、リサイクル（講義） 12．消費経済と環境問題（3）、地球温暖化（講義） 13．消費生活（具体的事例）（講義） 14．悪質商品とＰＬ法（講義） 15．まとめ（講義） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。 受講生により提出されたリポート、質問用紙等については添削し、直接解答できるものは時間をかけて説明します。また、授業中の質疑・応答については文章化し、受講学生のあいだで共有できるようにします。さらに中間・期末テストについては要望がある限りで解説し、受講生の今後の学習に役立つよう指導します。

ナンバリング	PTABL1010

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90320
科目	9032 社会政策	授業種別	週間授業
科目責任者	渡辺　眞登	単位数	2 単位
担当教員	渡辺　眞登		

授業概要	社会政策は、社会の下部構造である経済的な諸活動に対して、その上部構造である国家や政治がどのようにそれに影響を与えているかを研究する学問である。なかでも、国家による労使間の調整は、ワイマール憲法成立以降の社会権の確立とともに、社会政策の歴史的な最重要課題だとされている。本講義では、こうした歴史と理論を前提にして、前半部分では労働政策を中心に戦後の労働三法や男女雇用機会均等法、男女共同社会参画法を取り上げ、その意義や問題点を解説する。後半部分では社会保障制度の発展、公的な医療保険制度や年金制度、さらに介護保険制度を中心に少子高齢社会の問題点を実情を踏まえて説明をおこなう。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	受講学生が、 1，工場法やワイマール憲法といった法律が基本的な人権とりわけ社会権の成立にどのように影響を与えたのかを説明できるようにする。 2，労働三権、労働三法の内容を把握し、団結権、団体交渉権、団体行動権の違い、労働組合法労働基準法、労働関係調整法のそれぞれの関係に対する質疑に対応できるようにする。 3，公的医療制度や年金制度、介護保険制度の制度的な特徴を資料等を使って学生自身が解説しまた議論できるようにする。 4，少子高齢社会における社会保障制度の問題点をどのように改善するか、受講学生にそのための提言を考えてもらい議論する。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要な場合には適宜指示する

成績評価	期末テスト・リポート提出、期末・中間テストの評価に授業での質問や発表内容を加味して判断します。 定期テスト：期末テスト５０％・中間テスト２０％ 授業での質問や発表内容：３０％

評価項目	割合	評価基準
定期テスト（中間テスト）	20%	基本的な学習内容の理解度を判断
定期テスト（期末テスト）	50%	学習内容の応用力と創造性を判断
通常授業の取り組みと発表	30%	授業に対する努力と積極性を判断

受講条件	新聞・テレビなどの日常のニュースに関心を持つこと
事前・事後学修（内容・時間）	1、授業開始前までに前回のノート内容を再読・復習する（第2回～14回 / 15分程度） 2、前回までの授業内容から新たな疑問・質問を一つ以上考え、自分なりの回答を用意する（第２回～14回15分程度） 3、15回の授業回数の中で、２回以上のリポートを作成する（各60分程度） 4、中間・期末テストの準備のための復習する（100分以上）

授業の実施方法と授業計画	1．社会政策とはどの様な学問なのか（講義） 2．欧米の社会政策の歴史、イギリス「工場法」における先駆性（講義） 3．労働組合と政党政治（講義） 4．日本の社会政策のはじまり、GHQによる労働政策（講義） 5．「高度成長期」における日本の労使関係（講義） 6．現代の労働市場（1）、情報化社会と産業構造の変化（講義） 7．現代の労働市場（2）、男女雇用機会均等法（講義） 8．現代の労働市場（3）、労働者派遣法（講義） 9．日本の社会保障（1）、社会保障の四つの柱（講義） 10．日本の社会保障（2）、社会保険制度ー医療保険ー（講義） 11．日本の社会保障（3）、社会保険制度ー年金保険ー（講義） 12．少子・高齢社会の社会保障（1）、少子社会の問題点（講義） 13．少子・高齢社会の社会保障（2）、高齢社会の問題点（講義） 14．男女共同参画という社会政策（講義） 15．まとめ（講義） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。 受講生により提出されたリポート、質問用紙等については添削し、直接解答できるものは時間をかけて説明します。また、授業中の議論・討論の内容を文章化し、受講者全員で共有できるようにします。さらに中間・期末テストについては要望がある限りで解説し、受講生の今後の学習に役立つよう指導します。

ナンバリング	PTABL1012

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90340
科目	9034 社会福祉学	授業種別	週間授業
科目責任者	葛谷　潔昭	単位数	2 単位
担当教員	葛谷　潔昭		

授業概要	本科目は、患者や利用者の生活に利する基礎的な社会福祉サービスと社会保障制度、対人援助の理念を学習する。 「人間の幸せとはなにか」を考え、人間が人間らしく生きていくための、自己実現に向けての、社会、生活環境、制度のあり方を考え、必要な人々への適用、その他の援助を考えることができる基礎的能力を学習する。 例えば、福祉施設、地域福祉、法律や社会制度等の福祉課題に対する物質的･精神的援助を行う総合的サービスとしての社会福祉とそのあり方、社会保障制度、社会福祉と医療の関連と、保健・医療・福祉の連携と統合について学習する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○					

到達目標	①対人サービス専門職として、社会福祉の意義・目的、社会福祉とその関連制度について理解したうえで活用できる ②専門職として、社会福祉対象者の利用者ニーズを把握できる ③社会福祉の対象者に必要な社会福祉資源を選択し、アドバイスできる ④保健・医療・福祉の連携と統合の知識と心構えを身に着ける

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
コメディカルのための社会福祉概論 第 5 版	鬼﨑信好、本郷秀和（編著）	講談社サイエンティフィク	2,640　円（税込）	978-4065301937	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
適宜、配布・紹介する。					

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業内容に関する課題・レポート、筆記試験を行い、科目の到達目標に対する達成度を評価する。 劣悪な受講状況（課題未提出、授業の参加度が低いなど）は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
授業内課題（レポート等）	50%	提出状況、内容の適切性、授業内容の理解度、分量等
定期試験	50%	筆記試験にて理解度を確認

受講条件	履修条件はありません
事前・事後学修（内容・時間）	1. 各回の授業計画に沿って、テキスト等の該当部分を熟読しておくこと。（合計 8 時間程度） 2. 授業で紹介・配布された資料等について再度確認しておくこと。（合計 8 時間程度） 3. 定期試験に向けて試験範囲の復習をしておくこと。（合計 6 時間程度） 4. 社会福祉制度とサービスについての時事的な話題に関心を払い、ニュース、新聞報道内容に注意を向けメモを取るようにしておくこと。（合計 6 時間程度） 5. 授業後の感想文・レポート作成（合計 6 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）オリエンテーション・社会福祉の考え方 第2回（講義）現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向・歴史と展開 第3回（演習）社会保障制度と社会福祉 第4回（講義）社会福祉の仕組みと運営 第5回（講義・演習）社会福祉の機関と施設・援助 第6回（講義）医療保障制度 第7回（講義）所得保障制度と公的扶助 第8回（講義）社会福祉と医療・看護の連携 第9回（講義・演習）子ども家庭福祉 第 10 回（講義・演習）高齢者福祉の理念と制度 第 11 回（講義）介護保険制度 第 12 回（講義・演習）障害者福祉 第 13 回（講義）地域福祉 第 14 回（講義）これからの社会福祉の課題 第 15 回（講義・演習）社会福祉を支える人たち 課題・レポート・試験のフィードバックについては、必要に応じて今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 上記の内容によっては、外部講師を招へいする場合がある。 授業予定については、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。

ナンバリング	PTABL1013

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90410
科目	9041 生物学	授業種別	週間授業
科目責任者	岡部　明仁	単位数	2 単位
担当教員	岡部　明仁		

授業概要	本講義は幅広い内容を含む生物学のなかでも､医療系専門職として理解する必要がある｢生物の原則｣と｢ヒトに関する基本｣について学習する。生物学の基礎的な内容、つまり基礎生物学について学んだ後、ヒトの組織や器官の構造と働き、健康を維持するシステム、病因（病気の原因）といった基礎医学の内容ついて学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○					

到達目標	①学習者は、人体の素材としての細胞の構造および細胞が生きていくための細胞小器官名と機能について説明することができる。 ②学習者は、遺伝子に関する基礎分野の中で核酸 (DNA と RNA)、並びに DNA 塩基、RNA 塩基および遺伝子情報としての転写、翻訳が説明できる。 ③学習者は、さまざまな外部環境からの攻撃より身体を守る皮膚の構造ならびに生体防御機構の種類について学び、皮膚の構造と機能および非特異的防御機能、特異的防御機構 (免疫) が説明できる。 ④学習者は、内分泌系におけるホルモンの名称・標的器官・作用について説明できる。 ⑤学習者は、感覚器の構造と機能およびその特徴について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
人体の構造と機能 第 6 版	内田 さえ	医歯薬出版	3000	9784263710616	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	定期テスト、中間テストによって総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する
中間テスト	30%	分野ごとに講義内容の理解度を確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	①毎回の授業前に授業内容のポイントを読んでおくこと (第 2 回～第 14 回 /20 分程度) ②毎回の授業後に授業内容のポイントを整理すること (第 1 回～第 15 回 /30 分程度) ③授業内で実施された確認問題の復習を行うこと (第 2 回～第 14 回 /30 分程度) ④定期試験対策のために、各授業内容のポイントを整理しておくこと (第 1 回～第 15 回 /60 分程度)

授業の実施方法と授業計画	1. 総論 (1) :（講義）人体の成り立ち 2. 総論 (2) :（講義）人体の規則性と不規則性 3. 細胞の構造 (1) :（講義 ）細胞膜と核、核小体 4. 組織の構造 (2) :（講義 ）細胞質と細胞小器官とその機能 5. 遺伝子と遺伝情報 (1) :（講義）ゲノムと遺伝子 6. 遺伝子と遺伝情報 (2) :（講義）細胞分裂と減数分裂 7. 器官と器官系の構造と機能 (1) :（講義）内部環境と細胞外液 8. 器官と器官系の構造と機能 (2) :（講義）恒常性とその維持機構 9. 内分泌系 (1) :（講義）総論 10. 内分泌系 (2) :（講義）各論① 11. 内分泌系 (3) :（講義）各論② 12. 感覚器系 (1) :（講義）総論 13. 感覚器系 (2) :（講義）各論① 14. 感覚器系 (3) :（講義）各論② 15. 体温とその調節 :（講義）バイタルサインと体温について 講義の中で、学生に対して疑問や質問を投げかけて、学生からの回答に対して答える方式で進めて行く予定である。 単元ごと確認問題を提供して、授業外で質問を受け付ける。 ※　授業計画を変更することがある。

ナンバリング	PTABL1014

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	91400
科目	9140 医療学入門	授業種別	週間授業
科目責任者	辻村　尚子	単位数	2 単位
担当教員	辻村　尚子		

授業概要	健康の維持、増進や疾患の治療の全体像を概観して、疾病や障害、清潔・不潔、インフォームドコンセント、守秘義務、インシデント・アクシデントなどについて学ぶ。適時行う、ロールプレイを通して症例とのファーストコンタクト、傾聴、問診から、患者およびその家族の心理状態、生活環境の変化や問題点を理解する。併せて、保健、医療、福祉の各領域において活躍できる理学療法士としての基本的な心構え、接遇、マナーなどを学修する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	◎				

到達目標	医療人として基本的な知識を身につけることを目標とする ①日本における医療や福祉、健康増進の現状について説明できる ②保健、医療、福祉における理学療法士の役割について説明できる ③医療人としての態度接遇について説明できる ④理学療法士として基本となるマナーが実践できる ⑤利用者に対して基本的な接遇が実践できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
PT・OT・ST のためのコミュニケーション実践ガイド 第 3 版	山口美和	医学書院	3,000	978426005318	
学生のための医療概論　第 4 版	小橋 元　編集	医学書院	3,000	9784260041256	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 なお、遅刻、早退や欠席、劣悪な受講態度などは減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
講義内課題、課題レポート	40%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を確認する（基礎問題 80%、応用問題 20%）

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（第 2 回～ 14 回 /120 分程度） 毎授業後に資料整理と復習をすること（第 2 回～ 15 回 / 60 分程度） 授業内で指示する内容について事前に調べて授業に参加すること（第2回 / 60 分程度） 授業内で指示する内容についてレポート作成すること（第2回、13 回 / 120 分程度） 第 16 回定期試験　定期試験範囲について復習すること（第 14 回、15 回 / 120 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義）オリエンテーション 第 2 回　（講義）日本における医療と介護、福祉、健康増進の現状と理学療法士 第 3 回　（演習）インフォームドコンセント（グループワーク） 第 4 回　（演習）守秘義務（グループワーク） 第 5 回　（演習）インシデント、アクシデント（グループワーク） 第 6 回　（演習）医療人としての基本的な心構え（ディスカッション） 第 7 回　（演習）コミュニケーション（ディスカッション） 第 8 回　（実習）医療人としての基本的態度と接遇（非常勤講師：大野晴巳） 第 9 回　（演習）高齢者・要介護者の生活機能（グループワーク） 第 10 回　（演習）高齢者、要介護者、家族の心理状態と接遇（グループワーク） 第 11 回　（講義）医療人として必要とされるマナーとは何か（グループワーク） 第 12 回　（講義）介護保険制度と地域包括ケアシステム 第 13 回　（演習）医療面接（グループワーク） 第 14 回　（講義）保健、医療、福祉における理学療法士の役割 第 15 回　（演習）医療者になるための準備（ディスカッション） 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。

ナンバリング	PTBCM1002

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90450
科目	9045 生命倫理	授業種別	週間授業
科目責任者	霜山　博也	単位数	1 単位
担当教員	霜山　博也		

授業概要	医療技術の目覚しい発展により、延命、健康の維持・増進、出産といった希望が叶えられるようになった反面、解決しがたい社会的、倫理的な問題に人々は直面するようになった。これらに医療従事者がどう取り組むべきかを考察する。「生命倫理の諸問題を理解する」「医療倫理の諸問題を論理的に考察する」「医療現場の問題を具体的に現実的に想像し、Best の医療ではなく Better の医療として患者にどう関るのかを包括的に考える」ことを目標とする。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○					

到達目標	①生命倫理の諸問題を理解し、自分で調べ、考え続けられるようになること ②生命倫理の諸問題がさまざまな人の価値観を左右することを知ること ③生命倫理の諸問題に関して、自分なりの意見を持ち、それを他人に分かるように表現できるようになること ④自分と他人の意見を批判的に検討し、それを肯定的に生かせるようになること ⑤医療現場の問題を具体的で現実的に想像し、患者にどうかかわるのかを、包括的に考えること

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要な場合には適宜指示する

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、私語、講義への取り組まない等の受講態度の悪さががあれば、減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
毎回の課題	40%	ディスカッションをして、他人の意見を受けとめつつ自分の意見を持ち、論理的に記述しているか評価する。
レポート	60%	講義内容の理解度を確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習（2 時間相当／ 8 回） ・新聞・ニュースなどを普段から読み、活字にいつも触れておくこと。 ・授業で学んだことを参考にして、世の中のさまざまな物事に対して、哲学的な視点から分析する訓練をすること。 事後学習（2 時間相当／ 8 回） ・授業後に、プリントを読み直し内容を復習しておくこと。 ・授業で分からなかったことを質問し、図書館等で調べておくこと。

授業の実施方法と授業計画	※各回の最後に授業内容と関連する課題を出す。次回の初めに、回答の解説や補足説明を行う。 1.（講義）ガイダンス 2.（講義）生殖補助技術と出生前診断 (第 2 章、第 3 章) 3.（講義）患者の権利と医療のあり方 (第 5 章、第 6 章) 4.（講義）介護とホスピス・緩和ケア (第 7 章、第 8 章) 5.（講義）安楽死・尊厳死 (第 9 章) 6.（講義）脳死・臓器移植問題 (第 10 章) 7.（講義）医療をどのように用いるか？ (第 11 章、第 12 章) 8.（講義）生命と技術（第 12 章、第 13 章) （講義の習熟度に合わせて予定を変更する可能性があります） 毎回の課題に対する優秀な回答は次回の授業において匿名で読み上げ、どうよいのかを解説する。

ナンバリング	PTABL1016

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90220
科目	9022 救命救急学	授業種別	週間授業
科目責任者	湯口　聡	単位数	2 単位
担当教員	湯口　聡		

授業概要	理学療法施行中に遭遇し得る患者の様々な救急事象を学ぶ。外傷や病態が急変し救急と判断する必要がある患者の病態と症状を学修し、救急と判断する評価方法や対処法についての知識を習得する。あわせて、一次救命法を学び、その技法を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎					

到達目標	①受傷あるいは病態の急変により救急と判断される患者の病態と症状について説明できる。 ②受傷あるいは病態の急変により救急と判断される患者を評価できる。 ③受傷あるいは病態の急変により救急と判断される患者について対処できる。 ④一次救命法を理解し実践できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	講義用資料については、適宜講義内で配布を行う。

成績評価	原則として毎回出席すること。各講義ごとに課題を課し、講義の理解度を確認した上、単元ごとに確認テストを行い、成績評価を行う。	
評価項目	割合	評価基準
講義毎の課題	50%	講義内容に即した課題を提示し、学習への理解度と学習態度を評価する。
確認テスト	50%	各単元の学習内容を踏まえ、確認テストを行い、理解度を評価する。

受講条件	履修条件はありません
事前・事後学修（内容・時間）	講義を行われる前にシラバスを確認し、学習予定の概要を確認しておくこと（第 1~14 回 /30~45 分程度） 講義後、単元ごとに学修した内容について、まとめること（第 1~15 回 /30~45 分程度）

授業の実施方法と授業計画	講義ごとに課した小テストの結果並びに内容を次回講義にてフィードバックする。 1回　（講義）オリエンテーション　心肺蘇生法①：救命法とは 2回　（講義）心肺蘇生法②：胸骨圧迫の理論と実際 3回　（講義）心肺蘇生法③：AED の理論と実際 4回　（講義）心肺蘇生法実技確認テスト① -1 5回　（講義）心肺蘇生法実技確認テスト① -2 6回　（講義）心電図トレーニング① 7回　（講義）心電図トレーニング② 8回　（講義）確認テスト② 9回　（講義）救急病態①：意識障害・ショック 10回　（講義）救急病態②：心不全・呼吸不全 11回　（講義）救急病態③：心筋梗塞・エコノミークラス症候群 12回　（講義）救急病態④：脳血管障害と頭部外傷 13回　（講義）救急病態⑤：気管支喘息・気胸・過換気症候群 14回　（講義）救命法の総括 15回　（講義）確認テスト③

ナンバリング	PTABL1004

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90550
科目	9055 情報リテラシI	授業種別	週間授業
科目責任者	赤松　秀亮	単位数	1 単位
担当教員	赤松　秀亮		

授業概要	高度情報化社会において，情報を処理し活用する基礎的能力を高めるため，情報科学の概念と情報処理に必要なコンピュータの基礎知識・活用技術について学習する．主に，文書作成ソフト・表計算ソフトなどの基本的な操作を実習し，社会人として必要とされる基本的なコンピュータ操作の習得とタイピング能力の向上を目指す．さらに，情報モラル（著作権．セキュリティ．SNS 利用におけるトラブルとリスク回避など），情報の検索方法，情報の整理・分析およびレポート作成に関する基礎知識について学ぶ．

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎						

到達目標	①情報モラルを踏まえた適切な判断ができる ②文書作成ソフトの基本操作が行える ③表計算ソフトの基本操作が行える ④プレゼンテーションソフトの基本操作が行える

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
情報リテラシー Windows 11 Office 2024 ／ Microsoft 365 対応		富士通ラーニングメディア	2,310 円	978-4-86775-215-9	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	受講態度，講義内の課題，各試験（Word，Excel），定期試験（PowerPoint）による総合評価を行う． なお，出席点は設定しないが，遅刻や欠席，劣悪な受講態度は減点の対象とする． また，実習主体の講義であるので，正当な理由なく4回以上欠席した者は受験資格を失う．	
評価項目	割合	評価基準
課題の提出	40%	講義内容の理解度、課題の完成度を確認する。Google Classroom を用いて課題を提出する。
試験 (Word), 試験 (Excel), 試験 (PowerPoint)	60%	実技形式で授業内容についての習熟度を確認する。各試験 20%× 3=60%

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	次のような事前・事後学習を毎回 1 時間程度行う．() 内に目安の時間を示す． ・タイピングの練習をする．できれば毎日．(10 分程度) ・授業で学んだ操作が確実に実施できるよう繰り返し練習する．(20 分程度) ・次回授業範囲の内容について教科書を熟読し，予め練習する．(30 分程度) ※わからないところはテキストにマークし，次回の講義時に質問をするようにする． その他 ・パソコンを使って他の科目のレポートなどを日常的に作る努力をする．

授業の実施方法と授業計画	＜ Word ＞ 第 01 回（講義）情報モラル，情報セキュリティ，Word の基礎知識，文書の作成 第 02 回（講義・演習）図や表の挿入，表現力のアップ 第 03 回（講義・演習）長文のための機能，数式の入力 第 04 回（講義・演習）練習問題 1 ～ 2 第 05 回（演習）練習問題 3 ～ 5 第 06 回　試験（Word） ＜ Excel ＞ 第 07 回（講義・演習）Excel の基礎知識，データ入力・編集，表の作成・表の印刷 第 08 回（講義・演習）グラフの作成，データベース操作，複数シートの操作，関数 (1) 第 09 回（講義・演習）関数 (2)，表示形式，書式設定，高度なグラフ作成 第 10 回（講義・演習）ピボットテーブル，データベースの活用，練習問題 1 ～ 3 第 11 回（演習）練習問題 4 ～ 5 第 12 回　試験（Excel） ＜ Power Point ＞ 第 13 回（講義・演習）Power Point の基礎知識、プレゼンテーションの作成，オブジェクトの挿入 第 14 回（講義・演習）画面切り替え，アニメーション，プレゼンテーションの印刷，共通デザインの設定 第 15 回（講義・演習）練習問題 1 ～ 2 ※課題（テストやレポート等）については，授業内あるいは Classroom を通して質問 や疑問等に対するフィードバックを行います． ※学生の理解度や要望により授業計画を変更することもあります．

ナンバリング	PTABL1017

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90551
科目	9055 情報リテラシI	授業種別	週間授業
科目責任者	赤松　秀亮	単位数	1 単位
担当教員	赤松　秀亮		

授業概要	高度情報化社会において，情報を処理し活用する基礎的能力を高めるため，情報科学の概念と情報処理に必要なコンピュータの基礎知識・活用技術について学習する．主に，文書作成ソフト・表計算ソフトなどの基本的な操作を実習し，社会人として必要とされる基本的なコンピュータ操作の習得とタイピング能力の向上を目指す．さらに，情報モラル（著作権．セキュリティ．SNS 利用におけるトラブルとリスク回避など），情報の検索方法，情報の整理・分析およびレポート作成に関する基礎知識について学ぶ．

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎						

到達目標	①情報モラルを踏まえた適切な判断ができる ②文書作成ソフトの基本操作が行える ③表計算ソフトの基本操作が行える ④プレゼンテーションソフトの基本操作が行える

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
情報リテラシー Windows 11 Office 2024 ／ Microsoft 365 対応		富士通ラーニングメディア	2,310 円	978-4-86775-215-9	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	受講態度，講義内の課題，各試験（Word，Excel），定期試験（PowerPoint）による総合評価を行う． なお，出席点は設定しないが，遅刻や欠席，劣悪な受講態度は減点の対象とする． また，実習主体の講義であるので，正当な理由なく4回以上欠席した者は受験資格を失う．	
評価項目	割合	評価基準
課題の提出	40%	講義内容の理解度、課題の完成度を確認する。Google Classroom を用いて課題を提出する。
試験 (Word), 試験 (Excel), 試験 (PowerPoint)	60%	実技形式で授業内容についての習熟度を確認する。各試験 20%× 3=60%

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	次のような事前・事後学習を毎回 1 時間程度行う．() 内に目安の時間を示す． ・タイピングの練習をする．できれば毎日．(10 分程度) ・授業で学んだ操作が確実に実施できるよう繰り返し練習する．(20 分程度) ・次回授業範囲の内容について教科書を熟読し，予め練習する．(30 分程度) ※わからないところはテキストにマークし，次回の講義時に質問をするようにする． その他 ・パソコンを使って他の科目のレポートなどを日常的に作る努力をする．

授業の実施方法と授業計画	＜ Word ＞ 第 01 回（講義）情報モラル，情報セキュリティ，Word の基礎知識，文書の作成 第 02 回（講義・演習）図や表の挿入，表現力のアップ 第 03 回（講義・演習）長文のための機能，数式の入力 第 04 回（講義・演習）練習問題 1 ～ 2 第 05 回（演習）練習問題 3 ～ 5 第 06 回　試験（Word） ＜ Excel ＞ 第 07 回（講義・演習）Excel の基礎知識，データ入力・編集，表の作成・表の印刷 第 08 回（講義・演習）グラフの作成，データベース操作，複数シートの操作，関数 (1) 第 09 回（講義・演習）関数 (2)，表示形式，書式設定，高度なグラフ作成 第 10 回（講義・演習）ピボットテーブル，データベースの活用，練習問題 1 ～ 3 第 11 回（演習）練習問題 4 ～ 5 第 12 回　試験（Excel） ＜ Power Point ＞ 第 13 回（講義・演習）Power Point の基礎知識、プレゼンテーションの作成，オブジェクトの挿入 第 14 回（講義・演習）画面切り替え，アニメーション，プレゼンテーションの印刷，共通デザインの設定 第 15 回（講義・演習）練習問題 1 ～ 2 ※課題（テストやレポート等）については，授業内あるいは Classroom を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行います． ※学生の理解度や要望により授業計画を変更することもあります．

ナンバリング	PTABL1017

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90580
科目	9058 情報倫理	授業種別	週間授業
科目責任者	今井　正文	単位数	1 単位
担当教員	今井　正文		

授業概要	インターネットをとりまく情報技術の進展と急速な普及にともない、さまざまな問題が生じている。情報技術の役割と影響力を理解して、情報倫理の必要性や、情報に対する責任、情報社会における望ましい態度について考える。特に、情報を利用する立場および発信する立場に立ったとき、どう行動すべきかについて検討する。また、情報の検索方法、学修における生成 AI 利用の注意点など、情報の整理・分析およびレポート作成についても学ぶ。 授業では UNIVERSAL PASSPORT やオンデマンド学習システム(Classroom) の機能を活用し、教材公開、小テスト実施、課題提出、アンケートなどの双方向授業も行う。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○						

到達目標	①情報を扱うときに生じる責任について説明することができる ②情報のやりとりに必要なルールや心構えを知り、説明することができる ③情報に関連した法規や情報モラルについて学び、説明することができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版	情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ	実教出版	450	9784407346213	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	日常課題（40%）・中間レポート（30%）・期末レポート（30%） なお、出席点は設定しないが、遅刻や欠席、劣悪な受講態度は減点の対象とする。また、正当な理由なく3回以上欠席した者は失格とする。

評価項目	割合	評価基準
日常課題	40%	前回までの講義内容についての理解度を確認する。
中間レポート	30%	課題に対して適切な内容・記述になっているかを確認する。
期末レポート	30%	課題に対して適切な内容・記述になっているかを確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	次のような事前・事後学習を毎回 4 時間程度行うこと。() 内に目安の時間を示す。 ・新聞などに目を通して情報倫理や技術者倫理などについて調べる。(60 分程度) ・次回授業範囲の内容について配付資料の該当箇所を熟読する。(30 分程度) ・講義テーマに関する専門用語の意味やその内容を調べる。(30 分程度) ・授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。(30 分程度) ・中間レポート、期末レポートの作成に取り組む。(90 分程度)

授業の実施方法と授業計画	第 01 回　（講義・演習）ガイダンス・情報と情報社会の特徴・関連問題演習 第 02 回　（講義・演習）個人情報と知的財産（1）・関連問題演習 第 03 回　（講義・演習）個人情報と知的財産（2）・関連問題演習 第 04 回　（講義・演習）ネットにおけるコミュニケーションとマナー・関連問題演習 第 05 回　（講義・演習）情報社会における生活・関連問題演習 第 06 回　（講義・演習）ネット社会におけるトラブルと犯罪・関連問題演習 第 07 回　（講義・演習）情報セキュリティとネット被害（1）・関連問題演習 第 08 回　（講義・演習）情報セキュリティとネット被害（2）・関連問題演習 受講学生の習熟度等により授業計画を変更することがある。 課題（テストやレポート等）については、Classroom や授業の時間を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。 各回の演習レポートの修正指示があった場合は各自で修正して再提出すること。 必要に応じて、オフィスアワーなどを利用し個別に対応する。

ナンバリング	PTABL2026

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90610
科目	9061 英語Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	船井　純平	単位数	2 単位
担当教員	船井　純平		

授業概要	大学生に必要な基礎英語（基礎文法、語法、語彙、表現）を、ハンドアウトとオーディオ補助教材等を通して段階的に学習する。単にテキストの解説をしたり、演習問題に取り組ませて言葉を習得させるだけではなく、様々な風俗習慣や民族性をもつ人々の言動を通して、言語と思想との関わりを理解し、母国語を含めた言語一般に対する興味や国際感覚を養う。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						

到達目標	①基礎的な文法事項を理解し、辞書を用いて英文を正しく読むことができる。 ②音の変化を理解し、英語で話されているものを正しく聞くことができる。 ③英語圏の文化を理解し、説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	ハンドアウトを配布する。参考書及び参考文献については、適宜指示する。

成績評価	原則として毎回出席すること。中間試験 (40%)、期末試験 (40%)、授業中の課題 (20%) をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40%	筆記試験により理解度を確認する。
期末試験	20%	筆記試験により理解度を確認する。
授業中の課題	20%	授業中の活動への取り組みについて評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に指定された事前学習を行うこと（毎回 1.5 時間程度） 毎授業後に学習した内容について復習すること (毎回 1.5 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	★中間試験・期末試験は採点後速やかに返却し、授業内で解説を行う。また、授業中の課題および質問に対してはその都度フィードバックを行う。 1 回目　（講義）　授業ガイダンス 2 回目　(講義・演習) 口語表現（日常生活、食事、学校、交通） 3 回目　(講義・演習) 新聞・ニュース記事 (海外事情、文化) 4 回目　(講義・演習) 日常会話リスニング / コロケーション 5 回目　(講義・演習) 英文読解（Wikipedia）/ 口語表現（比喩） 6 回目　(講義・演習) 英語の歌リスニング ① 7 回目　(講義・演習) リスニング (situation comedy ①) 8 回目　(演習)　　中間まとめ 9 回目　(講義・演習) リスニング（映画①　視聴） 10 回目 (講義・演習) リスニング（映画②　リスニング・表現） 11 回目 (講義・演習) 口語表現 (ビジネス、健康) 12 回目 (講義・演習) リスニング (situation comedy ②) 13 回目 (講義・演習) 英語の歌リスニング② 14 回目 (講義・演習) リスニング（situation comedy ③） 15 回目（演習）　期末まとめ ★ただし受講生の習熟度によって内容を変更することがある。

ナンバリング	PTABL1019

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90611
科目	9061 英語Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	船井　純平	単位数	2 単位
担当教員	船井　純平		

授業概要	大学生に必要な基礎英語（基礎文法、語法、語彙、表現）を、ハンドアウトとオーディオ補助教材等を通して段階的に学習する。単にテキストの解説をしたり、演習問題に取り組ませて言葉を習得させるだけではなく、様々な風俗習慣や民族性をもつ人々の言動を通して、言語と思想との関わりを理解し、母国語を含めた言語一般に対する興味や国際感覚を養う。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						

到達目標	①基礎的な文法事項を理解し、辞書を用いて英文を正しく読むことができる。 ②音の変化を理解し、英語で話されているものを正しく聞くことができる。 ③英語圏の文化を理解し、説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	ハンドアウトを配布する。参考書及び参考文献については、適宜指示する。

成績評価	原則として毎回出席すること。中間試験 (40%)、期末試験 (40%)、授業中の課題 (20%) をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40%	筆記試験により理解度を確認する。
期末試験	40%	筆記試験により理解度を確認する。
授業中の課題	20%	授業中の活動への取り組みについて評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に指定された事前学習を行うこと（毎回 1.5 時間程度） 毎授業後に学習した内容について復習すること (毎回 1.5 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	★中間試験・期末試験は採点後速やかに返却し、授業内で解説を行う。また、授業中の課題および質問に対してはその都度フィードバックを行う。 1 回目　（講義）　授業ガイダンス 2 回目　(講義・演習) 口語表現（日常生活、食事、学校、交通） 3 回目　(講義・演習) 新聞・ニュース記事 (海外事情、文化) 4 回目　(講義・演習) 日常会話リスニング / コロケーション 5 回目　(講義・演習) 英文読解（Wikipedia）/ 口語表現（比喩） 6 回目　(講義・演習) 英語の歌リスニング ① 7 回目　(講義・演習) リスニング (situation comedy ①) 8 回目　(演習)　中間まとめ 9 回目　(講義・演習) リスニング（映画①　視聴） 10 回目 (講義・演習) リスニング（映画②　リスニング・表現） 11 回目 (講義・演習) 口語表現 (ビジネス、健康) 12 回目 (講義・演習) リスニング (situation comedy ②) 13 回目 (講義・演習) 英語の歌リスニング② 14 回目 (講義・演習) リスニング（situation comedy ③） 15 回目（演習）　期末まとめ ★ただし受講生の習熟度によって内容を変更することがある。

ナンバリング	PTABL1019

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90620
科目	9062 英語Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	船井　純平	単位数	2 単位
担当教員	船井　純平		

授業概要	大学生に必要な基礎英語（基礎文法、語法、語彙、表現）を、ハンドアウトとオーディオ補助教材等を通して段階的に学習する。単にテキストの解説をしたり、演習問題に取り組ませて言葉を習得させるだけではなく、様々な風俗習慣や民族性をもつ人々の言動を通して、言語と思想との関わりを理解し、母国語を含めた言語一般に対する興味や国際感覚を養う。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						

到達目標	①発展的な文法事項を理解し、様々なジャンルの英文を正しく読むことができる。 ②実際に英語圏で話されている英語を聞いて、内容を正しく聞き取ることができる。 ③英語圏の文化と英語の関わりを理解し、説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	ハンドアウトを配布する。参考書及び参考文献については、適宜指示する。

成績評価	原則として毎回出席すること。中間試験 (40%)、期末試験 (40%)、授業中の課題 (20%) をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40%	筆記試験により理解度を確認する。
期末試験	40%	筆記試験により理解度を確認する。
授業中の課題	20%	授業中の活動への取り組みについて評価する。

受講条件	受講条件は特になし。
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に指定された事前学習を行うこと（毎回 1.5 時間程度） 毎授業後に学習した内容について復習すること (毎回 1.5 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	★中間試験・期末試験は採点後速やかに返却し、授業内で解説を行う。また、授業中の課題および質問に対してはその都度フィードバックを行う。 1 回目　(講義)　　ガイダンス 2 回目　(講義・演習) 英語の歌リスニング① 3 回目　(講義・演習) リーディング (英語の看板、漫画) 4 回目　(講義・演習) リーディング (Snack review) / 風刺画 5 回目　(講義・演習) リスニング（situation comedy ①） 6 回目　(講義・演習) リーディング（犬種) 7 回目　(講義・演習) 英語の歌リスニング② 8 回目　(演習)　　中間まとめ 9 回目　(講義・演習) リスニング（映画③ 視聴） 10 回目　(講義・演習) リスニング（映画④ リスニング・表現） 11 回目　(講義・演習) ライティング / 日常表現 12 回目　(講義・演習) 英語の歌リスニング③ 13 回目　(講義・演習) 語彙力診断 /　口語表現（情報、通信） 14 回目 (講義・演習) 接頭辞・接尾辞 15 回目 (演習)　　期末まとめ ★ただし受講生の習熟度によって内容を変更することがある。

ナンバリング	PTABL1019

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90660
科目	9066 英語コミュニケーションⅠ	授業種別	週間授業
科目責任者	Stewart　Gale	単位数	2 単位
担当教員	Stewart　Gale		

授業概要	English conversation course. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						
到達目標	Students will learn English useful for confidently communicating with people from other countries through a variety of topics.							

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
Let' s Chat	John Pak	EFL Press		4580244420056	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価		
評価項目	割合	評価基準
Classwork	30%	Pronunciation, Attendance, Participation
Final exam	70%	Paper test

受講条件	Students should bring an English dictionary.
事前・事後学修（内容・時間）	Students should review the English grammar they learned at Junior High School and High School, such as how to form questions and the appropriate usage of tenses (present / past / future etc.). Students should spend 60 minutes at home reviewing each class and preparing for the next week' s class.

授業の実施方法と授業計画	Time will be allocated in every class for student feedback and questions. In addition to these core topics, there will also be time allocated to English language games and puzzles. 1 - (Lecture, drill and pairwork) Introductions and pair interviews. 2 - (Lecture, drill and pairwork) Useful classroom English questions and expressions and getting to know your partner. 3 - (Lecture, drill and pairwork) Sport and leisure. 4 - (Lecture, drill and pairwork) Shopping and big numbers. 5 - (Lecture, drill and pairwork) Food. 6 - Documentary video and discussion. 7 - (Lecture, drill and pairwork) Travel. 8 - (Lecture, drill and pairwork) Movies and television. 9 - (Pairwork) Quiz. 10 - (Lecture, drill and pairwork) Health. 11 - Documentary video and discussion. 12 - (Lecture, drill and pairwork) Relationships and marriage. 13 - (Lecture, drill and pairwork) Music and books and the passive tense. 14 - (Lecture, drill and pairwork) Japanese culture. 15 - Review.

ナンバリング	PTAL1006

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90670
科目	9067 英語コミュニケーションⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	Stewart　Gale	単位数	2 単位
担当教員	Stewart　Gale		

授業概要	English conversation course. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						
到達目標	Students will learn English useful for confidently communicating with people from other countries through a variety of topics with an added focus on multicultural understanding.							

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	No textbook. Class materials will be provided.

成績評価	Classwork 30% Final exam 70%	
評価項目	割合	評価基準
Classwork	30%	Pronunciation, Attendance, Participation
Final exam	70%	Paper test

受講条件	Pre-requisite - pass English Conversation 1.　Students should bring an English dictionary.
事前・事後学修（内容・時間）	Students should review the material studied in English Communication 1. Students should spend 60 minutes at home reviewing each class and preparing for the next week's class.

授業の実施方法と授業計画	Time will be allocated in every class for student feedback and questions. In addition to these core topics, there will also be time allocated to English language games and puzzles. 1 - (Lecture, drill and pairwork) Self introductions and pair interviews. 2 - (Lecture, drill and pairwork) Differences between British English and American English. 3 - (Lecture, drill and pairwork) Discuss high school memories and compare with high school life in the UK. 4 - Documentary video and discussion. 5 - (Lecture, drill and pairwork) Manners in different countries and taboo questions. 6 - (Lecture, drill and pairwork) Examine the UK and the UK' s culture. 7 - (Lecture, drill and pairwork) Examine the USA and American culture. 8 - (Lecture, drill and pairwork) Discuss technology and invent a new product. 9 - Documentary video and discussion. 10 - (Pairwork) Quiz. 11 - (Lecture, drill and pairwork) Money, big numbers, foreign currencies and discussion about shopping. 12 - (Lecture, drill and pairwork) Food. 13 - (Lecture, drill and pairwork) Music. 14 - (Lecture, drill and pairwork) Travel and modes of transport. 15 - Review.

ナンバリング	PTAL1007

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	907A0
科目	907A ドイツ語Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	加藤　皓士	単位数	2 単位
担当教員	加藤　皓士		

授業概要	この授業では、自己紹介、買い物、道を尋ねるなどの具体的な場面でドイツ語での会話を学びながら、簡単な会話ができるようにし、基礎的なドイツ語の初歩的なレヴェルの文法について習得することを目的とする。 　あわせてドイツという国や、ドイツ人の暮らしや生き方についても見ていくことで多様な文化のあり方についても学ぶ。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						

到達目標	① ドイツ語らしい発音ができる。 ② ドイツ語の数字や簡単なあいさつができる。 ③ ドイツ語で数字が言える。 ④ 自分のことや旅行で使える表現がドイツ語で言える。 ⑤ ドイツ人のライフスタイルを知り、日本人としての教養を深める。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
Grundstufe Deutsch -3 Ausgabe	大園正彦	三修社	2860 円(税込み)	978-4-384-12311-1 C1084	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	定期試験　70% 授業内での小テスト、中間テスト（1 回）　30% ※点数の換算の仕方についてはガイダンスでお話しします。

評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認します。
小テスト、中間テスト	30%	授業の中で学んだことを理解できているのかどうかを筆記試験にて確認します。

受講条件	この授業では、中学 1 年生で学ぶ英語レベルのドイツ語を学びます。ですから、高等学校の英語でつまずいた人でも、大丈夫です。 ドイツ語はルールが少し多いですが、英語よりも規則的で読み方も簡単です。 　テクストは必ず購入しておくこと。テクストのない人は、出席および授業参加点がゼロになります。
事前・事後学修（内容・時間）	毎回、前回の授業で学んだことを確認するための小テストを実施するので、授業後にテクストやノート、プリント類を見直してください（3 時間程度× 14 回）。

授業の実施方法と授業計画	1 回　[講義] ガイダンス 2 回　[講義] アルファベートとドイツ語の読み方 3 回　[講義] ドイツ語のあいさつと数字、曜日、月の読み方 4 回　[講義] 人称代名詞・人称変化 5 回　[講義] 平叙文と疑問文　　自己紹介 6 回　[講義] 定冠詞・不定冠詞 7 回　[講義] 定冠詞・不定冠詞・否定　　文章読解 8 回　[講義] 人称代名詞の格変化 9 回　[講義] 複数形 10 回　[講義] 復習 11 回　中間テスト 12 回　[講義] 前置詞・前置詞の格支配　　簡単に書いてみよう 13 回　[講義] 前置詞・前置詞の格支配 14 回　[講義] 所有冠詞 15 回　[講義] 半期の振り返りと補足事項 ※皆さんの様子を見ながらゆっくりと授業は進みます。 ※小テストを毎回行い、皆さんが理解できなかったところを確認し、授業中に復習します。メールで質問を受けつけ、お答えします。 ※受講生の習熟度により授業計画をじゃっかん変更する可能性があります。

ナンバリング	PTAL1008

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	907B0
科目	907B ドイツ語Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	加藤　皓士	単位数	2 単位
担当教員	加藤　皓士		

授業概要	この授業では、春学期のドイツ語 1 で習得したことを前提とし、自己紹介、買い物、道を尋ねるなどの具体的な場面でドイツ語での会話を学びながら、簡単な会話ができるようにし、基礎的なドイツ語の初歩的なレヴェルの文法について習得することを目的とする。 　あわせてドイツという国や、ドイツ人の暮らしや生き方についても見ていくことで多様な文化のあり方についても学ぶ。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						

到達目標	①ドイツ語で人称代名詞や動詞、助動詞を変化させられる。 ②ドイツ語で簡単な文が作れる。 ④　自分のことや旅行で使える表現がドイツ語で言える。 ⑤　ドイツ人のライフスタイルを知り、日本人としての教養を深める。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
Grundstufe Deutsch -3 Ausgabe	大園正彦　著	三修社	2860 円(税込み)	978-4-384-12311-1 C1084	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	定期試験　70% 授業内での小テスト、中間テスト（1 回）　30% ※点数の換算の仕方についてはガイダンスでお話しします。

評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	理解度を確認します。
小テスト、中間テスト	30%	毎回の授業で学んだことを理解できているか確認します。

受講条件	春学期に「ドイツ語1」を履修していること。ただし、「ドイツ語 1」を履修していないと授業についていくのが難しくはなりますが、「春学期の復習 1 ー 4(第 2-5 回)」の授業内容を自習する意欲があるのでしたら、受講の希望に応じます。 　テクストは必ず購入しておくこと。テクストのない人は、出席および授業参加点がゼロになります。
事前・事後学修（内容・時間）	毎回、前回の授業で学んだことを確認するための小テストを実施するので、授業後にテクストやノート、プリント類を見直してください（4 時間程度× 14 回）。

授業の実施方法と授業計画	1 回　[講義] ガイダンス 2 回　[講義] 春学期の復習 1 3 回　[講義] 春学期の復習 2 4 回　[講義] 春学期の復習 3 5 回　[講義] 分離動詞 6 回　[講義] 再帰代名詞 7 回　[講義] 話法の助動詞 8 回　[講義] 話法の助動詞 9 回　[講義] 定冠詞類と形容詞 10 回　[講義] 比較級 11 回　[講義] 最上級 12 回　中間試験 13 回　[講義] 現在完了形 14 回　[講義] 過去形 15 回　[講義] 半期の振り返りと補足事項 ※皆さんの様子を見ながらゆっくりと授業は進みます。 ※小テストを毎回行い、皆さんが理解できなかったところを確認し、授業中に復習します。メールで質問を受けつけ、お答えします。 ※受講生の習熟度により授業計画をじゃっかん変更する可能性があります。

ナンバリング	PTAL1009

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	907C0
科目	907C 中国語Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	石田　卓生	単位数	2 単位
担当教員	石田　卓生		

授業概要	この授業では､中国語の基礎的な能力を習得します。正確な中国語の発音ができるように学習をすすめつつ、基本的な文法事項を習得することによって中国語の基礎的なコミュニケーション能力を身に付けます。また、中国の文化や習慣を知ることによって、幅広い教養やグローバル社会で活動するための基礎的な知識を修得します。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						

到達目標	日本と地理的に近く、ビジネス社会において今後ますます重要な存在になっていくと考えられる中国語圏の人々とコミュニケーションを図るための語学力を身につけるために到達目標を以下のようにします。 1）正確な中国語の発音ができる 2）中国語のローマ字発音表記を読むことができる 3）教科書の文章を読解することができる 4）中国語で自己紹介の文章を書くことができる 5）中国語で自己紹介のスピーチをすることができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
学ビテ時ニ之ヲ習ウ中国語入門　新訂	相原　茂　他著	好文出版	2400	9784872201048	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	定期試験、小テスト、課題によって授業の到達目標をどの程度クリアしたのかを評価します。 遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。また、不誠実な学習態度は減点の対象となります。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60%	筆記試験によって学習成果を評価します。
小テスト	20%	筆記試験およびテキスト朗読によって学習成果を評価します。
課題	20%	作成された課題によって学習成果を評価します。

受講条件	選択科目
事前・事後学修（内容・時間）	事前学修:各回のテキストの単語･語句に目を通し、さらに発音をして予習をしておくこと（第 2 ～ 15 回:90 分） 事後学修：各回のオンラインテストを受験し、分からなかった問題については復習をすること。さらに学習した文章を音読し、自然な発話ができるように練習すること（第 1 ～ 15 回：90 分）

授業の実施方法と授業計画	各回の授業後に課題としてオンラインテストを行う。オンラインテストについて次回授業内で講評を行うことによって当該回の内容についてフィードバックをすると共に随時受講生からの質問に回答する。 第 1 回　ガイダンス　第 1 課声調、単母音（講義・演習） 第 2 回　第 1 課単母音、第 2 課複母音（講義・演習） 第 3 回　第2課子音（講義・演習） 第 4 回　第3課鼻音（講義・演習） 第 5 回　発音のまとめ　第4課声調の変化、組み合わせ（講義・演習） 第 6 回　第5課人称代詞、名前の言い方（講義・演習） 第 7 回　第5課復習・練習（講義・演習） 第 8 回　第6課動詞 “是”、諾否疑問文、省略疑問文（講義・演習） 第 9 回　第6課復習・練習（講義・演習） 第 10 回　第7課動詞述語文、動詞 + 目的語、形容詞述語文（講義・演習） 第 11 回　第7課復習・練習（講義・演習） 第 12 回　第8課指示代詞、疑問詞疑問文、連体修飾語、存在を表す “有”、名詞の場所化（講義・演習） 第 13 回　第8課復習・練習（講義・演習） 第 14 回　第5－ 6 課のまとめ（講義・演習） 第 15 回　第7−8課のまとめ（講義・演習） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあります。

ナンバリング	BAAL1017

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	907D0
科目	907D 中国語Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	石田　卓生	単位数	2 単位
担当教員	石田　卓生		

授業概要	この授業では､中国語の基礎的な能力を習得します｡正確な中国語の発音ができるように学習をすすめつつ､基本的な文法事項を習得することによって中国語の基礎的なコミュニケーション能力を身に付けます。また､中国の文化や習慣を知ることによって、幅広い教養やグローバル社会で活動するための基礎的な知識を修得します。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						

到達目標	日本と地理的に近く、ビジネス社会において今後ますます重要な存在になっていくと考えられる中国語圏の人々とコミュニケーションを図るための語学力を身につけるために到達目標を以下のようにします。 1）正確な中国語の発音ができる 2）中国語のローマ字発音表記を読むことができる 3）教科書の文章を読解することができる 4）教科書の内容を応用して中国語の文章を書くことができる 5）教科書の内容を応用した中国語で質問したり、それに答えたりすることができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
学ビテ時ニ之ヲ習ウ中国語入門　新訂	相原　茂　他著	好文出版	2400	9784872201048	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	定期試験、小テスト、課題によって授業の到達目標をどの程度クリアしたのかを評価します。 遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。また、不誠実な学習態度は減点の対象となります。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60%	筆記試験によって学習成果を評価します。
小テスト	20%	筆記試験およびテキスト朗読によって学習成果を評価します。
課題	20%	作成された課題によって学習成果を評価します。

受講条件	選択科目
事前・事後学修（内容・時間）	事前学修:各回のテキストの単語･語句に目を通し、さらに発音をして予習をしておくこと（第 2 ～ 15 回:90 分） 事後学修 : 各回のオンラインテストを受験し、分からなかった問題については復習をすること。さらに学習した文章を音読し、自然な発話ができるように練習すること（第 1 ～ 15 回 : 90 分）

授業の実施方法と授業計画	各回授業冒頭において受講生全員に中国語の文章の朗読、発話を課して個々にフィードバックを行うと共に随時質問に回答する。 第 1 回　ガイダンス　発音のおさらい　教科書第 1-2 課（講義・演習） 第 2 回　発音のおさらい　教科書第3- 4課（講義・演習） 第 3 回　第9課量詞、所有を表す “有”、親族呼称（講義・演習） 第 4 回　第9課復習・練習（講義・演習） 第 5 回　第10課反復疑問文、選択疑問文（講義・演習） 第 6 回　第10課復習・練習（講義・演習） 第 7 回　第11課日時の表現（講義・演習） 第 8 回　第11課復習・練習（講義・演習） 第 9 回　第12課変化を表す “了”（講義・演習） 第10 回　第12課復習・練習（講義・演習） 第11 回　第13課所在を表す “在”、前置詞 “離”（講義・演習） 第12 回　第13課復習・練習（講義・演習） 第13 回　第14課経験の表し方、願望を表す助動詞、連動文（講義・演習） 第 14 回　第14課復習・練習（講義・演習） 第 15 回　おさらい　第 9-14 課の復習（講義・演習） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあります。

ナンバリング	BAAL1018

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	907E0
科目	907E ポルトガル語	授業種別	週間授業
科目責任者	田口　マユリ	単位数	2 単位
担当教員	田口　マユリ		

授業概要	ポルトガル語の初歩的なレベルを習得することを目標とする。具体的には、日常生活や仕事、旅行先で必要な会話を学ぶことで、ポルトガル語に関する基礎知識や文法、聞き取る力の修得を目指す。 日本には、そして大学近郊には、多くのブラジル人が生活している。今後、友人を増やしたい、将来仕事に役立てたい、ブラジルやポルトガル語に興味があるという人にとって、有益な授業内容である。受講生のペース、レベルの合わせて進度を調整するので、安心して授業に臨んでもらいたい。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						

到達目標	1. ポルトガル語の基本的な発音と基礎的な文法事項を学び、基本的な挨拶表現と自己表現ができる 2. 特定の状況におけるポルトガル語が理解できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要な場合には適宜指示する

成績評価	期末筆記試験、授業課題への取り組み方、課題の達成度を総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	80%	筆記試験にて講義の内容についての理解度を確認する。
授業中の課題	20%	課された練習問題に適切に解答できるかを評価する。

受講条件	この講義は基礎知識の修得が目的のため、第１回目の講義にてレベルを図る小テストを実施する。 その結果により、一定のレベル以上の語学力を有する学生は、履修が許可されない場合がある。
事前・事後学修（内容・時間）	以下の事前・事後学習は、毎回行うこと。 1. 毎回の授業の復習を行う。(1 時間程度) 2. 配布されたプリントなどの予習を行う。(1 時間程度) 3. 毎回行う確認テストに向けて、前回の授業内容の確認を行う。(1時間程度) 4. ポルトガル語での自己紹介や挨拶、簡単な会話ができるように、ポルトガル文化に関する書物等に目を通す。(1 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）　ガイダンス、ブラジルはどんな国? 第2回（講義）　ポルトガル語の文字と発音 第3回（講義）　人称代名詞・冠詞 第4回（講義）　ser 動詞の活用と用法 第5回（講義・演習）　指示詞、所有詞 第6回（講義）　復習　・　会話練習 第7回（講義）　数詞および複数形の作り方 第8回（講義・演習）　週・月・曜日 第9回（講義・演習）　時間の表現　・　色 第10回（講義・演習）　形容詞 第11回（講義）　estar 動詞・poder 動詞 第12回（講義・演習）　規則動詞　・　不規則動詞 第13回（講義）　まとめ　・　復習 第14回（演習）　ブラジルを知ろう!・会話をしましょう 第15回（演習）　振り返り・復習 第16回　試験 ★質問や疑問全体については授業内でフィードバックを行う。 ★期末筆記試験を行う。 ★受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。

ナンバリング	PEFL2016

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90870
科目	9087 医学英語 (H29 ～選択)	授業種別	週間授業
科目責任者	船井　純平	単位数	2 単位
担当教員	船井　純平		

授業概要	理学療法や看護の現場で必要な医療英語の表現法や語彙を習得する。さらに理学療法士が海外からの基本的な医療情報を得るのに必要な英語の能力を養うために、理解しやすい英語で書かれた医療関係の英文を辞書を参考にしながら読解する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○					

到達目標	①医療関係の語彙、表現を理解し説明できる。 ②医療現場で行われる会話を正しく聞き取ることができる。 ③医療関係の英文を正しく読むことができる。

テキスト (教科書)

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
English for Medicine Revised Edition	西原俊明	金星堂		9784764741539	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	原則として毎回出席すること。中間試験 (40%)、期末試験 (40%)、授業中の課題 (20%) をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40%	筆記試験により理解度を確認する。
期末試験	40%	筆記試験により理解度を確認する。
授業中の課題	20%	授業中の課題への取り組みについて評価する。

受講条件	
事前・事後学修 (内容・時間)	毎授業前に教科書の指定箇所を予習しておくこと　(毎回 1.5 時間程度) 毎授業後に学習した内容について復習すること (毎回 1.5 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	★中間試験・期末試験は採点後速やかに返却し、授業内で解説を行う。また、授業中の課題および質問に対してはその都度フィードバックを行う。 1回 (講義)　　ガイダンス 2回 (講義・演習) Chapter 1(ポリオ等) 3回 (講義・演習) Chapter 2 (処方箋等) 4回 (講義・演習) Chapter 3 (花粉症等) 5回 (講義・演習) Chapter 4 (薬剤等)、DVD (リスニング) 6回 (講義・演習) Chapter 5 (不眠症等) 7回 (講義・演習) Chapter 7 (SARS 等) 8回 (演習)　　中間まとめ 9回 (講義・演習) Chapter 8 (糖尿病等)、DVD (リスニング) 10 回 (講義・演習) Chapter 9 (動脈系疾患等) 11 回 (講義・演習) Chapter 10 (アメリカの医療保険等) 12 回 (講義・演習) Chapter 11 (食物アレルギー等) 13 回 (講義・演習) Chapter 12 (CTS 等) 14 回 (講義・演習) Chapter13 (更年期等) 15 回 (演習)　　期末まとめ ★ただし、受講生の習熟度によって授業計画を変更する場合がある

ナンバリング	PTABL2027

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	909A0
科目	909A スポーツⅠ	授業種別	週間授業
科目責任者	鈴木　康博	単位数	1 単位
担当教員	鈴木　康博		

授業概要	生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり 、生活習慣病を予防するためにも必要である。また、スポーツに取り組むことは私たちの住む社会で受けるストレスを解消させるのに効果的である。 　本授業では数種目のスポーツに取り組み、スポーツに対する関心、興味を持ち、スポーツする習慣を身につけるように指導したい。 以上の内容を実習形式で行う。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						

到達目標	各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組めるようになる。また、より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図れるようになる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
テキストなし					

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	原則として毎回出席すること。 ルールをしっかりと把握して、自主的に競技に取り組めること。 なお、遅刻や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。

評価項目	割合	評価基準
実技試験	30%	スポーツ種目別に教員が定める評価基準に基づいて実施する
試合成績	40%	スポーツ種目別に教員が定める試合成績を点数化して評価する
課題レポート	30%	レポート提出の有無及びレポート内容を教員が定める評価基準に基づいて評価します。

受講条件	特になし。
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に、事前配布した資料等でルール等を確認しておくこと（第 2 ～ 15 回 /120 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義）ガイダンス 第 2 回　（実技）ソフトバレー①　基礎技術 第 3 回　（実技）ソフトバレー②　集団的プレー 第 4 回　（実技）ソフトバレー③　ゲーム・実技試験 第 5 回　（実技）バスケットボール①基礎技術 第 6 回　（実技）バスケットボール②集団的プレー 第 7 回　（実技）バスケットボール③ゲーム 第 8 回　（実技）バスケットボール④ゲーム・実技試験 第 9 回　（実技）フットサル①基礎技術 第10回　（実技）フットサル②集団的プレー 第11回　（実技）フットサル③ゲーム 第12回　（実技）フットサル④ゲーム・実技試験 第13回　（実技）卓球①基礎技術 第14回　（実技）卓球②ゲーム 第15回　（実技）卓球③ゲーム 授業内で課題レポートの指示をする。 課題レポート提出後の個別のフィードバックはしません。 学生からの質問やフィードバックの要望には担当教員が 授業後に対応する。 ※ただし、履修学生数によって種目を変更することもある。

ナンバリング	BAAL1021

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90920
科目	9092 スポーツⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	鈴木　康博	単位数	1 単位
担当教員	鈴木　康博		

授業概要	生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり 、生活習慣病を予防するためにも必要である。また、スポーツに取り組むことは私たちの住む社会で受けるストレスを解消させるのに効果的である。 　本授業では数種目のスポーツに取り組み、スポーツに対する関心、興味を持ち、スポーツする習慣を身につけるように指導したい。 以上の内容を実習形式で行う。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						

到達目標	各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組めるようになる。また、より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図れるようになる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要な場合には適宜指示する

成績評価	原則として毎回出席すること。 ルールをしっかりと把握して、自主的に競技に取り組めること。 なお、遅刻や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
実技試験	30%	スポーツ種目別に教員が定める評価基準に基づいて実施する
試合成績	40%	スポーツ種目別に教員が定める試合成績を点数化して評価する
課題レポート	30%	レポート提出の有無及びレポート内容を教員が定める評価基準に基づいて評価します。

受講条件	特になし
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に、事前配布した資料等でルール等を確認しておくこと（第 2 ～ 15 回 /120 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義）ガイダンス 第 2 回　（実技）ソフトバレーボール①　基礎技術 第 3 回　（実技）ソフトバレーボール②　ゲーム 第 4 回　（実技）ソフトバレーボール③ゲーム 第 5 回　（実技）ソフトバレーボール④ゲーム・実技試験 第 6 回　（実技）バドミントン①基礎技術 第 7 回　（実技）バドミントン②ゲーム 第 8 回　（実技）バドミントン③ゲーム 第 9 回　（実技）バドミントン④ゲーム 第10回　（実技）バドミントン⑤ゲーム 第11回　（実技）卓球①基礎技術 第12回　（実技）卓球②ゲーム 第13回　（実技）卓球③ゲーム 第14回　（実技）卓球④ゲーム 第15回　（実技）卓球⑤ゲーム 学生からの質問やフィードバックの要望には担当教員が 授業後に対応する。 ※履修学生数によって種目を変更することもある。

ナンバリング	BAAL2032

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90950
科目	9095 健康科学Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	鈴木　康博	単位数	2 単位
担当教員	鈴木　康博		

授業概要	健康的な生活を送るためにどう行動する必要があるかについて概論を学ぶ。健康を維持･増進させるには｢適度な運動｣｢バランスのとれた食生活｣｢正しい生活習慣｣といった日常行動が生活習慣病等の予防につながり我々が健康に生きられるように学修する。
到達目標	1. 健康に関する必要な知識や行動習慣を修得できる。 2. 健康維持・増進のための必要行動と予防策を修得できる。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○					

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じてプリントを配布する

成績評価	原則として毎回出席すること 成績評価の方法は 授業内で行う小テスト（20%）、授業後に提出するレポート課題（20%） 期末試験（60%）で評価する。	
評価項目	割合	評価基準
授業内で行う小テスト	20%	講義内容の理解度を確認する。
授業後に提出するレポート課題	20%	恋着内容の理解度を確認する。
期末試験	60%	筆記試験にて理解度を確認する。

受講条件	履修条件はありません。
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前にクラスルームに提示してある資料で学習すること（20 分） 毎授業後に練習問題及びレポート課題を提出すること（20 分）

授業の実施方法と授業計画	授業は全て講義形式で行います。授業用資料はクラスルームに提示します。小テスト・レポート課題・期末試験を実施します。 1. オリエンテーション (講義) 2. 身体の構造と機能 1(講義) 3. 身体の構造と機能 2(講義) 4. 一般健康診断とその意義 1(講義) 5. 一般健康診断とその意義 2(講義) 6. 運動と健康 1(講義) 7. 運動と健康 2(講義) 8. 栄養と健康 1(講義) 9. 栄養と健康 2(講義) 10. 休養・ストレスと健康 (講義) 11. 薬物乱用と性感染症 (講義) 12. スポーツ障害 (講義) 13. 応急処置と救急救命 (講義) 14. 環境と健康 (講義) 15. まとめ (講義) 小テスト・レポート課題等に関するフィードバックは、適宜授業内にて行う。

ナンバリング	BAAL1022

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90940
科目	9094 健康科学Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	鈴木　康博	単位数	2 単位
担当教員	鈴木　康博		

授業概要	健康科学 1 で習得した知識を基礎として、文献や情報データを元にして、実生活の中における健康に関わる必要行動を学習する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○					

到達目標	1. 客観的データや文献から健康問題に関する知識を修得できる。 2. 日常生活のおける必要行動を学習する。 3. 将来、健康で暮らすために病気にならないための予防医学を学習する。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じてプリントを配付する

成績評価	原則として毎回出席すること。 成績評価の方法は 授業内で行う小テスト（20%）、授業後に提出するレポート課題（20%） 期末試験（60%）で評価する。

評価項目	割合	評価基準
小テスト	20%	授業内で学習した内容の理解度を小テストで確認する。
レポート課題	20%	授業内で学習した内容と各自で調べた内容ををまとめてレポート提出する。
期末試験	60%	全 15 回の授業内容の理解度を評価する試験

受講条件	健康科学 1 の受講が望ましい
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前にクラスルームに提示してある資料で学習すること（20 分程度） 毎授業後に練習問題及びレポート課題を提出すること（20 分程度）

授業の実施方法と授業計画	授業は全て講義形式で行う。授業用資料はクラスルームに提示します。小テスト・レポート課題・期末試験を実施する。 1.（講義）オリエンテーション 2.（講義）身体の構造と機能 1 3.（講義）身体の構造と機能 2 4.（講義）一般健康診断とその意義 1 5.（講義）一般健康診断とその意義 2 6.（講義）運動と健康 1 7.（講義）運動と健康 2 8.（講義）栄養と健康 1 9.（講義）栄養と健康 2 10.（講義）休養・ストレスと健康 11.（講義）薬物乱用と性感染症 12.（講義）スポーツ障害 13.（講義）応急処置と救急救命 14.（講義）環境と健康 15.（講義）まとめ 小テスト・レポート課題等に関するフィードバックは、適宜授業内にて行う。

ナンバリング	BAAL1023

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	909B0
科目	909B 東三河創造入門	授業種別	週間授業
科目責任者	八木　幸一	単位数	2 単位
担当教員	八木　幸一、赤松　秀亮、石上　早苗		

授業概要	本学の教育理念は「地域社会との連携のもとに、次世代を担うための職能教育を行い、その過程において人間的な成長を促す」ことである。本学が位置する東三河地域についてどのような地域資源があり、どのような地域課題があるのかを学修する。その中から自らテーマを選び、グループのメンバーとともに、実際に地域に足を運び、生きた情報を収集する。そして、この地域の未来を創造するために必要な課題について自らの考えをまとめる。その際、自分が所属する学科以外のグループメンバーと協同作業を行うことで、専門知識のみにとらわれない幅広い視点から課題を検討する力を修得する。 ★この科目は当該授業内容に関する実務経験を有する教員等がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎						

到達目標	1. 東三河地域の特徴や地域で行われている活動を調べ、自分たちが取り組む活動の根拠となる地域課題を検討することができる。 2. 検討した地域課題に対して、解決のために行われている実際の活動に参加するための計画を立てることができる。 3. 実際に活動に参加し、活動の内容をまとめることができる。 4.一連のプロセスを通して、未来を想像するための必要な地域課題について考察することができる。 5. グループメンバーとの共同作業を通して、各自の学びを深めることができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要な場合には適宜指示する

成績評価	各活動時間における発表・議論をもとに、活動計画書：20%、中間報告プレゼンテーション 30%、最終発表プレゼンテーション 50%の割合で総合的に評価する。なお、遅刻や早退、劣悪な授業態度は減点対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
活動計画書	20%	
中間プレゼンテーション	30%	
最終発表プレゼンテーション	50%	

受講条件	受講条件はありません。
事前・事後学修（内容・時間）	・オリエンテーションで配布された資料を読み返し、発表・議論・各種調査内容をイメージし、各回の活動内容や運営について主体的に検討すること（第 1 ～ 6 回 /60 分程度） ・検討した事項をグループメンバーと共有できるよう資料としてまとめるとともに、メンバー間でその内容について検討すること（第 1 ～ 6 回 /60 分程度） ・グループメンバーと協力して発表資料の作成やフィールドワークを適宜実践すること（第 7 ～ 15 回 /120 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回：（講義・演習）オリエンテーションとテーマ紹介 第 2・3 回：（講義・演習）プロジェクトグループ毎に活動計画書の作成 第 4 ～ 6 回：（講義・演習）テーマに関する調べ学習（プロジェクト学修の準備） 第 7 回：（演習）プロジェクトの中間報告 第 8 ～ 10 回：（演習）プロジェクト活動（フィールドワーク） 第 11 ～ 14回：（講義・演習）プロジェクト活動に対するまとめ 第 15 回：（演習）プロジェクトの最終発表 ※ 8 ～ 14回まではグループ毎に時間配分を調整できる。 ※受講生の習得度に応じて授業計画を変更することもあり得る。 ※活動計画書や中間プレゼンテーションおよび最終発表の内容について、フィードバックを行う。またグループ学習の内容についても授業時間内で適宜フィードバックを行う。

ナンバリング	PTABL2001

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	909C0
科目	909C 東三河の歴史風土と文化	授業種別	週間授業
科目責任者	髙橋　大輔	単位数	1 単位
担当教員	髙橋　大輔		

授業概要	東三河地域の自然・風土、暮らし、産業経済、インフラなどの現況と今後の展望について、都市部・中山間地といった地理的特性に応じて具体的な事象や実例を学び、将来の実務や生活に役立てる。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○		○	○			

到達目標	1．東三河地域の自然・風土、人口問題等について都市部・中山間地の視点からその違いと課題を、統計等を用いて学習する。 2．グローバルとローカルの視点から自然災害や環境リスクを捉え、我々の実生活への対応を考える。 3．東三河の代表的な産業である「農業」「製造業」の現況や今後成長が期待される「観光産業」、それらを支えている道路・港湾、都市計画等のインフラ基盤について、実態や政策を学習する。 4．以上を通じて、東三河の地域理解を目指す。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	特定にテキストはなし。講義毎にレジュメ、資料を配布します。特定の参考書等はなし。講義の中でテーマに応じて適宜紹介します。

成績評価	・授業内容の理解度を把握するため、毎回出席者に対してリアクションペーパーの提出を求めます。記述内容は、適宜指示します。 ・試験期間中を予定として単位認定試験を行います。 ・各回のリアクションペーパーの提出状況、単位認定試験（演習：ディスカッション・発表）等の内容で総合的に評価します。

評価項目	割合	評価基準
毎回のリアクションペーパーの提出と内容	30%	リアクションペーパーで授業内容の理解度を確認する。
単位認定試験	70%	地域の将来等が考察･提案されているか。演習（ディスカッション･発表）内容により評価する。

受講条件	特になし。
事前・事後学修（内容・時間）	【事前学修】講義テーマに関する基礎知識と現在の社会動向を把握し、講義中の議論･理解を深める準備を行うため、新聞･ニュースサイト等に目を通す。関連する記事内容について、要点、背景、影響、自分の疑問を整理する。事前学修の内容を踏まえ、講義で確認したい問いを考えたり、自分の出身地や暮らす地域に置きかえて地域的特徴をイメージする。（90 分） 【事後学修】配布した講義資料の読み直しや内容整理により復習する。配布資料と講義内容を再構成し、講義中に扱った概念・事例・地域課題等の関係が分かるように、提示する図表データや文献、書籍等も活用して、理解の定着と内容の深化を図る。講義で初めて見聞きした用語や概念を自分の言葉で簡潔に説明できるように理解を深める。（90 分）

授業の実施方法と授業計画	授業毎に講義資料（プリント等）を配付し、投影するスライドに基づいて進めます。毎回、授業終了時にリアクションペーパーに記述し提出してください。その内容は、毎回指示します。 第1回　イントロダクション（講義） ・講義内容の紹介 ・東三河の歴史、地理的特徴、地域政策の解説 第2回　東三河の人口問題を考える（講義） ・我が国と東三河の人口動向（過去から未来の将来推計） ・人口問題（高齢化、少子化等）と対応策 第3回　東三河の自然環境と災害・環境問題（講義） ・グローバルな地理的特性と災害・環境リスク ・住民生活等を守る防災対策やソフト整備 第4回　東三河の産業経済活動の特性（講義） ・東三河の産業的位置づけと地域ポテンシャル ・自動車産業の大転換と CASE、MaaS の動向 第5回　東三河の地域計画と地域づくりの系譜（講義） ・国土計画の歴史と成果 ・都市計画の仕組み、中心市街地のまちづくり 第6回　私たちの生活や産業活動を支えるインフラ整備の動向①（講義） ・道路等のインフラ整備と次世代物流の潮流 ・東三河へのインパクト 第7回　私たちの生活や産業活動を支えるインフラ整備の動向②（講義） ・港湾都市づくりと港湾インフラ整備の歴史 ・臨海部を活用した地域振興の取り組み 第8回　豊橋を事例としたまちづくりの歴史とこれからの期待（講義） ・豊橋の都市発展の歴史 ・まちなかの文化、中心市街地活性化、賑わいの創出 定期試験　試験期間中を予定として単位認定試験を行う（試験） ・本講義の総括 リアクションペーパーに書かれた内容に対するフィードバックを講義時間内で行います。 第2回から第8回については、講義の内容・順序等が変わる場合もある。

ナンバリング	BAAL2035

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	909D0
科目	909D データサイエンス入門	授業種別	週間授業
科目責任者	今井　正文	単位数	2 単位
担当教員	今井　正文		

授業概要	本講義では、デジタル社会において、数理・データサイエンス・AI を日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養として「リテラシーレベル」の知識を身に付ける。また、学修した数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志で AI 等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目指す。なお、はじめて学ぶ者にとっても理解できるように理論よりも演習に重点をおき平易な授業展開を目指す。 授業では、Classroom を活用して、教材（ビデオ、スライド）をもとにした小テストおよび課題提出を実施し、質疑応答やフィードバックなどは Classroom および双方向授業や対面授業の時間を設け併せて行う。 ※この科目は基本的にオンデマンド授業、一部を双方向授業や対面授業を併せて実施する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	○				

到達目標	・データ・AI によって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できる ・「数理 / データサイエンス /AI」が、今後の社会における「読み / 書き / そろばん」であることを理解できる ・データ・AI 活用領域の広がりを理解し、データ・AI を活用する価値を説明できる ・今の AI で出来ること、出来ないことを理解できる ・AI を活用した新しいビジネス / サービスは、複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できる ・データ・AI が日常生活や社会 / 組織でどのように使われているかを知り、モラル・倫理・リスク・脅威（リスク）の理解を深め、適切に利用することを意識して、知識・スキルの重要性を理解できる ・帰納的推論と演繹的推論の違いと、それらの利点、欠点を理解できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
教養としてのデータサイエンス　改訂第 2 版	北川源四郎／竹村彰通・編　内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之 ／丸山宏・著	講談社サイエンティフィック	1,980 円	978-4-06-537939-4	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	小テストおよび課題提出（60% : 各章の講義内容の理解度を確認する） 定期試験（40%） 定期試験内訳 : 講義内容の基礎的事項に関する問題、発展・応用問題	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	40%	前回までの講義内容についての理解度を確認する。
定期試験	60%	筆記試験にて講義内容についての理解度を確認する。

受講条件	特になし。
事前・事後学修（内容・時間）	次のような事前・事後学習を毎回 3 時間程度行うこと。() 内に目安の時間を示す。 ・次回授業範囲の内容について教科書や配付資料などの該当箇所を熟読する。(30 分程度) ・講義テーマに関する専門用語の意味やその内容を調べる。(60 分程度) ・授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。(90 分程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 章［導入］社会におけるデータ・AI 利活用 第 01 回　（講義・演習）ガイダンス、1.1 社会でおきている変化 第 02 回　（講義・演習）1.2 社会で活用されているデータ 第 03 回　（講義・演習）1.3 データと AI の活用領域 第 04 回　（講義・演習）1.4 データ・AI 利活用のための技術 第 05 回　（講義・演習）1.4 データ・AI 利活用のための技術その 2 第 06 回　（講義・演習）1.5 データ・AI 活用の現場 第 07 回　（講義・演習）1.6 データ・AI 利活用の最新動向 第 2 章［基礎］データリテラシー 第 08 回　（講義・演習）2.1 データを読む 第 09 回　（講義・演習）2.1 データを読むその 2（Excel 実習） 第 10 回　（講義・演習）2.2 データを説明する 第 11 回　（講義・演習）2.3 データを扱う（SSDSE データ実習） 第 12 回　（講義・演習）2.3 データを扱うその 2（SSDSE データ実習） 第 3 章［心得］データ・AI 利活用における留意事項 第 13 回　（講義・演習）3.1 データ・AI を扱う上での留意事項 第 14 回　（講義・演習）3.2 データを守る上での留意事項 第 15 回　（講義）まとめ ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあり得る。 課題(テストやレポート等)については、Classroom および双方向授業や対面授業の時間を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。 必要に応じて、オフィスアワーなどを利用し個別に対応する。

ナンバリング	PTABL2003

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	91010
科目	9101 解剖学Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	岡部　明仁	単位数	2 単位
担当教員	岡部　明仁		

授業概要	解剖学は人体について、その形態・構造を通して理解しようとする学問であり、医療技術の修得を志すものにとっては不可欠の基礎的分野である。そこで、器官を構成する組織の形態・機能的特徴を理解し、人体を構成する各器官系の位置や形状および器官系を構成する要素を理解する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	①学習者は、解剖学用語を使って身体部位を表現できる。 ②学習者は、骨の構造や発生について説明できる。 ③学習者は、全身の骨格の構成と特徴を説明できる。 ④学習者は、骨の連結の正常な構造と機能について説明できる。 ⑤学習者は、生体内の各関節の特性を、安定性と可動性を中心に説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学　第 6 版	編集　野村　嶬	医学書院	6,600	978-4-260-05677-9	冊子版

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
グレイ解剖学　原著第 5 版	秋田恵一訳	エルゼビア・ジャパン	13,200	978-4860349264	冊子版
【第3版】プロメテウス解剖学アトラス　頭頸部／神経解剖	Michael Schunke／〔著〕 Erik Schulte／〔著〕 Udo Schu	医学書院	11,500	9784260036436	
分担 解剖学　解剖学 1　第 11 版　総説・骨学・靭帯学・筋学	著　森 於菟	金原出版	9,300	9784307003414	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	定期試験、小テストにより総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。
小テスト	30%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	①毎回の授業前に授業内容のテキストの範囲を読んでおくこと（20 分程度 ） ②毎回の授業後に授業内容のポイントの整理をすること（30 分程度 ）

授業の実施方法と授業計画	1　解剖学総論：(講義) 2　骨格系 (1)：(講義) 骨格系総論 3　骨格系 (2)：(講義) 頭蓋① 4　骨格系 (3)：(講義) 頭蓋② 5　骨格系 (4)：(講義) 脊柱・胸郭 6　骨格系 (5)：(講義) 上肢 7　骨格系 (6)：(講義) 下肢 8　関節と靱帯 (1)：(講義) 関節靭帯総論 9　関節と靱帯 (2)：(講義) 頭部の連結 10 関節と靱帯 (3)：(講義) 脊柱・胸郭の連結 11 関節と靱帯 (4)：(講義) 上肢の連結① 12 関節と靱帯 (5)：(講義) 上肢の連結② 13 関節と靱帯 (6)：(講義) 骨盤・下肢の連結① 14 関節と靱帯 (7)：(講義) 骨盤・下肢の連結② 15 総括 学生に対して、質問を投げかけて、学生からの回答に対して答えるというやり方で進めていく。単元ごと、小テストを実施して理解度を把握する。その内容に対してフィードバック形式で学生に解説していく。 ※　授業計画を変更することがある。

ナンバリング	PTCM1001

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	91020
科目	9102 解剖学Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	岡部　明仁	単位数	2 単位
担当教員	岡部　明仁		

授業概要	解剖学Ⅰに引き続いて、人体の構造について、各器官系毎に系統的に学習する。人体を構成する各器官系の位置や形状、器官系の構造の相互関係ならびに組織を構成する細胞、器官を構成する組織について、それぞれの形態・機能的特徴について、基本的要素の立体構築を把握することで、人体の構造に対する理解を深める。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	①循環器系構成する器官名の構造が理解できる。 ②消化器系を構成する器官名と構造が理解できる。 ③呼吸器系を構成する器官名と構造が理解できる。 ④泌尿・生殖器系を構成する器官名が理解できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 6 版	編集 野村 嶷	医学書院	6,600	978-4-260-05677-9	冊子版

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
グレイ解剖学　原著第 5 版	秋田恵一訳	エルゼビア・ジャパン	13,200	978-4860349264	冊子版
【第3版】プロメテウス解剖学アトラス　頭頸部／神経解剖	Michael Schunke／〔著〕 Erik Schulte／〔著〕 Udo Schu	医学書院	11,500	9784260036436	
分担 解剖学　解剖学 1　第 11 版　総説・骨学・靭帯学・筋学	著　森 於菟	金原出版	9,300	9784307003414	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	定期試験、小テスト、受講態度により総合的に評価する。なお、遅刻、早退、劣悪な受講態度などは減点の対象とすることがある。成績不良者に対して、面談を実施して、学習内容の理解度の確認ならびに学習方法を指導を実施する。欠席が目立つ学生に対して、面談を実施する。成績評価基準はすべての内容を網羅して評価する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。
小テスト	30%	各講義内容の理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	①毎回の授業前に授業内容のポイントを読んでおくこと (第 2 回～第 14 回 /30 分程度) ②毎回の授業後に授業内容のポイントの整理をすること (第 1 回～第 15 回 /30 分程度) ③授業内で実施された確認問題の復習を行うこと (第 2 回～第 14 回 /30 分程度)

授業の実施方法と授業計画	1 回.　　(講義) 内臓学総論 2 － 5 回 .　(講義) 循環器系 6 － 8 回 .　(講義) 呼吸器系 9 － 12 回 .　(講義) 消化器系 13 － 14 回 . (講義) 泌尿器系 15 回.　　(講義) 生殖器 講義の中で、学生に対して疑問や質問を投げかけて、学生からの回答に対して答える形式で進めて行く。単元ごとに理解度を確認する目的で小テストを実施して、フィードバックを行う。 ※　授業計画を変更することがある。

ナンバリング	PTCM1002

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	91050
科目	9105 生理学Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤　勝正	単位数	2 単位
担当教員	後藤　勝正		

授業概要	生理学は生理学Ⅰと生理学Ⅱの 2 科目から構成され、2 科目で生命現象の中において正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかを統合的に理解する。まず、1個 1 個の細胞の機能を学び、細胞の集合体である組織、器官そしてそれらが有機的に結合して発揮される生体機能へと理解を深める。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	本授業では、主として「医療人として必要な基本的な知識を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①一般的な細胞の生理機構、特に物質輸送と活動電位発生の仕組みを説明できる ②体液の概要と血液とリンパの成分、骨格筋の構造と収縮の仕組みを説明できる ③循環器系および呼吸器系の概要ならびに機能の調節の仕組みを説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
【第2版】図解生理学	中野昭一／編集　中野昭一／執筆　吉岡利忠／執筆　田中越郎／執筆	医学書院	8,700	9784260101356	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
生体機能学テキスト　第 2 版	吉岡 利忠　編集	中央法規出版	2,800	9784805828519	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	その他、必要に応じて紹介する。

成績評価	小テスト　　（30%）毎回の授業内容の理解度を確認する 期末筆記試験　　（70%）授業内容の基礎的事項に関する問題（60%）、発展・応用問題（40%） なお、出席点は設定しないが、遅刻や欠席、劣悪な授業態度は減点の対象とする 点数配分は変更することがあるが、その際は、適宜提示する 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する

評価項目	割合	評価基準
期末筆記試験	70%	筆記試験により理解度を確認する。 授業内容の基礎的事項に関する問題（60%）発展・応用問題（40%
小テスト	30%	毎回の授業内容の理解度を筆記試験にて確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	前回までの授業内容に関する小テストを適宜実施するので、授業内容について復習すること（第 1 ～ 15 回／ 90 分程度） また、次回の授業に必要な授業外学修事項については授業中に提示するので、事前に学習すること（第 2 回 ～ 15 回／ 30 分程度） 第 16 回は定期試験を実施する。定期試験に向けて「小テスト」の復習を中心に行い、定期試験の範囲を復習すること（第 13 ～ 15 回／ 2 時間程度） なお、事前事後学習の詳細については、第 1 回目の授業において説明する

授業の実施方法と授業計画	第1回　（講義）ガイダンス　生理学とは　生体の恒常性とその意味・細胞の生理（1）　細胞機能 第2回　（講義）細胞の生理（2）　膜輸送と静止膜電位 第3回　（講義）細胞の生理（3）　活動電位 第4回　（講義）体液と血液（1）　体液と血液（役割と成分） 第5回　（講義）体液と血液（2）　赤血球とその役割 第6回　（講義）体液と血液（3）　白血球の機能と免疫 第7回　（講義）体液と血液（4）　血液凝固と血液型 第8回　（講義）骨格筋（1）　骨格筋の構造と力発生 第9回　（講義）骨格筋（2）　興奮収縮連関 第 10 回　（講義）骨格筋（3）　神経筋と筋電図 第 11 回　（講義）循環器系（1）　循環系の概要 第 12 回　（講義）循環器系（2）　心機能とその調節 第 13 回　（講義）循環器系（3）　血圧とその調節 第 14 回　（講義）呼吸器系（1）　呼吸器の構造とガス交換 第 15 回　（講義）呼吸器系（2）　呼吸運動とその調節 小テストについては、採点後に返却し、必要に応じて授業内でコメントしたり、返却する小テストにコメントを付すなどフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTCM1003

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	91060
科目	9106 生理学Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤　勝正	単位数	2 単位
担当教員	後藤　勝正		

授業概要	生理学Ⅰに引き続き、正常な生体機能とその調節の仕組みについて、体系的かつ統合的に理解する。生理学Ⅰで学修した内容に加えて、さらに生命現象を維持するために必要な正常な生理機能を学ぶと共に、生命現象としての恒常性（ホメオシタシス）の重要性についての理解を深める。そして、専門教育科目を学ぶための基礎知識を習得する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	本授業では、主として「医療人として必要な基本的な知識を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①尿排泄系の構造とその機能ならびに酸塩基平衡とその仕組みを説明できる ②神経系、消化器および感覚器の構造とその機能を説明できる ③体温調節機構および内分泌系の構造と機能を説明できる ④感覚器系の構造と機能を説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
【第2版】図解生理学	中野昭一／編集　中野昭一／執筆　吉岡利忠／執筆　田中越郎／執筆	医学書院	8,700	9784260101356	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
生体機能学テキスト　第 2 版	吉岡 利忠　編集	中央法規出版	2,800	9784805828519	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	その他、必要に応じて紹介する。

成績評価	小テスト　　（30%）毎回の授業内容の理解度を確認する 期末筆記試験　　（70%）授業内容の基礎的事項に関する問題（60%）、発展・応用問題（40%） なお、出席点は設定しないが、遅刻や欠席、劣悪な授業態度は減点の対象とする 点数配分は変更することがあるが、その際は、適宜提示する 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する

評価項目	割合	評価基準
期末筆記試験	70%	筆記試験により理解度を確認する。 授業内容の基礎的事項に関する問題（60%）発展・応用問題（40%）
小テスト	30%	毎回の授業内容の理解度を筆記試験にて確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	前回までの授業内容に関する小テストを適宜実施するので、授業内容について復習すること（第 1 ～ 15 回／ 90 分程度） また、次回の授業に必要な授業外学修事項については授業中に提示するので、事前に学習すること（第 2 回 ～ 15 回／ 30 分程度） 第 16 回は定期試験を実施する。定期試験に向けて「小テスト」の復習を中心に行い、定期試験の範囲を復習すること（第 13 ～ 15 回／ 2 時間程度） なお、事前事後学習の詳細については、第 1 回目の授業において説明する

授業の実施方法と授業計画	第1回　（講義）尿排泄系（1）　腎臓の構造と尿生成 第2回　（講義）尿排泄系（2）　腎機能とクリアランス 第3回　（講義）酸塩基平衡 第4回　（講義）神経系（1）神経系の構造（神経細胞とシナプス） 第5回　（講義）神経系（2）下行性性伝導路 第6回　（講義）神経系（3）上行性伝導路 第7回　（講義）神経系（4）中枢神経系 第8回　（講義）神経系（5）末梢神経系 第9回　（講義）体温調節機構 第10回　（講義）消化吸収（1）消化管と消化器の構造と機能 第11回　（講義）消化吸収（2）消化管の運動とその調節 第12回　（講義）消化吸収（3）消化と吸収・消化管ホルモン 第13回　（講義）内分泌系（1）内分泌腺とホルモンの作用機序 第14回　（講義）内分泌系（2）ホルモンの生理作用と機能異常 第15回　（講義）感覚器系　体性感覚と特殊感覚 小テストについては、採点後に返却し、必要に応じて授業内でコメントしたり、返却する小テストにコメントを付すなどフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTCM1004

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	91090
科目	9109 解剖学実習	授業種別	週間授業
科目責任者	岡部　明仁	単位数	1 単位
担当教員	岡部　明仁、彦坂　潤、藤原　光宏		

授業概要	解剖学Ⅰに引き続いて、人体の構造について、各器官系毎に系統的に学習する。人体を構成する各器官系の位置や形状、器官系の構造の相互関係ならびに組織を構成する細胞、器官を構成する組織について、それぞれの形態・機能的特徴について、基本的要素の立体構築を把握することで、人体の構造に対する理解を深める。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	①骨格筋の構造と機能を理解できる。 ②神経系の構成とその機能について理解できる。 ①骨格筋の形状、色、分布する血管および神経との位置関係を理解できる。 ②骨の可動性連結の構造、補強靭帯の形状を理解できる。 ③内臓の形状、色およびそれぞれの位置関係を理解できる。 ④骨のスケッチを通して、目の前の現象の変化を捕らえる能力を身に付ける。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 6 版	編集 野村　嶬	医学書院	6,600	978-4-260-05677-9	冊子版

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
グレイ解剖学　原著第 5 版	秋田恵一訳	エルゼビア・ジャパン	13,200	978-4860349264	冊子版
【第3版】プロメテウス解剖学アトラス　頭頸部／神経解剖	Ｍｉｃｈａｅｌ　Ｓｃｈｕｎｋｅ／〔著〕 Ｅｒｉｋ　Ｓｃｈｕｌｔｅ／〔著〕 Ｕｄｏ　Ｓｃｈｕ	医学書院	11,500	9784260036436	
分担 解剖学　解剖学 1　第 11 版　総説・骨学・靭帯学・筋学	著　森 於菟	金原出版	9,300	9784307003414	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	中間試験（40%）、期末試験（40%）、スケッチ課題（20%）によって評価する。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する
期末試験	40%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する
骨学実習のスケッチ	20%	人体を構成する骨を正確にスケッチできたかを評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	①毎回の授業前に授業内容のポイントを読んでおくこと (30 分程度) ②毎回の授業後に授業内容のポイントの整理をすること (30 分程度) ③授業内で実施された小テストの復習を行うこと (30 分程度) ④毎回実施される骨のスケッチから、骨の構造上の特徴を整理していくこと ⑤定期試験対策のために、各授業内容のポイントを整理しておくこと

授業の実施方法と授業計画	1　(実習) オリエンテーション 2　(実習) 骨格系1：　脊柱の骨1 3　(実習) 骨格系2：　脊柱の骨2 4　(実習) 骨格系3：　頭蓋骨1 5　(実習) 骨格系4：　頭蓋骨2 6　(実習) 骨格系5：　頭蓋骨3 7　(実習) 骨格系6：　胸郭の骨1 8　(実習) 骨格系7：　胸郭の骨2 9　(実習) 骨格系8：　上肢1；　上肢帯の骨 10　(実習) 骨格系9：　上肢2；　自由上肢の骨 11　(実習) 骨格系10：　上肢3；　手部 12　(実習) 骨格系11：　骨盤 13　(実習) 骨格系12：　下肢1；　下肢帯の骨 14　(実習) 骨格系13：　下肢2；　自由下肢の骨 15　(実習) 骨格系14：　下肢3；　足部 16　(講義) 筋系1：　総論 17　(講義) 筋系2：　頭部・頸部の筋 18　(講義) 筋系3：　体幹の筋 19　(講義) 筋系4：　上肢の筋1；　上肢帯と上腕の筋・靭帯 20　(講義) 筋系5：　上肢の筋2；　前腕と手の筋 21　(講義) 筋系6：　下肢の筋；　下肢帯・大腿の筋 22　(講義) 筋系7：　下肢の筋；　下腿・足の筋 23　(講義) 神経系1：　総論① 26　(講義) 神経系2：　総論② 27　(講義) 神経系3：　中枢神経① 28　(講義) 神経系4：　中枢神経② 29　(講義) 神経系3：　末梢神経① 30　(講義) 神経系3：　末梢神経② 実習は 3 教室に分かれて骨のスケッチを行なう。標本と模型はローテーションして使用するため、班により観察順序が異なることに注意する。 実習の中で、学生からの質問に回答する形式で進めていく。内容に対してフィードバックを行う。 ※　授業計画を変更することがある。

ナンバリング	PTCM1005

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	91110
科目	9111 生理学実習	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤　勝正	単位数	1 単位
担当教員	後藤　勝正、後藤　亜由美、大橋　和也		

授業概要	生命現象の中において正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかを統合的に理解するための実習を行う。実習を通じて生体機能の発現およびその調節機構の基礎を理解することで、生理学Ⅰおよび生理学Ⅱにおける学習事項の理解を深める。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	本授業では、主として「医療人として必要な基本的な知識を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①筋電図、心電図、血圧、肺機能の検査・測定法とそのデータの生理学的意義を説明できる ②感覚機能の評価法とそのデータの生理学的意義を説明できる ③運動負荷試験法とそのデータの生理学的意義を説明できる ④実習事項をレポートにまとめることができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
【第2版】図解生理学	中野昭一／編集　中野昭一／執筆　吉岡利忠／執筆　田中越郎／執筆	医学書院	8700	9784260101356	
生体機能学テキスト　第 2 版	吉岡 利忠　編集	中央法規出版	2800	9784805828519	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 その他、参考書などは必要に応じて紹介する。

成績評価	レポート　　（30%）毎回の実習内容についての理解度を確認する 小テスト　　（20%）3 回の実習毎に、学習内容についての理解度を確認する 期末筆記試験　（50%）実習で学修した内容の基礎的事項に関する理解度を確認する なお、出席点は設定しないが、遅刻や欠席、劣悪な授業態度は減点の対象とする 点数配分は場合により変更することがあるが、その際は、適宜提示する 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する

評価項目	割合	評価基準
期末筆記試験	50%	筆記試験により理解度を確認する。 授業内容の基礎的事項に関する問題（60%）発展・応用問題（40%）
小テスト	20%	3 回の実習毎に、学習内容についての理解度を筆記試験にて確認する。
レポート	30%	毎回の実習で提示した課題に対して適切に調べ、記載しているか確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（2 時間程度 x 29 回）。 第 1 回の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。 この授業の受講に際しては、春学期に学習した生理学Ⅰおよび秋学期に受講中の生理学Ⅱの学習内容を復習しておくことが必要である。

授業の実施方法と授業計画	本実習は、3 つのグループに分かれて、各グループで 1 つの実習項目を 2 回にわたって実施する。 第1回　　ガイダンス 第2回　　実習1 第3回　　実習1 第4回　　実習2 第5回　　実習2 第6回　　実習3 第7回　　実習3　　実習1～3は筋電図、血圧、心電図の実習を交代で行う 第8回　　実習4 第9回　　実習4 第10回　　実習5 第11回　　実習5 第12回　　実習6 第13回　　実習6　　実習4～6は感覚、肺機能検査、運動負荷試験の実習を交代で行う 第14回　　実習講義1 第15回　　実習講義2　　第14回と第15回の実習講義は、実習で習得すべき事項に関しての学習を講義形式にて実施する。 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う。 レポートなどの課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTCM1007

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	91100
科目	9110 体表解剖学実習	授業種別	週間授業
科目責任者	中村　佳代	単位数	1 単位
担当教員	中村　佳代、彦坂　潤、後藤　亜由美		

授業概要	体表面から非侵襲的に身体を観察・触察することにより、人体の構造についての概要（骨の形態、骨格筋の形態・走行、神経・血管の走行）を確認する手法は、理学療法を実施するために重要である。実習を通して、この手法を習得することで、人体の構造についての理解を深める。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	①骨の形態を説明できる。 ②骨格筋の形態と走行を説明できる。 ③神経と血管の走行を説明できる。 ④骨、骨格筋、神経、血管を触知できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
改訂第 2 版 骨格筋の形と触察法	河上敬介 磯貝香編集	大峰閣		978-4-9980686-2-4	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	原則として毎回出席すること。実習の取り組み（授業態度含む）および課題レポート、授業の到達目標（知識と技術）がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻、早退や劣悪な授業態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
レポートおよび小テスト	30%	課題への取り組み状況、知識の習得状況を確認する。
筆記試験	50%	筆記試験にて理解度を総合的に確認する。
実技試験	10%	骨 指標の観察および触察するスキルが習熟しているか確認する。
授業毎の課題	10%	授業の取り組み状況を授業毎に確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 1. 事前に授業テーマに該当するテキストの内容を確認すること（60 分程度 /15 回） 2. 授業で学んだ内容は、確実に実施できるよう繰り返し練習すること（60 分程度 /15 回）

授業の実施方法と授業計画	※知識の整理および習得のために課題レポートを作成する。課題レポートは採点後に返却する。採点後の要点については、全体に対してフィードバックする。 第 1･2 回　体表解剖学の概要・骨指標（講義） 第 3･4 回　骨指標の観察と触察（グループワーク）・体幹背面の筋 第 5･6 回　体幹背面の筋の観察と触察（グループワーク）・体幹前面の筋 第 7･8 回　体幹前面の筋の観察と触察（グループワーク）・下肢帯・大腿後面の筋 第 9･10 回　骨指標の実技試験および小テスト 第 11･12 回　下肢帯・大腿後面の筋の観察と触察（グループワーク）・大腿前面の筋 第 13･14 回　大腿前面の筋の観察と触察（グループワーク）・下腿前面の筋 第 15･16 回　下腿前面の筋の観察と触察（グループワーク）・下腿後面の筋 第 17･18 回　下腿後面の筋の観察と触察（グループワーク）・足部の筋 第 19･20 回　足部の筋の観察と触察（グループワーク）・上肢帯の筋 第 21･22 回　上肢帯の筋の観察と触察（グループワーク）・上腕前面の筋 第 23･24 回　上腕前面の筋の観察と触察（グループワーク）・上腕後面の筋 第 25･26 回　上腕後面の筋の観察と触察（グループワーク）・前腕後面の筋 第 27･28 回　前腕後面の筋の観察と触察（グループワーク）・前腕前面の筋 第 29･30 回　前腕前面の筋の観察と触察（グループワーク）・まとめ ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTCM1006

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	91140
科目	9114 スポーツ生理学	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤　勝正	単位数	2 単位
担当教員	後藤　勝正		

授業概要	スポーツならびに運動負荷に伴う生体機能の応答と適応のメカニズムについて、生理学Ⅰ、生理学Ⅱおよび生理学実習の学修を通して得た知識を用いて理解する。そして、健康とスポーツの関係、スポーツ活動に伴う主なスポーツ外傷ならびに障害の発生機序、症状および兆候、予防法の概要について学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	本授業では、主として「医療人として必要な基本的な知識を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①運動・スポーツによる生体応答の概要を説明できる ②運動・スポーツに対する生体機能適応の概要を説明できる ③健康の維持増進のための運動・スポーツとその意義を説明できる ④主なスポーツ障害や外傷とその予防法の概要を説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
筋機能改善の理学療法とそのメカニズム：理学療法の科学的基礎を求めて	望月久、山田茂　編集	ナップ	3,850 円	9784905168300	冊子版
骨格筋肥大のサイエンスとトレーニングへの応用	後藤勝正（監修・翻訳）	ナップ	5,940 円	9.78491E+12	冊子版
生体機能学テキスト　第 2 版	吉岡 利忠 編集	中央法規出版	2800	9784805828519	
加齢と運動の生理学	宮原 英夫	朝倉書店	4800	9784254690446	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は、特に設定しない。 その他、参考書などはその都度紹介する。

成績評価	事前学習レポート、授業中の口頭試問および最終レポートにより評価する。 なお、出席点は設定しないが、遅刻や欠席、劣悪な授業態度は減点の対象とする 点数配分は変更することがあるが、その際は、適宜提示する 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する

評価項目	割合	評価基準
事前学習レポートおよび口頭試問	40%	事前学習として、テーマに対する適切な内容を調べ、質問に対して適切に 回答できるか確認する。
最終レポート	60%	授業での学修を踏まえての学修事項に関する基本的事項に関して評価す る。

受講条件	履修条件はありません。
事前・事後学修（内容・時間）	授業内で指示する内容について、事前に調べて、レポートを作成すること（第 2 ～ 15 回／ 90 分程度）。 授業後に学習した内容を復習すること（第 2 ～ 15 回／ 30 分程度） 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。

授業の実施方法と授業計画	第1回　（講義）オリエンテーション　スポーツ生理学とは　運動・スポーツの意義とリスク 第2回　（講義）運動・スポーツによる生体応答①　生活習慣病の概要 第3回　（講義）運動・スポーツによる生体応答②　糖尿病と運動 第4回　（講義）運動・スポーツによる生体応答③　骨格筋 第5回　（講義）運動・スポーツによる生体応答④　呼吸・循環系 第6回　（講義）運動・スポーツによる生体応答⑤　不活動の影響 第7回　（講義）スポーツ活動と突然死 第8回　（講義）スポーツ活動と熱中症 第9回　（講義）運動性貧血 第10回　（講義）オーバートレーニング症候群 第11回　（講義）スポーツによる外傷①　外傷発生の特徴 第12回　（講義）スポーツによる外傷②　頭部・体幹 第13回　（講義）スポーツによる外傷③　四肢 第14回　（講義）スポーツ障害の予防 第15回　（講義）スポーツ障害とリハビリテーション 受講学生の人数にもよるが、学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う予定である。 レポートなどの課題については、授業内･授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTCM2008

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	91150
科目	9115 臨床心理学	授業種別	週間授業
科目責任者	加藤　知佳子	単位数	2 単位
担当教員	加藤　知佳子		

授業概要	精神的な問題を抱える個人の状態を、心理学の知見にもとづいて科学的に理解し、適切な援助を行っていくために必要な知識を習得することを目標とする。精神分析学、行動主義、人間性心理学などの臨床心理学の主要なアプローチについて学んだあと、代表的な心理療法と心理アセスメントについて学ぶ。加えて、発達に関わる問題、障害受容などについても学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○				

到達目標	①代表的な心理療法について、列挙し、概略を説明できる。 ②代表的な心理アセスメントについて、列挙し、概略を説明できる。 ③臨床心理学と関連の深い心理・社会的発達、学習の過程に関する代表的な理論について概略を説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
はじめての講義　リハビリテーションのための臨床心理学	牧瀬英幹	南江堂	4180	9784524246533	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
ミニレポートおよび小テスト	30%	授業の理解度、課題に対する取り組みを評価する。
定期試験	70%	筆記試験によって、最終的な授業の理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（4 時間相当 /15 回） ・指示された話題について、事前に考えたり、調べたりしておく。（各 2 時間） ・授業で得た気づきと学びについて、ノートにまとめておく。（各 2 時間） ・学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義）リハビリテーションのための臨床心理学 第 2 回　（講義）臨床心理学の成り立ち 第 3 回　（講義）さまざまな心理療法：精神分析学、分析心理学 第 4 回　（講義）さまざまな心理療法：学習理論と行動療法 第 5 回　（講義・演習）さまざまな心理療法：認知行動療法 (Think-Pair-Share) 第 6 回　（講義・演習）応用行動分析 (Think-Pair-Share) 第 7 回　（講義・演習）クライエント中心療法 (Think-Pair-Share) 第 8 回　（講義）その他の心理療法 第 9 回　（講義）心理アセスメント：発達検査および知能検査 第 10 回　（講義・演習）心理アセスメント：質問紙法 (Think-Pair-Share) 第 11 回　（講義・演習）心理アセスメント：投影法 (Think-Pair-Share) 第 12 回　（講義）心理アセスメント：認知機能その他に関する検査 第 13 回　（講義）こころの発達と臨床：乳幼児から学童期 第 14 回　（講義）こころの発達と臨床：思春期から高齢期 第 15 回　（講義）コミュニティ援助 ミニレポート等の課題を課した場合は、特別な事情がない限りコメントを付して返却するほか、全体で共有すべき質問・疑問全体については授業内でフィードバックを行う。また、各自の気づきや考えを共有し、それに対するコメントをフィードバックするために、Google Classroom の機能を活用する。なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTCM2009

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	91180
科目	9118 人間発達学	授業種別	週間授業
科目責任者	冨田　秀仁	単位数	1 単位
担当教員	冨田　秀仁		

授業概要	出生から乳幼児期、学童期を経て成人に至る心身の成長と発達の過程、ならびにこの時期の環境はのちの発達過程にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。また乳幼児期に心身の発達障害を来す主要な原因を取り上げ、さらに心身障害児の理学療法を行う上でとくに必要となる基礎的事項を中心に学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	①受精から出生までの推移を理解する。 その推移の中での異常についても説明できる。 代表的な先天異常などについても説明できる。 ②様々な姿勢反射について理解する 各姿勢反射の統合および出現時期などについても説明できる。 ③正常運動発達を各ステージ別に理解する。 正常運動発達と姿勢反射の関連についても説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
15 レクチャーリハビリテーションテキスト　人間発達学	総編集：石川朗 責任編集：奥田憲一、松田雅弘	中山書店	2600 円＋税	9784521751528	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
					図書館に関連の書物多数あり。

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	定期試験と中間試験の成績から評価する。なお、遅刻や早退、劣悪な受講態度は減点対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。
中間試験	30%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予定されている講義内容に関して、その関係する事項をテキストなどで事前学習する（第 1 回～第8回 / 毎回 10 分～ 20 分程度）。講義で学んだ事柄をまとめ、学修した内容を確実に習得する（第 1 回～第 8 回 / 毎回 20 分～ 1 時間程度）。

授業の実施方法と授業計画	1. 受精から出生までの推移Ⅰ（講義形式） 2. 受精から出生までの推移Ⅱ（講義形式） 3. 姿勢反射Ⅰ（講義形式） 4. 姿勢反射Ⅱ（講義形式） 5. 正常運動発達Ⅰ（講義形式） 6. 正常運動発達Ⅱ（講義形式） 7. 姿勢反射の統合および出現時期（講義形式） 8. 全体の総括（講義形式） ★受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ★試験後の適切な時間帯に試験問題の解説を行う。

ナンバリング	PTCM2010

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	91190
科目	9119 教育心理学	授業種別	週間授業
科目責任者	加藤　知佳子	単位数	2 単位
担当教員	加藤　知佳子		

授業概要	教育心理学とは、教育に関わる様々な問題について、心理学的な観点から客観的に検討する学問である。本科目では、教育実践の基礎となる教育心理学の理論や知識について幅広く学んでいく。 具体的には、発達、学習、適応、評価という教育心理学の基礎領域について学ぶ。なお、本科目は、理学療法士養成校の専任教員になるための要件に含まれるものであり、将来、理学療法士の養成・教育に従事することを検討している者には、受講を推奨する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎					

到達目標	①理学療法士養成における教育心理学を学ぶ意義について説明できる。 ②理学療法士養成において必要な学習、動機づけ、記憶、発達などの理論に関する基礎的な概念を説明できる。 ③望ましくない教育方法を回避するために必要な、ハラスメント等に関する基礎的な知識について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
絶対役立つ教育心理学　実践の理論、理論を実践　第 2 版	藤田哲也	ミネルヴァ書房	3080	9784623091638	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
ミニレポート	30%	課題への取り組みを評価する。
定期試験	70%	筆記試験によって、最終的な授業の理解度を確認する。

受講条件	心理学Ⅰの履修が望ましい。
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（4 時間相当 /15 回） ・指示された話題について、事前に考えたり、調べたりしておく。（各 2 時間） ・授業で得た気づきと学びについて、ノートにまとめておく。（各 2 時間） ・学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。

授業の実施方法と授業計画	第1回　（講義）ガイダンス：授業の進め方、授業のねらい、試験などについて 第2回　（講義）学習のメカニズム 第3回　（講義）動機づけの基礎 第4回　（講義・演習）動機づけの応用 (Think-Pair-Share) 第5回　（講義）記憶の分類 第6回　（講義・演習）記憶の理論を生かす (Think-Pair-Share) 第7回　（講義）学習方略 第8回　（講義）メタ認知と学習観 第9回　（講義）発達の理論 第 10 回　（講義）乳幼児期の発達 第 11 回　（講義・演習）社会性・道徳性の発達 (Think-Pair-Share) 第 12 回　（講義）読解力の発達と教育 第 13 回　（講義・演習）青年期の発達 (Think-Pair-Share) 第 14 回　（講義）障害の理解 第 15 回　（講義・演習）ハラスメントの理解と防止 (Think-Pair-Share) ミニレポート等の課題を課した場合は、特別な事情がない限りコメントを付して返却するほか、全体で共有すべき質問・疑問全体については授業内でフィードバックを行う。また、各自の気づきや考えを共有し、それに対するコメントをフィードバックするために、Google Classroom の機能を活用する。なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTBCM3012

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	91230
科目	9123 内科系障害学	授業種別	週間授業
科目責任者	小竹　伴照	単位数	2 単位
担当教員	小竹　伴照		

授業概要	リハビリテーションを学ぶ上で必要な内科系疾患を中心に疾患の概要について学ぶ。内科学総論、消化器疾患、胆管膵疾患、内分泌疾患、代謝性疾患、腎・尿路疾患、血液疾患、アレルギー性疾患、膠原病、循環器疾患、呼吸器疾患について学修する。また内科系疾患の診断に必須の血液生化学的検査、生理学的検査、医用画像についての概要、栄養、薬学、救命救急および予防の基礎などについても学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	①チーム医療を実践するのに必要な内科的知識を説明できる。 ②内科的併存症や既往例のある患者のリスク管理を説明できる。 ③内科的問題を抱えた症例に遭遇したときに、その問題点に気づき解決する方法を説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学	前田真治（編集）	医学書院	6600	9784260056083	冊子版

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
リハビリテーション医学テキスト	出江紳一 / 加賀谷斉（編集）	南江堂	5940	9784524228492	冊子版
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学	野村嶬（編集）	医学書院	6600	9784260056779	冊子版

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	その他の参考書は、必要に応じて紹介する。また、図書館にも参考となる書物あり。

成績評価	定期期末試験と中間試験により評価する。なお、劣悪な授業態度などは減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40%	筆記試験にて理解度を評価する
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予定されている講義内容に関して、その関係する事項をテキストなどで事前学修する（第 1 回～第 15 回 / 毎回 10 分～ 20 分程度）。講義で学んだ内容をまとめ、確実に習得する（第 1 回～第 15 回 / 毎回 20 分～ 1 時間程度）。

授業の実施方法と授業計画	1 内科学総論Ⅰ：内科学的診断の進め方（講義） 2. 内科学総論Ⅱ：内科的主要症候の意義（講義） 3 消化器疾患Ⅰ：解剖、消化と吸収（講義） 4. 消化器疾患Ⅱ： 消化酵素、ホルモン（講義） 5. 消化器疾患Ⅲ：様々な疾患（講義） 6 胆管膵疾患Ⅰ：解剖、肝機能検査（講義） 7. 胆管膵疾患Ⅱ：様々な疾患（講義） 8 内分泌疾患Ⅰ：ホルモン調節の仕組み（講義） 9. 内分泌疾患Ⅱ：代表的な内分泌疾患（講義） 10 代謝性疾患：糖尿病、その他の疾患（講義） 11 腎・尿路疾患：解剖、腎臓の機能、様々な疾患（講義） 12 血液疾患：様々な血液疾患（講義） 13 アレルギー性疾患・膠原病：アレルギー機序、様々な疾患（講義） 14 循環器疾患：高血圧、様々な循環器疾患（講義） 15 呼吸器疾患：様々な呼吸器疾患（講義） ※それぞれの講義は、各疾患に関連する栄養学、薬理、医用画像、救命救急および予防等の基礎に関する内容を含む。 ※受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある ※試験後、可能な時間帯に試験などについて解説を行う。

ナンバリング	PTCM2011

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	91270
科目	9127 運動器系障害学Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	杉浦　昌	単位数	2 単位
担当教員	杉浦　昌		

授業概要	筋骨格系は身体運動に関して中心的役割を果たしており、様々な疾患や外傷により運動器系に障害が生じた場合は、整形外科的治療と連携したリハビリテーションが重要な治療手段となる。また、筋骨格系障害は、日常のリハビリテーション臨床において頻度の多い障害である。そこで、運動器の機能解剖、整形外科的診断法、整形外科的治療法の総論、運動器リハビリテーションの総論、医用画像、救命救急および予防の基礎などについて総論的に学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する整形外科医師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	①骨の発生、成長、骨折治癒機転について生物学的観点から説明できる。 ②整形外科診察法、画像評価法を知り、典型的な疾患については画像から考えられる診断を述べることができる。 ③各種の整形外科的治療法の原理を知り、その中でリハビリテーションの果たすべき役割を述べることができる。 ④高齢者に多い変形性関節症、骨粗しょう症の原因、病態、対処法と現在の日本社会での重要性について説明できる。 ⑤腰痛、肩関節痛、関節リウマチなど頻度の高い疾患。病態の原因、経過、治療について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
標準理学療法学・作業学　専門基礎分野　整形外科学　第 5 版	奈良勲、鎌倉矩子	医学書院	3,960 円	978-260-05049-4	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	講義で一つの分野が終わるごとに、その領域の理解度を見るための小レポートを課す。(授業時間内) このレポートの点数を合わせて 40 点とする。 定期試験は 60 点満点とし、両者を合わせて成績とする。 ただし、授業中の積極的な発言などは加点する。

評価項目	割合	評価基準
小レポート	40%	各セクションごとに講義内容の理解度を評価する
定期試験	60%	筆記試験にて講義全体の理解度を確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（4 時間相当 /15 回） 各講義の前に該当する教科書の章を通読すること。

授業の実施方法と授業計画	授業はパワーポイントを用いた講義形式で行う。教科書を補足する資料を配布するとともに、出来るだけ医療現場で実際に用いられている器具などの実物を供覧する。 1、総論 1）筋骨格系障害学基礎知識Ⅰ（講義） 2）筋骨格系障害学基礎知識Ⅱ（講義） 3）運動器の評価および検査法（講義） 4）整形外科学的治療法Ⅰ（講義） 5）整形外科学的治療法Ⅱ（講義） 2、各論 6）炎症性疾患Ⅰ（講義） 7）炎症性疾患Ⅱ（講義） 8 ）代謝・内分泌・退行性疾患Ⅰ（講義） 9）代謝・内分泌・退行性疾患Ⅱ（講義） 10）先天性骨・関節疾患（講義） 11）循環障害と壊死性疾患（講義） 12）骨・軟部腫瘍（講義） 13）神経・筋疾患（講義） 14）脊椎疾患Ⅰ（講義） 15）脊椎疾患Ⅱ（講義） ※各論の講義は、各疾患に関連する栄養学、薬理、医用画像、救命救急および予防等の基礎に関する内容を含む。 各セクションごと提出させる小レポートの結果で、理解不足のところを把握して適宜補足する。 受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。

ナンバリング	PTCM2012

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	91280
科目	9128 運動器系障害学Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	杉浦　昌	単位数	2 単位
担当教員	杉浦　昌		

授業概要	運動器系障害学Ⅰの講義に続き、運動器系の外傷を中心に講義をする。 骨折を中心に総論では治癒過程や治療法について、各論では体幹、上肢、下肢に分け代表的な外傷を提示する。 特に股関節周辺骨折は、現在我が国において最も問題になっている所であるので、詳細に説明をする。 また、理学療法士にとって、脊髄・末梢神経の障害は是非必要な重要な部門であるので詳しく説明する。 ※この科目は当該授業内容に関する整形外科医師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	①大腿骨近位端骨折の、病態と治療・予防を熟知して、現代日本社会におけるその重要性を記述できる。 ②四肢の骨折の代表的な特徴を述べることができる。 骨折の合併症の代表的なものをあげ、起こさないための注意点を述べることができる。 ③脊椎外傷と脊髄損傷の特徴を理解し、説明することができる。 ④脊髄損傷の症状、重要な合併症について述べることができる。 ⑤末梢神経障害の症状を述べることができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	運動器系障害学Ⅰと同じ

成績評価	各セクションの終わった時点で課題を出し、小レポートを提出してもらう。(計 8 回で、各 5 点とする＝合計 40 点) 定期試験として筆記試験を行う。これを 60 点とする。 ただし、授業中の積極的な発言は加点する。

評価項目	割合	評価基準
定期試験	60%	筆記試験の結果で点数に応じて成績をつける。
小テスト	40%	講義内容の理解度を確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（4 時間相当 /15 回） 各回に講義をする内容は授業計画に示してあるので、該当する教科書の章をあらかじめ通読してくること。ただし、講義の順番は、教科書の章どおりではないので、授業計画を参照のうえ間違えないこと。 各章の終わりに、その領域に関して理解を深めるための演習問題とその解答、解説を配布し、これを復習の材料とする。

授業の実施方法と授業計画	授業はパワーポイントを用いた講義形式で行う。医療で実際に用いられている器具などはできるだけ実物を供覧する。 1）骨折と関節外傷総論　Ⅰ（講義） 2）骨折と関節外傷総論　Ⅱ（講義） 3）体幹の外傷（胸郭、脊柱、骨盤）（講義） 4）上肢の外傷　Ⅰ（講義） 5）上肢の外傷　Ⅱ（講義） 6）上肢の外傷　Ⅲ（講義） 7）　上肢の外傷　Ⅳ (講義) 8）大腿骨頸部骨折（講義） 9）下肢の外傷　Ⅰ（講義） 10）下肢の外傷　Ⅱ（講義） 11）下肢の外傷Ⅲ（講義） 12）脊椎、脊髄損傷 Ⅰ（講義） 13）神経の損傷・・・脊髄損傷と末梢神経損傷Ⅰ（講義） 14）神経の損傷・・・脊髄損傷と末梢神経損傷Ⅱ（講義） 15）スポーツに特有の障害と熱傷・切断など（講義） ※それぞれの講義は、各疾患に関連する医用画像、救命救急および予防等の基礎に関する内容を含む。 各章の区切りで小テストを行い、学生の理解度を把握する。不足と思われるところは次回補足説明をする。 ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある

ナンバリング	PTCM2013

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	91290
科目	9129 神経系障害学Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	小竹　伴照	単位数	2 単位
担当教員	小竹　伴照		

授業概要	神経学的症候を理解する上で必要な解剖学的基礎事項、栄養、薬学、医用画像の基礎を学び、障害により神経症候が出現する機序、すなわち障害部位と神経症候の関係について学ぶ。また意識障害、失語症など高次脳機能障害、脳神経障害、運動麻痺、運動失調など神経疾患にとって頻度の高い主要な症候の出現機序と症候の持つ意義について学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	①神経系の解剖学的基礎事項を説明できる。 ②障害部位と神経症候の関係について説明できる。 ③意識障害や高次脳機能障害などについて説明できる。 ④脳神経障害、運動麻痺、失調などの神経疾患にとって頻度の高い症候の出現機序と症候の持つ意義について説明できる。 ⑤感覚障害、深部腱反射、錐体外路障害等についても説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　神経内科学	川平和美（編集）	医学書院	6380	9784260056670	冊子版
病気がみえる　脳・神経	尾上尚志ら監修	メディックメディア	4290	9784896326864	冊子版

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学	前田眞治（編集）	医学書院	6600	9784260056083	冊子版
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　老年学	大内尉義（編集）	医学書院	5060	9784260056717	冊子版
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学	野村嶬（編集）	医学書院	6600	9784260056779	冊子版

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	その他の参考書は、必要に応じて紹介する。また、図書館にも参考となる書物あり。

成績評価	定期期末試験と中間試験により評価する。なお、劣悪な授業態度などは減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40%	筆記試験にて理解度を評価する
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予定されている講義内容に関して、その関係する事項をテキストなどで事前学修する（第 1 回～ 15 回、毎回 10 ～ 20 分程度）。講義で学んだ内容をまとめ、確実に習得する（第 1 回～ 15 回、毎回 20 分～ 1 時間程度）。

授業の実施方法と授業計画	1 脳の構造と機能 Ⅰ（講義） 2 脳の構造と機能 Ⅱ（講義） 3 意識と意識障害Ⅰ（講義） 4 意識と意識障害Ⅱ（講義） 5 高次脳機能障害Ⅰ（講義） 6 高次脳機能障害Ⅱ（講義） 7 脳神経の働きとその障害Ⅰ（講義） 8 脳神経の働きとその障害Ⅱ（講義） 9 随意運動の伝導路とその障害Ⅰ（講義） 10 随意運動の伝導路とその障害Ⅱ（講義） 11 小脳の働きとその障害Ⅰ（講義） 12 小脳の働きとその障害Ⅱ（講義） 13 体性感覚 の伝導路とその障害（講義） 14 反射（講義） 15 不随運動（講義） ※それぞれの講義は、神経疾患に関連する栄養学、薬理、医用画像、救命救急および予防を理解するための基本的事項を含む。 ※受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ※試験後、可能な時間帯に試験などについて解説を行う。

ナンバリング	PTCM2014

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	91300
科目	9130 神経系障害学Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	小竹　伴照	単位数	2 単位
担当教員	小竹　伴照		

授業概要	各種神経疾患の成因と主要症候について学ぶ。すなわち、脳出血、くも膜下出血、脳梗塞など、脳血管疾患、髄膜炎、脳炎など感染性疾患、多発性硬化症など脱髄疾患、パーキンソン病など、錐体外路系疾患、筋萎縮性、側索硬化症など運動ニューロン疾患、進行性筋ジストロフィーなどの筋疾患、脊髄小脳変性症、末梢神経疾患、腫瘍性疾患などの成因、病態生理、主要症候、救命救急及び予防の基礎ならびにリハビリテーションを実践する上で留意すべき点について疾患別に学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	脳血管疾患、パーキンソン病等、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患、脱髄疾患、末梢神経障害等、筋疾患等、神経筋接合部疾患、認知症　等、脳腫瘍、中枢神経系の感染症、などの神経系疾患について、成因、病態生理、主要症候、画像所見、予後、ならびにﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝを実施する上での留意すべき点などを理解できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
標準理学療法学・作業療法学　専門分野　神経内科学	川平和美（編集）	医学書院	6380	9784260056670	冊子版
病気がみえる　脳・神経	尾上尚志ら監修	医学書院	6380	9784260056670	冊子版

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学	前田眞治（編集）	医学書院	6600	9784260056083	冊子版
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　老年学	大内尉義（編集）	医学書院	5060	9784260056717	冊子版
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学	野村嶬（編集）	医学書院	6600	9784260056779	冊子版

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	その他の参考書は、必要に応じて紹介する。また、図書館にも参考となる書物あり。

成績評価	定期期末試験と中間試験により評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40%	筆記試験にて理解度を評価する
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予定されている講義内容に関して、その関係する事項をテキストなどで事前学修する（第 1 回～ 15 回、毎回 10 分～ 20 分程度）。講義で学んだ内容をまとめ、確実に習得する（第 1 回～ 15 回、毎回 20 分～ 1 時間程度）。

授業の実施方法と授業計画	1. 脳血管疾患　総論Ⅰ（講義） 2. 脳血管疾患　総論Ⅱ（講義） 3. 脳血管疾患　各論Ⅰ（脳出血）（講義） 4. 脳血管疾患　各論Ⅱ（脳梗塞）（講義） 5. 脳血管疾患　各論Ⅲ（合併症・治療）（講義） 6. パーキンソン病　等（講義） 7. 脊髄小脳変性症　等（講義） 8. 運動ニューロン疾患　等（講義） 9. 脱髄疾患　等（講義） 10. 末梢神経障害　等（講義） 11. 筋疾患　等（講義） 12. 神経筋接合部疾患　等（講義） 13. 認知症 等（講義） 14. 脳腫瘍　等（講義） 15. 中枢神経系の感染症　等（講義） ※それぞれの講義は、各疾患に関連する栄養学、薬理、医用画像、救命救急および予防等の基礎に関する内容を含む。 ※受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ※試験後、可能な時間帯に試験などについて解説を行う。

ナンバリング	PTCM2015

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	91380
科目	9138 老年学	授業種別	週間授業
科目責任者	小竹　伴照	単位数	1 単位
担当教員	小竹　伴照		

授業概要	加齢に伴い、運動機能の低下や生理的な変化、認知症や関節症などの慢性疾患を有する状態となる。また、転倒や尿失禁などの老年症候群と呼ばれる症状を呈しやすい。そこで、加齢に伴う身体機能の変化や医学的治療における問題点などを取り上げ、健康増進、介護予防やリハビリテーションを実践する上での留意点について学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	①加齢による形態変化と生理機能の変化を説明できる ②老年症候群の発生メカニズムと症状とを説明できる ③老年期の疾病の特徴を理解し、説明できる ④老年期の健康増進法と介護予防法などを説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
【第5版】標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　老年学　PT　OT	奈良勲／シリーズ監修 鎌倉矩子／シリーズ監修 大内尉義／編集	医学書院	4,600	9784260039475	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学	前田眞治（編集）	医学書院	6,600	9784260056083	冊子版
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　神経内科学	川平和美（編集）	医学書院	6,380	9784260056670	冊子版

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	その他の参考書は、必要に応じて紹介する。また、図書館にも参考となる書物あり。

成績評価	中間試験と定期試験の成績から評価する。なお、劣悪な受講態度は減点対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40%	筆記試験にて理解度を評価する
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予定されている講義内容に関して、その関係する事項をテキストなどで事前学修する（第1回～8回、毎回10分～20分時間程度）。講義で学んだ内容をまとめ、確実に習得する（第1回～8回、毎回20分～1時間程度）。

授業の実施方法と授業計画	1　加齢と老化Ⅰ（講義） 2　加齢と老化Ⅱ（講義） 3　高齢者の機能評価（講義） 4　老年症候群Ⅰ（講義） 　（意識障害・失神・認知症・せん妄・抑うつ・フレイル　等） 5　老年症候群Ⅱ（講義） 　（不眠・めまい・手足のしびれ・言語障害・腰痛・歩行障害・転倒・尿失禁・便秘・寝たきり・廃用症候群　等） 6　老年症候群Ⅲ（講義） 　（サルコペニア・褥瘡・脱水・浮腫・嚥下障害・熱中症・老年病の臓器連関　等） 7　高齢者の医療（講義） 8　全体の総括（講義） ★受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ★試験後、可能な時間帯に試験などについて解説を行う。

ナンバリング	PTCM2018

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	91330
科目	9133 リハビリテーション医学	授業種別	週間授業
科目責任者	小竹　伴照	単位数	2 単位
担当教員	小竹　伴照		

授業概要	障害を治療対象とした医学として、リハビリテーション医学は発展した。リハビリテーション医学の概要、リハビリテーション医学に基づく診察・評価、障害の病態生理や治療などについて学修し、リハビリテーション医学の基本的理解を目指す。またその基本的理解に基づき、主要な疾患や障害に対するリハビリテーション医学的知識を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	①リハビリテーション医学の概要を説明できる ②リハビリテーション医学に基づく診察・評価の基礎を説明できる ③主な障害の病態生理について説明できる ④主な障害の治療について説明できる ⑤主要な疾患に対するリハビリテーション医学的知識を説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
リハビリテーション医学	出江紳一 / 加賀谷斉（編集）	南江堂	5940	9784524228492	冊子版

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学	野村嶬（編集）	医学書院	6600	9784260056779	冊子版
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学	前田眞治（編集）	医学書院	6600	9784260056083	冊子版

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	その他の参考書は、必要に応じて紹介する。また、図書館にも参考となる書物あり。

成績評価	定期期末試験と中間試験により評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40%	筆記試験にて理解度を評価する
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予定されている講義内容に関して、その関係する事項をテキストなどで事前学修する（第 1 回～ 15 回、毎回 10 分～ 20 分程度）。講義で学んだ内容をまとめ、確実に習得する（第 1 回～ 15 回、毎回 20 分～ 1 時間程度）。

授業の実施方法と授業計画	1. ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学総論（講義） 2. 障害とその分類Ⅰ（講義） 3. 障害とその分類Ⅱ（講義） 4. 内部障害（循環器系）Ⅰ（講義） 5. 内部障害（循環器系）Ⅱ（講義） 6. 内部障害（循環器系）Ⅲ（講義） 7. 内部障害（呼吸器系）Ⅰ（講義） 8. 内部障害（呼吸器系）Ⅱ（講義） 9. 内部障害（呼吸器系）Ⅲ（講義） 10. 脊髄疾患Ⅰ（講義） 11. 脊髄疾患Ⅱ（講義） 12. 脊髄疾患Ⅲ（講義） 13. 外傷性脳損傷等Ⅰ（講義） 14. 外傷性脳損傷等Ⅱ（講義） 15. ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに関する評価法等（講義） ★それぞれの講義は、各疾患に関連する栄養学、薬理、医用画像、救命救急および予防等の基礎に関する内容を含む。 ★受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ★試験後、可能な時間帯に試験などについて解説を行う。

ナンバリング	PTCM2016

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	91350
科目	9135 病理学	授業種別	週間授業
科目責任者	橋本　克訓	単位数	2 単位
担当教員	橋本　克訓		

授業概要	病理学は病因を明らかにし、疾病の成り立ちを追究する重要な学問であり、また基礎医学と臨床医学を結ぶ学問でもある。前半の総論では退行性病変・進行性病変、炎症・感染症、免疫異常、循環障害、代謝障害、染色体・遺伝子異常、腫瘍などの疾患カテゴリーについて講義を行う。後半の各論では循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、神経系、造血器系、運動器系、皮膚・感覚器系などのそれぞれの分野における疾病について学習する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	1. 基礎医学としての病理学、臨床医学としての病理学の役割を説明できる。 2. 前半の総論で講義する各疾患概念（退行性病変・進行性病変、炎症・感染症、免疫異常、循環障害、代謝障害、染色体・遺伝子異常、腫瘍など）について、それぞれの疾患の病理学的特徴を説明できる。 3. 後半の各論で講義する以下の各器官・臓器（消化管、肝・胆・膵、呼吸器、循環器、血液、中 枢神経、運動器、女性生殖器･乳腺、内分泌、腎泌尿器･男性生殖器）における代表的疾患について、病因、病理学的特徴、身体機能への影響、予後などを説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
病理学 第 5 版	奈良 勲	医学書院	4,600	9784260049863	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
はじめの一歩の病理学　第 2 版	深山 正久 編集	羊土社	3,190 円	9784758120845	
標準病理学　第 6 版	北川昌伸　編集	医学書院	14,540 円	9784260036597	
ロビンス基礎病理学 原書 11 版	豊國伸哉，高橋雅英　監訳	丸善出版	19,800 円	9784621308622	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	学期末に以下のような試験を課し、評価する。 1. 配布したオリジナル演習問題集に基づいた出題問題（択一式）。 2. 毎回の講義後に実施する小テストからの出題問題（記述式）。	
評価項目	割合	評価基準
配布したオリジナル演習問題集に基づいた出題問題（択一式）	50%	演習問題に準じた択一式の試験を課し、病理学の理解度を確認する。
小テストからの出題問題（記述式）	50%	講義内容の理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	講義前に講義テーマに該当する教科書の箇所を熟読しておくこと（30 分程度 x 15 回）。 講義テーマと関連のある解剖学、組織学など、人体の構造、機能に関する知識を復習しておくこと（30 分程度 x 15 回）。 講義で学んだ内容とこれまで学習した知識を関連付けて整理すること（30 分程度 x 15 回）。 配布するオリジナル演習問題集を活用し知識の整理、復習を行うこと（90 分程度 x 15 回）。

授業の実施方法と授業計画	毎回配布するプリントに沿った PC によるプレゼンテーションスライドを使用し講義を進める。 講義の予定は下記のとおり。 総論 1.（講義）病理学とは，退行性病変・進行性病変 2.（講義）腫瘍 1 3.（講義）腫瘍 2 4.（講義）炎症・感染症 5.（講義）免疫異常 6.（講義）循環障害 7.（講義）代謝障害，染色体・遺伝子異常 各論 8.（講義）消化管 9.（講義）肝・胆・膵 10.（講義）呼吸器 11.（講義）循環器，血液 12.（講義）中枢神経，運動器 13.（講義）女性生殖器・乳腺 14.（講義）内分泌 15.（講義）腎泌尿器・男性生殖器 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 毎回、講義の終了前に、講義内容に関する小テストを実施する。 解答の解説は復習を兼ねて、次回の講義の冒頭部で行う。 小テストの解答用紙には、講義の感想や質問を記載する欄を設ける。 この欄に記載された質問などに関しても、次回の講義で解説する。

ナンバリング	PTCM2017

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	91360
科目	9136 精神・心理とリハビリテーション	授業種別	週間授業
科目責任者	上條　厚	単位数	1 単位
担当教員	上條　厚		

授業概要	理学療法対象者が気分障害（抑うつ状態）、脳卒中後うつ病、不安障害などの症状、認知症、統合失調症など精神疾患に高い確率で罹患していること、これらの疾患が理学療法アウトカムに大きな影響を及ぼしていることを、理学療法士は認識しなければならない。本講義は、精神疾患や心理状態を正しく理解し、リハビリテーションにおいて積雪な対応ができるようになることを学習目標とする。 ※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義棟を行う科目である。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○				

到達目標	第1回　精神医学の歴史や、症候学、検査方法などを理解できる 第2回　統合失調症の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第3回　気分 (感情) 障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第4回　不安障害、ストレス関連障害、摂食障害の 疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第5回　児童・思春期における精神障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第6回　精神作用物質による精神および行動の障害の 疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第7回　器質性精神障害 (認知症など)、てんかん、睡眠障害の 疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第8回　成人のパーソナリティと行動の障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	定期試験を主として小テストを勘案する。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	配付資料の下記の章を事前に予習しておくこと（第 1 回～ 8 回／ 60 分） 第2章　精神障害をもつ人の抱える症状と診断のための検査 第3章　主な精神疾患／障害 第4章　精神疾患の主な治療法 授業後は当日配布されたプリントを元に復習すること（第 1 回～ 8 回／ 60 分） ※ 1 単位の修得には 45 時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと

授業の実施方法と授業計画	授業は PowerPoint を使用して行う。 この科目は全て講義形式で行う。 第1回　精神医学総論 (歴史や症候学を中心に) 第2回　統合失調症 第3回　気分 (感情) 障害 第4回　不安障害、ストレス関連障害、摂食障害 第5回　児童・思春期における精神障害 第6回　精神作用物質による精神および行動の障害 第7回　器質性精神障害 (認知症など)、てんかん、睡眠障害 第8回　成人のパーソナリティと行動の障害 ※必要に応じて小テストのフィードバックをおこなう。

ナンバリング	PTCM3019

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	91410
科目	9141 公衆衛生学	授業種別	週間授業
科目責任者	小竹　伴照	単位数	2 単位
担当教員	小竹　伴照		

授業概要	学習を通じて、現代社会の中で賢く健康的に生活していくために、どのようなことを考えなければならないかを体得する。公衆衛生学の歴史、日本における医療の発展から始めて、人口構成などの厚生指標、生活環境、労働環境、衛生行政に関わる諸問題を学修する。また結核などの感染症、放射線障害、各種の公害、薬害など有名な具体例から、将来、様々な新しい事態に遭遇した際の対処法を、自分で判断できるよう学習する。 ※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎					

到達目標	公衆衛生学の学修を通じて、公衆衛生、疫学の諸問題を考える上で必要な基礎知識を学修できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
公衆衛生がみえる 2026-2027	編集：医療情報科学研究所	メディックメディア			冊子版

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
公衆衛生学（crosslink basic リハビリテーションテキスト）	安村誠司（監修）、浅川康吉（編集）	MEDICAL VIEW	3850	9784758320979	冊子版

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	その他の参考書は、必要に応じて紹介する。また、図書館にも参考となる書物あり。

成績評価	中間と定期の課題ﾚﾎﾟｰﾄにより評価する。なお、劣悪な授業態度などは減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40%	課題レポートにて理解度を確認する。
定期試験	60%	課題レポートにて理解度を確認する。

受講条件	履修条件なし。
事前・事後学修（内容・時間）	予定されている講義内容に関して、その関係する事項をテキストなどで事前学修する（第 1 回～ 15 回、毎回 10 分～ 20 分程度）。講義で学んだ内容をまとめ、確実に習得する（第 1 回～ 15 回、毎回 20 分～ 1 時間程度）。

授業の実施方法と授業計画	1. 公衆衛生総論 1（講義）：公衆衛生の歴史や概念など 2. 公衆衛生総論 2（講義）：疫学の概念、医療の発展など 3. 人口統計（講義）：少子高齢化社会など 4. 疾病統計（講義）：疾病構造や死因の変遷など 5. 医の倫理（講義）：医の倫理や人権など 6. 医療体制（講義）：現在の医療体制など 7. 健康増進（講義）：健康増進のための対策など 8. 成人保健（講義）：生活習慣病対策など 9. 母子保健（講義）：主な母子保健対策など 10. 高齢者保健（講義）：高齢に対する医療や介護など 11. 障害者福祉（講義）：障害者に対する医療や介護など 12. 感染対策（講義）：感染予防や主な感染症など 13. 食品保健と栄養（講義）：食品や栄養に関する施策など 14. 産業保健（講義）：作業環境や健康管理など 15. 環境保健（講義）：環境と健康の関係など ★受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある ★試験後、可能な時間帯に試験（課題レポート）などについて解説を行う。

ナンバリング	PTBCM1003

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	91430
科目	9143 リハビリテーション概論	授業種別	週間授業
科目責任者	小竹　伴照	単位数	2 単位
担当教員	小竹　伴照		

授業概要	リハビリテーションは歴史的変遷を経て今日の概念に至っている。現在のリハビリテーションは医療分野のみならず、保健・福祉などの分野まで拡大しており、リハビリテーション専門職として、「リハビリテーションの理念と全体的概要」を正しく理解することが重要である。リハビリテーションの歴史的変遷､基本的概念、障害評価法の基礎、リハビリテーション関連職種、チーム医療と他職種との連携 ､リハビリテーションの基本的な進め方、地域保健と福祉など、リハビリテーションに関係する基本的概念を習得する。 ※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	◎	○				

到達目標	①リハビリテーションの歴史的変遷と基本的概念について学修できる。 ②障害評価法の基礎的理解できる。 ③リハビリテーション関連職種やチーム医療、他職種との連携についての学修できる。 ④リハビリテーションの基本的進め方などの学修できる。 ⑤現在の医療体制や代表的な一部疾患の基礎的知識などの獲得できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
リハビリテーション医学テキスト	出江紳一 / 加賀谷斉（編集）	南江堂	5940	9784524228492	冊子版

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
標準理学療法学・作業療法学　基礎分野　解剖学	野村嶬 (編集)	医学書院	6600	9784260056779	冊子版

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	その他の参考書は、必要に応じて紹介する。また、図書館にも参考となる書物あり。

成績評価	定期期末試験と中間試験により評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	40%	筆記試験にて理解度を評価する
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予定されている講義内容に関して、その関係する事項をテキストなどで事前学修する（第 1 回～ 15 回、毎回 10 分～ 20 分程度）。講義で学んだ内容をまとめ､確実に習得する（第 1 回～ 15 回､毎 20 分～ 1 時間程度）。

授業の実施方法と授業計画	1. ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの歴史と概念（講義） 2. 障害評価の基礎Ⅰ（講義） 3. 障害評価の基礎Ⅱ（講義） 4. ﾁｰﾑ医療（講義） 5. ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ関連職種Ⅰ（講義） 6. ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ関連職種Ⅱ（講義） 7. 現在の医療情勢と EBM（講義） 8. ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに関する評価法（講義） 9. 廃用症候群Ⅰ（講義） 10. 廃用症候群Ⅱ（講義） 11. 廃用症候群Ⅲ（講義） 12. ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝにおけるﾘｽｸ管理（講義） 13. 疾患の概略Ⅰ（講義） 14. 疾患の概略Ⅱ（講義） 15. 全体の総括（講義） ★受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ★試験後、可能な時間帯に試験などについて解説を行う。

ナンバリング	PTBCM1004

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92000
科目	9200 医療統計学Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	未定	単位数	2 単位
担当教員	未定		

授業概要	統計学はバラツキを伴う情報を客観的に分析し評価する学問である。その統計学には「情報の基本構造を明らかにする機能」（記述統計学分野）と少数の情報から全体を推し量る機能」（推測統計学分野）がある。これら二大機能について理解するとともに、身近なデータを用いて各種の統計処理を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	○				

到達目標	現代の医学では経験、勘、理屈に頼るだけでなく、実際のデータにもとづく意思決定が求められている。そのためには実データの統計解析が不可欠であり、医療統計学の知識や統計データの解析処理の手法の獲得が必須である。当該授業は必要な基礎知識の修得に向けて、以下のような内容と到達目標を設定する。 ①確率理論を用いて簡単な確率計算ができる ②統計データを表やグラフで表す方法について説明できる ③データ集団の特性を表す代表値の説明ができ、それぞれの値を求めることができる ④データの散布度を標準偏差や四分位偏差等で表すことができる ⑤エラーバー付き棒グラフや箱ひげ図の作成ができる ⑥２変量データの関係性を分析する分割表や散布図の作成ができる ⑦２変量データの相関係数や直線回帰式を導くことができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
「医系の統計入門」第2版	根岸龍雄監修　階堂武郎著	森北出版株式会社	¥2000(税別)	978-4-627-09192-4	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
「確率統計学」第1版	情報処理学会編集　須子統太他４名による共著	オーム社	¥2800（税別）	ISBN978-4-274-20913-0	
「エクセル活用　コメディカル統計テキスト」第1版	宮城重二著	医歯薬出版株式会社	¥2400（税別）	ISBN978-4-263-24253-7	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業には毎回出席すること 学習到達目標に対する達成度を、以下の２通りの方法で評価する。 ・筆記試験（中間試験および期末試験） ・課題レポート 上の評価法により得た点数を合計し、全体の 60%以上を単位取得者と認める。 なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な授業態度は減点の対象になる場合がある。

評価項目	割合	評価基準
中間試験	30%	中間期までの到達目標への達成度を筆記試験で評価する
定期試験	50%	当授業の到達目標への達成度を筆記試験で評価する
課題レポート	20%	授業中に行う演習問題等はレポート課題とし、内容の完成度や提出状況等を評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎回の授業について、事前および事後学習（学修時間；4 時間相当）を必ず行うこと。それぞれの内容と時間は以下の通りとする。 ・授業内容については事前に教科書等を読んで確認しておくこと。(第2回～第 14 回／２時間相当) ・授業で扱った数式や数値データ等は良く確認しておくこと。また、演習で行った内容は事後、繰り返し練習を行い、確実にできるようにしておくこと。　(第1回～第 15 回 /2 時間相当)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義・演習)　ガイダンス（医療における統計の意義と活用事例） 第 2 回 (講義・演習)　度数分布（相対度数分布、累積度数分布、ヒストグラム等） 第 3 回 (講義・演習)　データの代表値（平均値、メジアン、モード） 第 4 回 (講義・演習)　データの散布度（範囲、分散・標準偏差、変動係数） 第 5 回 (講義・演習)　四分位数と箱ひげ図 第 6 回 (講義・演習)　２変量の解析：単純集計と２次元集計 第 7 回 (講義・演習)　２変量の解析：共分散と相関係数 第 8 回 (講義・演習)　２変数間の関係式：最小二乗法と回帰直線 第 9 回 (講義・演習)　確率の基本性質（事象と集合、公理論的確率、ベイズの定理等） 第 10 回 (講義・演習)　確率変数と確率分布（離散変数の場合） 第 11 回 (講義・演習)　確率変数と確率分布（連続変数の場合） 第 12 回 (講義・演習)　正規分布と標準正規分布 第 13 回 (講義・演習)　母集団と標本 第 14 回 (講義・演習)　標本の抽出（標本平均の分布） 第 15 回 (講義・演習)　平均値の信頼区間推定 受講学生の習熟度により授業計画を変更する場合がある．なお、授業中に実施する演習課題等は次回授業の際に可能な範囲で解説を行う.

ナンバリング	PTBCM1005

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	92020
科目	9202 医療統計学Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	未定	単位数	2 単位
担当教員	未定		

授業概要	理学療法などリハビリテーションをはじめとする医療現場において、治療成績の評価とその解析は必須である。こうした治療成績の分析評価は客観的な指標が必要であり、それらを導き出すために統計学的な手法が有効な手段となっている。そこで、医療現場でのデータ収集方法や得られたデータの分析方法とその評価などについて、実践例を通して習得する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	○				

到達目標	医療統計学Ⅱは医療統計学Ⅰで学んだ内容をもとに、理学療法やリハビリテーションの領域で必要不可欠の「推定」や「検定」等の理論とその応用に関する基礎知識の修得をめざす．この授業を通して達成しようとする到達目標は以下の通りである ①母集団と標本の関係を説明できる ②確率 95%および 99%で母平均の信頼区間（検査データの基準値等）を推定できる ③ t 検定により対応ある 2 群データの母平均の差を検定できる ④ t 検定により対応なし 2 群データの母平均の差を検定できる ⑤一元配置分散分析により多群データの差を検定できる ⑥カイ平方による適合度の検定ができる ⑦カイ平方による独立性の検定ができる ⑧相関係数の検定ができる ⑨パソコン統計ソフトを用いて簡単データの解析処理ができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
「医系の統計入門」第2版	根岸龍雄監修　階堂武郎著	森北出版社	￥2000	978-4-627-09192-4	医療統計学Ⅰで使用した教科書と同じものである。

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
「確率統計学」第1版	情報処理学会編集　須子統太他４名による共著	オーム社	￥2800（税別）	ISBN978-4-274-20913-0	
「エクセル活用　コメディカル統計テキスト」第1版	宮城重二著	医歯薬出版株式会社	￥2400（税別）	ISBN978-4-263-24253-7	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業には毎回出席すること 学習の到達目標における達成度を、以下の２通りの方法を用いて評価する ・筆記試験（中間試験および期末試験） ・課題レポート 上の評価法より取得した点数を総合し、全体の 60%以上を単位取得者と認める なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な授業態度は減点の対象になる場合がある

評価項目	割合	評価基準
中間試験	30%	中間期までの到達目標への達成度を筆記試験で評価する
定期試験	50%	当授業の到達目標への達成度を筆記試験で評価する
課題レポート	20%	授業中に行う演習問題等はレポートとして、その内容の完成度や提出状況等を評価する

受講条件	医療統計学Ⅰの履修が望ましい
事前・事後学修（内容・時間）	毎回の授業について、事前および事後学修（学修時間；4 時間相当）を必ず行うこと。それぞれの内容と時間は以下の通りとする。 ・授業内容は事前に必ず教科書等で確認しておくこと。(第 2 ～第 14 回 /2 時間相当) ・授業で扱った数式や数値データ等は良く確認しておくこと。また、演習で実施した内容は繰り返し練習を行い、確実にできるようにしておくこと。(第1回～第 15 回 /2 時間相当)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義・演習)　母集団と標本 第 2 回 (講義・演習)　母集団分布と標本平均分布 第 3 回 (講義・演習)　信頼区間推定 第 4 回 (講義・演習)　統計学的仮説検定 第 5 回 (講義・演習)　適合度検定 第 6 回 (講義・演習)　独立性の検定 第 7 回 (講義・演習)　比率の検定 第 8 回 (講義・演習)　比率の差の検定 第 9 回 (講義・演習)　平均値の検定 第 10 回 (講義・演習)　平均値の差の検定 第 11 回 (講義・演習)　分散分析（一元配置） 第 12 回 (講義・演習)　相関係数の検定 第 13 回 (講義・演習)　パソコンによる統計データ解析演習Ⅰ 第 14 回 (講義・演習)　パソコンによる統計データ解析演習Ⅱ 第 15 回 (講義・演習)　パソコンによる統計データ解析演習Ⅲ 受講学生の習熟度により授業計画を変更する場合がある。なお、授業中に実施した演習課題のは次回授業の際に可能な範囲で解説を行う。

ナンバリング	PTBCM2007

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90440
科目	9044 感染予防	授業種別	週間授業
科目責任者	杉浦　昌	単位数	1 単位
担当教員	杉浦　昌		

授業概要	感染の予防と管理について必要な基礎的知識として、まず病原微生物により感染が起こる機序とヒトの感染防御機構（免疫）について学ぶ。特に感染の経路について知ることは、医療現場における感染予防の面からみて重要である。また医療関連施設や福祉施設における感染予防対策についての基本として、感染者への接し方と対処法、感染原因物質により汚染が疑われる器具の取り扱い、医療用補助器具の消毒、リネン類の扱い、病室や居室の清掃の必要性などについて具体的に学ぶ。また、感染症法、予防接種法などの法律の基礎知識を習得する。予防接種に関しては今回のコロナワクチンに対するいろいろな評価（意見）も伝える。※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	◎				

到達目標	①病原体の種類の違いと特徴を述べることができる。 ②代表的な感染症の病原体を理解し、感染症法の分類に当てはめることができる。 ③感染経路別に適切な予防法を提案できる。 ④ヒトの免疫機構について理解し、易感染性患者に取るべき対策を述べることができる。 ⑤院内感染について理解し、標準予防策を実践できる。 ⑥正しく手洗いができる。 ⑦各種消毒薬と個人防護具を場面に応じて適切に選択できる。 ⑧予防接種について知識を持ち、新型コロナウィルスのワクチンの作用機序を説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は用いず、各項目ごとに学ぶべき事項を記載した手作りの資料を配布する。

成績評価	毎回の講義でその重要ポイントに関する課題を出し、小レポートを提出してもらう。そのレポートを 5 点満点で採点しトータルで 40 点とする。 最後に期末試験で筆記試験を行い、それを 60 点満点とする。 授業中の積極的な発言は加点の対象とする。

評価項目	割合	評価基準
小レポート	40%	授業内容の理解度を確認する
期末筆記試験	60%	総合的に理学療法士に必要な感染予防に関する知識が得られたかどうかを確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（4 時間相当 /15 回） 講義の時に配布する資料を、必ず次回までに復習してくること。

授業の実施方法と授業計画	授業は講義形式で行い、毎回関連する資料を配布する。 1.（講義）感染が起こる仕組みとヒトの感染防御機構 2.（講義）病原体の種類、細菌（1）グラム陽性菌、(２）グラム陰性菌、(3）その他の細菌、ウイルス 3.（講義）院内感染防止対策；標準予防策、感染経路別予防策（空気感染、飛沫感染、接触感染） 4.（講義）滅菌と消毒 5.（講義）感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法） 6.（講義）予防接種の目的と意義。予防接種法、定期予防接種とその対象疾患 7.（講義）臨床現場で特に知っておくべき B 型肝炎、C 型肝炎、インフルエンザ、食中毒などの感染性疾患 8.（講義）新型コロナウィルス感染症及びまとめ 毎回講義の終わりに小テストを行い、学生の理解度を知り不足の部分は次回の講義で補足する。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTBCM2006

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90210
科目	9021 地域援助活動論	授業種別	週間授業
科目責任者	辻村　尚子	単位数	2 単位
担当教員	辻村　尚子		

授業概要	誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくために、2025 年を目途に地域包括ケアシステムが構築される。医療的問題を抱えた多くの障害者・高齢者が医療・介護・福祉の支援を受けながら在宅生活を送ることになる。今後、医療職も地域での活動の場が広まることから、医療職が地域で活躍するための意味と具体的技術、ならびに地域福祉活動の組織・専門職についての理解をもとに、コミュニティ・ワーカーの基本的態度と資質を修得する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	◎				

到達目標	地域活動を理学療法の対象として認識し、社会との関連で健康問題を理解する ①地域活動における理学療法士の役割について教科書的に説明できる。 ②地域活動に参加する参加者の特徴について教科書的に説明できる。 ③地域包括システムの基本的考え方を説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
ＩＣＦコアセット　臨床実践のためのマニュアル	Ｊｅｒｏｍｅ Ｅ．Ｂｉｃｋｅｎｂａｃｈ／原著編集　Ａｌａｒｃｏｓ　Ｃｉｅｚａ／原著編集　Ａ	医歯薬出版	5200	9784263215289	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。ただし、欠席、遅刻、早退、劣悪な受講態度などは減点対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	60%	授業内課題（毎回）取り組み度合い、内容について評価する。
学期末総合レポート	40%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。

受講条件	履修条件はありません。
事前・事後学修（内容・時間）	授業内で指示する内容について事前に調べて授業に参加すること（第 2 回～第 15 回 /120 分程度） 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（第 2 回～第 15 回 / 120 分程度） 授業で得た学びについて総合レポートを作成すること（第 15 回 / 120 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第1回　（講義）日本の社会保障の返還と今後 第2回　（演習）障がい児・者の世界的な位置づけ、ノーマライゼーションの考え方（ディスカッション） 第3回　（演習）高齢者、障がい児・者の特性（ディスカッション） 第4回　（講義）関連する法制度　介護保険制度 第5回　（演習）高齢者、障がい児・者に関連する法制度　障害者総合支援法（ディスカッション） 第6回　（講義）高齢者、障がい児・者に関連する法制度　地域包括ケアシステム 第7回　（演習）介護予防と理学療法（フィールドワーク） 第8回　（演習）ヘルスプロモーションと理学療法（フィールドワーク） 第9回　（演習）医療施設における連携（グループワーク） 第10回　（演習）医療施設から地域への連携（グループワーク） 第11回　（演習）地域における連携（グループワーク） 第12回　（演習）地域における高齢者・障がい児・者を見守るシステム（フィールドワーク） 第13回　（演習）地域における高齢者・障がい児・者と理学療法士（フィールドワーク） 第14回　（演習）地域における理学療法士の役割（フィールドワーク） 第15回　（講義）地域における理学療法士の可能性 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。

ナンバリング	PTBCM3008

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	92640
科目	9264 地域ケアシステム論	授業種別	週間授業
科目責任者	辻村　尚子	単位数	2 単位
担当教員	辻村　尚子、塚田　晋太朗		

授業概要	地域で生活することの意義や解決していかなければならない問題について、理学療法的視点のみならず考慮すべき関連法規や関連機関、社会資源の活用について広く学ぶ。その上で、地域における多職種連携についても理解する。さらにバリヤフリーやユニバーサルデザインなど、福祉用具の制度やその機能についても学び、個別に必要とされる住環境についても、評価及びその改修方法について学修する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	◎	◎				

到達目標	①医療保険・介護保険について教科書的に説明できる。 ②地域で生活する高齢者や障がい者の現状と課題を教科書的に説明できる。 ③地域における理学療法士の役割について教科書的に説明できる。 ④多職種連携や社会資源の活用を踏まえ地域包括ケアシステムとは何かについて教科書的に説明できる。 ④地域で生活する高齢者や障がい者の住まいの特徴や問題点について教科書的に説明できる。 ⑤福祉用具の機能とその利用方法について教科書的に説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
地域理学療法学第 2 版	牧迫飛雄馬	医歯薬出版株式会社	4730	9784263267424	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 なお、遅刻、早退や欠席、劣悪な受講態度などは減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	30%	課題に対する適切な内容になっているかを確認する
小テスト	10%	筆記試験にて理解度を確認する
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（第 2 回～ 14 回 /60 分程度） 毎授業後に資料整理と復習をすること（第 2 回～ 15 回 / 60 分程度） 授業内で指示する内容について事前に調べて授業に参加すること（第 6 回、10回 / 60 分程度） 授業内で指示する内容についてレポート作成すること（第 6 回、13 回 / 120 分程度） 第 16 回定期試験　定期試験範囲について復習すること（第 14 回、15 回 / 120 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義）ガイダンス　地域理学療法の歴史的背景、概念 第 2 回　（講義）社会資源と地域連携 第 3 回　（講義）地域包括ケアシステム 第 4 回　（講義）社会保障と福祉関連法 第 5 回　（講義）医療保険制度と介護保険 第 6 回　（講義）生活期の評価、地域理学療法評価 第 7 回　（演習）生活者としての対象者（グループワーク） 第 8 回　（演習）要介護認定とケアマネジメント（グループワーク） 第 9 回　（講義）介護保険サービスと福祉用具 第 10 回　（演習）高齢者障害者の住まいと環境整備（グループワーク） 第 11 回　（演習）福祉用具の機能とその利用（ディスカッション） 第 12 回　（講義）新たな地域連携に向けて　①　自立支援と就労支援 第 13 回　（講義）新たな地域連携に向けて　②　地域で人生の最後まで生活すること 第 14 回　（講義）災害支援と理学療法（塚田晋太朗） 第 15 回　（講義）新しい地域ケアシステムをめざして 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。

ナンバリング	PTCDM3007

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	90230
科目	9023 福祉と住環境	授業種別	週間授業
科目責任者	柳原　茂	単位数	2 単位
担当教員	柳原　茂		

授業概要	身体機能、障害の有無、年齢などに合わせた住環境づくりについて学ぶ。 住環境づくりの進め方とその中での理学療法士の役割を理解し、その上で高齢者・障がい者に関する福祉施策、住宅改修の基礎知識、高齢者・障がい者の身体機能について学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	◎				

到達目標	①住環境づくりにおける理学療法士の役割について説明できる。 ②住宅改修に関する基礎知識を身に付ける。 ③高齢者、障がい者のための住環境について理解する。 ④福祉住環境コーディネーター２級・３級の資格取得を目指す。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
生活環境学テキスト　改訂第 2 版	細田 多穂 監修	南江堂	3,900	9784524227020	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
福祉住環境コーディネーター検３級改６		東京商工会議所	2,500	9784924547650	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	その他プリントなどを使用

成績評価	期末試験、課題レポートにより評価する。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	80%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。
課題レポート	20%	課題に対して適切な内容になっているかを確認する。

受講条件	履修条件はありません。
事前・事後学修（内容・時間）	授業後に授業内容を復習すること。（60 分程度× 15 回）

授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）オリエンテーション 第２回（講義）日本の住環境の特徴と課題 第３回（講義）住環境づくりの法的制度 第４回（講義）住環境づくりの進め方 (1) 第５回（講義）住環境づくりの進め方 (2) まとめ① 第６回（講義）住環境づくりの基本 (1) 段差・スペース・床材 第７回（講義）住環境づくりの基本 (2) 手すり・建具 第８回（講義）住環境づくりの基本 (3) まとめ② 第９回（講義）部屋別住環境づくり (1) 玄関・アプローチ・廊下・階段 第 10 回（講義）部屋別住環境づくり (2) トイレ・浴室・脱衣室 第 11 回（講義）部屋別住環境づくり (3) 台所・食堂・居間・寝室 第 12 回（講義）部屋別住環境づくり (4) まとめ③ 第 13 回（講義）疾患別住環境づくり 第 14 回（講義）建築、まちづくりの基本 第 15 回（講義）まとめ④ 第 16 回　　期末試験 必要に応じて、各まとめの授業内で課題レポート、グループワーク、質問の時間を設け、疑問に対して解説します。 受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがあります。

ナンバリング	PTBCM1001

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	92050
科目	9205 基礎運動学	授業種別	週間授業
科目責任者	塚田　晋太朗	単位数	2 単位
担当教員	塚田　晋太朗、金井　章		

授業概要	運動学の定義や理学療法との関わり、そして、身体運動における生体力学、運動に伴う筋・骨格系、神経系を中心とした構造と機能を総合的に学習し運動学の基礎を修得する。また、姿勢や歩行など人体の運動・動作における身体運動のメカニズムやその基本的な分析方法の基礎を学修する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法の実務を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	①理学療法学の基礎科学としての運動学の重要性を説明できる。 ②身体運動を力学的視点（ベクトル、テコの原理、力のモーメントなど）で説明できる。 ③骨関節、筋、神経系の基本構造と機能について説明できる。 ④姿勢制御の基本的な考え方と姿勢の安定性について運動力学的に説明できる。 ⑤歩行の運動学・運動力学的特徴を説明できる。 ⑥身体運動の基本的な分析法について説明できる。 ⑦運動学習の基本的な概要について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
基礎運動学テキスト（シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ）	細田多穂（監）	南江堂	5,610 円	978-4-524-22861-4	
筋骨格系のキネシオロジー 原著第 3 版	Donald A.Neumann（原著）	医歯薬出版	13,750 円	978-4-263-26581-9	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
基礎運動学 第 7 版	中村隆一・齋藤宏・長崎浩（原著）	医歯薬出版	7,920 円	978-4-263-26682-3	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	期末試験（70%）と小テスト・課題（30%）を基準に、受講態度と出席状況も加味し、総合的に評価する。 期末試験と小テスト（課題）の点数配分については、受講学生の習熟度に応じて変更する場合がある。 ・期末試験は筆記試験にて実施する。 ・小テストや課題は単元ごと、あるいは毎回の授業ごとに実施し、評価する。 なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。

評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する。
小 テスト・課題	30%	各単元に関する講義内容を小テスト（筆記形式）、あるいは課題（筆記形式）にて理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎回の授業前に、各単元に該当する解剖学・生理学・基礎運動学の内容を再学習しておくこと（60 分程度× 14 回）。 毎回の授業前に、各単元に該当する教科書を読んでおくこと（60 分程度× 14 回） 毎回の授業後に、授業で学習した範囲の教科書と配布資料を読んでおくこと（30 分程度× 14 回）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義）　運動学概論、運動学の定義と歴史 第 2-4 回 (講義）　身体運動における生体力学 第 5 回 (講義）　骨運動学、関節運動学 第 6 - 7 回 (講義）　運動に関する神経筋骨格系の機能 第 8-10 回 (講義）　重心・姿勢・運動発達・姿勢制御 第 11 回 (講義）　運動と動作分析 第 12-14 回（講義）正常歩行と異常歩行 第 15 回（講義）　運動学習 小テスト・課題については、採点後速やかに返却するとともに講義内にてフィードバックを行う ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある

ナンバリング	PTCDM1001

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92070
科目	9207 関節運動学	授業種別	週間授業
科目責任者	塚田　晋太朗	単位数	2 単位
担当教員	塚田　晋太朗		

授業概要	基礎運動学における学習内容を基に、上肢、下肢と体幹の関節構造について理解を深め、各論として、各関節における運動メカニズムの原理と特徴について学習する。また、身体の部位別に骨運動学と関節運動学の視点から人体の正常な構造・機能と運動との関係を理解することにより、各関節の機能障害が身体運動に与える影響について学習する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法の実務を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	①骨運動学に基づく運動と、関節運動学に基づく関節包内運動を説明できる。 ②肩複合体、肘・前腕複合体、手関節、股関節、膝関節、足関節と脊柱（体軸骨格）における構造と機能について説明できる。 ③肩複合体、肘・前腕複合体、手関節、股関節、膝関節、足関節と脊柱（体軸骨格）における関節運動について説明できる。 ④肩複合体、肘・前腕複合体、手関節、股関節、膝関節、足関節と脊柱（体軸骨格）における関節運動に関連する靭帯および筋などの作用について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
筋骨格系のキネシオロジー 原著第 3 版	Donald A.Neumann（原著）	医歯薬出版	13,750 円	978-4-263-26581-9	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
運動学テキスト（シンプル理学療法学作業療法学シリーズ）改訂第 2 版	細田多穂（監）	南江堂	5,280 円	978-4-524-26548-0	
基礎運動学 第 7 版	中村隆一・齋藤宏・長崎浩（原著）	医歯薬出版	7,920 円	978-4-263-26682-3	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	定期試験と小テスト（課題）を基準に、受講態度と出席状況も加味し、総合的に評価する。定期試験と小テスト（課題）の点数配分については、習熟度に応じて変更する場合がある。 ・定期試験は筆記試験にて実施する。 ・小テスト（課題）は単元ごと、あるいは毎回の授業ごとに実施し、評価する。 なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な受講態度は減点の対象とする。

評価項目	割合	評価基準
期末試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する。
小 テスト（課題）	30%	各単元に関する授業内容を小テスト（筆記形式）、あるいは課題（筆記形式）にて理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎回の授業前に、各単元に該当する解剖学・生理学・基礎運動学の内容を再学習しておくこと（60 分程度 ×14 回）。 毎回の授業前に、各単元に該当する教科書を読んでおくこと（60 分程度 ×14 回）。 毎回の授業後に、授業で学習した範囲の教科書と配布資料を読んでおくこと（30 分程度 ×14 回）。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義）　筋骨格系の構造と機能 第 2-3 回　（講義）　肩複合体の構造と機能 第 4-5 回　（講義）　肘・前腕複合体の構造と機能 第 6-7 回　（講義）　手関節の構造と機能 第 8-9 回　（講義）　股関節の構造と機能 第 10-11 回（講義）　膝関節の構造と機能 第 12-13 回（講義）　足関節と足部の構造と機能 第 14-15 回（講義）　脊柱（体軸骨格）の構造と機能 第 16 回　　期末試験 小テスト・課題については、採点後速やかに返却し、講義内にてフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTCDM2005

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92040
科目	9204 運動学実習	授業種別	週間授業
科目責任者	塚田　晋太朗	単位数	1 単位
担当教員	塚田　晋太朗、金井　章、彦坂　潤		

授業概要	基礎運動学・関節運動学で学修した人体の構造と機能および運動の関係について、実習を通じて運動メカニズムの理解を深める。また、実習では観察によって人の基本的な動作を分析し、さらに各種の計測機器を用いて身体の運動・動作を測定し分析する。分析結果は運動学的・運動力学的な視点を基に考察し、レポートの作成を通して学修する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法の実務を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	①観察による身体動作の基本的な分析（運動学的・運動力学的）を行うことができる。 ②歩行における時間・距離因子や運動学的因子の正常パターンについて説明できる。 ③正常から逸脱した歩行パターンの特徴について説明できる。 ④筋の収縮形態や筋力との関連性、立位バランス、身体機能の特徴について説明できる。 ⑤身体の関節における運動学的特徴および構造や機能について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
運動学テキスト（シンプル理学療法学作業療法学シリーズ）改訂第 2 版	細田多穂（監）	南江堂	5,280 円	978-4-524-26548-0	
筋骨格系のキネシオロジー 原著第 3 版	Donald A.Neumann（原著）	医歯薬出版	13,750 円	978-4-263-26581-9	
PT・OT ビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 第2版	臨床歩行分析研究会（監），畠中泰彦（編）	羊土社	5,940 円	978-4-7581-0264-3	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床試論の実践	石井慎一郎（編）	MEDICAL VIEW	6,160 円	978-4-7583-1474-9	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	課題レポートの成績によって評価する。なお、遅刻・早退・欠席や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	80%	課題毎にレポートを作成し、課題の理解度を評価する（報告会での発表等を含む）。
プレゼンテーション	20%	歩行解析報告会でのプレゼンテーションおよび質疑応答の内容等を評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎回の授業前に、各単元に該当する基礎運動学（教科書と配布資料）の内容を再学習しておくこと（60 分程度× 15 回）。 毎回の授業後に、授業で学習した範囲の教科書と配布資料を読んでおくこと（60 分程度× 15 回）。 グループ実習では課題毎にレポートを作成するため、毎回の実習後に上記の参考書を中心に情報収集をし、計測データの集計等をすること（30 分程度× 6 回）。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回：（実習）オリエンテーション、動作分析に関する基礎知識と方法の説明、姿勢観察と分析 第 2 回：（実習）座位・立位・起き上がり動作の分析（ICT：iPad の動画使用） 第 3 回：（実習）立ち上がり動作の分析（ICT：iPad の動画使用） 第 4-6 回：（実習）正常歩行の分析（ICT：iPad の動画使用） 第 7-8 回：（実習）異常歩行の分析（ICT：iPad の動画使用、グループワーク） 第 9 回：（実習）歩行解析報告会（プレゼンテーション） 第 10-12 回：（実習）運動の計測と分析①「筋力測定・バランス能力測定・身体機能検査」（グループワーク） 第 13-14 回：（実習）運動の計測と分析②「上肢・下肢の関節における運動学的分析」（グループワーク） 第 15 回：まとめ（課題レポートフィードバック） 課題レポートについては採点後速やかに返却し、講義内にてフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTCDM2004

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92080
科目	9208 理学療法学概論	授業種別	週間授業
科目責任者	八木　幸一	単位数	2 単位
担当教員	八木　幸一		

授業概要	理学療法とは何か、理学療法士とはどのような専門性を持った職種なのか理解を深め、理学療法がどのような学問体系から成り立っているのか学習して、関連する専門科目を学ぶための導入部分を概説する。理学療法を必要とする対象者の全体像を理解し、対象者に必要な治療・介入のための基礎的方法を理解する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	①理学療法 (PT) 学とはどのような学問であるのか、PT 士の仕事を説明できる ② PT 学を構成する学問体系を解説し、それぞれの学習方法を説明できる ③大学 4 年間の流れ (実習や行事の時期) を把握し、学年ごとの重要科目を挙げることができる ④コミニュニケーション力を高めるためテキストを読み進め、能力を向上できる ⑤ PT に求められる資質と態度を学び、身につける事ができる

テキスト (教科書)

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
PT スタートガイド　基礎理学療法概論　改訂第 2 版	網本和	株式会社メジカルビュー社	4000	9784758322560	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	・期末試験の結果 (70%) ・課題レポートの内容 (30%) ※なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	70%	筆記試験で理解度を確認します。
課題レポート	30%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	【事前】 毎授業前に該当箇所のテキストを読んで内容を理解しておくこと。(第 1 ～ 4、6 ～ 12 回 : 60 分) グループワークに備えテキストの該当箇所の内容をまとめておくこと。(第 5、13 ～ 15 回 : 60 分) 【事後】 毎授業後に授業で得た内容を整理し復習する。(第 1 ～ 4、6 ～ 12 回 : 60 分) グループワークの内容についてポート作成をすること。(第 5、13 ～ 15 回 : 60 分)

授業の実施方法と授業計画	★ 3 回に一度程度小テストを行い、それをフィードバックします。 第 1 回　イントロダクション (講義) 第 2 回　理学療法士について (講義) 第 3 回　リハビリテーションと関連職種 (講義) 第 4 回　理学療法の方法Ⅰ (講義) 第 5 回　理学療法の方法Ⅱ (講義・演習) 第 6 回　理学療法対象の理解Ⅰ (講義) 第 7 回　理学療法対象の理解Ⅱ (講義) 第 8 回　理学療法の実際 (講義) 第 9 回　理学療法の倫理と適性Ⅰ (講義・グループワーク) 第 10 回　理学療法の倫理と適性Ⅱ (講義・グループワーク) 第 11 回　理学療法に必要な研究法 (講義) 第 12 回　理学療法関わる法令・制度 (講義) 第 13 回　理学療法の歴史と展望 (講義・演習) 第 14 回　理学療法の安全管理 (講義・演習) 第 15 回　まとめ (講義) 第 16 回　期末試験とまとめ ★各回に理学療法士教員による各分野の紹介が 15 分程度あります。

ナンバリング	PTCDM1002

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	920A0
科目	920A 基礎理学療法実習	授業種別	週間授業
科目責任者	八木　幸一	単位数	1 単位
担当教員	八木　幸一、小川　祐太、後藤　亜由美、真野　由佳子、近並　侑亮		

授業概要	理学療法の対象となる、虚弱高齢者、片麻痺、下肢切断など体験装具を装着して疑似体験し、障害が日常生活にどのような影響を及ぼすかを理解する。また、車いすによる屋内、屋外での走行や松葉杖での歩行を体験し、バリヤフリーなどの環境について考え、車いすや歩行、起居動作、食事動作、更衣動作などで安心感の得られる介助技術を修得する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	①理学療法に関連する医学用語や医療用語を正しく使うことができる ②実習で用いる医学用語や医療用語を説明できる ③各疑似体験を通して、障害が動作や日常生活に及ぼす影響を説明できる ④車いすや起居動作などの介助体験を通して、安全性を考慮した対象者への接し方や気遣いを説明・実施できる ⑤問題解決過程を説明できる ⑥理学療法士の仕事や役割などを説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	課題レポートと小テストにて判定を行う。 なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	70%	
小テスト	30%	

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	第1回は事前に自己紹介をまとめておくこと（30 分） 毎回の実習前に、提示した資料や参考書を読んでおくこと（30 分程度× 14 回）。 毎回の実習後に、学習した内容をまとめ復習すること、なお内容をレポートとしてまとめる場合もある（90 分程度× 15 回）。

授業の実施方法と授業計画	★レポートや小テストに関しては返却しフィードバックを行う 第 1 回　オリエンテーション（講義） 第 2 回　観察・コミュニケーション（実習） 第 3 回　模擬患者体験（切断患者・中枢神経障害）（実習） 第 4 回　模擬患者体験：運動療法（関節可動域訓練・筋力強化訓練）（実習） 第 5 回　車いす（自走・介助）による体験学習（屋内）（実習） 第 6 回　車いす（自走・介助）による体験学習（屋外）（実習） 第 7 回　リスク管理（日常生活場面）（演習） 第 8 回　リスク管理（臨床場面）（演習） 第 9 回　模擬病院見学：回復期病院（演習・実習） 第 10 回　病院見学：急性期病院（演習・実習）学外実施 第 11 回　回復期病院・急性期病院（演習：グループワーク・発表） 第 12 回　日常生活活動・杖（T 字、松葉杖、ロフストランドなど）（実習） 第 13 回　地域リハビリテーション（講義＋演習） 第 14 回　各種体験装具を用いた体験学習（演習：グループワーク） 第 15 回　各種体験装具を用いた体験学習（演習：グループワーク） 3 回に 1 回程度まとめを行い小テストなどでフィードバックを行います。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTCDM1003

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	920B0
科目	920B 運動機能解析学	授業種別	週間授業
科目責任者	金井　章	単位数	1 単位
担当教員	金井　章		

授業概要	変形性関節症や、骨折など、運動器系の障がいにより関節の可動域制限や筋力低下が生じれば、歩行能力は低下し、日常の生活が大きく制限されることになる。また、スポーツ選手ではパフォーマンスの低下を生じることで、競技への参加が困難となる。そこで、そのような疾患や高齢者、スポーツ選手などに対し、効果的な理学療法を実施するため「動作解析に基づく障がい予防システムの構築」について学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	①人の動作に与える疾患の影響を説明できる ②障がいにより生じる運動機能制限を説明できる ③動作を解析する手法を説明できる ④動作の変容を生体力学的に考察する手法を説明できる ⑤動作解析結果を分析し、問題点を抽出する手法を説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
解いてなっとく使えるバイオメカニクス	前田哲男／著 木山良二／著 大渡昭彦／著	医学書院	3500	9784260021616	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
必要に応じて紹介する					

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	中間試験および課題報告会にて評価する なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な学習態度は減点の対象とする	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	60%	筆記試験にて理解度を確認します。
課題報告会	40%	課題に対して適切な内容か、聴衆の理解を助ける内容かを評価する。

受講条件	なし
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（第 2 ～ 8 回 /30 分） 授業内で指示する内容について事前に調べて授業に参加すること（第 2 ～ 8 回 /60 分） 毎授業後に授業で得た学びについて確認すること（第 1 ～ 8 回 /60 分）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（演習）姿勢制御・重心・力のモーメント・重心動揺（グループワーク） 第 2 回　（演習）リーチ動作・歩行速度・床反力・関節モーメント（グループワーク） 第 3 回　（演習）立ち上がり・歩行（グループワーク） 第 4 回　（演習）起き上がり・車椅子（グループワーク） 第 5 回　（講義）中間試験・3次元動作解析装置を用いた動作計測（グループワーク） 第6回　（演習）報告会まとめ（グループワーク） 第7回　（演習）課題報告会 1（プレゼンテーション） 第 8 回　（演習）課題報告会 2（プレゼンテーション） 課題については、授業内で質問や疑問などに関するフィードバックを行う ただし、受講生の習熟度により授業内容を変更することがある

ナンバリング	PTDM3027

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	920C0
科目	920C 生体機能学	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤　勝正	単位数	1 単位
担当教員	後藤　勝正		

授業概要	生体機能は、生体内外からの刺激に応じて変化し、場合により適応を示す。その適応は、負荷される刺激を受容し、遺伝子発現を介して引き起こされる。また、負荷される刺激条件により機能の亢進あるいは機能低下がもたらされる。こうした適応が、疾病やトレーニング効果発現に関わる。そこで、生体が刺激を受容して、適応を示す機序の概要を理解する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	本授業では、主として「医療人として必要な基本的な知識の獲得」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①様々な刺激に対する生体応答の概要を説明できる ②様々な刺激に対する生体機能適応の概要を説明できる ③健康の維持増進における様々な刺激の活用法について説明できる ④廃用性症候群と生体への刺激の関係について説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
骨格筋肥大のサイエンスとトレーニングへの応用	後藤勝正（監修・翻訳）	ナップ	5,940 円	9784905168690	冊子版
骨格筋に対するトレーニング効果	山田茂・福永哲夫（編著）	ナップ	3,010 円	9784931411357	冊子版
加齢と運動の生理学	宮原 英夫	朝倉書店	4800	9784254690446	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 その他、参考書などは必要に応じて紹介する。

成績評価	事前学習レポート、授業中の口頭試問および最終レポートにより評価する。 なお、出席点は設定しないが、遅刻や欠席、劣悪な授業態度は減点の対象とする。 点数配分は変更することがあるが、その際は、適宜提示する。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。

評価項目	割合	評価基準
事前学習レポートおよび 授 業中の 口頭試問	40%	事前学習として、テーマに対する適切な内容を調べ、質問に対して適切に回答できるか確認する。
最終レポート	60%	授業での学修を踏まえての学修事項に関する基本的事項に関して評価する。

受講条件	履修条件はありません。
事前・事後学修（内容・時間）	授業内で指示する内容について、事前に調べて、レポートを作成すること（第 2 ～ 8 回／ 90 分程度）。 授業後に学習した内容を復習すること（第 2 ～ 8 回／ 30 分程度）。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。

授業の実施方法と授業計画	第1回　（講義）オリエンテーション　ホメオスタシスと可塑性 第2回　（講義）骨格筋の適応（萎縮） 第3回　（講義）骨格筋の適応（肥大） 第4回　（講義）骨格筋の適応（損傷と再生） 第5回　（講義）循環器系の適応 第6回　（講義）呼吸器系の適応 第7回　（講義）不活動の影響 第8回　（講義）遺伝子発現と可塑性制御 受講学生の人数にもよるが、学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う予定である。 レポートなどの課題については、授業内･授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTDM3028

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	920D0
科目	920D 地域健康支援学	授業種別	週間授業
科目責任者	湯口　聡	単位数	1 単位
担当教員	湯口　聡		

授業概要	地域障がい者、特に社会福祉のニーズの高い高齢虚弱者 (フレイル) や要介護高齢者に焦点をあて、尊厳性が確保されたなかで地域において自立した生活が実現されるよう、医療、保健、住まい、日常的サポートなど生活支援にかかわる領域や場面と関連させながら実際的介入方法を学習する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	◎	◎				

到達目標	①高齢者および障がい者に対する「地域健康支援」の体制の現状が、どのような状態なのかを理解する。 ②理学療法という専門性からみた「地域健康支援」の在り方を考え、理解する。 ③将来に向けた「地域健康支援」に資する理学療法を考え、研究の意義を理解する。

テキスト (教科書)

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	講義用資料は適宜、毎回の講義で配布を行う。

成績評価	授業中における課題に対する内容の理解度やレポート課題の成績から評価する。なお、遅刻や早退、劣悪な受講態度は減点対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
講義毎の課題	50%	講義内容に即した課題を提示し、これにより、学習への理解度と学習態度を評価する。
課題レポート	50%	全講義終了後にレポートを課し、学習内容の理解度、考察力を問う。

受講条件	なし
事前・事後学修 (内容・時間)	事前 : 必要に応じて、課題を課す場合がある。分担課題の担当となる場合は2時間程度必要。 事後 : 授業内容の復習と授業内容についてどう感じたか、何を考えたかという視点で振り返り学習を行う (毎回1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	1. 高齢者の住みよい地域について考える (講義) 2. フレイルについて① - 身体的フレイル・サルコペニア (講義) 3. ケーススタディ① - 運動の継続について (演習) 4. フレイルについて② - 認知的フレイル・社会的フレイル (講義) 5. ケーススタディ② - 高齢者の移動手段の確保について (演習) 6. ロコモディブシンドロームと骨粗鬆症 (講義) 7. ケーススタディ③ - 骨折予防について (演習) 8. 地域健康支援のためのより良い対策を考える (講義と課題レポート) なお、提出課題については、実施後、授業時間内に何らかの形でフィードバックを行い、受講生の理解を深めるように努める

ナンバリング	PTDM3029

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	90460
科目	9046 安全管理論	授業種別	週間授業
科目責任者	辻村　尚子	単位数	1 単位
担当教員	辻村　尚子		

授業概要	理学療法士の職域は拡大し、職場に応じた安全対策について理解していることが必要である。そこで安全管理の基本となる知識を修得し、医療機関に限らず、施設、地域などさまざまな場面での患者安全について学ぶ。また、安全文化を形成するための組織、施設、および実践活動への理解を深める。その上で危機状態の回避、有害事象への対応、システムの変革などの理学療法部門の管理運営上の基本的方策を学修する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	◎				

到達目標	理学療法士として必要とされる安全管理の基本となる知識を修得することを目標とする。 ①患者安全とは何かを教科書的に説明できる ②理学療法業務における事故防止について説明できる ③医療機関での安全対策について説明できる ④生活の場での安全対策について説明できる ⑤組織としての安全対策について説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
【改訂第2版】在宅・訪問リハビリテーションリスク管理実践テキスト　ホスピタリティに基づく医療サービス	石黒友康／監修　大森豊／監修	診断と治療社	3,000	9784787819925	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 なお、遅刻、早退や欠席、劣悪な受講態度などは減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題発表・レポート	30%	課題に対する適切な内容・発表になっているかを評価する
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する（基礎問題 60%、応用問題 40%）

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（第 2 ～ 8 回 /120 分程度） 毎授業後に授業で得た学びについて資料を復習すること（第 1 回～ 8 回 /120 分程度） 第 9 回定期試験　定期試験範囲の復習を行うこと（第 7 回～ 8 回 / 60 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義）ガイダンス　感染症と感染対策 第 2 回　（講義）患者安全を学ぶことの必要性を知る「医療事故と安全対策」 第 3 回　（講義）理学療法業務と医療事故①　総論 第 4 回　（講義）理学療法業務と医療事故②　各論 第 5 回　（演習）危険要因分析と事故防止（グループワーク） 第 6 回　（演習）施設の安全管理　（プレゼンテーション） 第 7 回　（講義）在宅での医療安全　緊急時の対応、転倒防止、個人情報の取り扱い 第 8 回　（講義）摂食と事故「誤嚥、異食、窒息」 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTBCM3009

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	920F0
科目	920F 理学療法教育管理学	授業種別	週間授業
科目責任者	金井　章	単位数	1 単位
担当教員	金井　章		

授業概要	医療保険制度、介護保険制度を理解し、理学療法部門を含めた施設の組織、部門間の連携、診療報酬算定、人事労務管理などを含め、施設、病棟などの管理運営について学ぶ。また、人材育成のための社会人基礎力の形成、学術活動への参加、各種資格の取得、職業倫理の理解、臨床実習指導方法などについて学修する。 ★この科目は、当該授業内容に関する理学療法管理教育の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義を行う科目である。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎					

到達目標	①医療人材育成のための基礎力について説明できる ②卒前・卒後の理学療法教育について説明できる ③診療参加型臨床実習について説明できる ④医療保険制度、介護保険制度を理解し、理学療法部門を含めた組織の管理運営について説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じてプリントを配布する

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できたかを、演習課題への取り組み、課題レポートで評価します。 なお、遅刻、欠席や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
演習課題	30%	演習内容を理解して適切に記述し、協調的に取り組めたかを評価する
課題レポート	70%	課題内容を理解し、適切にまとめられているかを評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	授業内容について事前に調べて授業に参加すること（第 1 ～ 8 回 /90 分） 毎授業後に授業で得た学びについて確認すること（第 1 ～ 8 回 /60 分）

授業の実施方法と授業計画	第1回　（講義・演習：金井）理学療法教育カリキュラム 第2回　（講義・演習：金井）客観的臨床能力試験と診療参加型臨床実習 第3回　（講義・演習：金井）臨床実習指導 第4回　（講義・演習：金井）理学療法士国家試験とグループワーク 第5回　（講義・演習：金井）卒後の専門性の獲得と学術活動 第6回　（講義・演習：金井）理学療法に関するキャリアパスの形成 第7回　（講義：松山）理学療法職場管理（回復期病院） 第8回　（講義：松山）理学療法職場管理（訪問リハビリ・老人保健施設） ★演習課題については、授業内で質問や疑問に対するフィードバックを行います ★ただし、学生の習熟度により授業計画を変更することもあります

ナンバリング	PTBCM3010

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	920G0
科目	920G 教育原理	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤　圭一	単位数	2 単位
担当教員	伊藤　圭一		

授業概要	教えることは学ぶことと言われている。教育を、” 対人的なはたらきかけ”、” 人間同士の相互作用” といった広い意味でとらえていく。そして、なぜ人間に他者からのはたらきかけや、他者との相互作業が必要で、さらにそのような人間関係をどうすればつくることが出来るのか、教育の方法も踏まえて検討する。「教える」場面は学校に限らず職場でも存在する。教えることを事例＝実際の場面を想定してどうすべきかを考えていく。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎					

到達目標	①教育が人間にとって必要であることを理解し教育を実践できる ②教育と社会との関係を学び、学校の社会的な位置づけについて理解できる ③教育の方法について理解して、将来、それを生かして他人に説明ができる ④学びについて理解した内容を「教える」活動をする際に役立てることができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	講義後の課題・講義への積極性・レポートにより評価します。 ３つの角度から教育についての理解を評価します。	
評価項目	割合	評価基準
講義後の課題	20%	毎回、講義に関わるテーマから出題し回答していただきます。講義についての理解を確認します。
講義への積極性	30%	講義での積極性を評価します。
レポート	50%	講義の理解度を評価します。

受講条件	履修条件はありません
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業後に授業で学び得た知識を生かして行う小課題（第 2 回から 14 回　0.5 時間程度） 授業内で指示する内容について事前に調べておく（第 2 回から 15 回　1 時間程度） レポート（第 14 回・15 回　2 時間程度分）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　【講義】ガイダンス 第 2 回　【講義】教育の意義（グループワーク） 第 3 回　【講義】教育の目的（グループワーク） 第 4 回　【講義】教育と児童福祉のつながり（グループワーク） 第 5 回　【講義】人間形成と家庭・地域・社会（グループワーク） 第 6 回　【講義】教育制度の基礎（グループワーク） 第 7 回　【講義】様々な国の教育思想家たち（グループワーク） 第 8 回　【講義】日本の教育思想と歴史（グループワーク） 第 9 回　【講義】近代教育成立の歴史（グループワーク） 第 10 回　【講義】子ども観と教育観の変遷（グループワーク） 第 11 回　【講義】教育行政及び学校経営の基礎（グループワーク） 第 12 回　【講義】教育行政及び学校経営の基礎（グループワーク） 第 13 回　【講義】教育実践の多様な取り組み（グループワーク） 第 14 回　【講義】生涯学習社会と教育（グループワーク） 第 15 回　【講義】理想の授業とは ※教えることを実践する回があります。 ※小課題は毎回、テキストからキーワードを挙げてきていただくことです。授業内でキーワードの答え合わせをする形でフィードバックします。 ※授業内で実施した小テストはなどは採点後返却します。課題、レポート等については必要に応じてコメントを加えてフィードバックします。試験についても必要であればフィードバックします。 ※講義の順序は変更することがあります。 ※ Googleclassroom を使用して資料提供し Google フォームで課題を提供します。 ※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがあります。

ナンバリング	PTBCM3011

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92130
科目	9213 理学療法評価学	授業種別	週間授業
科目責任者	彦坂　潤	単位数	2 単位
担当教員	彦坂　潤、金井　章		

授業概要	理学療法における評価の目的、対象、方法、記録、解釈までの一連の流れを学ぶ。そのために、問診、観察から基本的な形態計測、関節可動域、筋力等の検査・測定に関する知識・技術を体験し、安全に配慮しながら実施できることを目標にする。また、評価に必要な情報の収集、評価結果の記録方法、問題点の抽出から、理学療法プログラムまでを結びつける手法を理解する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法の実務を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	①理学療法における評価の意義・目的を挙げることができる ②形態測定の方法を挙げることができる ③関節可動域測定表示ならびに測定法の各項目について基本軸、移動軸、参考可動域を挙げることができる ④徒手筋力検査測定表示ならびに測定法の各項目において、運動方向、段階づけ、代償動作などを挙げることができる ⑤感覚検査、反射検査、筋トーヌス、片麻痺機能検査、高次脳機能、認知機能などの意義・目的を挙げることができる ⑥ ADL、QOL の意義・目的を挙げることができる ⑦基本的動作能力、動作分析の意義・目的を挙げることができる ⑧評価の記録、評価結果についての統合と解釈ができる ⑨評価結果を分析し、問題点を抽出し、理学療法に応用できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
理学療法評価学 第 6 版補訂版	松澤 正	金原出版	6,200	9784307750684	
新・徒手筋力検査法　原著第 10 版	Dale Avers 著	協同医書出版社	7,800	9784763900418	1

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
理学療法評価学・実習	森山英樹	中山書店	2,600	9784521750088	
【改訂18版】ベッドサイドの神経の診かた	田崎義昭／著 斎藤佳雄／著	南山堂	7,200	9784525247980	
2022年改訂準拠　第2版臨床ROM		ヒューマン・プレス	4,200	9784908933417	
ぜんぶわかる筋肉の名前としくみ事典　部位別にわかりやすくビジュアル解説	肥田岳彦／監修 山田敬喜／監修	成美堂出版	1,500	9784415310008	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	定期試験と小テストの成績から評価する。欠席、遅刻、早退、劣悪な授業態度は減点対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50%	筆記試験にて理解度を確認する。
小テスト	50%	筆記試験にて理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習 ①指定箇所まで教科書を読んでおくこと（60 分程度× 14 回） ②指示内容について事前に調べ授業に臨む（60 分程度× 14 回） 事後学習 ③授業で得た学びについてレポートを作成すること（120 分程度× 14 回） ④小テストの復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと (120 分程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義）　理学療法評価の目的、情報収集と問診 第 2 回　（講義）形態計測の意義・目的 第 3 回（講義）　関節可動域評価の意義・目的 第 4 回（講義）　筋力評価の意義・目的 第 5 回（講義）　感覚、疼痛評価の意義・目的 第 6 回（講義）　反射、筋トーヌス検査の意義・目的 第 7 回（講義）　姿勢反射、協調性、片麻痺機能検査の意義・目的 第 8 回（講義）　高次脳機能、認知機能評価の意義・目的 第 9 回（講義）　ADL、QOL 評価の意義・目的 第 10 回（講義）基本的動作能力、動作分析の意義・目的 第 11 回（講義）評価の記録 (SOAP) 第 12 回（講義）評価結果についての統合と解釈 第 13 回（講義）ICF 概論、問題点の抽出 第 14 回（講義）目標設定からプログラム立案までの流れ 第 15 回（講義）再評価、プログラムの修正、臨床過程の検証 第 16 回　定期試験 小テストについては講義内にてフィードバックを行う ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります

ナンバリング	PTDM2005

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92140
科目	9214 理学療法評価学実習	授業種別	週間授業
科目責任者	彦坂　潤	単位数	1 単位
担当教員	彦坂　潤、中村　佳代、大橋　和也、藤原　光宏、鵜殿　由佳		

授業概要	理学療法評価学で学習した基本的な評価技術について実習を行い、その技術を高めることを目的とする。問診、観察から基本的な形態測定、関節可動域、筋力の評価までを実際に行うことで、基本的な運動機能を理解するために必要な技術を修得する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	①対象者の全体像把握のための医療面接ができる ②四肢の形態計測ができる ③関節可動域測定表示ならびに測定法に基づき測定ができる ④徒手筋力検査法 (MMT) に基づき測定ができる

テキスト (教科書)

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
理学療法評価学 第 6 版補訂版	松澤 正	金原出版	6200	9784307750684	
新・徒手筋力検査法　原著第 10 版	Dale Avers 著	協同医書出版社	7800	9784763900418	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
２０２２年改訂準拠　第2版臨床ROM		ヒューマン・プレス	4200	9784908933417	
理学療法評価学・実習	森山英樹	中山書店	2600	9784521750088	
形態測定・感覚検査・反射検査　第 2 版	伊藤俊一	三輪書店	3800	9784895904841	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	定期試験と小テストの成績から評価する。欠席、遅刻、早退、劣悪な授業態度は減点対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50%	実技試験にて理解度を確認する。
小テスト	50%	実技試験にて理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	事前学習 ①事前に配布される講義動画を確認し、指定箇所まで教科書を読んでおくこと (30 分程度× 14 回) ②指示内容について事前に調べ授業に臨むこと (60 分程度× 14 回) 事後学習 ③授業で得た学びについて表やレポートを作成すること (60 分程度× 14 回) ④小テストの復習を行い、定期試験範囲の実技等復習を行うこと (120 分程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　(講義・実技) オリエンテーション　全体像把握と医療面接 第 2 回　(講義・実技) 形態計測 第 3 回　(実技小テスト) 形態計測 第 4 回　(講義・実技) 関節可動域評価① 上肢 (肩・肘・前腕・手関節) 第 5 回　(実技小テスト) 関節可動域評価② 上肢 (肩・肘・前腕・手関節) 第 6 回　(講義・実技) 関節可動域評価③ 下肢 (股・膝・足関節) 第 7 回　(実技小テスト) 関節可動域評価④ 下肢 (股・膝・足関節) 第 8 回　(講義・実技) 関節可動域評価⑤ 頸部・体幹・肩甲帯 第 9 回　(実技小テスト) 関節可動域評価⑥ 頸部・体幹・肩甲帯 第 10 回　(講義・実技) 徒手筋力検査法① 上肢 (肩・肘・前腕・手関節) 第 11 回　(実技小テスト) 徒手筋力検査法② 上肢 (肩・肘・前腕) 第 12 回　(講義・実技) 徒手筋力検査法③ 下肢 (股・膝・足関節) 第 13 回　(実技小テスト) 徒手筋力検査法④ 下肢 (股・膝・足関節) 第 14 回　(講義・実技) 徒手筋力検査法⑤ 頸部・体幹・肩甲骨 第 15 回　(実技小テスト) 徒手筋力検査法⑥ 頸部・体幹・肩甲骨 第 16 回　定期試験 (実技) 小テスト実施後、講義内にてフィードバックを行う 受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある

ナンバリング	PTDM2006

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	92170
科目	9217 神経理学療法評価学	授業種別	週間授業
科目責任者	藤原　光宏	単位数	1 単位
担当教員	藤原　光宏		

授業概要	神経理学療法領域の評価を学習し、評価の目的と具体的方法を理解する。脳血管障害後片麻痺によって生じる意識、運動、感覚、高次脳機能の障害や、パーキンソン病、運動失調症、脊髄損傷、変性疾患など疾患別に機能障害、日常生活動作を含んだ能力障害の評価方法と医用画像の評価を学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	①神経理学療法領域で使用される評価項目をあげることができる。 ②各評価項目を実施する目的を説明することができる。 ③各評価の結果を解釈することができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
診察ができる vol.1 身体診察	医療情報科学研究所 編集	メディックメディア	8800	978-4-89632-913-1	
病気がみえる vol.7 脳・神経　第 2 版	医療情報科学研究所 編集	メディックメディア	3900	9784896326864	
理学療法評価学 第 6 版補訂版	松澤 正	金原出版	6200	9784307750684	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	中間テストと期末テストの成績から評価する。なお、遅刻や早退、劣悪な受講態度は減点対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
中間テスト	40%	講義で教示した検査・評価に関わり、その意義や身体の機能についての理解を評価する。
期末テスト	60%	講義で教示した検査・評価に関わり、その意義や身体の機能についての理解を評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習（90 分程度× 8 回） ・講義の内容と日程は事前に配布する。講義内容に当たるテキストの範囲に目を通しておくこと。 事後学習（150 分程度× 8 回） ・毎回の講義内容に関する復習を十分にしておくこと。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義）神経理学療法評価とは 第 2 回（講義）筋緊張検査・反射検査 第 3 回（講義）感覚検査 第 4 回（講義）脳神経検査 第 5 回（講義）中間テスト・協調性検査 第 6 回（講義）高次脳機能検査 第 7 回（講義）ADL 検査、バランス検査・動作分析 第 8 回（講義）神経疾患における医用画像の評価 第 9 回　期末テスト ※ ただし、受講生の習得度に応じて授業計画を変更することもあり得る。 中間試験の結果については、採点後に速やかに返却し、フィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM2007

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	92180
科目	9218 神経理学療法評価学実習	授業種別	週間授業
科目責任者	藤原　光宏	単位数	1 単位
担当教員	藤原　光宏、中村　佳代、塚田　晋太朗、菅野　泰佑、鈴木　義尚		

授業概要	反射反応、意識、高次脳機能、ADL、動作分析など神経理学療法領域で共通して用いられる検査手技を実習し、障害像を把握するための具体的評価方法を体得する。併せて、疾患ごとに行われる個別の検査、評価方法を身につけ障害の重症度と問題点を把握するための方法を学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	①神経理学療法領域で使用される検査・評価項目を挙げることができる。 ②各検査・評価項目を実施する目的を説明することができる。 ③各検査・評価項目を適切に実施して記録することができる。 ④各検査・評価の結果を解釈することができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
診察ができる vol.1 身体診察	医療情報科学研究所	メディックメディア	8800	9784896329131	
理学療法評価学 第 6 版補訂版	松澤 正	金原出版	6200	9784307750684	
病気がみえる vol.7 脳・神経　第 2 版	医療情報科学研究所 編集	メディックメディア	3900	9784896326864	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	中間実技試験と、期末実技試験と筆記試験の成績から評価する。なお、遅刻や早退、劣悪な受講態度は減点対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
中間実技試験・口頭試問（2 回）	30%	実習で教示した方法に基づき検査・評価を適切に行い、結果の解釈を説明できるかを評価する。
期末実技試験・口頭試問	30%	実習で教示した方法に基づき検査・評価を適切に行い、結果の解釈を説明できるかを評価する。
期末筆記試験	40%	実習で教示した検査・評価の理解を確認するために、筆記形式の試験を実施し評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習（30 分程度× 15 回） ・実習で使用する資料をあらかじめ配布しておく。当該実習の範囲に目を通しておくこと。 事後学習（90 分程度× 15 回） ・中間実技試験を 2 回と、期末実技試験と筆記試験をそれぞれ 1 回実施する。毎回の実習後に実習内容についての復習を各自で十分に実施しておくこと。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（実習）オリエンテーション・筋緊張検査 第 2 回（実習）反射検査 第 3 回（実習）感覚検査 第 4 回（実習）失調検査 第 5 回（実習）バランス検査 第 6 回（実習）脳神経検査 第 7・8 回（実習）中間実技試験とフィードバック 第 9 回（実習）高次脳検査 第 10 回（実習）片麻痺機能検査 第 11 回（実習）動作分析 第 12 回（実習）SIAS・神経疾患における医用画像の評価 第 13 回（実習）中間実技試験 第 14・15 回（実習）神経系検査のまとめ（患者様実習） 第 16 回　期末筆記・実技試験 ※ 中間実技試験の結果はすみやかに返却し、フィードバックを行う。 ※ 各実習においてはグループワークなどのアクティブラーニング形式をとる。 ※ ただし、受講生の習得度に応じて授業計画を変更することもあり得る。

ナンバリング	PTDM2008

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	921A0
科目	921A 運動器理学療法評価学	授業種別	週間授業
科目責任者	大橋　和也	単位数	1 単位
担当教員	大橋　和也		

授業概要	運動器理学療法は骨、関節および骨格筋などの運動器疾患を対象に実施される。そこで、各運動器疾患における病態の特徴と評価方法、医用画像の評価について学ぶと共に、各病態に対する理学療法の理解を深める。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	①運動器の構造を説明できる ②運動器の機能を説明できる ③運動器疾患における病態の特徴を説明できる ④運動器疾患における病態の評価方法を説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
運動器障害理学療法学Ⅰ　第 2 版		中山書店	2600	9784521744940	
運動器障害理学療法学Ⅱ　第 2 版		中山書店	2600	9784521744957	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	期末試験および課題の成績で評価する。課題については、遅刻・早退・欠席・劣悪な受講態度などを加味して総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	80%	筆記試験にて理解度を確認する。
課題	20%	授業で出題した小テストを含む課題に適切に解答できているかを評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 1. 事前に授業テーマに該当するテキストの内容を確認すること（第 1 ～ 8 回 /120 分程度） 2. 授業で学んだ内容を再確認すること（第 1 ～ 8 回 /120 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義）組織の再生・修復1 第 2 回（講義）組織の再生・修復2 第 3 回（講義）骨折と脱臼 1（医用画像の評価を含む） 第 4 回（講義）骨折と脱臼 2（医用画像の評価を含む） 第 5 回（講義）高齢者の四大骨折 1（医用画像の評価を含む） 第 6 回（講義）高齢者の四大骨折 2（医用画像の評価を含む） 第 7 回（講義）高齢者の四大骨折 3（医用画像の評価を含む） 第 8 回（講義）高齢者の四大骨折 4（医用画像の評価を含む） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 課題については適宜授業内でフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM2010

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	921B0
科目	921B 運動器理学療法評価学実習	授業種別	週間授業
科目責任者	大橋　和也	単位数	1 単位
担当教員	大橋　和也、小川　祐太、今泉　史生、未定		

授業概要	運動器理学療法は骨、関節および骨格筋などの運動器疾患を対象に実施される。そのため、運動器疾患を理解し、適切に評価することが重要である。そこで、運動器疾患における病態の特徴と評価方法について実習を通して理解を深める。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	①運動器疾患における病態の特徴を説明できる ②運動器疾患における病態の評価方法を説明できる ③関節機能を評価できる ④骨格筋機能を評価できる ⑤神経機能を評価できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
運動器障害理学療法学Ⅰ　第 2 版		中山書店	2600	9784521744940	
運動器障害理学療法学Ⅱ　第 2 版		中山書店	2600	9784521744957	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	レポート課題および課題発表の成績によって評価する。ただし、遅刻・早退・欠席・劣悪な受講態度などは減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
レポート課題	80%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する。
課題発表	20%	課題への取り組み、課題に対する適切な内容になっているかを評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 ・授業で学んだ内容、該当するテキストの内容を再確認すること。また、レポートが課された場合にはレポートを作成すること。（15 回 /120 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回（講義）運動器理学療法評価学実習の概要 第 2 回（講義・演習）画像評価 第 3 回（実習）機器を用いた筋機能検査 1（グループワーク） 第 4 回（実習）機器を用いた筋機能検査 2（グループワーク） 第 5 回（実習）関節可動域測定と運動器疾患 第 6 回（実習）他動による関節可動域測定 第 7 回（実習）徒手筋力検査と運動器疾患 第 8 回（実習）形態計測と運動器疾患 第 9 回（実習）感覚検査・反射検査と運動器疾患 第 10 回（実習）疼痛検査と運動器疾患 第 11 回（演習）高齢者の四大骨折の理学療法評価立案（グループワーク） 第 12 回（講義）スポーツ障害の理学療法評価と安全管理（ヒヤリハット、安全配慮義務、AED、応急手当てなど）* 第 13 回（実習）スポーツ障害の理学療法評価（実技） 第 14 回（演習）運動器疾患の理学療法評価症例検討 1（グループワーク）（ICT：スマートフォン、タブレット等を使用し、症例に対する課題発表用動画の作成を行う） 第 15 回（演習）運動器疾患の理学療法評価症例検討 2（課題発表） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 レポート課題については授業内で適宜フィードバックを行う。 * パラスポーツ指導者資格（初級）取得にはこの回の出席が必須

ナンバリング	PTDM2011

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	921C0
科目	921C 内科系理学療法評価学	授業種別	週間授業
科目責任者	瀧野　皓哉	単位数	1 単位
担当教員	瀧野　皓哉		

授業概要	内部（循環、呼吸、代謝）障害の病態を適切に理解した上で、各病態に起因する運動障害の要因を明らかにするための検査・測定法と理学療法評価方法を学修する。また、内部系障害により生じる運動機能への影響についての基礎知識を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	到達目標は、チーム医療に対応するべく、内科系障害理学療法の臨床的位置づけと理学療法評価方法について理解し習得することである ①循環器疾患の病態を理解、把握した上で理学療法評価方法を選択できる ②循環器疾患の合併症のを理解し、安全に理学療法評価を実施するための注意点を理解できる ③呼吸器疾患の病態を理解、把握した上で理学療法評価方法を選択できる ④呼吸器疾患の合併症を理解し、安全に理学療法評価を実施するための注意点を理解できる ⑤糖尿病の病態を理解、把握した上で理学療法評価方法を選択できる ⑥糖尿病の合併症を理解し、安全に理学療法を実施するための評価方法を理解できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	講義前の小テストと定期試験の成績から評価する。なお、出席点は設定しないが、遅刻や欠席、劣悪な受講態度などは減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	40%	講義内容の理解度を確認する
定期試験	60%	講義全般の理解度を試験により確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	内科系（循環・呼吸・代謝）疾患へ対する理学療法学を学ぶため、各講義の事前に教科書を熟読し、内科系疾患について、各自、予習し講義へ臨むこと（第 1~8 回 /60 分程度） 各講義により学修した内容について、まとめる（第 1~7 回 /120 分程度） 各講義内において提示する復習問題に取り組む（第 1~7 回 /60 分程度）

授業の実施方法と授業計画	1 回　（講義）循環器の機能と構造 2 回　（講義）循環器疾患の評価 3 回　（講義）呼吸器の機能と構造 4 回　（講義）呼吸器疾患の評価 5 回　（講義）代謝の機能と構造 6 回　（講義）代謝疾患の評価 7 回　（講義）血管の機能と構造、ならびにその評価 8 回　（講義）内科系理学療法評価まとめ、テスト ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある 講義初めに前回の講義内容についての確認テストを実施する。テストで間違いが多かった項目や全体で共有すべき質問事項については授業内にてフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM3030

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	921D0
科目	921D 内科系理学療法評価学実習	授業種別	週間授業
科目責任者	瀧野　皓哉	単位数	1 単位
担当教員	瀧野　皓哉、湯口　聡、後藤　亜由美、内藤　敏博		

授業概要	内部（循環器、呼吸器、代謝）障害の各病態に起因する運動障害を正確に評価し各病態を把握するために必要な検査、測定および評価法を実習を通して学修する。また、循環機能、呼吸機能、代謝機能検査の目的や方法を習得し、得られた情報を解析し、内部系疾患障害症例に対して適切な検査項目を選択する能力を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	到達目標は、チーム医療において内科系障害理学療法の臨床的位置づけと介入方法の判断することを考えることができ、対象患者へのリスク層別と運動処方を臨機応変に理学療法計画へ組み込めること ①フィジカルサインを正確にとらえて、正しく計測することができる ②運動中のフィジカルサインを正確に計測することができる ③運動負荷方法により、フィジカルサインの反応が異なることを理解できる ④運動負荷強度と心拍数、血圧値の関連性を理解できる ⑤循環器疾患に関する評価指標を正しく理解し計測することができる ⑥呼吸器疾患に関する評価指標を正しく理解し計測することができる ⑦代謝疾患に関する評価指標を正しく理解し計測することができる ⑧急性期内科系疾患に関する評価指標を正しく理解し計測することができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	講義ノート、小テスト、期末レポートの成績から評価する。なお、出席点は設定しないが、遅刻や欠席、劣悪な受講態度などは減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
実習毎の課題	40%	実技内容等の理解度を確認する
小テスト	30%	実習内容の理解度について確認テストを行う。
課題レポート	30%	講義全般の理解度をレポートにより確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	安静時や運動時の反応について測定実習を行うので、生理学、生理学実習、運動療法学、理学療法評価学で履修した、バイタルサインや呼吸機能検査について、各自講義を受講する前に、十分に復習した上で教科書を熟読し講義に臨むこと　（第 1~15 回 /30 分程度） 各講義・実習により学修した内容について、まとめる（第 1~15 回 /60 分程度） 各講義・実習内において提示する復習問題に取り組む（第 1~15 回 /30 分程度）

授業の実施方法と授業計画	1 回（講義・実習）内科系理学療法評価学総論 2 回（講義・実習）フィジカルアセスメント① / 血液生化学データ① 3 回（講義・実習）フィジカルアセスメント② / 血液生化学データ② 4 回（講義・実習）心電図① / レントゲン・CT・呼吸機能検査① 5 回（講義・実習）心電図② / レントゲン・CT・呼吸機能検査② 6 回（講義・実習）心電図③ / レントゲン・CT・呼吸機能検査③ 7 回（講義・実習）サルコペニア・フレイルの評価 / 運動耐容能の評価 8 回（講義・実習）内科系理学療法評価まとめ（小テスト・フィードバック）① 9 回（講義・実習）身体機能・フィールドテスト① / 心肺運動負荷試験① 10 回（講義・実習）身体機能・フィールドテスト② / 心肺運動負荷試験② 11 回（講義・実習）疾患別（循環・呼吸・代謝・その他）の理学療法評価① / 疾患別（循環・呼吸・代謝・その他）の理学療法評価② 12 回（講義・実習）疾患別（循環・呼吸・代謝・その他）の理学療法評価③ / 疾患別（循環・呼吸・代謝・その他）の理学療法評価④ 13 回（講義・実習）疾患別（循環・呼吸・代謝・その他）の理学療法評価⑤ / 疾患別（循環・呼吸・代謝・その他）の理学療法評価⑥ 14 回（講義・実習）疾患別（循環・呼吸・代謝・その他）の理学療法評価⑦ / 疾患別（循環・呼吸・代謝・その他）の理学療法評価⑧ 15 回（講義・実習）内科系理学療法評価まとめ（小テスト・フィードバック）② ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある 講義では実際の検査方法や評価のアセスメントについてデモンストレーションしながら進める予定である。演習で実施する内容について適宜コメントを付加するなどフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM3031

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	921E0
科目	921E 動作分析学	授業種別	週間授業
科目責任者	金井　章	単位数	1 単位
担当教員	金井　章		

授業概要	各疾患が示す正常動作からの逸脱（障害像）をどのように把握するのか、日常生活における各動作を、観察・解析・分析して、必要とされる支援・介入の方法を導き出すための手法を学ぶ。そのため、各疾患における特徴的な動作パターンを理解し、動作分析結果に基づく臨床推論過程を学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	①正常動作を説明できる ②正常動作からの逸脱を説明できる ③動作観察の手法を説明できる ④動作の観察結果を分析する手法を説明できる ⑤分析結果から理学療法介入手段を導き出す手順を説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
姿勢・動作・歩行分析　第2版	臨床歩行分析研究会	羊土社	5400	9784758102643	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
必要に応じて提示する					

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できたかで評価します。 なお、遅刻、欠席や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
最終課題レポート	70%	それまで行った演習に沿って症例の動作分析が適切に行われ、記述ができたかを評価する。
演習活動状況	30%	演習の実施状況を各講義における演習レポートから評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（第 2 ～ 8 回 /30 分） 授業内で支持する内容について事前に調べて授業に参加すること（第 2 ～ 8 回 /60 分） 毎授業後に授業で得た学びについて確認すること（第 1 ～ 8 回 /60 分）

授業の実施方法と授業計画	第1回　（講義）正常動作のチェックポイント 第2回　（講義）異常動作のチェックポイント 第3回　（講義・演習）変形性股関節症の動作分析（グループワーク） 第4回　（講義・演習）変形性膝関節症の動作分析（グループワーク） 第5回　（講義・演習）不全頸髄損傷の動作分析（グループワーク） 第6回　（講義・演習）高齢者（大腿骨頸部骨折、変形性腰椎症）の動作分析（グループワーク） 第7回　（講義・演習）脳卒中片麻痺の動作分析（グループワーク） 第8回　（講義・演習）パーキンソン病の動作分析（グループワーク）と最終課題レポート 疾患ごとに動作分析演習を行う。 課題については、授業内で質問や疑問などに関するフィードバックを行う。 ただし、受講生の習熟度により授業内容を変更することがある。

ナンバリング	PTDM3032

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	922A0
科目	922A 理学療法基礎治療学Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	未定	単位数	1 単位
担当教員	未定		

授業概要	理学療法の主たる治療手段には運動療法と物理療法がある。そして、運動療法と物理療法が身体に与える影響について正しく理解することが重要である。そこで、運動療法と物理療法の定義、種類や生体反応などの総論について学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	①運動療法の定義、目的、対象、種類、効果などを説明できる。 ②運動による各種生体反応（筋骨格系、神経系、呼吸器系、循環器系、代謝系）について説明できる。 ③物理療法の定義、目的、対象、種類、効果などを説明できる。 ④物理的エネルギーによる生体反応について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
Crosslink 理学療法学テキスト　運動療法学	対馬栄輝	メジカルビュー社	5,720 円	978-4-7583-2005-4	
Crosslink 理学療法学テキスト　物理療法学	吉田英樹	メジカルビュー社	5,280 円	978-4-7583-2006-1	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	試験と課題の成績によって評価する。ただし、遅刻・早退・欠席・劣悪な受講態度などは減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
確認テスト	60%	筆記試験にて理解度を確認する。
課題	40%	レポート課題にて理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 1. 事前に授業テーマに該当するテキストの内容を確認すること（1 ～ 8 回 /120 分程度） 2. 授業で学んだ内容をテキストで再確認すること（1 ～ 8 回 /120 分程度）

授業の実施方法と授業計画	※提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 第 1 回　（講義）運動療法学①　運動療法総論、関節可動域制限の病態とアプローチ 第 2 回　（講義）運動療法学②　痛みの病態とアプローチ 第 3 回　（講義）運動療法学③　筋力低下の病態とアプローチ 第 4 回　（試験・講義）確認テスト（運動療法学）、物理療法学①　物理療法総論 第 5 回　（講義）物理療法学②　温熱療法 第 6 回　（講義）物理療法学③　超音波療法・電気刺激療法 第 7 回　（講義）物理療法学④　寒冷療法・水治療法 第 8 回　（試験・講義）確認テスト（物理療法学）、まとめ ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTDM1003

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	922B0
科目	922B 理学療法基礎治療学Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	横山　真吾	単位数	1 単位
担当教員	横山　真吾		

授業概要	日常生活活動の概念、範囲、意義を学修する。特に、国際生活機能分類（ICF）との関係の中での日常生活の評価や日常生活の質を改善することの意味を理解する。また、日常生活を支援するための機器や補装具について、生活の中でどのように活用されるかについて、一般的な義肢装具、車椅子、生活補助具の種類、構造、適応を学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	日常生活活動の概念、範囲、意義と補装具療法の基礎的知識を修得することを目標とする。 ①日常生活を構成する諸活動を整理し ICF での位置づけを説明できる。 ②疾患や年齢により変化する日常生活活動の制限について説明できる。 ③自助具、車椅子、義肢装具を導入することで可能となる生活活動を理解し、教科書的援助方法を説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
Crosslink 理学療法学テキスト　日常生活活動学	臼田滋	メジカルビュー社	5,280 円	978-4-7583-2009-2	
Crosslink 理学療法学テキスト　義肢装具学	廣滋恵一 遠藤正英	メジカルビュー社	5,720 円	978-4-7583-2087-0	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	試験と課題の成績によって評価する。ただし、遅刻・早退・欠席・劣悪な受講態度などは減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
確認テスト	60%	筆記試験にて理解度を確認する。
課題	40%	レポート課題にて理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 1. 事前に授業テーマに該当するテキストの内容を確認すること（1 ～ 8 回 /120 分程度） 2. 授業で学んだ内容をテキストで再確認すること（1 ～ 8 回 /120 分程度）

授業の実施方法と授業計画	※提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 第 1 回　（講義）日常生活活動学①　ADL 総論 第 2 回　（講義）日常生活活動学②　疾患や加齢と ADL ① 第 3 回　（講義）日常生活活動学③　疾患や加齢と ADL ② 第 4 回　（講義）日常生活活動学④　疾患や加齢と ADL ③ 第 5 回　（試験・講義）確認テスト（日常生活活動学）、義肢装具学①　義肢装具総論 第 6 回　（講義）義肢装具学②　上肢装具・下肢装具 第 7 回　（講義）義肢装具学③　頸部装具・体幹装具 第 8 回　（試験・講義）確認テスト（義肢装具学）、まとめ ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTDM1004

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	922C0
科目	922C 理学療法基礎治療学実習Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	未定	単位数	1 単位
担当教員	未定、小川　祐太、瀧野　皓哉		

授業概要	理学療法の主たる治療手段である運動療法と物理療法が身体に与える影響について正しく理解することが重要である。そこで、運動療法と物理療法の各手法や生体反応について理解し、その実施方法を学修する。そして、運動療法と物理療法による生体反応の理解を深める。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	①基本的な運動療法手法を説明できる。 ②基本的な運動療法手法を実施できる。 ③物理療法機器を用いた治療方法を説明できる。 ④物理療法機器を用いた治療方法を実施できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
Crosslink 理学療法学テキスト　運動療法学	対馬栄輝	メジカルビュー社	5,720 円	978-4-7583-2005-4	
Crosslink 理学療法学テキスト　物理療法学	吉田英樹	メジカルビュー社	5,280 円	978-4-7583-2006-1	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	試験と課題の成績によって評価する。ただし、遅刻・早退・欠席・劣悪な受講態度などは減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
確認テスト	40%	運動療法の理解度を筆記試験で確認する。
レポート課題	10%	人体解剖見学実習の理解度をレポート課題で確認する。
発表課題	50%	物理療法の理解度を発表課題で確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 1. 事前に授業テーマに該当するテキストの内容を確認すること（1 ～ 15 回 /60 分程度） 2. 授業で学んだ内容をテキストで再確認すること（1 ～ 15 回 /60 分程度）

授業の実施方法と授業計画	※提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 第 1 回　（実習）オリエンテーション、関節可動域制限に対する運動療法 第 2 回　（実習）痛みに対する運動療法 第 3 回　（実習）筋力低下に対する運動療法 第 4 回　（講義・実習）持久力低下に対する運動療法 第 5 回　（試験・講義）確認テスト（運動療法）、物理療法機器の使用方法・データ収集方法 第 6 回　（講義・演習）運動療法に必要な解剖学の知識 第 7 回　（学外実習）人体解剖見学実習 第 8 回　（実習）物理療法機器実習①（ホットパック・極超短波） 第 9 回　（実習）物理療法機器実習②（超音波・牽引） 第 10 回　（実習）物理療法機器実習③（渦流浴・電気刺激） 第 11 回　（実習）物理療法機器実習④（パラフィン浴・寒冷） 第 12 回　（実習）物理療法機器実習⑤（超短波・振動刺激） 第 13 回　（演習）物理療法機器実習⑥（データまとめ・統計処理） 第 14 回　（演習）物理療法機器実習⑦（スライド作成） 第 15 回　（演習）物理療法機器実習⑧（グループ課題発表） ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTDM2012

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	922D0
科目	922D 理学療法基礎治療学実習Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	未定	単位数	1 単位
担当教員	未定、辻村　尚子、大橋　和也		

授業概要	障がいにより日常生活活動がどのように変化するかを測定するための方法を学修する。障がいの種類や程度により必要となる援助の具体的方法の共通項目について体験学習する。また、補装具については、装着・体験を通して、その機能や義肢装具装着者の日常生活での問題点について理解を深める。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	日常生活活動の援助並びに補装具療法の基本的技術を修得することを目標とする。 ①日常生活を構成する諸活動を整理し、評価することができる。 ②起居移動動作について教科書的な介助ができる。 ③自助具、杖、車いす、義肢、装具等代表的な補装具の種類と適応について説明できる。 ④自助具、杖、車いす、義肢、装具等代表的な補装具を正しく使用することができる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
Crosslink 理学療法学テキスト　日常生活活動学	臼田滋	メジカルビュー社	5,280 円	978-4-7583-2009-2	
Crosslink 理学療法学テキスト　義肢装具学	廣滋恵一 遠藤正英	メジカルビュー社	5,720 円	978-4-7583-2087-0	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	実技試験と課題の成績によって評価する。ただし、遅刻・早退・欠席・劣悪な受講態度などは減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
筆記試験	30%	講義で学習したことの理解度を筆記試験で確認する。
実技試験	45%	実習で学習したことの理解度を実技試験で確認する。
課題	25%	学内外の実習で学習したことの理解度をレポート課題で確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 1. 事前に授業テーマに該当するテキストの内容を確認すること（1 ～ 15 回 /60 分程度） 2. 授業で学んだ内容をテキストで再確認すること（1 ～ 15 回 /60 分程度）

授業の実施方法と授業計画	※提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 第 1 回　（講義）オリエンテーション、ADL 評価の基礎 第 2 回　（演習）ADL 評価の実際、ADL の運動学的分析 第 3 回　（試験・実習）筆記試験（ADL 評価）、起居動作の観察と介助① 第 4 回　（実習）起居動作の観察と介助②、シーティング 第 5 回　（実習）立ち上がり動作・移乗動作の観察と介助① 第 6 回　（実習）立ち上がり動作・移乗動作の観察と介助②、車椅子操作 第 7 回　（実習）歩行補助具の選定と使用方法 第 8 回　（実習）セルフケア　自助具の選定と使用方法 第 9 回　（講義）代表的な大腿義足と下腿義足 第 10 回　（実習）断端管理方法と義足のアライメント 第 11 回　（実習）金属支柱付短下肢装具とプラスチック短下肢装具 第 12 回　（実習）下肢装具の採型方法とチェックアウト 第 13 回　（試験）実技試験 第 14 回　（実習）義足の異常歩行 第 15 回　（学外実習）短下肢装具採型体験 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTDM2013

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	92270
科目	9227 理学療法技術論	授業種別	週間授業
科目責任者	八木　幸一	単位数	2 単位
担当教員	八木　幸一		

授業概要	理学療法を行うためには刺激や運動に対する生体の反応を理解する必要がある。そのため理学療法技術の理論的背景にある生理学及び解剖学的な裏づけを、基礎的な部分に焦点を当て学修する。また大腿骨頸部骨折や脳卒中片麻痺などの代表的な疾患の症例検討を通して、評価から理学療法介入までの手順と内容をどのように記録するかについて学修する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	①筋力増強の方法を説明できる ②関節可動域改善の方法を説明できる ③筋緊張異常に対する理学療法の説明ができる ④疼痛に対する理学療法の説明ができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
運動療法学　総論　第 5 版	吉尾雅春	医学書院	5280 円	9784260052824	
運動療法学　各論　第 5 版	吉尾雅春	医学書院	6600 円	9784260052931	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	期末試験の結果 (70%)、課題レポートの内容 (30%)　なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
期末試験	70%	
課題レポート	30%	

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	【事前】 毎授業前に該当箇所のテキストを読んで内容を理解しておくこと（60分 /15 回） グループワークの回はテキストの該当箇所の内容をまとめておくこと（60分 /15 回） 【事後】 毎授業後に授業で得た内容を整理し復習する。（60分 /15 回） グループワークの回は内容についてレポート作成をすること（120分 / 6回）

授業の実施方法と授業計画	★グループワークとプレゼンテーションに関しフィードバックを行う。また適宜まとめの課題を設定しフィードバックを行う 1 回　オリエンテーション　理学療法の概念（講義） 2 回　関節可動域改善を目的とした理学療法（講義） 3 回　関節可動域改善を目的とした理学療法（演習：グループワークとプレゼンテーション） 4 回　筋力増強を目的とした理学療法（講義） 5 回　筋力増強を目的とした理学療法（演習：グループワークとプレゼンテーション） 6 回　脳障害に対する理学療法（講義） 7 回　脳障害に対する理学療法（演習グループワークとプレゼンテーション） 8 回　脊髄損傷・神経筋疾患に対する理学療法（講義） 9 回　脊髄損傷・神経筋疾患に対する理学療法（演習：グループワークとプレゼンテーション） 10 回　疼痛に対する理学療法技術（講義） 11 回　疼痛に対する理学療法技術（演習：グループワークとプレゼンテーション） 12 回　動作分析（グループワークとプレゼンテーション） 13 回　理学療法評価の統合と解釈（講義） 14 回　理学療法の記録法（SOAP 形式）（演習） 15 回　まとめ

ナンバリング	PTDM3015

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	92290
科目	9229 理学療法技術論実習	授業種別	週間授業
科目責任者	八木　幸一	単位数	1 単位
担当教員	八木　幸一、小川　祐太、瀧野　皓哉、藤井　京夢		

授業概要	理学療法技術論で学んだ各種の理学療法の技術を適切に実施できるように実習形式で学習する。特に理学療法士に大切な人体に接するタッチの感覚、各種入力の方法、筋力増強、関節可動域訓練などの基本的技術やそれらを実践するための基礎的能力を獲得する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	①各疾患に対する理学療法評価が選択できる ②典型的な筋骨格系疾患の理学療法が説明できる ③典型的な中枢神経疾患の理学療法が説明できる ④各疾患に対し適切な目標を設定できる ⑤各疾患に対応した適切な理学療法プログラムが作成できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
PT･OT のための臨床技能と OSCE　機能障害･能力低下への介入　第 2 版	才藤栄一	金原出版株式会社	6050 円	9784307750677	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	課題レポートや授業の提出物により評定する。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	50%	
習得度確認試験	50%	

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習　「臨床実習の手引き」をよく読んでおくこと。（第 1 回 60 分） 検査測定実習の臨床実習ノートを記載し、毎時間の内容の予習しておくこと（第 2 ～ 15 回） 事後学習　毎回の授業でチェックを受けた箇所と授業内容の復習をしておくこと（第 1 ～ 15 回）

授業の実施方法と授業計画	★各回ともグループワーク により課題を検討し、実習を行い内容をプレゼンテーションする。そして担当教員がその課題に対しフィードバックを行う。 1 回　基礎的な理学療療法技術（関節可動域、筋力、感覚などに対する理学療法）①（演習 + 実技） 2 回　基礎的な理学療療法技術（関節可動域、筋力、感覚などに対する理学療法）②（演習 + 実技） 3 回　基礎的な理学療療法技術（関節可動域、筋力、感覚などに対する理学療法）③（演習 + 実技） 4 回　基礎的な理学療療法技術（関節可動域、筋力、感覚などに対する理学療法）④（演習 + 実技） 5 回　基礎的な理学療療法技術（関節可動域、筋力、感覚などに対する理学療法）⑤（演習 + 実技） 6 回　運動器障害・中枢神経障害に対する理学療法技術①（演習 + 実技） 7 回　運動器障害・中枢神経障害に対する理学療法技術②（演習 + 実技） 8 回　運動器障害・中枢神経障害に対する理学療法技術③（演習 + 実技） 9 回　運動器障害・中枢神経障害に対する理学療法技術④（演習 + 実技） 10 回　運動器障害・中枢神経障害に対する理学療法技術⑤（演習 + 実技） 11 回　基本動作・日常生活動作障害に対する理学療法技術①（演習 + 実技） 12 回　基本動作・日常生活動作障害に対する理学療法技術②（演習 + 実技） 13 回　基本動作・日常生活動作障害に対する理学療法技術③（演習 + 実技） 14 回 基本動作・日常生活動作障害に対する理学療法技術④（演習 + 実技） 15 回　基本動作・日常生活動作障害に対する理学療法技術⑤（演習 + 実技）

ナンバリング	PTDM3016

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92420
科目	9242 神経理学療法学	授業種別	週間授業
科目責任者	中村　佳代	単位数	2 単位
担当教員	中村　佳代、藤原　光宏		

授業概要	中枢神経系疾患に対する理学療法の基本的知識を概要について、評価から治療までの流れについて理解する。特に脳血管障害、パーキンソン病、運動失調などの各疾患に対する基本的な理学療法を学修する。障害を持ちながらの日常生活での指導管理に関する知識を深めるとともに、一方で障害予防としての生活指導を見据えた理学療法の展開ができるよう学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。
到達目標	①中枢神経系疾患の障害像を理解し，説明することができる ②各疾患の障害像にしたがって評価項目をあげることができる ③評価結果にもとづいて教科書に例示してある治療方法を選択できる ④障害像に見合った教科書的 ADL 介入方法を例示できる

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ（第 2 版）	石川朗、大畑光司	中山書店		978-4-521-74496-4	
15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ（第 2 版）	石川朗、大畑光司	中山書店		ISBN978-4-521-74497-1	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	日頃からの学習の積み重ねを重要視する意味で、単元毎に課題・小テストを行う	
評価項目	割合	評価基準
実技試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する。
課題・小テスト 30%	30%	単元毎の講義内容の理解度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習 当該授業の教科書の範囲を事前に読んでおくこと（30 分程度× 15 回） 指定の用語や内容について事前に調べ授業に臨むこと（30 分程度× 15 回） 事後学習 授業で得た知識について整理すること（60 分程度× 15 回） 単元毎の小テストまたは課題の復習を行い、定期試験の準備を行うこと (60 分程度× 6 回) 神経系障害学と理学療法評価学、神経理学療法評価学および同実習の知識・技術が習得されている必要があるので、事前に各科目の内容を復習しておくこと。

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 オリエンテーション　脳と神経の基礎①（講義） 第 2 回 脳と神経の基礎②（講義） 第 3 回 脳血管障害の理学療法・急性期①（講義） 第 4 回 脳血管障害の理学療法・急性期②（講義） 第 5 回 脳血管障害の理学療法・回復期①（講義） 第 6 回 脳血管障害の理学療法・回復期②（講義） 第 7 回 脳血管障害の理学療法・維持期・在宅と地域（講義） 第 8 回 脳と神経の基礎③（講義）脊髄損傷に対する理学療法①（講義） 第 9 回 脊髄損傷に対する理学療法②（講義） 第 10 回 頭部外傷・脳腫瘍に対する理学療法（講義） 第 11 回 パーキンソン病に対する理学療法①（講義） 第 12 回 パーキンソン病に対する理学療法②（講義） 第 13 回 運動失調に対する理学療法（講義） 第 14 回 多発性硬化症に対する理学療法（講義） 第 15 回 筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法（講義） なお、提出課題および小テストについては、実施後、授業時間内に何らかの形でフィードバックを行い、受講生の理解を深めるように努める

ナンバリング	PTDM3017

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92430
科目	9243 神経理学療法学実習	授業種別	週間授業
科目責任者	中村　佳代	単位数	1 単位
担当教員	中村　佳代、彦坂　潤、藤原　光宏、伊井　公一、影山　卓		

授業概要	中枢神経系疾患の理学療法の基本的知識技術について、評価、検査・測定、問題点の抽出、目標の設定、プログラム立案などについて実習を通して学修する。また、様々な中枢神経系疾患に対する運動療法介入について実技の習得を目指すと共に、代表的疾患を症例として検討を深め、臨床能力の獲得を目指す。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	①中枢神経系疾患の障害像を身体を使って表現し，説明できる ②各疾患の障害像にしたがって抽出した評価を実施することができる ③選択した治療方法を実施できる ④障害像に見合った教科書的 ADL 介入方法を展示，例示できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ（第 2 版）	石川朗、大畑光司	中山書店		978-4-521-74496-4	
15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ（第 2 版）	石川朗、大畑光司	中山書店		ISBN978-4-521-74497-1	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	期末試験の際に実技試験・口頭試問を実施し、理学療法技術と知識の確認を行う。また、各授業の学修状況および提出物等も評価対象とする。評価、検査・測定、問題点の抽出、目標の設定、プログラム立案については、症例レポートの作成および症例発表を通して評価する。

評価項目	割合	評価基準
実技試験・口頭試問	60%	実習で指導した技術の習熟度および知識を実技する。
症例報告	15%	症例における検査・測定、問題点の抽出、目標り組みは症例発表の形式で確認する。
レポート（レジュメ）	15%	個々の症例の検査・測定、問題点の抽出、目標解度はレポート（レジュメ）で評価する。
課題	10%	授業の取り組みおよび理解度は、適宜、課題で確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習 神経理学療法学で学んだ当該授業の知識を事前に確認してから授業に臨むこと（60 分程度× 15 回） 事後学習 実習で得た知識や評価、検査・測定、問題点の抽出、目標の設定、プログラム立案の仕方について各自で十分に復習を実施しておくこと。（60 分程度× 15 回） 期末の実技試験・口頭試問で技術と知識を評価する。また評価、検査・測定、問題点の抽出、目標の設定、プログラム立案（考え方）等については各実習毎に提出物を課す（各 60 分程度）。症例報告ではレポート（レジュメ A3 用紙 1 枚）を作成し、レジュメを用いて症例発表を行う。 期末試験の実技練習や知識の整理は学習計画を立てながら十分な時間を用いて臨むこと。

授業の実施方法と授業計画	第 1,2 回 オリエンテーション・理学療法評価の基礎（実習） 第 3,4 回 神経系障害の理学療法評価（実習） 第 5,6 回 脳血管障害・急性期の理学療法（実習） 第 7,8 回 脳血管障害・急性期～回復期の理学療法（実習） 第 9,10 回 脳血管障害・回復期の理学療法（実習） 第 11,12 回 脳血管障害・ADL 指導（実習） 第 13,14 回 神経系障害の一次・二次障害（演習） 第 15,16 回 症例検討：脳血管障害の検査項目の選定・問題点抽出（演習） 第 17,18 回 症例検討：脳血管障害の統合と解釈（演習） 第 19,20 回 症例検討：脳血管障害のレジュメ発表・討論会（演習） 第 21,22 回 症例検討：脊髄損傷の症例検討（演習） 第 23,24 回 脊髄損傷の治療（実習） 第 25,26 回 脊髄損傷の治療（実習） 第 27,28 回 パーキンソン病の治療・小脳失調の治療（実習） 第 29,30 回 症例検討：パーキンソン病の症例検討（演習） なお、提出課題ついては、実施後、授業時間内に何らかの形でフィードバックを行い、受講生の理解を深めるように努める。また、授業内で、学生による発表の機会を積極的に設け、その際の討論を通じてフィードバックする。

ナンバリング	PTDM3018

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92460
科目	9246 運動器理学療法学	授業種別	週間授業
科目責任者	金井　章	単位数	2 単位
担当教員	金井　章		

授業概要	運動器理学療法学では、整形外科疾患等に起因する骨・関節機能障害に対する理学療法を修得する。そのために、関節の機能解剖学、病態運動学を学び、各種疾患の障害に対する知識を深め、状態に応じた評価、治療、リスク管理の実際を学ぶ。また、情報収集、画像診断、電気診断のポイントを理解し、各種疾患に対し最善の理学療法を行えるよう、各種運動療法技術や義肢装具、物理療法の効果と疾患への適応を学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。
到達目標	①各関節の機能解剖を説明できる ②各疾患の病態を説明できる ③各疾患に対する評価と、結果の解釈について説明ができる ④評価結果から障害構造の把握を行い、適切な目標設定を作成できる ⑤プログラムの立案について説明できる

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
Crosslink 理学療法学テキスト義肢装具学	廣滋恵一 遠藤正英 編集	メジカルビュー社	5,720 円	978-4-7583-2087-0	
運動器障害理学療法学Ⅱ　第 2 版		中山書店	2,600 円	9784521744957	
運動器障害理学療法学Ⅰ　第 2 版		中山書店	2,600 円	9784521744940	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	中間試験、期末定期試験から総合的に評価する。 なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	50%	筆記試験にて理解度を確認する
期末定期試験	50%	筆記試験にて理解度を確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	次回の講義予定の教科書項目を事前に確認しておくこと（第 2 回から第 15 回 /30 分程度） 課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（1時間程度 x 14 回）。 第 1 回の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）運動器理学療法総論 第2回（講義）　骨折・脱臼の治療と理学療法 第 3 回（講義）　高齢者の 4 大骨折の治療と理学療法 第 4 回（講義）　変形性股関節症の治療と理学療法 第 5 回（講義）　変形性膝関節症の治療と理学療法 第 6 回（講義）　関節リウマチの治療と理学療法 第 7 回（講義）　末梢神経損傷の治療と理学療法 第 8 回（講義）　中間試験、頸部疾患の治療と理学療法 第9回（講義）　腰部疾患の治療と理学療法 第 10 回（講義）　人工関節置換術、脊椎手術の治療と理学療法 第 11 回（講義）　肩関節周囲炎の治療と理学療法 第 12 回（講義）　肩の外傷の治療と理学療法 第 13 回（講義）　靱帯損傷と半月板損傷の治療と理学療法 第 14 回（講義）　捻挫と肉離れの治療と理学療法 第 15 回（講義）　術後の理学療法を考えるための予備知識 第 16 回　期末試験 小テストについては、授業内で質問や疑問に対するフィードバックを行う ★ただし、学生の習熟度により授業計画を変更することもある

ナンバリング	PTDM3019

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92470
科目	9247 運動器理学療法学実習	授業種別	週間授業
科目責任者	金井　章	単位数	1 単位
担当教員	金井　章、大橋　和也、塚田　晋太朗、今泉　史生		

授業概要	運動器理学療法学実習では、整形外科疾患等に起因する骨・関節機能障害に対する理学療法技術を、実習を通して修得する。そのために、関節可動域改善のための関節包内運動やストレッチ、疼痛抑制や筋力・持久力増強のための理学療法技術を実習する。また、義肢装具や物理療法効果の検証を行い、筋骨格系疾患に対する理学療法プランを学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	①筋、骨、関節の触診を適切に行うことができる ②義肢装具の適応について説明できる ③運動器症状を改善するための物理療法を実施できる ④運動器症状を改善するための運動療法を実施できる ⑤情報収集から評価及び理学療法の実施までを記録できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
Crosslink 理学療法学テキスト　義肢装具学	廣滋恵一、遠藤正英　編集	メジカルビュー社	5,720 円	978-4-7583-2087-0	
運動器障害理学療法学Ⅰ　第 2 版		中山書店	2,600 円	9784521744940	
運動器障害理学療法学Ⅱ　第 2 版		中山書店	2,600 円	9784521744957	
理学療法学生のための症例レポートの書き方続	宮原英夫／監修 八木幸一／〔ほか〕著	朝倉書店	3,200 円	9784254335040	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
DVD で学ぶ運動器疾患の理学療法テクニック	林　義孝	南江堂	6,500 円	9784524242177	
ID ストレッチング　第 2 版	鈴木重行	三輪書店	4,500 円	9784895902397	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	期末試験（8 0%）ならびに提出課題（20%）から総括評価する 遅刻、早退、欠席、劣悪な授業態度などは減点の対象となる	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	80%	実習を通して学んだ知識と技術の修得状況について確認する
課題発表	20%	各疾患に対する理学療法評価からプログラムの立案まで適切に検討されているかについて確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	1．理学療法基礎治療学Ⅰ・Ⅱの物理療法、運動療法、日常生活活動、義肢装具の内容に関して復習しておくこと（第 1 ～ 15 回／ 30 分程度） 2．実習予定に該当する整形外科疾患について確認しておくこと（第 6 ～ 14 回 /30 分程度） 3．実習の内容について整理し、まとめておくこと（第 1 ～ 15 回 /60 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第1回　（講義・演習）症例レポートの書き方、診療記録の記載・SOAP 第2回　（講義・実習）下肢切断とソフトドレッシング、運動器疾患に対する他動運動 第3回　（講義・実習）下肢切断に対する義足と歩行分析、運動器疾患に対する筋力トレーニング 第4回　（講義・実習）ID ストレッチ：　頸部・上肢、体幹・下肢 第5回　（演習・実習）運動器疾患の物理療法、転倒予防体操 第6回　（演習・実習）大腿骨頸部骨折に対する理学療法、運動器の装具と iPad を用いた歩行分析 第7回　（演習・実習）変形性膝関節症に対する理学療法、股関節・足関節の触診と徒手検査 第8回　（演習・実習）関節リウマチに対する理学療法、可動域における二関節筋の影響、下肢骨折の ROM 評価 第9回　（演習・実習）末梢神経障害に対する理学療法、膝関節の触診と徒手検査 第 10 回　（演習・実習）頸椎症に対する理学療法、肩関節・体幹の触診と徒手検査 第 11 回　（演習・実習）腰椎椎間板ヘルニアに対する理学療法、下肢骨折の MMT 第 12 回　（演習・実習）腰椎圧迫骨折に対する理学療法、肘関節・手関節の触診と徒手検査 第 13 回　（演習・実習）肩関節周囲炎に対する理学療法と OSCE1、少年野球における投球障害の評価と理学療法 第 14 回　（演習・実習）ACL 損傷に対する理学療法と OSCE2、運動器疾患の訪問理学療法 第 15 回　（実習）運動器疾患に対する徒手検査、MMT・ROM、OSCE の確認 第 16 回　期末実技試験 提出課題については、授業内で質問や疑問に対するフィードバックを行い、必要に応じて個別に指導する。 ★ただし、受講生の習熟度により計画を変更することもある。

ナンバリング	PTDM3020

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	924A0
科目	924A 内科系理学療法学	授業種別	週間授業
科目責任者	湯口　聡	単位数	2 単位
担当教員	湯口　聡、瀧野　皓哉		

授業概要	内科領域の疾患による病態像や障害像を理解した上で理学療法の臨床的意義と実際の展開方法を学修する。講義は、循環器疾患、呼吸器疾患、代謝系疾患、腎疾患のほか悪性新生物の内科系治療により起因する身体運動障害を学び各病態のリスク管理や理学療法を学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	到達目標は、チーム医療に対応するべく、内科系障害理学療法の臨床的位置づけと介入方法について理解し習得することである ①糖尿病および肥満症の病態を理解、把握した上で理学療法を選択できる ②糖尿病の合併症を理解し、安全に理学療法を実施するための注意点を理解できる ③急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の病態を理解、把握した上で理学療法を選択できる ④急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の病期に応じた理学療法を選択できる ⑤急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の合併症を理解し、安全に理学療法を実施するための注意点を理解できる ⑥虚血性心疾患および慢性心不全の病態を理解、把握した上で理学療法を選択できる ⑦虚血性心疾患および慢性心不全の病期に応じた理学療法を選択できる ⑧虚血性心疾患および慢性心不全の合併症のを理解し、安全に理学療法を実施するための注意点を理解できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
内部障害理学療法学　循環・代謝 (第 3 版) (15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト)	木村雅彦・石川朗 (編集)	中山書店	2860	978-4521750101	
内部障害理学療法学　呼吸 (15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト)	石川朗・玉木彰 (編集)	中山書店	2860	978-4521748177	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	その他、講義用資料は講義内で適宜配布を行う。

成績評価	各講義ごとに確認テストと期末試験を行い、両者の合算で 60%以上を合格とする。また、受講態度などを踏まえて成績評価を行い、無断遅刻、離席、早退は欠席扱いとする。受講態度、特に無断欠席、無断遅刻早退を繰り返す受講者については、大幅な評価考慮を行う。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	40%	講義毎の理解度を確認する。
定期テスト	60%	講義全般の理解度を試験により確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	内科系（代謝系・呼吸器・循環器）疾患へ対する理学療法学を学ぶため、各講義の事前に教科書を熟読し、内科系疾患について、各自、予習・復習し講義へ臨むこと（第 1~15 回 /30~45 分程度） 各講義により学修した内容について、まとめる（第 1~15 回 /60 分程度） 各講義内において提示する復習問題に取り組む（第 1~15 回 /30~45 分程度） 第 16 回定期試験において、定期試験範囲の復習を行う（第 1~15 回 /30~45 分程度）

授業の実施方法と授業計画	講義ごとに課す小テストの結果ならびに内容を講義内あるいは次回講義でフィードバックを行う。 1 回（講義）オリエンテーション、循環器疾患に対する理学療法の目的と全体像 2 回（講義）心筋梗塞に対する急性期理学療法①　病態と心機能の評価 3 回（講義）心筋梗塞に対する急性期理学療法②　リスク管理と運動療法 4 回（講義）心不全に対する急性期理学療法　病態と身体機能の評価 5 回（講義）心不全に対する急性期理学療法②　リスク管理と運動慮法 6 回（講義）循環器疾患に対する回復期理学療法　リスク管理と運動療法 7 回（講義）循環器疾患に対する回復期理学療法②　CPX を用いた運動処方 8 回（講義）呼吸不全に対する理学療法①　急性呼吸不全 9 回（講義）呼吸不全に対する理学療法②　急性呼吸不全・慢性呼吸不全 10 回（講義）呼吸不全に対する理学療法③　慢性呼吸不全 11 回（講義）糖尿病に対する理学療法 12 回（講義）下肢閉塞性動脈疾患に対する理学療法 13 回（講義）糖尿病に対する理学療法② 14 回（講義）腎不全に対する理学療法 15 回（講義）がんに対する理学療法

ナンバリング	PTDM3033

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	924B0
科目	924B 内科系理学療法学実習	授業種別	週間授業
科目責任者	湯口　聡	単位数	1 単位
担当教員	湯口　聡、後藤　亜由美、瀧野　皓哉、内山　弘之		

授業概要	内科領域の疾患により起因する病態像や身体運動障害像を理解するため、内科系疾患による障害の理学療法の展開方法を実習を通して理解する。実際の運動時生体反応をモニタリング実習して身体運動時の生体反応とリスク管理の重要性を確認する。呼吸器疾患、循環器疾患、代謝系疾患、腎疾患および悪性新生物の内科系治療患者などに対する理学療法を体験実習することで、生体反応と各病態のリスク管理方法を学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	到達目標は、チーム医療において内科系障害理学療法の臨床的位置づけと介入方法の判断することを考えることが出来き、対象患者へのリスク層別と運動処方を臨機応変に理学療法計画へ組み込めること ①フィジカルサインを正確にとらえて、正しく計測できる ②運動中のフィジカルサインを正確に計測できる ③運動負荷方法により、フィジカルサインの反応が異なることを説明できる ④運動負荷強度と酸素摂取量、心拍数の関連性を説明できる ⑤無酸素性代謝閾値について説明できる ⑥肺機能検査及び経皮的酸素飽和度を理解し正しく計測できる ⑦呼吸理学療法の標準的手技を理解し模倣できる ⑧ AED を用いた一次救命法を理解し実施できる ⑨喀痰吸引の手技について実施できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
内部障害理学療法学　循環・代謝（第 3 版）（15 レクチャー理学療法テキスト）	木村雅彦・石川朗 (編集)	中山書店	2860	978-4521750101	
内部障害理学療法学　呼吸（15 レクチャー理学療法テキスト）	石川朗・玉木彰 (編集)	中山書店	2860	978-4521748177	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	資料については、適宜演習内で配布を行う。

成績評価	各講義毎の講義レポート課題、口頭試問、小テストならびに最終レポートにて講義の理解度を踏まえて成績を判定する。講義時の質問、グループワークやディスカッション時の態度、発言も講義に対する積極性として評価に含まれる。申告のない欠席・遅刻・早退および劣悪な受講態度などは減点の対象となる場合がある。

評価項目	割合	評価基準
講義毎の課題	40%	演習における課題内容を的確に実施し、内容が妥当であること。
小テスト	30%	演習内容について、その理解度を評価する。
期末レポート	30%	講義全般の理解度をレポートにより確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	安静時や運動時の反応について測定実習を行うので、生理学、生理学実習、運動療法学、理学療法評価学で履修した、バイタルサインや呼吸機能検査について、各自講義を受講する前に、十分に復習した上で教科書を熟読し講義に臨むこと（第 1~15 回 /30~45 分程度） 各講義・実習により学修した内容について、まとめる（第 1~15 回 /60 分程度） 各講義・実習内において提示する復習問題に取り組む（第 1~15 回 /30~45 分程度） 第 16 回定期試験において、定期試験範囲の復習を行う（第 1~15 回 /30~45 分程度）

授業の実施方法と授業計画	講義ごとに課せられる課題レポートの内容について、講義内あるいは次回の講義で説明しフィードバックを行う。 1 回　（実習）運動負荷時におけるバイタルサイン（湯口、内山） 2 回　（実習）心電図読影①　心電図の基礎と不整脈、心筋虚血の所見（湯口、瀧野） 3 回　（実習）心電図読影②　不整脈判読（湯口、瀧野） 4 回　（実習）急性期における早期離床①　リスク管理（瀧野、湯口） 5 回　（実習）急性期における早期離床②　早期離床の実際（瀧野、湯口） 6 回　（講義）これまでのまとめ①　小テストとフィードバック（湯口、内山） 7 回　（実習）心肺運動負荷試験①　目的と各種所見、測定の実際（湯口、瀧野） 8 回　（実習）心肺運動負荷試験②　測定の実際、グループ実習（湯口、瀧野） 9 回　（実習）心肺運動負荷試験③　運動処方、有酸素運動の実践（湯口、内山） 10 回　（実習）呼吸理学療法手技①　リラクゼーション、各種呼吸法（湯口、後藤） 11 回　（実習）呼吸理学療法手技②　呼吸介助手技、体位排痰法（湯口、後藤） 12 回　（実習）足病変に対する理学療法　足部の評価と変形（瀧野、湯口） 13 回　（実習）これまでのまとめ②　小テストとフィードバック（湯口、内山） 14 回　（実習）気管内吸引操作法（内山、湯口） 15 回　（実習）AED を用いた一次救命法実習（湯口、内山）

ナンバリング	PTDM3034

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	92550
科目	9255 スポーツ理学療法学	授業種別	週間授業
科目責任者	塚田　晋太朗	単位数	1 単位
担当教員	塚田　晋太朗、藤原　光宏、戸塚　健二		

授業概要	スポーツ外傷・障害発生のメカニズムを生体力学ならびに運動生理学的視点から学ぶ。また、機能評価・動作分析の結果から理学療法およびアスレティックリハビリテーションプログラムの進め方について学修する。さらに、徒手的治療やテーピング、競技復帰に向けたマネージメントまで、その理論と実際についても学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	①スポーツ理学療法学の考え方を説明することができる ②代表的なスポーツにおける外傷・障害の発生メカニズムや評価方法を説明することができる ③競技復帰や再発予防に向けたリハビリテーションの流れと具体的手法について説明することができる ④テーピングの理論を説明し、適切に実施することができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
スポーツ理学療法学（15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト）	石川朗（総編集）	中山書店	2,860 円	978-4-521-75009-5	
公認アスレティックトレーナー専門科目テキストワークブック「アスレティックリハビリテーション」	公益財団法人日本スポーツ協会（監修）	文光堂	2,640 円	978-4-8306-5174-8	
スポーツリハビリテーションの臨床	青木治人（監修）	メディカル・サイエンス・インターナショナル	7,700 円	978-4-8157-0155-0	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	テキスト（教科書）は別途案内予定

成績評価	定期試験（筆記）およびレポートにより評価する。 なお、遅刻・早退・欠席・劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験（筆記）	60%	筆記試験にて理解度を確認する。
レポート課題	40%	課題に対して適切な内容・記述になっているかを評価する。

受講条件	なし
事前・事後学修（内容・時間）	予定されている講義内容について、関係する事項等を調べて授業に臨むこと（30 分程度× 8 回） 毎回の授業後に、授業で学習した範囲の内容と参考書を読んで復習すること（60 分程度× 8 回）

授業の実施方法と授業計画	第 1 ～ 2 回（講義）スポーツ理学療法　総論 第 3 ～ 4 回（講義・実技）投球障害に対する理学療法 第 5 ～ 6 回（講義・実技）バスケットボールにおけるスポーツ外傷と理学療法 第 7 ～ 8 回（講義・実技）サッカーに多い傷害に対する理学療法とテーピング演習（膝関節、足関節に対するテーピングなど） 課題レポートについては授業時間内および授業時間外で質問や疑問に対するフィードバックを行う。 ※授業計画を変更することがあります。

ナンバリング	PTDM3024

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	92520
科目	9252 電気診断学	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤　亜由美	単位数	1 単位
担当教員	後藤　亜由美、真田　将太		

授業概要	電気診断学的検査は、神経や筋の機能、病態を客観的に評価するために重要な手法である。誘発刺激によるF波・M波・H波や動作分析に用いる表面筋電図などについて学び、代表的症例を通じてその理学療法診断での応用について理解する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	①理学療法における電気診断の理論を説明できる ②誘発筋電図・表面筋電図の検査方法を説明できる ③検査結果から診断のプロセスを説明できる ④代表的疾患の診断とその応用について説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
神経電動検査テキスト	栢森良二	医歯薬出版	5280 円	978-4-263-22599-8	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	小テストと定期試験の成績から評価する なお、出席点は設定しないが、遅刻や欠席、劣悪な授業態度は減点の対象とする 点数配分は変更することがあるが、その際は、適宜提示する 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する

評価項目	割合	評価基準
小テスト	50%	
定期試験	50%	

受講条件	なし
事前・事後学修（内容・時間）	事前に授業テーマに該当するテキスト内容を確認すること（第 2 ～ 7 回／ 30 分程度） 授業内で指示する内容について、事前に調べ授業に臨むこと（第 2 ～ 7 回／ 60 分程度） 毎回の授業内容に関する小テストを授業の冒頭に実施するので、授業内容について復習をすること（第 2 ～ 7 回／ 90 分程度） 実施した小テストは採点後返却すると共に、必要に応じて授業内で解説を行うので、誤りがあった学習内容を中心に復習すること（第 2 ～ 7 回／ 30 分程度） 8 回目に定期試験を行うので事前に復習しておくこと（第 2 ～ 7 回／ 60 分程度） なお、事前事後学習の詳細については、第 1 回目の授業において説明する

授業の実施方法と授業計画	第1回　（講義）電気診断学的検査の理論 第2回　（講義・演習）運動神経伝導速度について 第3回　（講義・演習）感覚神経伝導速度について 第4回　（講義・演習）F波・H反射について 第5回　（講義・演習）代表的疾患の評価について 第6回　（講義）表面筋電図についてⅠ 第7回　（講義・演習）表面筋電図についてⅡ 第8回　（講義）臨床応用例について 授業では、実際に検査に使用する機器のデモンストレーションしながらすすめる予定である。 小テストについては、採点後に返却し、必要に応じて授業内でコメントしたり、返却する小テストにコメントを付すなどフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	PTDM3021

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	92570
科目	9257 リハビリテーション関連機器	授業種別	週間授業
科目責任者	中川　博文	単位数	1 単位
担当教員	中川　博文		

授業概要	近年、科学技術の飛躍的な進歩に伴いハイテク技術を駆使した治療・訓練ならびに機能代替・補完等を目的としたリハビリテーション機器の開発がめざましい状況である。こうした実状を踏まえ、本講義は温熱・光線・電気等による各種治療器、義手・義足、自助具および車いす等の機器類の開発に至る経緯やその特徴について解説し、今後の課題等について学ぶ。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎	◎				

到達目標	今日のリハビリテーション機器は従来の治療用、訓練用から介護支援や日常生活支援等の幅広い分野に応用が拡大しており、これを積極的かつ有効活用するための指導、助言、選定、適合や調整等の役割が理学療法士に求められるようになった .. 当該授業では学科の卒業認定・学位授与の方針に沿って到達目標を下記の通りとした. ①リハビリテーション機器開発の歴史的経緯について要点を説明できる ②リハビリテーション機器の役割とその重要性について要点を説明できる ③国際生活機能分類（ICF）で機器類の開発の意義と役割について要点を説明できる ④国際規格と国内規格の特徴等について要点を説明できる ⑤介護保健制度における用具類の位置付けやその取り扱い方法等について要点を説明できる ⑥補装具・共用品の種類や役割等について要点を説明できる ⑦車いすの種類や義肢装具等の種類や特徴等について要点を説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
受講の際に必要に応じてプリントを配布する。					

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
リハビリテーション MOOK(No.15)「リハビリテーション工学と福祉機器」	千野直一他４名による編集	金原出版株式会社	￥6600（税別）	ISBN978-4-307-75015-8	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	成績は小テスト、課題レポートならびに期末テスト等により評価を行う。 なお、遅刻、早退、欠席および劣悪な授業態度は減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	40%	単元ごとの学修目標の達成度を筆記試験で評価する
課題レポート	10%	課題レポートにより目標の達成度を評価する
定期試験	50%	当該授業の学修目標への達成度を筆記試験で評価する

受講条件	なし
事前・事後学修（内容・時間）	毎回の授業について、事前および事後学修（学修時間；4 時間相当）を必ず行うこと。それぞれの内容・時間は以下の通りとする. ・毎回の授業後は授業で学修した内容をノートに整理し、小テストの内容については再度確認作業を行っておくこと.（第1～ 8 回 /2 時間程度） ・授業中に指示する内容については、事前に調べて次の授業に参加すること.（第2～7回 /2 時間程度）

授業の実施方法と授業計画	前回までの講義内容は、適宜、小テストでその理解度チェックを行う. 小テストは採点後速やかに返却するとともに、その内容は講義内で解説する. また、課題レポートの提出を求める場合も、その内容に関しては講義内で解説する. 第1回（講義）ガイダンス（理学療法におけるリハビリテーション関連機器の役割等） 第2回（講義）リハビリテーション機器の概念と定義 第3回（講義）リハビリテーション機器の歴史的経緯 第4回（講義）国際規格と国内規格 第5回（講義）疾患および障害から見たリハビリテーション機器の役割 第6回（講義）リハビリテーション機器の研究・開発の現状と問題点 第7回（講義）リハビリテーション機器の実際1 第8回（講義）リハビリテーション機器の実際2 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある

ナンバリング	PTDM3025

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92530
科目	9253 発達障害理学療法学	授業種別	週間授業
科目責任者	八木　幸一	単位数	2 単位
担当教員	八木　幸一、川口　大輔		

授業概要	「療育」についての理解を深め、発達障害を持つ本人・家族の支援を中心に地域医療についての概要や代表的な発達障害に対する理学療法の進め方について学修する。また、ライフステージにおける特徴と必要なかかわりについて援助できるよう基礎的な知識技術を学修する。さらに、正常発達に基づき次の発達段階に必要な運動要素について理解を深め、運動機能障害に対する基礎的な援助方法を学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義を行う科目です。

	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシー								
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	①「療育」の概念と障害児・者の各ライフステージについてどのような支援が必要になるか説明できる ②障害児・者の二次障害についての概要とその予防について説明できる ③代表的な疾患の病態を説明できる ④各疾患に対する評価と、結果の解釈について説明できる ⑤評価結果から適切な目標設定を作成できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
小児理学療法学		中山書店	2600	9784521748160	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
必要に応じて紹介する。					

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	小テストと定期試験の成績から評価する。なお、遅刻や早退、劣悪な受講態度は減点対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
小テストと課題	50%	講義内容の理解度を確認する。
定期試験	50%	筆記試験にて理解度を確認する（小テストと同様の問題が 40%、異なる応用問題が 60%）

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習（2 時間相当 /15 回） ・講義で使用するスライドのレジュメをあらかじめ配布しておく。当該講義の範囲に目を通しておくこと。 事後学習（2 時間相当 /15 回） ・基本的に、毎回の講義内容に関する小テストを次の講義の最初に実施する。講義内容の復習を行い小テストに備えること。 ・小テストについては採点後返却する。講義内で解説を行うので、それに基づき誤った問題について自己学習を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	※各回の最初に前回講義の内容に関する小テストを行う。 ※行った小テストは採点後速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。 1.（講義）発達障害理学療法学とは？ 2.（講義）脳性麻痺に対する理学療法 1 3.（講義）脳性麻痺に対する理学療法 2 4.（講義）重症心身障害児に対する理学療法 5.（講義）自閉症やダウン症などの発達障害に対する理学療法 6.（講義）神経筋疾患に対する理学療法 1 7.（講義）整形外科疾患に対する理学療法 1 8.（講義）小児期から成人期までの療育の実際 9.（講義）保育士から見た療育の展開（担当：熊谷享子） 10.（講義）老年期の特徴と加齢変化 11.（講義）高齢者の生活機能評価 12.（講義）介護予防と健康増進 13.（講義）廃用症候群と理学療法 14.（講義）認知症の予防とリハビリテーション 15.（講義）高齢者を支える社会システムと理学療法 16. テスト ※ ただし、受講生の習得度に応じて授業計画を変更することもあり得る

ナンバリング	PTDM3022

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92540
科目	9254 発達障害理学療法学実習	授業種別	週間授業
科目責任者	八木　幸一	単位数	1 単位
担当教員	八木　幸一、後藤　亜由美、藤井　京夢、川口　大輔		

授業概要	発達障害の理学療法について、代表的な疾患に対する評価から治療までの流れを理解し、評価及び治療手技が剣状学生をモデルに実践できることを目標とする。そのため、新生児期から成人期まで長期にわたり医療福祉教育のかかわりが必要になることから、現時点で問題点のみならず将来的問題に対する知識を修得する。障害を持つ対象者の発達・成長の過程で生じる様々な症状や日常生活上の諸問題に対し、展開すべき理学療法について事例を通して実習する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして実習を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	◎	◎				

到達目標	①各疾患の病態を説明できる ②各疾患に則した評価項目が立案できる ③立案した評価を適切に行うことができる ④評価結果を考察し、問題点を抽出できる ⑤治療プログラムの立案ができる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
小児理学療法学		中山書店	2600	9784521748160	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
必要に応じて紹介する。					

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	課題に対するレポートと期末試験から評価する。なお、遅刻や早退、劣悪な受講態度は減点対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	50%	課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する。
期末試験	50%	実習内容を理解したかについて、筆記試験と（あるいは）実技試験で評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習（40 分程度× 15 回） ・実習で使用するレジュメをあらかじめ配布しておく。当該実習の範囲に目を通しておくこと。 事後学習（80 分程度× 15 回） ・実習内容についての課題レポートを課す。実習の内容を復習しながらレポートを作成すること。 ・課題レポートは採点後速やかに返却する。授業内で解説を行うので、それに基づき再度自己学習を行うこと。

授業の実施方法と授業計画	※行った小テストや課題レポートは採点後速やかに返却するとともに、授業内で解説を行う。 1.（実習）保育園実習（正常発達児の理解） 2.（実習）発達障害理学療法学で必要な評価 1 3.（実習）発達障害理学療法学で必要な評価 2 4.（実習）姿勢と運動の正常発達とその評価 1 5.（実習）姿勢と運動の正常発達とその評価 2 6.（実習）脳性麻痺児に対する理学療法 1（患者様実習） 7.（実習）脳性麻痺児に対する理学療法 2（患者様実習） 8.（実習）神経筋疾患・整形外科疾患に対する理学療法 9.（実習）障がい児・者の ADL・二次障害へ取り組み 10.（実習）老年期の特徴と加齢変化（高齢者体験） 11.（実習）高齢者の評価 12.（実習）フレイルとロコモティブ症候群 13.（実習）高齢者事例の模擬カンファレンス① 14.（実習）高齢者事例の模擬カンファレンス② 15.（実習）認知症を見つめなおす 16. テスト ※ 各実習においてはグループワークなどのアクティブラーニング形式をとる。 ※ 学内 LAN の共有フォルダに動画を公開し ICT を活用した学習支援を実施する。 ※ ただし、受講生の習得度に応じて授業計画を変更することもあり得る。

ナンバリング	PTDM3023

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92620
科目	9262 予防理学療法学	授業種別	週間授業
科目責任者	辻村　尚子	単位数	2 単位
担当教員	辻村　尚子		

授業概要	地域で予防理学療法を展開するうえで、理学療法士に必要とされる役割や考え方、実践方法およびその基礎になっている思想について学ぶ。その具体的な手段や地域での活動方法並びに医療・福祉施設での理学療法との違いについても学修する。さらに歴史的背景や現在の状況について理解し、予防リハビリテーションについて理解を深める。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	◎	◎				

到達目標	①予防理学療法が必要とされる理由を教科書レベルで説明できる。 ②予防理学療法を行う上で必要とされる理学療法士の役割について教科書レベルで説明できる。 ③介護予防の基本的な考え方を説明できる。 ④運動器障害の再発予防における理学療法を説明できる。 ⑤健康増進やヘルスプロモーションにおける理学療法の応用について教科書レベルで説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
地域理学療法学　第 2 版	牧迫飛雄馬	医歯薬出版株式会社	4730	9784263267424	冊子版
理学療法士･作業療法士のためのヘルスプロモーション（改訂第 2 版）	日本ヘルスプロモーション理学療法学会	南江堂	3500	9784524203512	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
予防理学療法学要論	大渕修一／監修　浦辺幸夫／監修　吉田剛／編集　井上和久／編集	医歯薬出版	4600	9784263217405	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 なお、遅刻、早退や欠席、劣悪な受講態度などは減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
講義内課題、課題レポート	40%	課題に対する適切な内容になっているかを確認する
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（第 2 回～ 14 回 /30 分程度） 毎授業後に資料整理と復習をすること（第 2 回～ 15 回 / 60 分程度） 授業内で指示する内容について事前に調べて授業に参加すること（第7回～ 10 回 / 60 分程度） 授業内で指示する内容についてレポート作成すること（第 2 回、8 回 / 120 分程度） 第 16 回定期試験　定期試験範囲について復習すること（第 14 回、15 回 / 120 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義）ガイダンス　予防理学療法の歴史、介護保険制度 第 2 回　（講義・演習）ヘルスプロモーションとは（ディスカッション） 第 3 回　（講義）健康増進と理学療法 第 4 回　（講義）疫学における因果推論 第 5 回　（講義）健康状態と疾病の測定指標 第 6 回　（演習）運動器障害に対する予防理学療法（グループワーク） 第 7 回　（演習）廃用症候群と再発予防理学療法（グループワーク） 第 8 回　（演習）介護予防理学療法（グループワーク） 第 9 回　（演習）認知症の予防理学療法（グループワーク） 第 10 回　（演習）ウィメンズヘルス理学療法（グループワーク） 第 11 回　（演習）労働衛生と理学療法（グループワーク） 第 12 回　（講義）障害児者の自立支援と社会参加に関する理学療法 第 13 回　（講義）終末期理学療法（グループワーク） 第 14 回　（演習）栄養と予防理学療法（ディスカッション） 第 15 回　（演習）コミュニティヘルスと予防理学療法の展望（ディスカッション） 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。

ナンバリング	PTCDM3006

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	926B0
科目	926B 多職種連携論	授業種別	週間授業
科目責任者	辻村　尚子	単位数	1 単位
担当教員	辻村　尚子、藤澤　大、木村　恭朗		

授業概要	保健医療福祉サービスを提供する上で重要な関連職種間の連携・協働の在り方について学ぶ。そのため、各職種の役割・機能を理解し、専門性を活かしながら連携し協働する方法について考える。また、演習を通してチームアプローチの実際について学修する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	◎	◎				

到達目標	①高齢者や障がい者がもつ多様なニーズについて教科書レベルで説明できる。 ②保健医療福祉サービスに関係する職種の役割や機能について教科書レベルで説明できる。 ③専門性を生かしたチームの作成と連携方法について教科書レベルで説明できる。 ④チーム（関連職種間連携・協働）のなかで、理学療法士の役割と課題を理解する

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
医療福祉をつなぐ関連職種連携　講義と実習にもとづく学習のすべて	北島 政樹 総編集	南江堂	3200	9784524268023	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
ICFコアセット　臨床実践のためのマニュアル	Jerome E. Bickenbach／原著編集　Alarcos Cieza／原著編集　A	医歯薬出版	5200	9784263215289	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 なお、遅刻、早退や欠席、劣悪な受講態度などは減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート・講義内発表	60%	課題に対する適切な内容になっているかを確認する（授業内課題・発表を含む）
定期試験	40%	筆記試験にて理解度を確認する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（第 2 回～ 4 回 / 60 分程度） 毎授業後に資料を整理、復習すること (第 2 回～ 4 回 / 60 分程度） 授業内で指示する内容について事前に調べて参加すること（第 5 回～ 8 回 / 60 分程度） 授業内で得た学びについてレポートを作成すること（第 4 回～ 8 回 / 60 分程度） 第 9 回定期試験　定期試験範囲の復習をすること（第 7 回、8 回 / 120 分程度）

授業の実施方法と授業計画	第 1 回　（講義）専門職種間連携が求められる背景と概念（IPE、IPC/IPW・地域包括ケアシステムと介護保険制度） 第 2 回　（演習）関連職種とその専門性（ディスカッション） 第 3 回　（講義）関連職種の業務と役割　作業療法　/　言語療法（藤澤　大、木村　恭朗） 第 4 回　（演習）模擬事例（症例1）を用いた関連職種間連携の実践①（グループワーク） 第 5 回　（演習）模擬事例（症例1）を用いた関連職種間連携の実践②（ワールドカフェ） 第 6 回　（演習）患者・利用者のニーズと家族・地域との関わり（グループワーク） 第 7 回　（演習）模擬事例（症例2）を用いた関連職種間連携の実践③（グループワーク） 第 8 回　（演習）模擬事例（症例2）を用いた関連職種間連携の実践④（ワールドカフェ） 提出物等については、特別な事情がない限りはコメントを付して返却するものとし、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります

ナンバリング	PTCDM3008

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	926A0
科目	926A アダプテッドスポーツ	授業種別	週間授業
科目責任者	荒谷　幸次	単位数	2 単位
担当教員	荒谷　幸次、中島　史朗、後藤　亜由美		

授業概要	スポーツのルールや用具を障がいの種類や程度に適合（adapt）させることによって、障がいのある人はもちろんのこと、幼児から高齢者、体力の低い人であってもできるアダプテッドスポーツについて理解する。そのため、歴史と世界における活動状況、各種競技の実施状況について学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎					

到達目標	①障がい者スポーツ大会の歴史　(国内・海外) について説明できる。 ②アダプテッド・スポーツの心理的効果について説明できる。 ③アダプテッド・スポーツの概要について説明できる。 ④基本的な障がいについて理解し、障がいに応じたスポーツについて説明できる。 ⑤アダプテッド・スポーツにおける理学療法士の役割を説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
資料は適宜配布する。					

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	毎授業の小レポートおよび、最終レポートにて評価する。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
小レポート	40%	授業の理解度
最終レポート	60%	総合的な授業の理解度

受講条件	履修条件はありません。
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（第 1 ～ 15 回 /60 分程度） 授業内で指示する内容について事前に調べて授業に参加すること（第 1 ～ 15 回 /60 分程度）

授業の実施方法と授業計画	（中島 史朗）：第1回から第3回 第1回 全国障害者スポーツ大会の概要（講義）* 第2回 パラスポーツの意義と理念（講義）* 第3回 パラスポーツに関する諸施策（講義）* （荒谷幸次）：第4回から第 15 回 第4回 肢体不自由者のスポーツ①（講義：各障がいの理解1身体）* 第5回 肢体不自由者のスポーツ②（実技：シッティングバレーなど各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 1）* 第6回 知的障がい者のスポーツ①（講義：各障がいの理解2知的）* 第7回 知的障がい者のスポーツ②（実技：フライングディスクなど各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 2）* 第8回 視覚・聴覚・音声言語・内部障がい者のスポーツ①（講義：各障がいの理解3身体）* 第9回 視覚障がい者のスポーツ②（実技：ゴールボールなど） 第 10 回 スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質（講義）* 第 11 回 パラスポーツ推進の取り組み（講義）* 第 12 回 精神障がい者のスポーツ①（講義：各障がいの理解4精神）* 第 13 回 重度障がい者のスポーツ②（実技：ボッチャ） 第 14 回 アダプテッド・スポーツの意義①（講義：選手の講話、障がいのある人との交流）* 第 15 回 アダプテッド・スポーツの意義②（実技）、まとめ ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある ※毎授業開始時に、前回分の小レポート課題と質問についてのフィードバックを行う。 ※「*」を記した回はパラスポーツ指導員（初級）カリキュラム読替授業のため資格取得には出席必須

ナンバリング	PTDM2014

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92780
科目	9278 理学療法臨床見学実習	授業種別	実習
科目責任者	小川　祐太	単位数	1 単位
担当教員	小川　祐太、瀧野　皓哉、金井　章、八木　幸一、辻村　尚子、湯口　聡、中村　佳代、大橋　和也、後藤　亜由美、塚田　晋太朗、彦坂　潤、藤原　光宏		

授業概要	臨床実習施設で行われている理学療法およびその関連分野を見学、体験し理学療法士の役割と理学療法の方法や適応範囲を理解するとともに接遇、コミュニケーションのあり方を考え、専門職に求められる資質と態度を理解する。利用者の持つ障害の多様性、個別性を理解して、実習以降の専門教育の動機付けを行う。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	◎	◎				

到達目標	①施設における各医療職種の業務について理解を深める ②理学療法士の流れと役割そして責任について理解する ③理学療法対象者への理解を深める ④臨床実習を通して、その後の勉学への意欲を高めることができる ⑤理学療法士としての基本的態度・資質を養う ⑥臨床実習支援システムデイリーノートを作成し、提出できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
【第2版】PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド	山口美和／著	医学書院	2800	9784260027878	
概説理学療法	有馬　慶美	文光堂	5000	9784830645303	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	施設評価・学内報告・臨床実習支援システムデイリーノートにて総合的に評価するが、各評価項目ごとに合格点を要する。これらの点数配分に関しては、学生の習熟度に応じて変更することがある。また、学内報告において、遅刻、早退、欠席、劣悪な受講態度などは減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
実習状況	60%	施設評価、デイリーノート、また、遅刻、早退、欠席、劣悪な実習態度は減点の対象とし、総合的に判定
学内報告	40%	見学した実習についての理解度や表現力、受け止め方などをテーマとし、学内報告を判定

受講条件	必修科目 ★臨床実習に関わるワクチン接種について 　指定の期日に「ワクチン接種状況の報告書」の提出をしなかった学生は臨床見学実習の履修を認めない。ワクチン接種を行った場合は、「ワクチン接種証明書の写し」の提出を求める。なお、心身や信条などの理由により、ワクチン接種を希望しない学生は、「ワクチン接種状況の報告書」に加えて「ワクチン接種に関する申告書」を提出することとする。
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習（30 分 /5 回） ①見学予定について事前に参考書などを読んでおくこと ②見学内容について事前に調べ実習に臨む 事後学習（30 分 /5 回） ③実習内容の確認、疑問点等について学習を行う ④学内報告のための復習を行う

授業の実施方法と授業計画	臨床実習施設において臨床実習指導者のもと診療参加型臨床実習形式で見学実習を行う ・施設全体を把握する ・理学療法業務を把握する ・リハビリテーションに関係する部門を見学実習する ・理学療法業務を見学実習する ・臨床現場におけるコミュニケーションを図る ・簡単な理学療法補助業務を行う ★テーマに沿って学内報告を行う ★臨床実習支援システムデイリーノート、学内報告レポートについては、質問等常に受け回答を行うとともに、実習後ガイダンスや学内報告時にフィードバックを行う ★実習前後ガイダンスにて、理学療法士としての資質や態度について確認、指導を行う ★実習前・後ガイダンスには必ず出席すること。

ナンバリング	PTDM2009

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	92790
科目	9279 理学療法臨床検査測定実習	授業種別	実習
科目責任者	小川　祐太	単位数	3 単位
担当教員	小川　祐太、八木　幸一、金井　章、辻村　尚子、湯口　聡、中村　佳代、大橋　和也、後藤　亜由美、瀧野　皓哉、塚田　晋太朗、彦坂　潤、藤原　光宏		

授業概要	臨床実習指導者の下で、検査測定手技をクラークシップ形式で幅広く体験し、理学療法士に求められる検査・測定に関する知識、技術を学習する。あわせて、測定するために必要となる移乗、移動動作や、検査測定の結果を活用していくプロセスを見学・模倣を通して学修する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	◎	◎				

到達目標	①臨床実習指導者のもとで、患者・利用者、関連職員と良好な関係をもつことができる ②専門職を目指すものとしての資質・態度を育て、適時、報告・連絡・相談を行うことができる ③障害に応じた検査項目を挙げ、目的・手順を説明できる ④臨床実習指導者の指示に従って、検査・測定を実践できる ⑤検査・測定結果を解釈できるとともに、記録し報告できる ⑥臨床実習の前に基本的知識と技術をまとめることができる ⑦学内指導・実習において、実習体験内容をまとめることができるとともに、実践できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
PT・OTのための臨床技能とOSCE　コミュニケーションと介助・検査測定編　第 2 版補訂版	監修　才藤　栄一	金原出版	5500	9784307750585	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
診察ができる vol.1 身体診察	医療情報科学研究所	メディックメディア	8,800 円	9784896329131	
理学療法評価学Ⅰ		中山書店	2400	9784521736686	
新・徒手筋力検査法　原著第 10 版	Dale Avers 著	協同医書出版社	7800	9784763900418	
【改訂18版】ベッドサイドの神経の診かた	田崎義昭／著　斎藤佳雄／著	南山堂	7200	9784525247980	
理学療法評価学 第 6 版補訂版	松澤 正	金原出版	6200	9784307750684	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	各科目で使用した教科書を参考にする

成績評価	施設評価・臨床実習支援システムデイリーノート・実習後 OSCE にて総合的に評価するが、各評価項目ごとに合格点を要する。これらの点数配分に関しては、学生の習熟度に応じて変更することがある。遅刻、早退、欠席や劣悪な実習態度は減点の対象となる	
評価項目	割合	評価基準
実習状況	60%	施設評価、遅刻、早退、欠席、劣悪な実習態度は減点の対象とし、総合的に判定する。
臨床実習支援システムデイリーノート	20%	実習内容や記録方法として SOAP に準じての記録、そして自己学習内容などからも判定する
実習後 OSCE	20%	客観的に臨床能力を判定する

受講条件	必修科目 3 年次春学期終了時点で、必修科目の未修得単位が 2 科目以内であること。
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習（30 分 /15 回） ①実習予定について事前に参考書などを読んでおくこと ②実習内容について事前に調べ実習に臨む 事後学習（30 分 /15 回） ③実習内容の確認、疑問点等について学習を行う ④学内指導報告のための復習を行う

授業の実施方法と授業計画	実習前 OSCE を行い、学生個々の臨床能力を客観的に評価し、問題点を把握するとともに、施設実習に向けた準備学習を行う。 臨床実習施設において、臨床実習指導者のもと診療参加型臨床実習形式で臨床実習を行い、検査・測定を体験し、専門職としての知識・技術を習得する。 実習後 OSCE を行い、臨床実習における振りかえりを行うとともに、学生個々の臨床能力を客観的に評価を行う。理学療法臨床評価実習に向けた準備学習につなげる。 臨床実習について質問などを常に受け回答するとともに、記録内容の確認や自己学習内容などについてフィードバックを行う ・実習前 OSCE ・施設実習 第 1 回；施設オリエンテーション 第 2 ～ 5 回：基本的な検査測定（形態測定・関節可動域測定・筋力検査・感覚検査など） 第 6 ～ 10 回：運動機能測定（整形外科的検査、中枢神経障害検査など） 第 11 ～ 15 回：動作・日常生活動作検査（動作分析、日常生活動作検査など） ・実習後 OSCE ★必ず実習前後ガイダンスには出席をすること。

ナンバリング	PTDM3026

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	92840
科目	9284 理学療法総合演習Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	小川　祐太	単位数	1 単位
担当教員	小川　祐太、金井　章、後藤　勝正、八木　幸一、辻村　尚子、湯口　聡、中村　佳代、大橋　和也、後藤　亜由美、瀧野　皓哉、塚田　晋太朗、彦坂　潤、藤原　光宏		

授業概要	理学療法臨床総合実習、理学療法臨床専門実習を前にして、保健、医療、福祉の各領域で求められる質の高い理学療法技術と知識を総合的に修得する。そのため、解剖学、生理学から基礎医学、理学療法専門分野を再学習し知識の整理を行う。また 、臨床実習で求められる必要最小限の態度・知識・技術について客観的臨床能力試験（OSCE）と国試形式の試験を通して学修する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	①理学療法の基礎となる専門基礎科目および臨床医学について知識の整理ができる ②理学療法専門科目について知識の整理ができる ③理学療法士としての資質を理解し、態度・マナーを身につける ④理学療法の基礎的な評価と治療を説明できる ⑤模擬患者に対して基礎的な理学療法評価と治療を実施できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
PT/OT 国家試験 必修ポイント 2025　専門基礎分野基礎医学	医歯薬出版	医歯薬出版	4,400 円	9784263270226	
PT/OT 国家試験 必修ポイント 2026　専門基礎分野臨床医学	医歯薬出版	医歯薬出版	4,600 円	9784263270295	
PT/OT 国家試験 必修ポイント 2026　基礎 PT 学	医歯薬出版	医歯薬出版	5,390 円	9784263270301	
PT・OT のための臨床技能と OSCE 機能障害・能力低下への介入編 第 2 版［Web 動画付き］	才藤 栄一	金原出版	5,500 円	9784307750677	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
PT/OT 国家試験 必修ポイント 2026　障害別 PT 治療学	医歯薬出版	医歯薬出版	5,390 円	9784263270318	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	試験：客観的臨床能力試験 (70%)、国家試験過去問を用いた試験 (30%) ・単位認定には、客観的臨床能力試験および筆記試験の双方において、各々 60% 以上の得点を得ることが必要である。 ・採点の配分は状況に応じて変更する場合があり。 ・試験の予定は、第 1 回目の授業において説明する。

評価項目	割合	評価基準
客観的臨床能力試験	70%	実技試験にて、臨床能力を評価する。
筆記試験	30%	国家試験過去問を用いた国家試験形式にて、専門基礎分野、および理学療法分野の知識を確認する。

受講条件	必修科目 理学療法セミナーⅡを履修しているもの
事前・事後学修（内容・時間）	学習計画に沿って、該当する範囲を事前に学習すること（60 分程度× 15 回程度） グループ学習にて学習した範囲を再確認すること（60 分程度× 15 回程度） また、必要に応じて科目担当者から指示をする。

授業の実施方法と授業計画	4 月、5 月の平日 1，2 限に、講義およびグループ学習を通して、理学療法専門基礎科目、専門科目の知識を整理する。 また、疾患別理学療法実技練習を行うことで臨床能力を高めていく。 そのため、本講義では以下の 3 形式を取る。 A　講義: 理学療法士教員ならび外部講師による専門基礎科目についての講義、専門科目の講義を実施する。 B　グループ学習：4 人程度を 1 グループとし、理学療法専門基礎科目、専門科目の知識の整理をする。 C　客観的臨床能力試験 (OSCE)：臨床能力を高めるための疾患別理学療法実技練習後に実技試験を実施する。 講義、グループ学習に関しては適宜教員がフィードバックを行う。また、OSCE に関しては実技試験に対するフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM4038

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	927D0
科目	927D 理学療法臨床評価実習	授業種別	実習
科目責任者	八木　幸一	単位数	7 単位
担当教員	八木　幸一、金井　章、辻村　尚子、湯口　聡、中村　佳代、大橋　和也、小川　祐太、後藤　亜由美、瀧野　皓哉、塚田　晋太朗、彦坂　潤、藤原　光宏		

授業概要	理学療法の基本的なプログラム作成過程を習得するために臨床実習指導者の指導下で、患者の状態等に関する評価を実施する。各種の理学療法を幅広く経験し、理学療法士に求められる知識、技術を習得する。また、専門職として理学療法士に求められる技能を学修する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	◎	◎				

到達目標	①学修者が実習対象者に対応した評価項目をあげ実施できる ②学修者が実施した評価から問題点を抽出できる ③学修者が収集した情報や実施した評価より適切な理学療法目標を設定できる ④学修者が実習指導者の指導のもと対象者に適応した理学療法プログラムを作成できる ⑤学修者が情報収集や理学療法評価に必要なコミュニケーションを習得する

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
PT・OT のための臨床議場と OSCE　機能障害・能力低下への介入編　第 2 版	才藤栄一	金原出版株式会社	6050 円	9784307750677	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	臨床実習施設評価、実習課題、実習報告などを総合的に評価	
評価項目	割合	評価基準
施設評価	70%	
課題報告	30%	

受講条件	必修科目　実習前 OSCE に合格したもの
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習 実習内容について事前にテキストなどにより予習する（30 分） 事後学習 臨床実習内容の確認、疑問点について復習する。　（30 分） （1 時間 /30 回）

授業の実施方法と授業計画	臨床実習施設において、臨床実習指導者のもとに診療参加型実習形式により理学療法評価を体験し、以下の項目を習得する。　臨床実習指導者、実習担当者により実習内容及び課題に関しフィードバックを行う。 ・施設における理学療法業務 ・理学療法評価 ・治療目標の設定 ・治療プログラムの作成 ・理学療法業務の補助 臨床実習施設の実習後に学内において臨床実習の内容をまとめ報告する。 ★臨床実習指導者会議、臨床実習ガイダンスには必ず出席すること

ナンバリング	PTDM4040

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	927E0
科目	927E 理学療法臨床総合実習	授業種別	実習
科目責任者	八木　幸一	単位数	7 単位
担当教員	八木　幸一、金井　章、辻村　尚子、湯口　聡、中村　佳代、大橋　和也、小川　祐太、後藤　亜由美、瀧野　皓哉、塚田　晋太朗、彦坂　潤、藤原　光宏		

授業概要	基礎的な理学療法を実施するため、臨床の場で理学療法課程を実際に体験する。臨床実習指導者の指導指導のもと、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践並びに治療効果の判定を実施する。その過程において、理学療法士に求められる知識、技術の適応方法を学習する。併せて適時、理学療法の内容を振り返り、理学療法に修正を加える手順について学修する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	◎	◎				

到達目標	①学修者は実習対象者に適切な情報収集と理学療法評価を行うことができる ②学修者は臨床実習指導者の指導のもと対象者の理学療法プログラムを作成し実施できる ③学修者は治療効果の判定を実施する ④学修者は実習対象者の状態を指導者に適切に報告できる ⑤学修者はチーム医療の一員としての理学療法士の役割を理解できる ⑥学修者は実習対象者の経過や変化を適切に記録できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
PT・OT のための臨床技能と OSCE　機能障害・能力低下への介入編　第 2 版	才藤栄一	金原出版株式会社	6050 円	9784307750677	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	臨床実習施設評価、実習課題、実習報告などを総合的に評価 施設評価 70%（実習施設において目標達成できたかを評価する） 課題発表 30%（実習課題を学内課題報告にて評価する）	
評価項目	割合	評価基準
施設評価	70%	
課題報告	30%	

受講条件	必修科目　理学療法臨床評価実習を履修したもの
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習 実習内容について事前にテキストなどにより予習する（30 分） 事後学習 臨床実習内容の確認、疑問点について復習する。　（30 分） （1 時間 /30 回）

授業の実施方法と授業計画	臨床実習施設において、臨床実習指導者のもとに診療参加型実習形式により下記の項目を行い、基本的な理学療法を修学する。臨床実習指導者、実習担当者により実習内容及び課題に関しフィードバックを行う。 ・理学療法評価 ・治療目標の設定 ・治療プログラムの作成 ・基本的な理学療法の実施 ・治療効果の判定を実施する ・理学療法の記録 ・他部門や多職種との連携 ・理学療法業務の補助 臨床実習施設の実習後に学内において臨床実習の内容をまとめ報告する。 ★臨床実習指導者会議、臨床実習ガイダンスには必ず出席すること

ナンバリング	PTDM4041

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	927C0
科目	927C 理学療法臨床専門実習	授業種別	実習
科目責任者	小川　祐太	単位数	2 単位
担当教員	小川　祐太、八木　幸一、金井　章、辻村　尚子、湯口　聡、中村　佳代、大橋　和也、後藤　亜由美、瀧野　皓哉、塚田　晋太朗、彦坂　潤、藤原　光宏		

授業概要	基本的な理学療法を学んだ後、より専門的な理学療法を展開するため、臨床の場で専門的な理学療法を実際に体験する。臨床実習指導者の指導により評価法や治療技術を幅広く体験し、理学療法士に求められる知識、技術の適応方法を学修する。 ★この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	◎	◎				

到達目標	①　実習施設で行われている専門的な理学療法について見学・体験できた。 ②　理学療法の診療プロセス（処方の確認、計画書、評価判定の方法、カルテ記録、算定手順など）を見学・体験できた。 ③　対象者に対する目標設定、指導計画並びに理学療法プログラムについて見学・体験できた。 ④　通所または訪問リハビリテーションの基本的な理学療法について見学・体験できた。 ⑤　地域包括ケアシステムの中での実習施設の役割について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
ICFコアセット　臨床実践のためのマニュアル	Jerome　E. Bickenbach／原著編集　Alarcos　Cieza／原著編集　A	医歯薬出版	5200	9784263215289	
地域理学療法学 (理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト)	日髙 正巳	文光堂	4800	9784830647031	
医療福祉をつなぐ関連職種連携　講義と実習にもとづく学習のすべて	北島 政樹　総編集	南江堂	3200	9784524268023	
理学療法士･作業療法士のためのヘルスプロモーション（改訂第 2 版）	日本ヘルスプロモーション理学療法学会	南江堂	3500	9784524203512	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	各科目で使用した教科書を参考とする。

成績評価	原則として毎回出席すること。 施設評価・臨床実習支援システムデイリーノート・実習後報告会について授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 なお、遅刻や早退、劣悪な受講態度は減点の対象とする。

評価項目	割合	評価基準
実習状況	60%	施設実習中の態度、目標達成度、臨床実習支援システムデイリーノートから評価する。
実習後報告会	40%	専門実習、地域実習の理解、発表スキル

受講条件	必修科目 理学療法臨床評価実習を受講していること
事前・事後学修（内容・時間）	当日の実習の振り返り、翌日の実習準備　1 時間　×　10 回 臨床実習支援システムデイリーノートに実習内容、指導内容、学修内容を記録する。

授業の実施方法と授業計画	この実習は「地域理学療法実習」として行われる「通所または訪問リハビリテーション施設」での 1 週と 3 年次選択科目と連動して行われる「専門実習」:「スポーツ理学療法」・「地域理学療法」・「多職種連携」から選択された 1 分野の施設で行われる「専門的理学療法実習」1 週との合計 2 週で構成する。 第 1 週目　地域理学療法実習（通所または訪問リハビリテーション実習） 第 2 週目　専門的理学療法実習（「スポーツ理学療法」・「地域理学療法」・「多職種連携」から選択された 1 分野の施設） 提出物については、特別な事情がない限りコメント付して返却するものとする。 ただし、実習施設の状況により、第 1 週目、2 週目の順序は入れ替わる場合もある。 また、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ★臨床実習指導者会議、臨床実習前後ガイダンスには必ず出席すること。

ナンバリング	PTDM4042

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	928A0
科目	928A 理学療法研究	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤　勝正	単位数	1 単位
担当教員	後藤　勝正、金井　章、中川　博文、八木　幸一、辻村　尚子、湯口　聡、中村　佳代、岡部　明仁、小川　祐太、塚田　晋太朗		

授業概要	理学療法、リハビリテーションおよびその関連分野に関わる問題解決に必要な科学研究の概要を学ぶと共に、各種研究分野のトピックスを学修する。また、科学研究を実施する際の必要な研究倫理について、関係する各種ガイドラインを学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	本授業では、主として「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「医療人として必要な基本的な知識の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ① 理学療法、リハビリテーションおよびその関連分野に関わる問題とその問題解決に必要な科学研究の手法を説明できる。 ② 科学研究を実施する際に必要な研究倫理を説明し、遵守できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 参考書などは、必要に応じて紹介する。

成績評価	前半の 8 回は講義形式で実施する。また、後半の 7 回は各ゼミに分かれて演習を行う。前半の授業では、授業の冒頭で前回学修事項についての小テストを実施すると共に、8 回目の授業で最終テストを実施し、小テストと最終テストで評価する。後半の演習では、ルーブリックを用いて、授業への取り組み、進捗状況および総合討論から総括評価する。成績評価は、前半の授業の評価と後半の演習での評価を合わせて総合評価とする。評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。

評価項目	割合	評価基準
小テストならびに最終テスト	50%	授業内容について、小テストならびに最終テストで評価する。
総括評価	50%	授業への取り組み、進捗状況および総合討論から総括評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	授業後に授業で学修した内容を復習する（第 2 ～ 7 回／ 1 時間程度） 課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（第 8 ～ 15 回／ 1 時間程度）。 第 1 回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	（後藤勝正） 第 1 回　（講義）オリエンテーション 研究入門（科学研究とは） 第 2 回　（講義）研究倫理と不正行為（特定不正行為と不適切な行為）・研究活動と生成 AI 第 3 回　（講義）科学者の行動規範 第 4 回　（講義）被検者の権利保護 第 5 回　（講義）研究法①　実験的研究 第 6 回　（講義）研究法②　社会調査研究など 第 7 回　（講義）研究・演習活動の概要説明 ゼミ訪問 第 8 回　（講義）卒業研究の進め方 （各教員：ゼミ活動） 第 9 ～ 15 回　（演習）　研究テーマの設定 文献検討 研究計画書の作成と提出 課題については、授業内・授業時間外で質問を受け付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。 小テストに関しては、テスト終了後に重要ポイントの復習を行うことで知識の定着を目指す。 第 8 ～ 15 回は、学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う（双方向）。

ナンバリング	PTDM3035

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	928B0
科目	928B 理学療法研究Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤　勝正	単位数	1 単位
担当教員	後藤　勝正		

授業概要	理学療法研究Ⅰ・Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅰでは、その第一段階として、理学療法諸領域における課題を探求し、文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定などの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	本授業では、主として「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「医療人として必要な基本的な知識の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①理学療法諸領域における課題を探求し、設定できる。 ②文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定などの過程を通して、設定した問題解決に向けた適切な手法を設定できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 参考書などは、必要に応じて紹介する。

成績評価	提示した課題への取り組み状況およびゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について、ルーブリックを用いて総括評価する。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
課題への取り組み状況	50%	課題への取り組み状況から総括評価する。
ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度	50%	ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について総括評価する。

受講条件	理学療法研究の単位を修得済みであること。
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（第 2 ～ 15 回／ 2 時間程度）。 第 1 回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第 1 回　オリエンテーション 第 2-3 回　（演習）研究テーマに沿った研究計画立案 第 4-9 回　（演習）データ収集と解析方法の検討と予備的研究活動による研究可能性の確認 第 10-11 回　（演習）研究計画の修正 第 12-14 回　（演習）データ解析・結果の精査を行い考察を進める 第 15 回　（演習）研究全体のまとめと論文化準備 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う（双方向）。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM3036

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	928B1
科目	928B 理学療法研究Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	辻村　尚子	単位数	1 単位
担当教員	辻村　尚子		

授業概要	理学療法研究Ⅰ・Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅰでは、その第一段階として、理学療法諸領域における課題を探求し、文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定などの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	本授業では、主として「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「医療人として必要な基本的な知識の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①理学療法諸領域における課題を探求し、設定できる。 ②文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定などの過程を通して、設定した問題解決に向けた適切な手法を設定できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 参考書などは、必要に応じて紹介する。

成績評価	提示した課題への取り組み状況およびゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について、ルーブリックを用いて総括評価する。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
課題への取り組み状況	50%	課題への取り組み状況から総括評価する。
ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度	50%	ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について総括評価する。

受講条件	理学療法研究の単位を修得済みであること。
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（第 2 ～ 15 回／ 2 時間程度）。 第 1 回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第 1 回　オリエンテーション 第 2-3 回　（演習）研究テーマに沿った研究計画立案 第 4-9 回　（演習）データ収集と解析方法の検討と予備的研究活動による研究可能性の確認 第 10-11 回　（演習）研究計画の修正 第 12-14 回　（演習）データ解析・結果の精査を行い考察を進める 第 15 回　（演習）研究全体のまとめと論文化準備 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う（双方向）。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM3036

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	928B2
科目	928B 理学療法研究Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	湯口　聡	単位数	1 単位
担当教員	湯口　聡		

授業概要	理学療法研究Ⅰ・Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅰでは、その第一段階として、理学療法諸領域における課題を探求し、文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定などの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	本授業では、主として「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「医療人として必要な基本的な知識の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①理学療法諸領域における課題を探求し、設定できる。 ②文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定などの過程を通して、設定した問題解決に向けた適切な手法を設定できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 参考書などは、必要に応じて紹介する。

成績評価	提示した課題への取り組み状況およびゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について、ルーブリックを用いて総括評価する。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
課題への取り組み状況	50%	課題への取り組み状況から総括評価する。
ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度	50%	ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について総括評価する。

受講条件	理学療法研究の単位を修得済みであること。
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（第 2 ～ 15 回／ 2 時間程度）。 第 1 回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第 1 回　オリエンテーション 第 2-3 回　（演習）研究テーマに沿った研究計画立案 第 4-9 回　（演習）データ収集と解析方法の検討と予備的研究活動による研究可能性の確認 第 10-11 回　（演習）研究計画の修正 第 12-14 回　（演習）データ解析・結果の精査を行い考察を進める 第 15 回　（演習）研究全体のまとめと論文化準備 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う（双方向）。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM3036

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	928B3
科目	928B 理学療法研究Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	中村　佳代	単位数	1 単位
担当教員	中村　佳代		

授業概要	理学療法研究Ⅰ・Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅰでは、その第一段階として、理学療法諸領域における課題を探求し、文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定などの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	本授業では、主として「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「医療人として必要な基本的な知識の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①理学療法諸領域における課題を探求し、設定できる。 ②文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定などの過程を通して、設定した問題解決に向けた適切な手法を設定できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 参考書などは、必要に応じて紹介する。

成績評価	提示した課題への取り組み状況およびゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について、ルーブリックを用いて総括評価する。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
課題への取り組み状況	50%	課題への取り組み状況から総括評価する。
ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度	50%	ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について総括評価する。

受講条件	理学療法研究の単位を修得済みであること。
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（第 2 ～ 15 回／ 2 時間程度）。 第 1 回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第 1 回　オリエンテーション 第 2-3 回　（演習）研究テーマに沿った研究計画立案 第 4-9 回　（演習）データ収集と解析方法の検討と予備的研究活動による研究可能性の確認 第 10-11 回　（演習）研究計画の修正 第 12-14 回　（演習）データ解析・結果の精査を行い考察を進める 第 15 回　（演習）研究全体のまとめと論文化準備 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う（双方向）。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM3036

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	928B4
科目	928B 理学療法研究Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	塚田　晋太朗	単位数	1 単位
担当教員	塚田　晋太朗		

授業概要	理学療法研究Ⅰ・Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅰでは、その第一段階として、理学療法諸領域における課題を探求し、文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定などの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	本授業では、主として「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「医療人として必要な基本的な知識の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①理学療法諸領域における課題を探求し、設定できる。 ②文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定などの過程を通して、設定した問題解決に向けた適切な手法を設定できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 参考書などは、必要に応じて紹介する。

成績評価	提示した課題への取り組み状況およびゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について、ルーブリックを用いて総括評価する。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
課題への取り組み状況	50%	課題への取り組み状況から総括評価する。
ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度	50%	ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について総括評価する。

受講条件	理学療法研究の単位を修得済みであること。
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（第 2 ～ 15 回／ 2 時間程度）。 第 1 回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第 1 回　オリエンテーション 第 2-3 回　（演習）研究テーマに沿った研究計画立案 第 4-9 回　（演習）データ収集と解析方法の検討と予備的研究活動による研究可能性の確認 第 10-11 回　（演習）研究計画の修正 第 12-14 回　（演習）データ解析・結果の精査を行い考察を進める 第 15 回　（演習）研究全体のまとめと論文化準備 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う（双方向）。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM3036

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	928C0
科目	928C 理学療法研究Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤　勝正	単位数	1 単位
担当教員	後藤　勝正		

授業概要	理学療法研究Ⅰ・Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅱでは、理学療法研究Ⅰに引き続き、理学療法諸領域における課題解決のための研究の実践、結果の考察、まとめなどの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	本授業では、主として「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「医療人として必要な基本的な知識の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①理学療法諸領域における課題解決のための研究を実施することができる。 ②理学療法諸領域における問題を解決するための方策について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 参考書などは、必要に応じて紹介する。

成績評価	提示した課題への取り組み状況およびゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について、ルーブリックを用いて総括評価する。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
提示した課題への取り組み状況	50%	提示した課題への取り組み状況から総括評価する。
ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度	50%	ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について総括評価する。

受講条件	理学療法研究Ⅰの単位を修得済みであること。
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（第 2 ～ 11 回、第 13 ～ 15 回／ 90 分程度）。 第 1 回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第 1 回　オリエンテーション 第 2-6 回　（演習）研究実施と研究レポート（研究論文）作成 第 7-11 回　（演習）卒業研究発表準備 第 12 回　（演習）研究発表 第 13-15 回　（演習）研究レポート（研究論文）の作成と提出 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う（双方向）。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM4043

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	928C1
科目	928C 理学療法研究Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	辻村　尚子	単位数	1 単位
担当教員	辻村　尚子		

授業概要	理学療法研究Ⅰ・Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅱでは、理学療法研究Ⅰに引き続き、理学療法諸領域における課題解決のための研究の実践、結果の考察、まとめなどの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	本授業では、主として「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「医療人として必要な基本的な知識の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①理学療法諸領域における課題解決のための研究を実施することができる。 ②理学療法諸領域における問題を解決するための方策について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 参考書などは、必要に応じて紹介する。

成績評価	提示した課題への取り組み状況およびゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について、ルーブリックを用いて総括評価する。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
提示した課題への取り組み状況	50%	提示した課題への取り組み状況から総括評価する。
ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度	50%	ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について総括評価する。

受講条件	理学療法研究Ⅰの単位を修得済みであること。
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（第 2 ～ 11 回、第 13 ～ 15 回／ 90 分程度）。 第 1 回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第 1 回　オリエンテーション 第 2-6 回　（演習）研究実施と研究レポート（研究論文）作成 第 7-11 回　（演習）卒業研究発表準備 第 12 回　（演習）研究発表 第 13-15 回　（演習）研究レポート（研究論文）の作成と提出 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う（双方向）。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM4043

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	928C2
科目	928C 理学療法研究Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	湯口　聡	単位数	1 単位
担当教員	湯口　聡		

授業概要	理学療法研究Ⅰ・Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅱでは、理学療法研究Ⅰに引き続き、理学療法諸領域における課題解決のための研究の実践、結果の考察、まとめなどの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	本授業では、主として「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「医療人として必要な基本的な知識の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①理学療法諸領域における課題解決のための研究を実施することができる。 ②理学療法諸領域における問題を解決するための方策について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 参考書などは、必要に応じて紹介する。

成績評価	提示した課題への取り組み状況およびゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について、ルーブリックを用いて総括評価する。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
提示した課題への取り組み状況	50%	提示した課題への取り組み状況から総括評価する。
ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度	50%	ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について総括評価する。

受講条件	理学療法研究Ⅰの単位を修得済みであること。
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（第 2 ～ 11 回、第 13 ～ 15 回／ 90 分程度）。 第 1 回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第 1 回　オリエンテーション 第 2-6 回　（演習）研究実施と研究レポート（研究論文）作成 第 7-11 回　（演習）卒業研究発表準備 第 12 回　（演習）研究発表 第 13-15 回　（演習）研究レポート（研究論文）の作成と提出 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う（双方向）。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM4043

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	928C3
科目	928C 理学療法研究Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	中村　佳代	単位数	1 単位
担当教員	中村　佳代		

授業概要	理学療法研究Ⅰ・Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅱでは、理学療法研究Ⅰに引き続き、理学療法諸領域における課題解決のための研究の実践、結果の考察、まとめなどの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	本授業では、主として「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「医療人として必要な基本的な知識の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①理学療法諸領域における課題解決のための研究を実施することができる。 ②理学療法諸領域における問題を解決するための方策について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 参考書などは、必要に応じて紹介する。

成績評価	提示した課題への取り組み状況およびゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について、ルーブリックを用いて総括評価する。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
提示した課題への取り組み状況	50%	提示した課題への取り組み状況から総括評価する。
ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度	50%	ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について総括評価する。

受講条件	理学療法研究Ⅰの単位を修得済みであること。
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（第 2 ～ 11 回、第 13 ～ 15 回／ 90 分程度）。 第 1 回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第 1 回　オリエンテーション 第 2-6 回　（演習）研究実施と研究レポート（研究論文）作成 第 7-11 回　（演習）卒業研究発表準備 第 12 回　（演習）研究発表 第 13-15 回　（演習）研究レポート（研究論文）の作成と提出 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う（双方向）。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM4043

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	928C4
科目	928C 理学療法研究Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	塚田　晋太朗	単位数	1 単位
担当教員	塚田　晋太朗		

授業概要	理学療法研究Ⅰ・Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅱでは、理学療法研究Ⅰに引き続き、理学療法諸領域における課題解決のための研究の実践、結果の考察、まとめなどの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	本授業では、主として「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「医療人として必要な基本的な知識の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①理学療法諸領域における課題解決のための研究を実施することができる。 ②理学療法諸領域における問題を解決するための方策について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 参考書などは、必要に応じて紹介する。

成績評価	提示した課題への取り組み状況およびゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について、ルーブリックを用いて総括評価する。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
提示した課題への取り組み状況	50%	提示した課題への取り組み状況から総括評価する。
ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度	50%	ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について総括評価する。

受講条件	理学療法研究Ⅰの単位を修得済みであること。
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（第 2 ～ 11 回、第 13 ～ 15 回／ 90 分程度）。 第 1 回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第 1 回　オリエンテーション 第 2-6 回　（演習）研究実施と研究レポート（研究論文）作成 第 7-11 回　（演習）卒業研究発表準備 第 12 回　（演習）研究発表 第 13-15 回　（演習）研究レポート（研究論文）の作成と提出 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う（双方向）。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM4043

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	928C5
科目	928C 理学療法研究Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	中川　博文	単位数	1 単位
担当教員	中川　博文		

授業概要	理学療法研究Ⅰ・Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅱでは、理学療法研究Ⅰに引き続き、理学療法諸領域における課題解決のための研究の実践、結果の考察、まとめなどの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	本授業では、主として「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「医療人として必要な基本的な知識の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①理学療法諸領域における課題解決のための研究を実施することができる。 ②理学療法諸領域における問題を解決するための方策について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 参考書などは、必要に応じて紹介する。

成績評価	提示した課題への取り組み状況およびゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について、ルーブリックを用いて総括評価する。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
提示した課題への取り組み状況	50%	提示した課題への取り組み状況から総括評価する。
ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度	50%	ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について総括評価する。

受講条件	理学療法研究Ⅰの単位を修得済みであること。
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（第 2 ～ 11 回、第 13 ～ 15 回／ 90 分程度）。 第 1 回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第 1 回　オリエンテーション 第 2-6 回　（演習）研究実施と研究レポート（研究論文）作成 第 7-11 回　（演習）卒業研究発表準備 第 12 回　（演習）研究発表 第 13-15 回　（演習）研究レポート（研究論文）の作成と提出 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う（双方向）。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM4043

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	928D0
科目	928D 理学療法演習Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	金井　章	単位数	1 単位
担当教員	金井　章		

授業概要	理学療法演習Ⅰ・Ⅱは、一連の演習科目である。理学療法演習Ⅰでは、その第一段階として、理学療法の諸領域の活動調査ならびに文献検索を行って情報収集などを通して、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	①理学療法の諸領域の活動調査ならびに文献検索などを行って情報収集することができる ②収集した情報を基に、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要な場合には適宜指示する

成績評価	授業への取り組み、進捗状況および総合討論から総括評価する。 評価についての詳細は、第1回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
総合討論	70%	授業への取り組み、進捗状況及び総合討論から評価する
演習活動状況	30%	演習活動の実施にあたって、その内容を理解し、協調的に取り組むことができたかを評価する

受講条件	理学療法研究の単位を修得済みであること
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や施設調査などにより調べる（1時間程度× 14 回）。 第1回の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学習事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第1回　（講義）オリエンテーション 第 2-3 回　（演習）文献抄読（グループワーク） 第 4-5 回　（演習）演習・調査計画の詳細について検討（ディスカッション） 第 6-7 回　（演習）情報取集と分析手法の確認（ディスカッション） 第 8-11 回　（演習）演習・調査の実施（フィールドワーク） 第 12-14 回　（演習）情報を分析し、考察を進める（グループワーク） 第 15 回　（演習）活動内容を整理する（グループワーク） 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM3037

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	928D1
科目	928D 理学療法演習Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	八木　幸一	単位数	1 単位
担当教員	八木　幸一		

授業概要	理学療法演習Ⅰ・Ⅱは、一連の演習科目である。理学療法演習Ⅰでは、その第一段階として、理学療法の諸領域の活動調査ならびに文献検索を行って情報収集などを通して、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	①理学療法の諸領域の活動調査ならびに文献検索などを行って情報収集することができる ②収集した情報を基に、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要な場合には適宜指示する

成績評価	授業への取り組み、進捗状況および総合討論から総括評価する。 評価についての詳細は、第1回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
総合討論	70%	授業への取り組み、進捗状況及び総合討論から評価する
演習活動状況	30%	演習活動の実施にあたって、その内容を理解し、協調的に取り組むことができたかを評価する

受講条件	理学療法研究の単位を修得済みであること
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や施設調査などにより調べる（1時間程度× 14 回）。 第1回の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学習事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第1回　（講義）オリエンテーション 第 2-3 回　（演習）文献抄読（グループワーク） 第 4-5 回　（演習）演習・調査計画の詳細について検討（ディスカッション） 第 6-7 回　（演習）情報取集と分析手法の確認（ディスカッション） 第 8-11 回　（演習）演習・調査の実施（フィールドワーク） 第 12-14 回　（演習）情報を分析し、考察を進める（グループワーク） 第 15 回　（演習）活動内容を整理する（グループワーク） 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM3037

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	928D2
科目	928D 理学療法演習Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	岡部　明仁	単位数	1 単位
担当教員	岡部　明仁		

授業概要	理学療法演習Ⅰ・Ⅱは、一連の演習科目である。理学療法演習Ⅰでは、その第一段階として、理学療法の諸領域の活動調査ならびに文献検索を行って情報収集などを通して、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	①理学療法の諸領域の活動調査ならびに文献検索などを行って情報収集することができる ②収集した情報を基に、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要な場合には適宜指示する

成績評価	授業への取り組み、進捗状況および総合討論から総括評価する。 評価についての詳細は、第1回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
総合討論	70%	授業への取り組み、進捗状況及び総合討論から評価する
演習活動状況	30%	演習活動の実施にあたって、その内容を理解し、協調的に取り組むことができたかを評価する

受講条件	理学療法研究の単位を修得済みであること
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や施設調査などにより調べる（1時間程度× 14 回）。 第1回の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学習事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第1回　（講義）オリエンテーション 第 2-3 回　（演習）文献抄読（グループワーク） 第 4-5 回　（演習）演習・調査計画の詳細について検討（ディスカッション） 第 6-7 回　（演習）情報取集と分析手法の確認（ディスカッション） 第 8-11 回　（演習）演習・調査の実施（フィールドワーク） 第 12-14 回　（演習）情報を分析し、考察を進める（グループワーク） 第 15 回　（演習）活動内容を整理する（グループワーク） 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM3037

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	928D3
科目	928D 理学療法演習Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	小川　祐太	単位数	1 単位
担当教員	小川　祐太		

授業概要	理学療法演習Ⅰ・Ⅱは、一連の演習科目である。理学療法演習Ⅰでは、その第一段階として、理学療法の諸領域の活動調査ならびに文献検索を行って情報収集などを通して、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	①理学療法の諸領域の活動調査ならびに文献検索などを行って情報収集することができる ②収集した情報を基に、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要な場合には適宜指示する

成績評価	授業への取り組み、進捗状況および総合討論から総括評価する。 評価についての詳細は、第1回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
総合討論	70%	授業への取り組み、進捗状況及び総合討論から評価する
演習活動状況	30%	演習活動の実施にあたって、その内容を理解し、協調的に取り組むことができたかを評価する

受講条件	理学療法研究の単位を修得済みであること
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や施設調査などにより調べる（1時間程度× 14 回）。 第1回の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学習事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第1回　（講義）オリエンテーション 第 2-3 回　（演習）文献抄読（グループワーク） 第 4-5 回　（演習）演習・調査計画の詳細について検討（ディスカッション） 第 6-7 回　（演習）情報取集と分析手法の確認（ディスカッション） 第 8-11 回　（演習）演習・調査の実施（フィールドワーク） 第 12-14 回　（演習）情報を分析し、考察を進める（グループワーク） 第 15 回　（演習）活動内容を整理する（グループワーク） 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM3037

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	928E0
科目	928E 理学療法演習Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	金井　章	単位数	1 単位
担当教員	金井　章		

授業概要	理学療法演習Ⅰに引き続き、理学療法諸領域における活動調査や体験を通して、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を整理し、まとめる。それら一連の演習を経て、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	①理学療法諸領域における活動調査や体験を通して、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を整理し、まとめることができる ②理学療法諸領域における問題を解決するための方策について説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要な場合には適宜指示する

成績評価	授業への取り組み、総合討論および活動報告から総括評価する。 評価についての詳細は、第1回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
総合討論	70%	授業への取り組み、進捗状況及び総合討論から総括評価する
演習活動報告	30%	演習活動の実施、報告にあたってその内容を理解し、協調的に取り組むことができたかを評価する

受講条件	理学療法演習Ⅰの単位を修得済みであること
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や施設調査などにより調べる（1時間程度× 14 回）。 問題解決のための方策について検討・整理する（1時間程度× 15 回）。 第1回の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学習事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第1回　（演習）演習1における活動内容についての確認（グループワーク） 第 2-3 回　（演習）文献検索のグレードアップ（グループワーク） 第 4-5 回　（演習）追加演習・調査の実施（フィールドワーク） 第 6-8 回　（演習）情報を分析し、考察を進める（ディスカッション） 第 9-11 回　（演習）演習発表の準備（グループワーク） 第 12 回　（演習）演習報告（プレゼンテーション） 第 13-15 回　（演習）演習報告書作成（グループワーク） 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う。

ナンバリング	PTDM4044

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	928E1
科目	928E 理学療法演習Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	八木　幸一	単位数	1 単位
担当教員	八木　幸一		

授業概要	理学療法研究Ⅰ・Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅱでは、理学療法研究Ⅰに引き続き、理学療法諸領域における課題解決のための研究の実践、結果の考察、まとめなどの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	本授業では、主として「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「医療人として必要な基本的な知識の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①理学療法諸領域における課題解決のための研究を実施することができる。 ②理学療法諸領域における問題を解決するための方策について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 参考書などは、必要に応じて紹介する。

成績評価	提示した課題への取り組み状況およびゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について、ルーブリックを用いて総括評価する。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
提示した課題への取り組み状況	50%	提示した課題への取り組み状況から総括評価する。
ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度	50%	ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について総括評価する。

受講条件	理学療法研究Ⅰの単位を修得済みであること。
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（第 2 ～ 11 回、第 13 ～ 15 回／ 90 分程度）。 第 1 回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第 1 回　オリエンテーション 第 2-6 回　（演習）研究実施と研究レポート（研究論文）作成 第 7-11 回　（演習）卒業研究発表準備 第 12 回　（演習）研究発表 第 13-15 回　（演習）研究レポート（研究論文）の作成と提出 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う（双方向）。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM4043

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	928E2
科目	928E 理学療法演習Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	小竹　伴照	単位数	1 単位
担当教員	小竹　伴照		

授業概要	理学療法演習Ⅰに引き続き、理学療法諸領域における活動調査や体験を通して、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を整理し、まとめる。それら一連の演習を経て、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。							
ディプロマポリシー								
ディプロマポリシーとの関連性								
到達目標	①理学療法諸領域における活動調査や体験を通して、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を整理し、まとめることができる ②理学療法諸領域における問題を解決するための方策について説明できる							

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	授業への取り組み、総合討論および活動報告から総括評価する。 評価についての詳細は、第1回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	理学療法演習Ⅰの単位を修得済みであること
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や施設調査などにより調べる（1時間程度× 14 回）。 問題解決のための方策について検討・整理する（1時間程度× 15 回）。 第1回の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学習事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第1回　（演習）演習1における活動内容についての確認（グループワーク） 第 2-3 回　（演習）文献検索のグレードアップ（グループワーク） 第 4-5 回　（演習）追加演習・調査の実施（フィールドワーク） 第 6-8 回　（演習）情報を分析し、考察を進める（ディスカッション） 第 9-11 回　（演習）演習発表の準備（グループワーク） 第 12 回　（演習）演習報告（プレゼンテーション） 第 13-15 回　（演習）演習報告書作成（グループワーク） 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う。

ナンバリング	PTDM4044

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	928E3
科目	928E 理学療法演習Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	小川　祐太	単位数	1 単位
担当教員	小川　祐太		

授業概要	理学療法研究Ⅰ・Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅱでは、理学療法研究Ⅰに引き続き、理学療法諸領域における課題解決のための研究の実践、結果の考察、まとめなどの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	本授業では、主として「専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を身につける」、「理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力の獲得」、「医療人として必要な基本的な知識の獲得」を目指して、以下の到達目標を設定する。 ①理学療法諸領域における課題解決のための研究を実施することができる。 ②理学療法諸領域における問題を解決するための方策について説明できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しない。 参考書などは、必要に応じて紹介する。

成績評価	提示した課題への取り組み状況およびゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について、ルーブリックを用いて総括評価する。 評価についての詳細は、第 1 回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
提示した課題への取り組み状況	50%	提示した課題への取り組み状況から総括評価する。
ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度	50%	ゼミ内でのグループ活動での話し合いへの貢献度について総括評価する。

受講条件	理学療法研究Ⅰの単位を修得済みであること。
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる（第 2 ～ 11 回、第 13 ～ 15 回／ 90 分程度）。 第 1 回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第 1 回　オリエンテーション 第 2-6 回　（演習）研究実施と研究レポート（研究論文）作成 第 7-11 回　（演習）卒業研究発表準備 第 12 回　（演習）研究発表 第 13-15 回　（演習）研究レポート（研究論文）の作成と提出 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う（双方向）。 課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM4043

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	928E4
科目	928E 理学療法演習Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	岡部　明仁	単位数	1 単位
担当教員	岡部　明仁		

授業概要	理学療法演習Ⅰに引き続き、理学療法諸領域における活動調査や体験を通して、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を整理し、まとめる。それら一連の演習を経て、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○	◎				

到達目標	①理学療法諸領域における活動調査や体験を通して、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を整理し、まとめることができる ②理学療法諸領域における問題を解決するための方策について説明できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	必要な場合には適宜指示する

成績評価	授業への取り組み、総合討論および活動報告から総括評価する。 評価についての詳細は、第1回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
総合討論	70%	授業への取り組み、進捗状況及び総合討論から総括評価する
演習活動報告	30%	演習活動の実施、報告にあたってその内容を理解し、協調的に取り組むことができたかを評価する

受講条件	理学療法演習Ⅰの単位を修得済みであること
事前・事後学修（内容・時間）	課題を設定するので、文献検討や施設調査などにより調べる（1時間程度× 14 回）。 問題解決のための方策について検討・整理する（1時間程度× 15 回）。 第1回の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学習事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	ゼミ単位で実施方法は異なるので、以下に参考例を示す。 第1回　（演習）演習1における活動内容についての確認（グループワーク） 第 2-3 回　（演習）文献検索のグレードアップ（グループワーク） 第 4-5 回　（演習）追加演習・調査の実施（フィールドワーク） 第 6-8 回　（演習）情報を分析し、考察を進める（ディスカッション） 第 9-11 回　（演習）演習発表の準備（グループワーク） 第 12 回　（演習）演習報告（プレゼンテーション） 第 13-15 回　（演習）演習報告書作成（グループワーク） 学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う。

ナンバリング	PTDM4044

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	928F0
科目	928F 理学療法セミナーⅠ	授業種別	週間授業
科目責任者	塚田　晋太朗	単位数	1 単位
担当教員	塚田　晋太朗		

授業概要	1年次より学んできた基礎医学、臨床医学、基礎理学療法学の知識について、グループ学習を中心とした作業を繰返し行いながら自己学習力を高め、各領域毎に系統立てられた模擬試験を通して、総合的な理学療法学の基礎を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	①基礎医学についての知識が整理できる。 ②基礎理学療法に関する知識が整理できる。 ③グループ毎に各領域の資料が作成できる。

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 2026	医歯薬出版 編	医歯薬出版	4,840 円	978-4-263-27028-8	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
国試の達人 PT・OT シリーズ 2026　運動解剖 生理学編　第 31 版	理学・作業療法科学研究会　編	アイペック	2,750 円	978-4-86415-137-5 C3047	
クエスチョン・バンク　理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 2026　共通問題　第 18 版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	4,950 円	978-4-89632-962-9	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻、早退や劣悪な授業態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題状況	70%	課題の取り組み状況およびグループ学習時の参加状況を総合的に評価する。
確認テスト	30%	6 回の確認テストにおいて授業への取り組み状況および達成度を評価する。

受講条件	受講条件はありません。
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（60 分程度 /15 回） 1.　事前に授業計画に該当する各領域の内容を確認する。 2.　授業計画に該当する各領域の資料を作成する。

授業の実施方法と授業計画	※各分野のグループ学習前後に確認テストを実施する。確認テストは速やかに返却するとともにグループ学習の効果判定に活用し、学習方法の見直しに役立てる。 第 1 回　（オリエンテーション）グループ学習の準備、解剖学 前半①（事前確認テスト） 第 2 回　（演習）解剖学 前半②（グループ学習） 第 3 回　（演習）解剖学 前半③（グループ学習） 第 4 回　（演習）解剖学 前半④（グループ学習） 第 5 回　（演習）解剖学 前半⑤（グループ学習、事後確認テスト） 第 6 回　（演習）解剖学 後半、生理学 前半①（事前確認テスト、グループ学習） 第 7 回　（演習）解剖学 後半、生理学 前半②（グループ学習） 第 8 回　（演習）解剖学 後半、生理学 前半③（グループ学習） 第 9 回　（演習）解剖学 後半、生理学 前半④（グループ学習） 第 10 回　（演習）解剖学 後半、生理学 前半⑤（グループ学習、事後確認テスト） 第 11 回　（演習）生理学 後半①（事前確認テスト、グループ学習） 第 12 回　（演習）生理学 後半②（グループ学習） 第 13 回　（演習）生理学 後半③（グループ学習） 第 14 回　（演習）生理学 後半④（グループ学習） 第 15 回　（演習）生理学 後半⑤（グループ学習、事後確認テスト） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	928G0
科目	928G 理学療法セミナーⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	塚田　晋太朗	単位数	1 単位
担当教員	塚田　晋太朗		

授業概要	理学療法専門科目の知識について、グループ学習とアクティブラーニングを中心とした活動を通して、各領域毎に系統立てられた模擬試験にて知識を確認しながら、総合的な理学療法専門知識を学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性			◎	◎				

到達目標	①臨床医学についての知識が整理できる ②基礎理学療法に関する知識が整理できる ②グループ毎に各領域の資料が作成できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 2026	医歯薬出版 編	医歯薬出版	4,840 円	978-4-263-27028-8	
理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学 2026	医歯薬出版 編	医歯薬出版	5,060 円	978-4-263-27029-5	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
国試の達人 PT・OT シリーズ 2026　運動解剖生理学編　第 31 版	理学・作業療法科学研究会　編	アイペック	2,750 円	978-4-86415-137-5 C3047	
国試の達人 PT・OT シリーズ 2026　臨床医学編　第 27 版	理学・作業療法科学研究会　編	アイペック	2,750 円	978-4-86415-138-2 C3047	
クエスチョン・バンク　理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 2026　共通問題　第 18 版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	4,950 円	978-4-89632-962-9	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻、早退や劣悪な授業態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題状況	70%	課題の取り組み状況およびグループ学習時の参加状況を総合的に評価する。
確認テスト	30%	6 回の確認テストにおいて授業への取り組み状況および達成度を評価する。

受講条件	理学療法セミナーⅠを履修していること。
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（60 分程度 /15 回） 1.　事前に授業計画に該当する各領域の内容を確認する。 2.　授業計画に該当する各領域の資料を作成する。

授業の実施方法と授業計画	※各分野のグループ学習前後に確認テストを実施する。確認テストは速やかに返却するとともにグループ学習の効果判定に活用し、学習方法の見直しに役立てる。 第 1 回　（オリエンテーション）グループ学習の準備、運動学、人間発達学①（事前確認テスト） 第 2 回　（演習）運動学、人間発達学②（グループ学習） 第 3 回　（演習）運動学、人間発達学③（グループ学習） 第 4・5 回（演習）国家試験模擬試験 第 6 回　（演習）運動学、人間発達学③（グループ学習） 第 7 回　（演習）運動学、人間発達学④（グループ学習、事後確認テスト） 第 8 回　（演習）臨床医学①（事前確認テスト、グループ学習） 第 9 回　（演習）臨床医学②（グループ学習） 第 10 回　（演習）臨床医学③（グループ学習） 第 11 回　（演習）臨床医学④（グループ学習、事後確認テスト） 第 12 回　（演習）臨床医学⑤（事前確認テスト、グループ学習） 第 13 回　（演習）臨床医学⑥（グループ学習） 第 14 回　（演習）臨床医学⑦（グループ学習） 第 15 回　（演習）臨床医学⑧（グループ学習、事後確認テスト） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。

ナンバリング	

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	92850
科目	9285 理学療法総合演習Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	金井　章	単位数	1 単位
担当教員	金井　章、後藤　勝正、八木　幸一、辻村　尚子、湯口　聡、中村　佳代、岡部　明仁、大橋　和也、小川　祐太、後藤　亜由美、瀧野　皓哉、塚田　晋太朗、彦坂　潤、藤原　光宏		

授業概要	臨床の場で、基本的な理学療法を展開するための実践可能な理学療法技術を身につけるため、臨床実習により学んだ知識と技術を整理する。そのため、解剖学、生理学から基礎医学、理学療法の各専門分野を再学習し、臨床における理学療法の実践に生かせるよう学習する。その中で、総合的に理学療法士に求められる知識・技術を獲得する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	◎				

到達目標	①臨床施設における理学療法士の役割と医療スタッフや他施設との連携について説明できる ②臨床実習により学んだ知識と技術について説明ができる ③各種疾患に対する理学療法実践のための基礎知識について整理できる ④理学療法の対象となる各種疾患に対する評価と治療を整理できる ⑤総合的に理学療法士に求められる知識と技術を整理できる

テキスト（教科書）

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野　基礎医学　2025		医歯薬出版社	4,840 円	978-4-263-27022-6	
理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野　臨床医学　2026		医歯薬出版	5,060 円	978-4-263-27029-5	
理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎 PT 学　2026		医歯薬出版	5,390 円	978-4263270301	
理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別 PT 治療学　2026		医歯薬出版	5,390 円	978-4263270318	

参考書および参考文献

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
クエスチョン・バンク　理学療法士・作業療法士国家試験問題解説　2026　共通問題		メディックメディア	4,950 円	978-4896329629	
クエスチョン・バンク　理学療法士国家試験問題解説　2026　専門問題		メディックメディア	4,950 円	978-4896329636	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	

成績評価	総括試験及び演習への取り組み状況にて評価を行い、総括試験成績不良者については再試、再々試を実施する。 詳細および日程については、第 1 回目の授業において説明する。 なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
総括試験	90%	国家試験に準拠した試験を行なってその理解度を総合的に判断する
課題への取り組み状況	10%	演習（グループワーク）への取り組み状況から総括評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修（内容・時間）	学習計画に沿って、リハドリルの該当する範囲を PC 教室またはタブレットにて事前に学習すること（60 分程度× 80 回程度） グループ学習にて学習した範囲を再確認すること（30 分程度× 80 回程度） また、必要に応じて科目担当者から指示をする。

授業の実施方法と授業計画	平日 1，2 限に、講義およびグループ学習をとおして、理学療法専門基礎科目、専門科目の知識を整理する。そのため、本講義では以下の３つの形式を取る A　講義：外来講師による専門基礎科目の講義、専任実務家教員による専門科目の講義を実施する。 B　演習（グループワーク）：4 人程度の小グループで、過去の国家試験問題を参考にして理学療法専門基礎科目、専門科目の知識の整理に取組む。 C　国家試験模擬試験：医歯薬出版模試 (3 回)、アイペック模試 (4 回) を受験し、修得状況の確認を行う。 D　学外者（保護者会）に対し理学療法研究・演習で学んだ専門的内容について発表する。 ★グループワーク、模擬試験等では、授業内で質疑や疑問等に対するフィードバックを行う。

ナンバリング	PTDM4039